

## 第Ⅵ章

## サクシュコトニ川遺跡の遺物

## Ⅵ-1

## [第1文化層の遺物]

土器器変類12個体分と須恵器大甕1個体分が出土した。

## ① 分布

つぎの3群におけられる。

- ① 05-05, 05-09, 05-10, 05-11, 06-09, 06-10, 07-06, 07-08, 07-10, 07-11, 08-08, 08-11, 09-06, 09-07, 09-08, 09-09, 10-07, 10-08グリッドで、発掘区の東南部分にあたり、分布範囲はもっとも広く5個体分の土器が出土した(個体番号変53, 54, 55, 101, 183)。
- ② 09-18グリッドで、1個体分の土器が出土した(個体番号変56)。
- ③ 焼土72とその周辺から7個体分の土器(個体番号変107, 157, 172, 173, 174, 184, 須恵器大甕)が出土した。

以上であり、①、②は遺物包含層、③は焼土遺構に関係する。

## ② 土器の特徴

- |         |   |
|---------|---|
| 個体番号変53 | <p>出土位置：05-09, 05-10, 06-09, 06-10, 06-11, 07-08, 07-10, 09-09の8グリッドにまたがる。</p> <p>法量：高さ39.8cm, 口径30.4cm(推定), 底径10.0cmで器厚約1cmである。文様：口縁部から頸部に施文される。口縁部文様は降帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦・横・斜位の沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様、胴部との境に刻み目を付した降帯を張りつけている。器面調整：胴部外面は縦位の細かいハケ目のあと縦位のヘラミガキ、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理が施されている。</p> |
| 個体番号変54 | <p>出土位置：09-07, 09-08, 10-07, 10-08の4グリッドにまたがる。法量：計測不可能、但し、底径7.8cmである。文様：頸部に施文される。複数の横走沈線文と鋸歯状文の組み合わせ文様、胴部との境に二本単位の鋸歯文がみられる。器面調整：胴部外面の上半は横・縦位の太いハケ目、下半は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ、胴部は縦位のヘラミガキである。</p>  |
| 個体番号変55 | <p>出土位置：05-11, 06-10, 06-11, 07-10, 07-11, 08-11の6グリッドにまたがる。法量：高さ38.0cm, 口径29.8cm, 底径8.2cmで器厚約1.2～2.2cmである。文様：口縁部に施文される。降帯を口縁部にそって張</p>   |

- り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目、内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ。胴部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキで、さらに黒色処理されている。
- 個体番号56 出土位置：09-18グリッドである。法量：高さ28.2cm、口径26.0cm、底径7.6cmで器厚約0.7cmである。文様：口縁部から頸部にわたる。口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる異方向の刻み目を付けている。頸部文様は縦位のハケ目の後、上下に鋸歯状文。胴部との境に刻み目と鋸歯文を付した隆帯を張り付けている。器面調整：胴部外面は縦位のハケ目のあと縦位のヘラミガキ。内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ。胴部は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。
- 個体番号101 出土位置：07-06、08-07、09-06、09-07の4グリッドにまたがる。法量：高さ19.0cm、口径16.6cm、底径6.2cmで器厚約0.2cmである。文様：みられない。器面調整：胴部外面は縦・斜位のハケ目のあとヘラミガキ。内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキ。胴部は縦位のヘラミガキである。
- 個体番号107 出土位置：焼土72。底部（径8.9cm、厚さ1.3cm）。文様：みられない。器面調整：胴部外面は斜位のヘラミガキ。内面は横位のハケ目のあと縦位のヘラミガキである。
- 個体番号157 出土位置：31-17グリッドで焼土72の西へりである。法量：高さ17.5cm、口径19.0cm、底径8.4cmで器厚約0.6～0.8cmである。文様：口縁部から頸部にわたる。口縁部は隆帯を口縁部にそって張り付け、その上にヘラによる刻み目を付けている。頸部文様は横走の多重沈線文のうえに縦位の沈線文、鋸歯状文を組み合わせている。胴部との境に刻み目が付けられている。器面調整：外面の口縁部から頸部にかけてはヨコナデ、胴部は風化していて不明である。内面の口縁部から頸部にかけては横位のヘラミガキである。
- 個体番号173 出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：横走沈線の上に鋸歯状文が描かれ、胴部との境に刻み目が付されている。器面調整：胴部外面は不明。内面は横位のヘラミガキである。
- 個体番号174 出土位置：焼土72。頸部から胴部上半にかけての破片である。文様：斜・横位の隆起帯とそれにそった刺突文、複数の沈線文の組み合わせ文様である。器面調整：胴部外面は横位のハケ目とヘラミガキである。
- 個体番号183 出土位置：05-05グリッド。口縁部の破片である。文様：口縁部にそって隆起帯が巡り刻み目が付される。器面調整：外面はヨコナデ、内面は横位のヘラミガキである。
- 須恵器大甕 出土位置：30-17グリッド。胴部の破片である。器厚は0.5～0.8cm。器面：器外面の側面叩き目は縦位平行線叩き目で、下部で異方向の叩き目と重複する。この部分が底面に近い部分である。内面は重複する半弧状の当て具痕がみられる。
- なお、個体番号172、個184の説明は省略する。

#### 小括

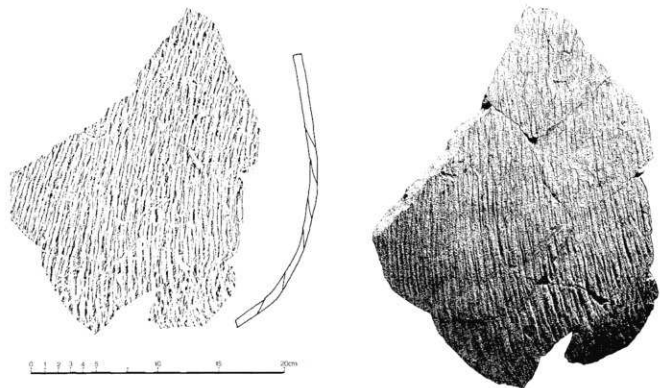
- 4 遺構は焼土跡が1箇所検出されただけで、住居跡などは見出されなかった。

b 遺物は12個体分の土師質甕と1個体分の須恵器大甕が出土した。これらの土器類は鏡土跡を中心に分布するほか、合わせて3箇所にみられた。

c 土師質甕は器高が20cm以上のもの(個体番号壺53, 54, 55, 56)4個体、器高20cm以下のもの(個体番号壺101, 157)2個体がみられた以外は破片である。

d 土師質甕は個体番号壺101以外口縁部から頸部にかけて文様がみられる。また、器面は内外ともヘラミガキによって調整され、個体番号壺53, 55のように内面に黒色処理を施すものもみられる。(横山英介)

PL. III-11 須恵器大甕



## VI-2

## [第2文化層の出土遺物]

出土遺物は、土器類、土製品類、石器・石製品類、金属器・鉄滓類、木製品類、骨角器類および動物・植物遺存体などである。

以下にこれらの遺物類について述べる。

## VI-3

## [土器類]

## ① 種類と数量

土器類には土師器、須恵器、「赤焼」土器などがある。量的には土師器が主体を占め、須恵器、「赤焼」土器が少量みられる。

帰属不明の破片も同様の傾向をがす。

Tab. III-5 第2文化層の土器類出土数

	土師器		須恵器		「赤焼」土器		計	
	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数
坏類	113	1,139	7	66	4	-	124	1,205
甕類	183	5,562	-	-	-	-	183	5,562
皿類	-	-	5	-	-	-	5	-
その他	1	-	-	-	-	-	1	-
計	297	6,701	12	66	4	-	313	6,767

## ② 出土状況

土器の種類別にみた個体別出土状況を以下に述べる。

## ① 土師器坏類

- 個体番号坏1 炭化物52と遺構外から出土した。
- 個体番号坏2 1号土壌の周辺の焼土炭化物から出土した。
- 個体番号坏3 2号竈穴住居の周辺(18-16グリッド)から出土した。
- 個体番号坏4 2号竈穴住居内から出土した。
- 個体番号坏5 2号竈穴住居内と炭化物52から出土した。
- 個体番号坏6 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏7 2号竈穴住居の周辺(17-16, 18-20グリッド)から出土した。
- 個体番号坏8 5号竈穴住居内から出土した。



個体番号環 9	2号竪穴住居内と炭化物52から出土した。
個体番号環10	2号竪穴住居の覆土中と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環11	焼土24と炭化物52周辺から出土した。
個体番号環12	5号竪穴住居の煙道内から出土した。
個体番号環13	3号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号環14	遺構外(06-08グリッド)から出土した。
個体番号環15	遺構外(10-08グリッド)から出土した。
個体番号環16	3号土壌内と焼土41と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環17	焼土18, 焼土28, 炭化物30, 炭化物マウンドと遺構外(08-05グリッド)から出土した。
個体番号環18	2号竪穴住居のカマド内から出土した。
個体番号環19	1号土壌周辺の焼土・炭化物から出土した。
個体番号環20	炭化物52から出土した。
個体番号環21	焼土43と炭化物マウンドのへりから出土した。
個体番号環22	焼土27と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環23	炭化物52から出土した。
個体番号環24	焼土44と炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環25	2号竪穴住居の覆土中, 焼土43, 炭化物52と遺構外(19-16グリッド)から出土した。
個体番号環26	4号土壌内から出土した。
個体番号環27	炭化物70から出土した。
個体番号環28	炭化物52のへりと炭化物マウンドから出土した。
個体番号環29	5号竪穴住居内から出土した。
個体番号環30	炭化物マウンドから出土した。
個体番号環31	4号土壌内, 炭化物42, 炭化物52, 炭化物マウンドと遺構外(15-08グリッド)から出土した。
個体番号環32	3号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号環33	5号竪穴の床面, 1号土壌周辺の焼土・炭化物, 焼土27のへりから出土した。
個体番号環34	炭化物52から出土した。
個体番号環35	炭化物42およびその周辺, 炭化物マウンド(フローテーション資料)と遺構外(13-22グリッド)から出土した。
個体番号環36	炭化物52と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環37	炭化物マウンドから出土した。
個体番号環38	炭化物19のほかは遺構外(06-07, 08-12, 08-14, 10-17, 11-16グリッド)から出土した。
個体番号環39	2号竪穴住居の覆土中のはかは遺構外(11-18, 13-15, 13-17, 14-15グリッド)から出土した。
個体番号環40	焼土35, 焼土37のへりのはかは遺構外(13-15, 13-16, 14-15, 15-15グリッド)から出土した。
個体番号環41	炭化物52, 焼土62と炭化物マウンドから出土した。
個体番号環42	炭化物マウンドから出土した。
個体番号環43	2号竪穴住居の床面と焼土43, 同44, 炭化物マウンドから出土した。
個体番号環44	焼土68から出土した。
個体番号環45	炭化物52のへりのはか遺構外(17-13グリッド)から出土した。

- 個体番号坏46 炭化物19、焼土61と遺構外(07-07グリッド)から出土した。
- 個体番号坏47 6号土壌内とその周辺から出土した。
- 個体番号坏48 5号竪穴住居の床面、5号土壌内と遺構外(04-06グリッド)から出土した。
- 個体番号坏49 2号竪穴住居の床面と焼土30、炭化物52から出土した。
- 個体番号坏50 炭化物52から出土した。
- 個体番号坏51 焼土43と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏52 すべて遺構外から出土した。
- 個体番号坏53 炭化物マウンド、破片2点だけが1号竪穴住居のへりから出土した。
- 個体番号坏54 焼土43と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏55 炭化物52、炭化物マウンドと遺構外(12-08グリッド)から出土した。
- 個体番号坏56 2号竪穴住居の覆土中と炭化物52のほかは遺構外(15-14、15-15、15-16グリッド)から出土した。
- 個体番号坏57 すべて遺構外(21-14グリッド)から出土した。
- 個体番号坏58 焼土53と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏59 すべて遺構外(19-18、21-13、21-17グリッド)から出土した。
- 個体番号坏60 炭化物52と焼土62から出土した。
- 個体番号坏61 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏62 1号土壌周辺の焼土・炭化物、焼土17と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号坏63 5号竪穴住居の覆土中、5号土壌内と炭化物30から出土した。
- 個体番号坏64 すべて炭化物52のへりから出土した。
- 個体番号坏65 焼土47と遺構外(11-13、19-12グリッド)から出土した。
- 個体番号坏66 3号竪穴住居の北東へりと1号土壌周辺の焼土・炭化物から出土した。
- 個体番号坏67 焼土43のへりと遺構外(11-09、15-16グリッド)から出土した。
- 個体番号坏68 4号土壌内から出土した。
- 個体番号坏69 すべて遺構外(11-11、14-17グリッド)から出土した。
- 個体番号坏70 炭化物52と遺構外(16-13グリッド)から出土した。
- 個体番号坏71 5号竪穴住居の床面、5号土壌内と遺構外(08-05、09-06、09-08グリッド)から出土した。
- 個体番号坏72 遺構外(29-15グリッド)から出土した。
- 個体番号坏73 遺構外(10-10グリッド)から出土した。
- 個体番号坏74 焼土70から出土した。
- 個体番号坏75 遺構外(09-11グリッド)から出土した。
- 個体番号坏76 焼土7、焼土11と遺構外(07-07、09-06、09-08、09-10グリッド)から出土した。
- 個体番号坏77 遺構外(18-14グリッド)から出土した。
- 個体番号坏78 4号土壌内から出土した。
- 個体番号坏79 炭化物52と遺構外(10-09グリッド)から出土した。
- 個体番号坏80 遺構外(06-08グリッド)から出土した。
- 個体番号坏81 5号竪穴住居の床面から出土した。
- 個体番号坏82 4号土壌の周辺と遺構外(17-13グリッド)から出土した。
- 個体番号坏83 遺構外(08-09、14-12、15-05グリッド)から出土した。
- 個体番号坏84 焼土・炭化物20・21から出土した。
- 個体番号坏85 遺構外(16-09グリッド)から出土した。

個体番号環86	底部であり、焼土24(07-12グリッド)から出土した。
個体番号環87	遺構外(14-14グリッド)から出土した。
個体番号環88	遺構外(22-21グリッド)から出土した。
個体番号環89	焼土42から出土した。
個体番号環90	焼土11から出土した。
個体番号環91	遺構外(07-08グリッド)から出土した。
個体番号環92	遺構外(05-08グリッド)から出土した。
個体番号環93	4号土壌内から出土した。
個体番号環94	遺構外(09-07, 09-09グリッド)から出土した。
個体番号環95	5号土壌内から出土した。
個体番号環96	遺構外(30-16グリッド)から出土した。
個体番号環97	遺構外(04-09グリッド)から出土した。
個体番号環98	焼土22と遺構外(10-10グリッド)から出土した。
個体番号環99	炭化物14から出土した。
個体番号環100	5号土壌内と炭化物16から出土した。
個体番号環101	遺構外(09-08グリッド)から出土した。
個体番号環102	遺構外(20-16グリッド)から出土した。
個体番号環103	遺構外(10-06グリッド)から出土した。
個体番号環104	炭化物4から出土した。
個体番号環105	遺構外(10-05グリッド)から出土した。
個体番号環106	2号竪穴住居のカマド内と炭化物52から出土した。
個体番号環107	4号土壌、焼土22から出土した。
個体番号環108	5号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号環109	5号竪穴の覆土中と遺構外(07-11グリッド)から出土した。
個体番号環110	炭化物マウンドから出土した。
個体番号環111	焼土11から出土した。
個体番号環112	破片1点が5号竪穴住居の床面から出土、5号竪穴住居の東壁外(11-04)からの破片2点と接合した。
個体番号環113	炭化物52から出土した。

## ② 土師器類 (代表個体)

個体番号壺1	5号竪穴住居の床面と1号土壌内から出土した。
個体番号壺2	1号土壌内から出土した。
個体番号壺3	焼土27のほか遺構外から出土した。
個体番号壺4	2号竪穴住居の床面、炭化物マウンド、3号竪穴住居の北側(10-11グリッド)などから出土した。
個体番号壺5	遺構外(21-17グリッド)から出土した。
個体番号壺6	3号竪穴住居の覆土中から出土した。
個体番号壺7	1号竪穴住居のカマドで支脚として使用されていた。
個体番号壺8	5号竪穴住居の床面から出土した。
個体番号壺9	1号竪穴住居のカマド焚口に固定されて出土した。
個体番号壺10	1号竪穴住居の覆土中や付近(19-14グリッド)、炭化物マウンド、焼土43のへり、炭化物52のへり、焼土58などから出土した。
個体番号壺11	炭化物マウンドと炭化物52から出土した。
個体番号壺12	炭化物マウンド、焼土43、炭化物52などから出土した。

- 個体番号壘13 1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)1個所に集中する。
- 個体番号壘14 4号土壕内、焼土32, 4号竪穴住居の東および西側から出土した。
- 個体番号壘15 2号竪穴住居の床面、炭化物マウンド、焼土34、同51などから出土した。
- 個体番号壘16 5号竪穴住居の床面およびカマドの煙道内から出土した。
- 個体番号壘17 5号竪穴住居の床面と2号竪穴住居の西側(20-21グリッド)から出土した。
- 個体番号壘18 遺構外(09-09~10-09グリッド)から出土した。
- 個体番号壘19 焼土64から出土した。
- 個体番号壘20 炭化物マウンド、炭化物52, 同53から出土した。
- 個体番号壘21 2号竪穴住居の覆土中、3号土壕内、焼土43, 炭化物52, 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘22 4号竪穴住居の覆土中から出土した。
- 個体番号壘23 2号竪穴住居のカマド周辺、炭化物マウンド、焼土41, 焼土43, 炭化物52から出土した。
- 個体番号壘24 5号竪穴住居の床面, 1号土壕周辺の焼土・炭化物, 6号土壕内およびその周辺部, 炭化物マウンド内から出土した。
- 個体番号壘25 焼土36, 同39, 4号竪穴住居の北東側から出土した。
- 個体番号壘26 炭化物52の中に破片が1点みられ, 多くの破片はその周辺から出土した。
- 個体番号壘27 破片2点が1号竪穴住居でカマドの袖に使用され, 他の破片は同竪穴の床面やその周辺, 3号土壕内, 焼土47, 同48のへり, 焼土51などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘28 2号竪穴住居の床面と炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘29 炭化物マウンド, 焼土43, 炭化物52から出土した。
- 個体番号壘30 2号竪穴住居の床面, 焼土37, 焼土43, 炭化物52, 炭化物マウンドから出土した。
- 個体番号壘31 2号竪穴住居の床面, 3号土壕内, 焼土43, 炭化物52, 炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘32 2号竪穴住居の床面, 焼土43, 炭化物52, 炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘33 2号竪穴住居の覆土中, 焼土43およびその周辺に分布している。
- 個体番号壘34 2号竪穴住居の床面や住居外の南東部分, 焼土43, 炭化物52, 炭化物マウンドおよび4号竪穴住居周辺, 焼土34, 同47などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘35 2号竪穴住居の覆土中, 4号竪穴住居周辺, 焼土43から出土した。
- 個体番号壘36 焼土35, 同37, 同43, 炭化物52, 炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘37 2号竪穴住居の床面とカマド, 焼土43, 炭化物52, 炭化物70などかなり広範囲に分布している。
- 個体番号壘38 2号竪穴住居の床面やカマド, 焼土41, 同43, 炭化物52, 炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号壘39 5号竪穴住居の床面に破片が2点出土, 大部分の破片は10-10グリッドに集中する。
- 個体番号壘40 5号竪穴住居の床面とカマドの煙道内, 1号土壕内および周辺の焼土

- 個体番号變41 炭化物，3号・4号竪穴住居周辺部から出土した。
- 個体番号變42 2号竪穴住居の床面と覆土中，焼土43およびその周辺に分布している。
- 個体番号變43 焼土43，炭化物52，炭化物マウンドなどかなり広範囲に分布している。
- 個体番号變44 5号竪穴住居の床面，カマド煙道部から出土した。
- 個体番号變45 2号竪穴住居の床面やカマド，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變46 遺構外(05-08，06-08，09-06，19-13，20-09グリッド)から出土した。
- 個体番号變47 遺構外(13-11，14-06，14-09，14-11，15-10，19-13グリッド)から出土した。
- 個体番号變48 炭化物52，同53，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變49 2号竪穴住居の床面，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變50 遺構外(20-09，20-10，21-10グリッド)から出土した。
- 個体番号變51 焼土27とその周辺部に分布している。
- 個体番号變52 2号竪穴住居の床面やカマドおよび覆土中，焼土41，同43，同44，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變57 焼土41，同43，同48，炭化物52，同50，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變58 遺構外(20-17，20-18，21-17，22-14グリッド)から出土した。
- 個体番号變59 2号竪穴住居の床面や炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變60 焼土35，同39に分布している。
- 個体番号變61 焼土43，炭化物52に分布している。
- 個体番号變62 2号竪穴住居の床面やカマドおよび覆土中，焼土43，炭化物52に分布している。
- 個体番号變63 焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに分布している。
- 個体番号變64 焼土41，同43，炭化物19，炭化物マウンド，1号竪穴住居と炭化物58の間に主として分布している。その他3号竪穴住居の西側(09-18グリッド)約20mにも破片がみられる。もっとも離れていた破片間の距離は約80mである。
- 個体番号變65 2号竪穴住居のカマド内，焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに破片が分布している。
- 個体番号變66 2号竪穴住居のカマド周辺に7点の破片が出土。5号竪穴住居のカマド煙道内の1点の破片，炭化物52からの破片と接合した。もっとも離れたもので約60mの距離がある。
- 個体番号變67 2号竪穴住居の床面・カマド周辺，焼土43，炭化物52，炭化物マウンドに破片が分布している。
- 個体番号變68 2号竪穴住居の床面・カマド周辺・煙道内，およびその周辺部，3号竪穴住居の覆土中，焼土43，炭化物30，炭化物52，炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 個体番号變69 2号竪穴住居の床面および覆土中，焼土41，同43，炭化物52，炭化物マウンドからの破片と接合した。
- 個体番号變70 2号竪穴住居の床面およびその覆土中，焼土41，同43，炭化物52からの破片と接合した。
- 個体番号變71 3号竪穴住居の床面およびその周辺部，5号竪穴住居の床面，4号土壌内，焼土22，焼土32，炭化物16，炭化物52および炭化物マウンドのへりからの破片と接合した。

- 個体番号壘72 炭化物52から出土した。  
 個体番号壘73 4号土壘内と焼上24からの破片が接合した。  
 個体番号壘74 5号竪穴住居の床面および覆土中と焼上28などからの破片が接合した。  
 個体番号壘75 2号竪穴住居のカマド周辺、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。  
 個体番号壘76 4号土壘内、焼土12、同18、炭化物14、同19、焼土27からの破片が接合した。  
 個体番号壘77 5号土壘内、焼土27、同29、炭化物28からの破片が接合した。  
 個体番号壘78 3号竪穴住居のカマド焚口から出土した。  
 個体番号壘79 5号土壘の東がわから南がわぞいと2号竪穴住居の南西がわ(16-22、グリッド)に分布した。  
 個体番号壘80 5号竪穴住居の覆土中および5号土壘の周辺部、1号土壘周辺の焼土・炭化物からの破片と接合した。  
 個体番号壘81 3号竪穴住居の覆土中から出土した。  
 個体番号壘82 3号竪穴住居の覆土中から出土した。  
 個体番号壘83 焼上24から出土した。  
 個体番号壘84 遺構外(31-16グリッド)から出土した。  
 個体番号壘85 2号竪穴住居の床面・カマド周辺・煙道内、焼土43、同49、同62、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。  
 個体番号壘86 遺構外(20-13、20-15、21-16、22-18グリッド)から出土した。  
 個体番号壘87 2号竪穴住居の覆土中、3号土壘内、焼土43、炭化物52、炭化物マウンドからの破片が接合した。  
 個体番号壘88 炭化物52の周辺部から出土した。  
 個体番号壘89 焼土13や同18の周辺部からの破片が接合した。  
 個体番号壘90 炭化物マウンドと遺構外(21-22グリッド)からの破片が接合した。  
 個体番号壘91 遺構外(21-15、21-16、21-17グリッド)から出土した。  
 個体番号壘92 2号竪穴住居の床面と炭化物52からの破片が接合した。  
 個体番号壘93 2号竪穴住居のカマド周辺、焼土41、同43、炭化物4、同52からの破片が接合した。  
 個体番号壘94 炭化物52から出土した。  
 個体番号壘95 焼上43から出土した。  
 個体番号壘96 遺構外(21-18、21-19、22-18グリッド)から出土した。  
 個体番号壘97 遺構外(22-18、22-21グリッド)から出土した。  
 個体番号壘98 4号土壘内と焼上22からの破片が接合した。  
 個体番号壘99 炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号壘100 遺構外(10-08グリッド)から出土した。  
 個体番号壘102 4号竪穴住居外の南西がわ、焼土49、同50、炭化物マウンドのへりからの破片が接合した。  
 個体番号壘103 5号竪穴住居の床面から出土した。  
 個体番号壘104 焼土24から出土した。  
 個体番号壘105 2号竪穴住居のカマド煙道内、3号土壘内、焼土43、炭化物マウンドなどからの破片が接合した。  
 個体番号壘106 炭化物52から出土した。  
 個体番号壘108 3号竪穴住居のカマド周辺や煙道内からの破片が接合した。

- 個体番号壘109 炭化物70から出土した。  
 個体番号壘110 炭化物70から出土した。  
 個体番号壘111 炭化物19と遺構外(10-17グリッド)から出土した。  
 個体番号壘112 炭化物52と遺構外(18-20グリッド)から出土した。  
 個体番号壘113 炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号壘114 1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)から出土した。  
 個体番号壘115 炭化物52と遺構外(12-07, 15-13, 15-16, 17-13, 18-15, 19-15グリッド)から出土した。  
 個体番号壘116 2号竪穴住居の覆土中、焼土43、炭化物52からの破片が接合した。  
 個体番号壘117 焼土・炭化物20・21周辺から出土した。  
 個体番号壘118 2号竪穴住居の床面・カマド周辺、焼土41, 同43, 同47, 同60, 炭化物50, 同52, 炭化物マウンドからの破片が接合。一方1号竪穴住居の南側(18-14グリッド)や4号竪穴住居の付近(10-09, 13-14グリッド)、3号竪穴住居と4号竪穴住居の間などにも破片が分布し、もっとも離れた距離は約60mである。  
 個体番号壘119 炭化物52と炭化物マウンドからの破片が接合した。  
 個体番号壘120 炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号壘121 2号竪穴住居の北西側(19-18グリッド)から出土した。  
 個体番号壘122 遺構外(08-09グリッド)から出土した。  
 個体番号壘123 遺構外(21-17グリッド)から出土した。  
 個体番号壘124 遺構外(14-13グリッド)から出土した。  
 個体番号壘125 遺構外(16-13グリッド)から出土した。  
 個体番号壘126 遺構外(20-19, 22-18グリッド)から出土した。  
 個体番号壘127 2号竪穴住居の西側(17-20, 17-21グリッド)から出土した。  
 個体番号壘128 焼土43から出土した。  
 個体番号壘129 5号竪穴住居の床面から出土した。  
 個体番号壘130 炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号壘131 炭化物52と遺構外(20-19グリッド)から出土した。  
 個体番号壘132 炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号壘133 遺構外(22-15グリッド)から出土した。  
 個体番号壘134 遺構外(07-14グリッド)から出土した。  
 個体番号壘135 遺構外(07-09グリッド)から出土した。  
 個体番号壘137 炭化物19と遺構外(06-08, 07-05, 07-09グリッド)から出土した。  
 個体番号壘138 遺構外(10-11, 10-12グリッド)から出土した。  
 個体番号壘139 遺構外(05-10グリッド)から出土した。  
 個体番号壘140 遺構外(26-16グリッド)から出土した。  
 個体番号壘141 5号竪穴住居の床面と焼土27からの破片が接合した。  
 個体番号壘142 遺構外(11-07グリッド)から出土した。  
 個体番号壘143 遺構外(09-06グリッド)から出土した。  
 個体番号壘144 遺構外(12-21グリッド)から出土した。  
 個体番号壘145 炭化物70から出土した。  
 個体番号壘146 焼土43から出土した。  
 個体番号壘147 炭化物52から出土した。  
 個体番号壘148 焼土68から出土した。  
 個体番号壘149 1号土環周辺の焼土・炭化物と遺構外(05-06, 09-07グリッド)から出

- 個体番号変150 2号竪穴住居の覆土中から出土した。  
 個体番号変151 炭化物70から出土した。  
 個体番号変152 4号土壌内、炭化物14、同19と焼土24から出土した。  
 個体番号変153 炭化物16と遺構外(4号竪穴住居の周辺部)から出土した。  
 個体番号変154 遺構外(19-20、20-20、22-21グリッド)から出土した。  
 個体番号変155 焼土64と遺構外(19-16、21-16グリッド)から出土した。  
 個体番号変156 2号竪穴住居の床面と炭化物52、焼土59からの破片が接合した。  
 個体番号変158 遺構外(09-07～09-08グリッド)から出土した。  
 個体番号変159 炭化物19と焼土・炭化物20・21から出土した。  
 個体番号変160 遺構外(05-09、05-10、05-11グリッド)から出土した。  
 個体番号変161 焼土64、同67から出土した。  
 個体番号変162 炭化物70から出土した。  
 個体番号変163 5号竪穴住居覆土中、焼土22から出土した。  
 個体番号変164 焼土37と遺構外(4号竪穴住居の周辺部)から出土した。  
 個体番号変165 3号竪穴住居のカマド煙道内や覆土中、焼土24からの破片が接合した。  
 個体番号変166 3号竪穴住居のカマド煙道内や覆土中、焼土24からの破片が接合した。  
 個体番号変167 焼土・炭化物20・21から出土した。  
 個体番号変168 遺構外(19-13グリッド)から出土した。  
 個体番号変169 遺構外(21-16、21-17グリッド)から出土した。  
 個体番号変171 遺構外(15-12グリッド)から出土した。  
 個体番号変176 1号土壌周辺の焼土・炭化物からの破片が接合した。  
 個体番号変177 焼土71から出土した。  
 個体番号変178 遺構外(08-09、09-09グリッド)から出土した。  
 個体番号変179 2号竪穴住居の覆土中、4号土壌内、焼土27、炭化物マウンドからの破片が接合した。  
 個体番号変180 5号土壌内、焼土22、炭化物16からの破片が接合した。

### [3] 土師質土器その他

3号竪穴住居のカマド煙道内から破片が出土した。

### [4] 須恵器・「赤焼」土器 (16個体のうち11個体について説明する)

- 個体番号須恵器1 炭化物4と遺構外(05-07、05-09、06-07グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器2 炭化物50と炭化物マウンドから出土した。  
 個体番号須恵器3 焼土18と炭化物19から出土した。  
 個体番号須恵器4 炭化物16と遺構外(05-10グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器5 焼土・炭化物59と遺構外(21-17、22-18グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器6 焼土62と炭化物52の周辺から出土した。  
 個体番号須恵器7 炭化物マウンド、焼土43から出土した。  
 個体番号須恵器9 炭化物70から出土した。  
 個体番号須恵器10 6号土壌内と焼土11から出土した。  
 個体番号須恵器11 5号竪穴住居の床面と遺構外(09-05グリッド)から出土した。  
 個体番号須恵器12 遺構外(09-06、11-10、11-11、11-12グリッド)から出土した。

なお、須恵器類の個体識別が可能なのは、16個体である。その他破片などで帰属不明



なものは、28番まで番号を付けて分布図に示してある。

## ④ 種類別に見た土器の特徴

### ① 土師器(土師質土器)

坏類、甕類およびその他の土器にわけて説明する。

#### ① 坏類

ここで坏類とした土器は、底部から口縁部にかけて大きな屈曲をもたずに単純に外傾しながら立ち上がる器形のをさす。このなかには、坏、鉢、甕、皿などが含まれる。

坏類として個体識別された土器は113個体、帰属不明の破片は1,139点ある。

#### ▶ 坏類の形態と製作手法による分類

坏類の製作にロクロによる調整があるかどうかによって二類にわけられる。

1類：ロクロによる調整のみられない坏類

- A—体部に単数の横走沈線を施すもの
- B—体部に横走沈線や段などを施さないもの
- C—口縁部にそって横走沈線や段を施すもの

2類：ロクロによる調整がみられる坏類

- A—一回転糸切り後、体部や底部に再調整を施すもの
- B—一回転糸切り後、体部外面や底部に再調整を施さないもの

以下に、各類別にその特徴を述べる。

#### ▶ 1 A類

個体番号坏19、個体番号坏27の2個体が見られる。

法量は口径が14.4cm～14.8cm、底径が5.6cm～6.2cm、器高が6.4cm～7.4cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度である。

体部の形状は、内湾しながら外傾するもの(個体番号坏19)と直線的に外傾するもの(個体番号坏27)である。器面調整は、いずれも外面がハケ目調整の後ヘラミガキ、内面がヘラミガキ・黒色処理されている。

底部はいずれも平底である。

#### ▶ 1 B類

個体番号坏6、個体番号坏12、個体番号坏13、個体番号坏14、個体番号坏28、個体番号坏42、個体番号坏57、個体番号坏58、個体番号坏59、個体番号坏64、個体番号坏65、個体番号坏113の12個体が見られる。そのうち、計測が可能なものは個体番号坏6～同57までの7個体である。

法量は口径が10.9cm～14.8cm、底径が4.7cm～5.8cm、器高が5.2cm～8.0cmで、口高比が1.9～2.4となり、外傾度はいずれも29度～36度である。

そのうち、a = 口径が10.9cm～12cmまでの比較的小型のもの(個体番号坏6、同12、同113)が3個体みられるほかは、b = 口径が14cm～16cmまでの大型品である。

体部の形状は、I = 内湾しながら外傾するもの(個体番号坏14、同42、同57、同59、同64、同65、同113)が7個体、II = 直線的に外傾するもの(個体番号坏6、同12、同13、同28)が4個体みられ、Iが量的にうまわる。

器面調整は、いずれも内外面ともにヘラミガキによって仕上げられ、内面は黒色処理が施される。しかし、ヘラミガキに先だててハケ目調整を施すもの(個体番号坏12、同13、同14、同59)4個体や外面の口縁部にロコナデ調整を施すもの(個体番号坏13、同57)などもみられる。

底部はいずれも平底であるが、外側へ張り出すもの（個体番号環6）もみられる。

#### ▶ 1 C類

個体番号環4、個体番号環8、個体番号環11、個体番号環15、個体番号環16、個体番号環21、個体番号環35、個体番号環39、個体番号環41、個体番号環45、個体番号環47、個体番号環50、個体番号環62、個体番号環71、個体番号環73、個体番号環75、個体番号環76、個体番号環107、個体番号環109、個体番号環110の20個体がみられる。そのうち、計測が可能なのは個体番号環4～同50までの12個体である。

法量は口径が13.8cm～17.0cm、底径が5.3cm～7.4cm、器高が6.1cm～7.7cmで、口高比が1.9～2.5となり、外傾度はいずれも29度～39度である。

そのうち、a = 口径が13.8cm～14cmまでの比較的小型のもの（個体番号環4、同16）の2個体みられるほかは、b = 口径が14.8cm（個体番号環47）～17cmまでの大型品である。

体部の形状は、Ⅱ＝直線的に外傾するもの（個体番号環21）が1個体みられるほかはすべてⅠ～内湾しながら外傾するものである。

器面調整は、いずれも内外面ともにヘラミガキによって仕上げられるが、特に外面がヘラミガキに先だってハケ目調整を施すもの（個体番号環11、同15、同21、同47、同50、同71、同73、同76）8個体や内外面にハケ目がみられるもの（個体番号環8）1個体、外面の口縁部にヨコナデ調整を施すもの（個体番号環35）などもみられる。内面は1個体（個体番号環41）以外黒色処理が施される。

底部は垂直あるいは、外側へ張り出すもの（個体番号環4、同16、同39、同41）4個体のほか体部からスムーズに移行するもので占められている。

以上のほかに、破片や底部であるため形態が不明なものが11個体分（個体番号環52、同80、同87、同91、同92、同97、同98、同100、同103、同105、同106）みられる。

#### ▶ 2 A類

個体番号環1、個体番号環3、個体番号環20、個体番号環25、個体番号環30、個体番号環31、個体番号環33、個体番号環40、個体番号環60、個体番号環63、個体番号環65、個体番号環70、個体番号環90の13個体みられる。そのうち、計測が可能なのは個体番号環1～同40までの9個体である。

法量は口径が13.5cm～16.6cm、底径が5.8cm～7.4cm、器高が6.2cm～7.9cmで、口高比が2.0～2.4となり、外傾度は23度～36度である。

そのうち、a = 口径が13.5cm～14.5cmまでの比較的小型のもの（個体番号環1、同33、同65）が3個体みられるほかは、b = 口径が14.8cm～16.6cmまでの大型品である。

体部の形状は、Ⅱ＝直線的に外傾するもの（個体番号環20）が1個体とⅢ＝内湾しながら外傾し口縁部で若干外反するもの（個体番号環1）が1個体みられるほかは、すべてⅠ＝内湾しながら外傾するものである。

器面調整は、多くのものについて底部外面以外ロクロ調整後ヘラミガキによって上げられ、内面を黒色処理している。しかし、特に体部外面が部分的にヨコナデ（個体番号環1）あるいは底部の外面がケズリ調整されるもの（個体番号環20、同60）、体部の外面以外についてヘラミガキ調整されるもの（個体番号環40）がみられる。

底部は、榻底（個体番号環1、同3、同20、同33、同40）が6個体、平底（個体番号環25、同31）が2個体で、回転糸切りの取巻をとどめているが、ヘラミガキ調整によってそれが消失しているもの（個体番号環40）が1個体みられる。

#### ▶ 2 B類

個体番号環2、個体番号環5、個体番号環7、個体番号環9、個体番号環10、個体番号環17、個体番号環18、個体番号環22、個体番号環23、個体番号環24、個体番号環26、個体番号環29、個体番号環32、個体番号環34、個体番号環36、個体番号環37、個体番号環38、

個体番号環43, 個体番号環44, 個体番号環46, 個体番号環48, 個体番号環49, 個体番号環51, 個体番号環53, 個体番号環54, 個体番号環55, 個体番号環56の27個体がみられる。そのうち、計測可能なものは個体番号環48以外の26個体である。

法量は口径が14.2cm(個体番号環5)～17.5(個体番号環17)cm, 底径が5.8cm(個体番号環17, 同23)～7.2cm(個体番号環29), 器高が6.2cm(個体番号環49)～7.9cm(個体番号環29)で, 口高比が2.0～2.6となり, 外傾度は, ①21度～30度に16個体, ②31度～41度に8個体みられ, ①が②の2倍である。ちなみに, 「冫」文字環(個体番号環17)は①に含まれる。

体部の形状は, I=内湾しながら外傾するもの(個体番号環9, 同10, 同18, 同24, 同26, 同34, 同36, 同43, 同44, 同46, 同49, 同51, 同53, 同54, 同55)が15個体, III=内湾しながら外傾し口縁部で若干外反するもの(個体番号環2, 同5, 同7, 同17, 同22, 同23, 同29, 同32, 同37, 同38, 同56)が11個体みられる。

器面調整は内面にかざられ, 13個体(個体番号環5, 同9, 同22, 同23, 同24, 同32, 同34, 同36, 同37, 同43, 同44, 同48, 同55)がヨコ・ナナのヘラミガキによって調整されており, 全個体について黒色処理されている。

底部は体部からスムーズに移行するもの(個体番号環18, 同32, 同37)が3個体と少なく, 大部分のものは低い台状を呈する。

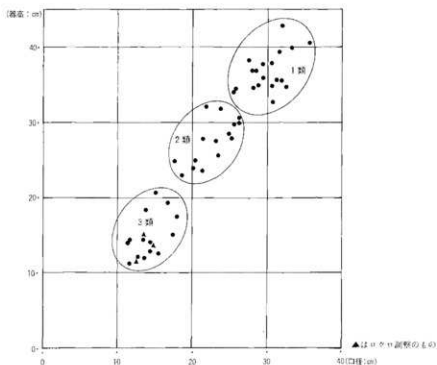
以上のほかに, 2類に含まれるが形態の不明なものが21個体分(個体番号環61, 同66, 同67, 同68, 同69, 同77, 同78, 同81, 同82, 同83, 同84, 同85, 同86, 同88, 同89, 同93, 同94, 同95, 同96, 同99, 同100)みられる。

## ② 甕類

ここで甕類とした土器は, 最大径が口縁部にあり胴部が長胴形ないし胴張形をなし, 頸でしまり口縁部がひらく器形で, 頸部の径が最大径の約2分の1以上のものをさす。

甕類として個体識別された土器は183個体, 帰属不明の破片は5,562点ある。

PL. ①-12 甕の形態別分布



壺類の製作過程でロタロ調整をうけたものはわずかに4個体(個体番号壺8, 同14, 同88, 同90)で全体の2.2%にすぎず, 他は粘土紐の積み上げによるもので占められる。

#### ▶壺類の形態分類

壺類の口径と器高との相関関係にもとづくなら, 3類にわけられる。

計測が可能なものは51個体で, 全体の27.9%である, さらにこれらのデータをもとに底部以外の個体で類型化ができたものが131個体, それができなかったものが52個体で, 全体の約7割が類型化できたことになる。

1類: 口径が25.5cm~36.0cm, 器高が33.0cm~44.0cmにおさまる壺

2類: 口径が17.5cm~26.0cm, 器高が23.0cm~32.0cm代におさまる壺

3類: 口径が10.0cm弱~18.0cm弱, 器高が8.0cm代~21.0cm弱におさまる壺

以下に, 各類別にその特徴を述べる。

#### ▶1類

計測が可能なものはつぎの19個体である。

個体番号壺1, 個体番号壺2, 個体番号壺24, 個体番号壺27, 個体番号壺28, 個体番号壺29, 個体番号壺30, 個体番号壺31, 個体番号壺32, 個体番号壺33, 個体番号壺36, 個体番号壺39, 個体番号壺40, 個体番号壺41, 個体番号壺64, 個体番号壺69, 個体番号壺70, 個体番号壺76, 個体番号壺77。

これらの壺類は, 口径が27.0cm~33.0cm, 器高が35.0cm~39.0cmの範囲内に12個体(個体番号壺27, 同28, 同29, 同30, 同31, 同32, 同33, 同40, 同64, 同69, 同70, 同77)と もっとも多くみられ, それより小さいものが3個体(個体番号壺24, 同36, 同76), 大きいものが4個体(個体番号壺1, 同2, 同39, 同41)みられる。

さらに, 破損品について識別が可能なものが44個体分(個体番号壺34, 同35, 同37, 同38, 同42, 同43, 同44, 同45, 同46, 同60, 同62, 同63, 同65, 同66, 同67, 同68, 同71, 同72, 同73, 同74, 同75, 同78, 同79, 同81, 同85, 同86, 同102, 同104, 同112, 同113, 同116, 同134, 同149, 同163, 同166, 同167, 同176, 同179, 同186, 同190, 同191, 同192, 同193, 同194)あり, 1類の壺の総数は163個体である。

壺1類の製作過程でロタロ調整をうけたものはみられず, すべて幅1cm~1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

#### ▶器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は, 31個体である。

1 頸部が短く(器高の約10分の1強), 外反しながら口縁部へ移行するもの

個体番号壺1, 同27, 同32, 同33, 同34, 同35, 同37, 同38, 同40, 同41, 同66, 同70, 同77, 同81の14個体である。

2 頸部が直立あるいは内傾(器高の約5分の1弱)し, 大きく外反しながら口縁部へ移行するもの

個体番号壺2, 同24, 同28, 同29, 同30, 同31, 同36, 同39, 同62, 同64, 同68, 同69, 同71, 同76, 同79, 同85, 同179の17個体である。

#### ▶器面調整

観察が可能なものは, 54個体である。

器面調整は部位によって異なるが, 口縁部はヨコナデ(個体番号壺1, 同2など), 頸部, 胴部はハケ目, ヘラミガキ, あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは, 24個体(個体番号壺1, 同28, 同32, 同40, 同43, 同44, 同45, 同46, 同62, 同65, 同66, 同67, 同70, 同73, 同75, 同76, 同81, 同86, 同102, 同104, 同112, 同179, 同192, 同193)と もっとも多い。

器内外面ともにヘラミガキ調整が施されるものは, 3個体(個体番号壺27, 同30, 同31)

と少ない。

器外面がハケ目調整で、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、4個体（個体番号22、同72、同149、同163）みられる。

器外面がハケ目調整で、内面にヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるものは、6個体（個体番号29、同33、同35、同42、同64、同167）みられる。

器外面がヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施され、内面にハケ目調整が施されるものは、4個体（個体番号69、同74、同77、同85）みられる。

器外面がヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施され、内面にヘラミガキ調整が施されるものは、2個体（個体番号24、同39）みられる。

器内外面ともにヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるものは、8個体（個体番号24、同36、同37、同38、同60、同68、同79、同194）みられる。

器外面がヘラミガキ調整で、内面にハケ目調整が施されるものは、1個体（個体番号63）みられる。

器外面がヘラミガキ調整で、内面にヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるものは、1個体（個体番号41）みられる。

#### ▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部、胴部は縦位もしくは斜位、頸部下平から胸部上半は横位もしくは斜位に、器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位、胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶文様

文様が施文される部位は、口縁部から頸部にかけてである。

観察が可能な個体は47個体分であり、そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって、251類では53.2%に文様がみられたことになる。

#### ▶文様の種類

##### 1 横走沈線文—22個体

- a 1～2本の横走沈線文—5個体（個体番号27、同62、同76、同77、同163）
  - b 多重横走沈線文—17個体（例えば個体番号72）
- 2 多重横走沈線文、縦位沈線文、鋸歯文、刻み目文の組み合わせ文—2個体（個体番号102、同186）

##### 3 斜行沈線文の組み合わせ—1個体（個体番号36）

#### ▶文様のある器形

壺1類で文様のある器形は、「頸部器形2」が大部分である。「頸部器形1」では2個体にしかみることができず、文様の種類も1-a（個体番号27）であり、文様の部位も頸部と胴部との境目に付される（個体番号77）。

#### ▶2類

計測が可能なものはつぎの15個体である。

個体番号29、個体番号16、個体番号17、個体番号18、個体番号19、個体番号20、個体番号21、個体番号22、個体番号23、個体番号25、個体番号26、個体番号27、個体番号118、個体番号152、個体番号154。

これらの選別は、口径が17.0cm～21.0cm、器高が23.0cm～25.0cmの範囲内に5個体（個体番号16、同18、同57、同152、同154）、口径が21.0cm～25.0cm、器高が26.0cm～29.0cmの範囲内に5個体（個体番号29、同17、同19、同20、同21）、口径が21.0cm～26.0cm、器高が30.0cm～32.0cmの範囲内に5個体（個体番号22、同23、同25、同26、同118）みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが22個体分（個体番号47、同48、同49、同

50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同80, 同82, 同89, 同93, 同95, 同96, 同97, 同108, 同137, 同150, 同164, 同181, 同182, 同189)であり、2類の壺の総数は37個体である。

壺2類の製作過程でロクロ調整をうけたものはみられず、すべて幅1cm～1.5cmの粘土紐の積み上げによる。粘土紐の接合状況は器内へと傾斜している。

#### ▶器形の特徴

頸部と器高との関係をとらえることができる個体数は、24個体である。

- 1 頸部が短く(器高の約6分の1強)、外反しながら口縁部へ移行するものは、3個体(個体番号壺26, 同47, 同182)である。
- 2 頸部が直立あるいは内傾(器高の約3分の1～4分の1)し、大きく外反しながら口縁部へ移行するものは、17個体(個体番号壺9, 同17, 同18, 同19, 同20, 同21, 同22, 同23, 同25, 同48, 同49, 同50, 同52, 同57, 同58, 同59, 同82, 同118, 同152, 同154)である。

#### ▶器面調整

観察が可能なものは、30個体である。

器面調整は部位によって異なるが、口唇部はヨコナデ、頸部・胴部はハケ目、ヘラミガキ、あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは、8個体(個体番号壺9, 同17, 同19, 同21, 同49, 同80, 同82, 同152)である。

器内外面ともヘラミガキ調整が施されるものは、14個体(個体番号壺18, 同20, 同22, 同23, 同25, 同26, 同50, 同58, 同59, 同89, 同93, 同96, 同154, 同164)ともっとも多い。

そのほか器外面がハケ目調整で、内面にヘラミガキ調整(個体番号壺52, 同57, 同181)やヨコナデ(個体番号壺16)が施されるものなどもみられる。

#### ▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部、胴部は縦位もしくは斜位、頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に、器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位、胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶文様

文様が施される部位は、口縁部から頸部にかけてがもっとも多い。観察が可能な個体は30個体分であり、そのうち文様がみられたものは25個体である。したがって、壺2類では約70%に文様がみられたことになる。

#### ▶文様の種類

- 1 横走沈線文——12個体
  - a 1～2本の横走沈線文——2個体(個体番号壺22, 同182)
  - b 多種横走沈線文——10個体(個体番号壺9, 同19, 同21, 同26, 同57, 同89, 同96, 同97, 同154, 同164)
- 2 多種横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 竪書文, 刺突文, 刻み文の組み合わせ文——13個体
  - a 頸部に1本の横走沈線文を施し、14唇部に刻み目をつけるもの(個体番号壺47)
  - b 頸部に多重走沈線文を施し、口縁部と頸部・胴部の境(個体番号壺20)あるいは頸部に複数列の刺突文をつけるもの(個体番号壺48)
  - c 頸部に多重横走沈線文, 縦・斜位沈線文, 刺突文の組み合わせ文(個体番号壺17, 同50, 同52)を、あるいはさらに胴部上半に竪書文(個体番号壺18, 同25)をつけるもの
  - d 頸部に多重横走沈線文, 斜位沈線文の組み合わせ文(個体番号壺59, 同118, 同1

81) を、あるいは縦・斜沈線文の組み合わせ文(個体番号49)をつけるもの

e 頸部に多重横走沈線文と鋸歯文を組み合わせたもの(個体番号189)

以上のように、壺2類には約7割に文様が施文されていた。文様は口唇部から胴部上半に限られ、特に頸部を横走沈線文で充塞するという特色がみられた。

文様の種類には多重横走沈線文を基調とし、縦・斜沈線文、刺突文、刻み目文、鋸歯文などの組み合わせ文がみられた。

### ▶ 3類

計測が可能なものはつぎの17個体である。

個体番号3, 個体番号4, 個体番号5, 個体番号6, 個体番号7, 個体番号8, 個体番号10, 個体番号11, 個体番号12, 個体番号13, 個体番号14, 個体番号15, 個体番号88, 個体番号153, 個体番号155, 個体番号156, 個体番号169。

これらの壺類は、口径が11.0cm~16.0cm、器高が11.0cm~15.0cmの範囲内に11個体(個体番号3, 同4, 同6, 同7, 同8, 同11, 同12, 同13, 同14, 同88, 同156)ともっとも多くみられ、それより小さいものが1個体(個体番号5)、大きいものが5個体(個体番号10, 同15, 同153, 同155, 同169)みられる。

さらに、破損品について識別が可能なものが14個体分(個体番号51, 同83, 同84, 同87, 同90, 同91, 同92, 同94, 同98, 同99, 同100, 同117, 同133, 同180)あり、3類の壺の総数は31個体である。

3類の製作過程でロクロ調整をうけたものは4個体(個体番号8, 同14, 同88, 同90)で12.9%である。その他は幅1cm~1.5cmの粘上紐の積み上げによる、粘上紐の接合状況は器内面へと傾斜している。

### ▶ 器形の特徴

まず、ロクロ調整の4個体にはつぎの2種類がみられる。

- 1 頸部と胴部の境が不明瞭で、頸部が直立ないし外傾し、外反する口縁部へ移行するもの(個体番号14, 同90)。
- 2 頸部と胴部の境が不明瞭で、頸部が強くなる。口縁部は短く外反する。最大径は胴部にあり、大きく膨らむ(個体番号8, 同88)。

つぎに、ロクロ調整のみられないものにはつぎの2種類がみられる。

- 1 口縁部から頸部までの長さが、器高の約3分の1を占めるもので8個体(個体番号3, 同4, 同5, 同10, 同11, 同12, 同153, 同156)ある。
  - 2 口縁部から頸部までの長さが、器高の約4分の1を占めるもので5個体(個体番号6, 同13, 同15, 同155, 同169)ある。
- 1, 2いずれも頸部は直立、内傾、外傾し口縁部へ大きく外反する。また、個体番号7は「ロクロ1」と形態が似ており、個体番号10は二重口縁部をもつ器形である。

### ▶ 器面調整

観察が可能なものは、29個体である。

まず、ロクロ調整の4個体について、風化の著しい個体番号8以外はつぎのようになる。

個体番号14は内面をヘラミガキ、個体番号88は内面をヘラケズリによって再調整している。しかし、個体番号90は再調整がみられない。

つぎに、ロクロ調整のみられないものについて、観察が可能なものは25個体である。

器面調整は部位によって異なるが、口縁部はヨコナデ、頸部・胴部はハケ目、ヘラミガキ、あるいはその組み合わせである。

器内外面ともにハケ目調整が施されるものは、7個体(個体番号12, 同13, 同83, 同

91, 同92, 同94, 同98), 器内外面ともにヘラミガキ調整が施されるものは, 6個体(個体番号要11, 同51, 同84, 同87, 同100, 同180)とはほぼ半々である。器外面がハケ目・ヘラミガキ調整で, 内面にヘラミガキ調整が施されるものは, 3個体(個体番号要4, 同5, 同155)みられる。器外面がハケ目調整で, 内面にヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの(個体番号要6, 同10, 同153, 同156)と内外面がヘラミガキ調整に先だってハケ目調整が施されるもの(個体番号要7, 同15, 同99, 同169)はともに4個体みられる。また, 器外面にハケ目調整が施され, 内面にヨコナデ調整が施されるものは, 1個体(個体番号要3)みられる。

以上のように, 要3類の器面調整の約7割が, 器内外のいずれかにヘラミガキ調整を施す, という特徴を示している。

#### ▶器面調整のハケ目やヘラミガキの方向

器外面では頸部, 胴部は縦位もしくは斜位, 頸部下半から胴部上半は横位もしくは斜位に, 器内面では口縁部から頸部は横位もしくは斜位, 胴部は縦位に施されるという傾向がみられる。

#### ▶文様

文様が施される部位は, 口縁部から頸部にかけてであるが, 胴部に施文されるもの(個体番号要13)が1個体だけみられる。

観察が可能な個体は23個体分であり, そのうち文様のみられたものは16個体である。したがって, 要3類では約65%に文様のみられたことになる。

#### ▶文様の種類

- 1 多重横走沈線文—5個体(個体番号要4, 同11, 同98, 同117, 同155)
- 2 多重横走沈線文, 籠・斜位沈線文, 鋸歯文, 刺突文, 刻み目文の組み合わせ文—7個体
  - a 多重横走沈線文と口唇部刻み目文の組み合わせ文—2個体(個体番号要3, 同10)
  - b 多重横走沈線文と口唇部および頸部刻み目文の組み合わせ文—2個体(個体番号要15, 同153)
  - c 多重横走沈線文, 籠・斜位沈線文, 刻み目文の組み合わせ文—2個体(個体番号要84, 同99)
  - d 多重横走沈線文と口唇部刻み目文, 鋸歯文の組み合わせ文—1個体(個体番号要100)
- 3 斜行沈線文の組み合わせ文—2個体(個体番号要12, 同51)
- 4 斜行沈線文と縦位沈線文の組み合わせ文—1個体(個体番号要156)
- 5 多重横走沈線文のほか胴部に斜行沈線文が施文されるもの—1個体(個体番号要13)

### ④ その他の土器

大形の鉢型の土器が1個体, 3号呪穴住居のカマド焼窯底面から出土した。

法量は口径が36.8cm, 底径が8.5cm, 器高が14.3cmで, 器厚は1.4cmである。口高比が2.6, 外傾度は57度である。

体部の形状は, 直線的に外傾し口縁部に移行する。土器の成形は, 幅約1.5cmの粘土練の積み上げによる。器面調整は, 器内外面ともにヘラミガキ調整で, 内面は黒色処理が施されている。

底部は厚く(1.5cm~2.3cm), 高台様の平底で, ヘラミガキ調整が施されている。

以上のような特徴をもつ土器は, 大形の鉢とみられる一方で, 蓋としての形態をもそなえている。



## ② 須恵器・赤焼土器

坏類と瓶類において説明する。

### ① 坏類

須恵器の坏類は、7個体（個体番号須恵器1，同3，同6，同7，同10，同11，同12）出土した。

法量は口径が12.7cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器3）～14.9cm（個体番号須恵器11）、底径が4.6cm（個体番号須恵器1）～6.4cm（個体番号須恵器7）、器高が4.6cm（個体番号須恵器1，同10）～6.0cm前後で、口高比が2.1～2.8となり外傾度は22度～39度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器7，同10，同11）が3個体②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器1，同6，同12）が3個体③直線的に外傾するもの（個体番号須恵器3）が1個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器1，同3，同10）が3個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器6，同7）が2個体とはほぼ半々みられる。

「赤焼」土器としたものは、個体番号須恵器2，同4，同5，同9の4個体分である。

法量は口径が11.4cm（個体番号須恵器4）～14.8cm（個体番号須恵器5）、底径が5.4cm（個体番号須恵器4）～6.2cm（個体番号須恵器5，同9）、器高が3.7cm（個体番号須恵器9）～6.7cm（個体番号須恵器4）で、口高比が1.7～3.6となり外傾度は18度～29度である。

体部の形状は、①内湾しながら外傾するもの（個体番号須恵器4，同9）が2個体、②内湾しながら外傾し、口縁部が若干外反するもの（個体番号須恵器2，同15）が2個体みられる。

器面調整はロクロによる調整以外に再調整は施されない。

底部は回転糸切り底で、体部からスムーズに移行するもの（個体番号須恵器5，同9）が2個体、低い台状を呈するもの（個体番号須恵器4）が1個体みられる。

### ② 瓶

合計5個体分みられたが、個体番号須恵器8について述べる。

#### ▶ 出土状況

2号竪穴住居の覆土中、炭化物マウンド、炭化物50，同52，瓮土57，同62，同64，同65とかなり広範囲に破片が分布している。

#### ▶ 土器の特徴

頸部が胴部との接合部分で破損している。

土器の対部は比較的張りが強く、なだらかに底部へ下降する。底部幅は広く、頸部幅とはほぼ同じで端が尖る低い高台が付されている。器口は一定せず、肩部から胴部上半にかけて厚く（約1cm）、胴部下平から薄くなる（約3～4mm）、底部も中央部分が周辺部分より厚い。

この土器は、ロクロによる調整をうけているが、その後器外面は肩部から胴部下平にかけて縦・斜位右下りのハゲ目調整が施されている。また、器内面では頸部と胴部の接合部分に横位の、底部付近に斜位のハゲ目調整を施している。

なお、現存の法量は器高が20.7cm、頸部径が10.2cm、肩部径（最大径）20.8cm、底部径が10.8cmである。

## ④ 土器の小括

### ① 土器の出土および分布状況

#### ① 出土状況

第2文化層の土器類は、つぎのような出土状況を示した。

##### ① 土器の使用時あるいは意図的な配置を示しているもの

使用時にかなり近い状態を示している例に、1号竪穴住居のカマド焚口部に据え付けられた中形甕と支脚用小形甕がある。使用後の状態を示している例に、1号土堀内から倒立て出土した2個体の大形甕がある。

##### ② 土器の再利用の状態を示しているもの

###### A 土器自体を再利用したもの

1号竪穴住居のカマド焚口部に支脚として埋め込まれていた小形甕がある。

###### B 土器の破片が使用された例

###### a 煮沸用土器の固定材としての使用

1号竪穴住居のカマドの袖に埋め込まれ、煮沸用土器の固定材として使用されていた大形甕の破片

###### b カマドの補強材としての使用

3基の大形住居のカマドにみられた。なかでも2号竪穴住居で破損した甕の破片のうち1点だけが、他の複数の土器の破片とともに5号竪穴住居のカマド煙道底面に敷かれていた。

###### c 土器片の敷設

1号土堀内で、土器片の敷設された面がみられた。

##### ③ 土器の廃棄の状態を示しているもの

第2文化層の土器は、ある個体の破片が竪穴住居内から、残りの破片が他の遺構あるいは遺構外から出土する場合が圧倒的に多い。この大半は竪穴住居内での破損品を、竪穴住居外に持ち出し廃棄したことを示すもので、竪穴住居内の破片は廃棄もれ、と考えられる。ここでは3基の大形住居を中心に、土器片の分布をもとに廃棄の状況を見る。

#### ② 分布状況

##### ① 2号竪穴住居からは38個体分の土器（土師器環7個分、土師器甕30個体分、須恵器瓶1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

a 3号土堀、焼土41、同43、同44、炭化物52、焼土59、同62など住居に近接した地域

b 炭化物マウンドを中心に焼土47、同49、炭化物50、焼土51、同60など住居の北東側で、かけ離れた地域

c 3号竪穴住居の窪地、炭化物4、焼土13、炭化物30、焼土34、同37など住居の東南側で、かけ離れた地域と炭化物70など北側で、かけ離れた地域

この3地域のうち、分布の主体はa、bにある。これは、2号竪穴住居の人々はもっぱら住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廃棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった、ということ物語っている。

##### ② 3号竪穴住居からは7個体分の土器（土師器環1個体分、土師器甕5個体分、すり鉢形土器1個体分）の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。

- a 焼土22, 同24など住居に近接した地域
- b 1号土壇周辺の焼土・炭化物, 4号土壇内など住居の東側で, かけ離れた地域
- c 炭化物52, 炭化物マウンドなど住居の北東側で, かけ離れた地域
- この3地域のうち, 分布の主体はa, bにある。これは, 3号竪穴住居の人々へもっぱら住居の周りや東側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し, 炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった, ということを物語っている。
- ③ 5号竪穴住居からは27個体分の土器(土師器環10個体分, 土師器甕17個体分, 須恵器環1個体分)の破片が出土した。分布はつぎの3地域にみられる。
- a 1号土壇内およびその周辺の焼土・炭化物, 炭化物28など住居に接近した地域
- b 5号土壇, 6号土壇内など住居の南西側で, かけ離れた地域
- c 炭化物52, 炭化物マウンドなど住居の西側で, かけ離れた地域
- この3地域のうち, 分布の主体はa, bにある。これは, 5号竪穴住居の人々へもっぱら住居の周りや南西側のかけ離れた地域を廃棄の場として活用し, 炭化物マウンドなど住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった, ということを物語っている。

## ② 種類別出土量

識別された個体総数は, 313個体である。

土師器(土師質土器)が297個体, 須恵器が12個体, 「赤焼」土器が4個体である。個体総数に占める割合では, 土師器(土師質土器)が94.9%と圧倒的に多く, 須恵器が3.8%, 「赤焼」土器が1.3%と少ない。

## ③ 器種構成

土師器(土師質土器)には坏類, 甕類, その他の土器の3種類がみられる。量的には坏類が113個体(38.0%), 甕類が183個体(61.6%), その他が1個体(0.3%)となり, 甕類が坏類を大きく上回っている。

須恵器には坏類と瓶類の2種類がみられる。出土量は少ないが, 坏類が7個体, 瓶類が5個体で坏類がやや多い。また, 「赤焼」土器には坏類が4個体みられるだけである。

土器の形態別では, 坏類が124個体(39.6%), 甕類が183個体(58.5%), 瓶類が5個体(1.6%), その他が1個体(0.3%)となり, 煮沸形態の土器(土師器あるいは土師質土器の甕類)が供膳形態の土器(土師器, 須恵器, 「赤焼」土器の坏類および須恵器の瓶)を上回っている。

PL-Ⅱ-13 土器種類別出土量(313個体)



PL-Ⅱ-14 土器形態別出土量(313個体)



**④ 土師器(土師)類の特徴**

個体総数113個体のうち、形態不明の7個体を除く106個体について、製作手法をもとに2種類にわけられた。

それによると、1類(ロクロによる調整のみられないもの)が45個体(42.5%)、2類(ロクロによる調整のみられるもの)が61個体(57.5%)で、2類が1類を上回る。

**① 環1類の特徴**

幅1cm～1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形し、器内外面ともヘラミガキによって調整している。しかし、器面にはハケ目痕を残しているものもみられるから、ヘラミガキの前かあるいは並行してハケ目調整も行なわれたことをうかがわせる。内面は、ほとんどのものが黒色処理されている。

環1類は体部に単数の横走沈線文や段などがみられるもの(A類)が2個体(4.4%)、体部に横走沈線文や段などがみられないもの(B類)が12個体(26.7%)、口縁部に横走沈線文や段を施すもの(C類)が20個体(44.4%)、不明11個体(24.4%)となり、C類がもっとも多くみられ、以下B類、A類の順となる。

このように環1類は、C類を主体にしてB類が組み合わせとなり、非常に少ないがA類もみられるところに特徴がある。

**② 環2類の特徴**

ロクロによる調整の後、体部や底部に再調整を施すもの(A類)が13個体(21.3%)と再調整を施さないもの(B類)が27個体(44.3%)で、21個体(34.4%)が不明である。観察が可能な個体では、B類がA類の2倍強にのぼる。

A、B類ともほとんどの土器は、ロクロによる調整以前に、幅1cm～1.5cmの粘土紐を積み重ねて成形されている。

また観察が可能な資料にもとづけば、ロクロからの底部切り離しは、回転糸切り法による。

A類の器面再調整は、ヘラミガキが基調となっている。内面の黒色処理はA、B類ともほとんどの個体に施されている。

**⑤ 土師器(土師)甕の特徴**

個体総数183個体のうち、形態不明の52個体を除く131個体について、口径と器高との相関関係をもとに3種類にわけられた。

ここで仮りに1類を大形甕、2類を中形甕、3類を小形甕とするなら、大形甕が63個体(48.1%)、中形甕が37個体(28.2%)、小形甕が31個体(23.7%)となり、大形甕が全体のおよそ半分近くを占めている。

甕の製作過程でロクロ調整をうけたものは、小形甕の中に4個体(2.2%)みられただけで、それ以外のものは粘土紐の積み重ねによって形成されていた。粘土紐の幅は1cm～1.5cmで、その接合断面は器内面へ傾斜するのが一般的である。

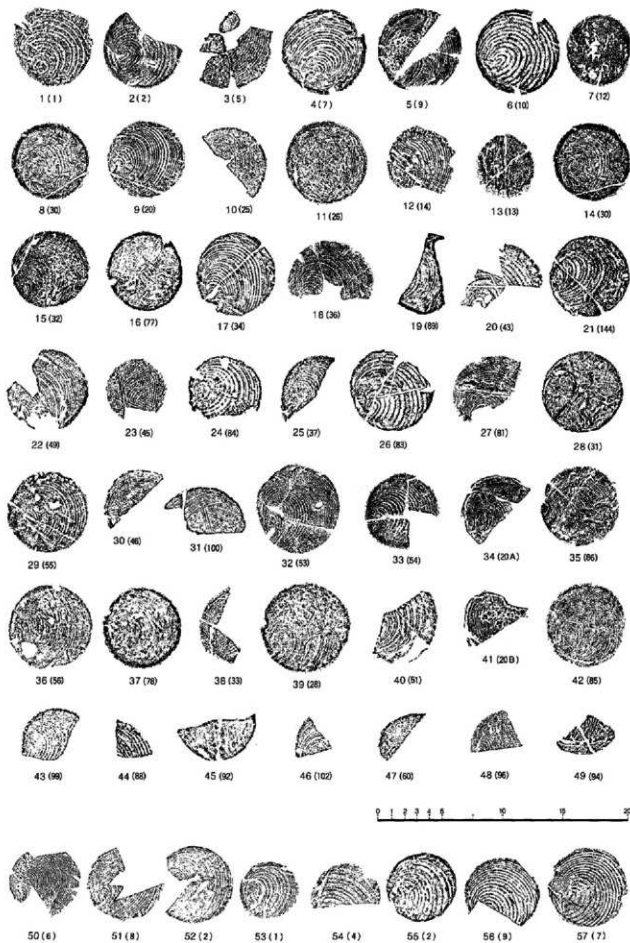
器形の特徴は、器高に対して頭部の占める割合と、頸部から口縁部までの形状によくあらわれている。

まず、頸部は各類とも長いものが多くみられるが、とくに大形甕よりも中形甕や小形甕にその傾向が大きい。

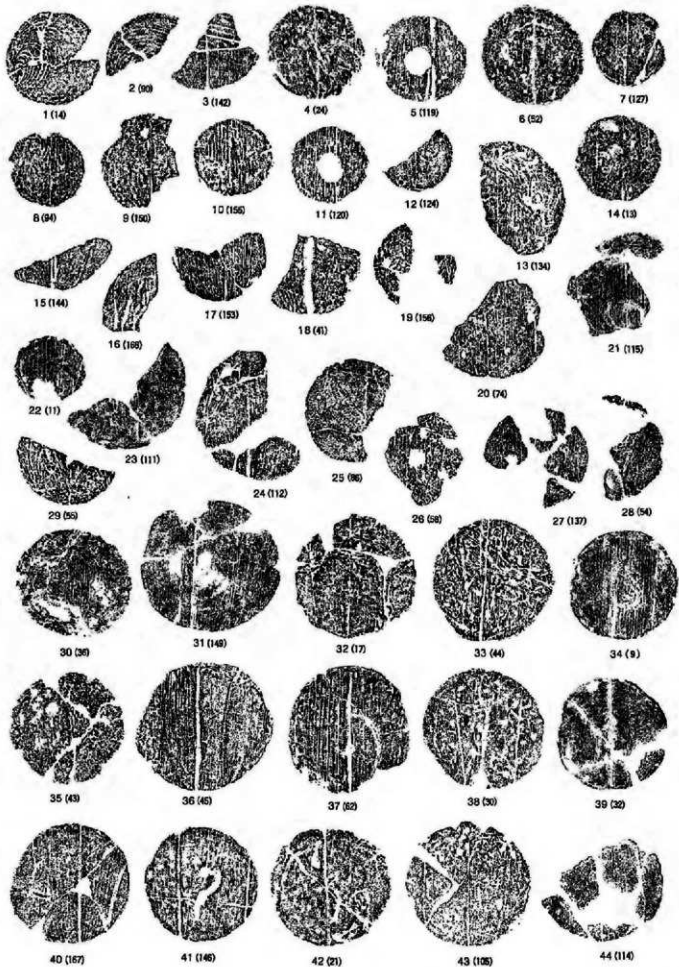
頸部から口縁部までの形状は、頸部が短い甕では外反し、頸部が長い甕では直立あるいは内傾し大きく外反しながら口縁部へ移行するものが多い、という傾向がうかがえる。

底部は平で、半数以上のものにササや木の葉の圧痕がみられる。

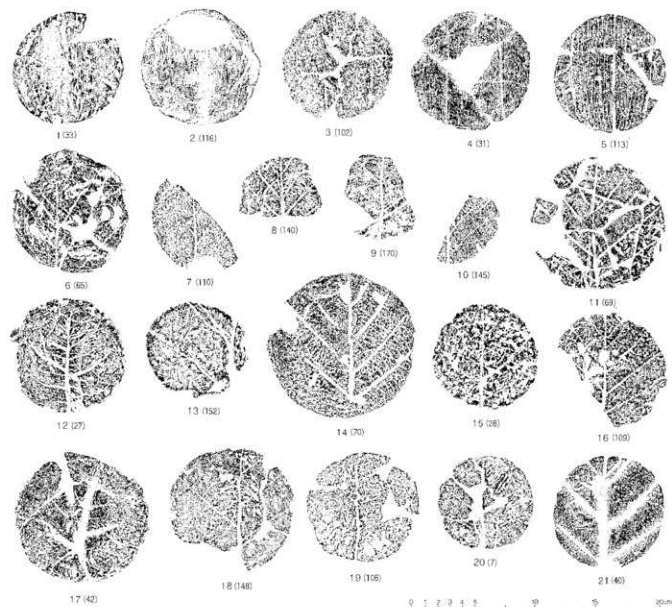
PL. 田-15 土師器(1)~(49),須恵器(50)~(57)の底部拓影[( )内は個体番号を示す]



PL. II-16 壺の底部拓形 ① [( )内番号は個体番号を示す]



PL. ①-17 葉の底部拓影 ② [( )内番号は個体番号を示す]



器面調整は、口縁部がロコナデ、頸部や胴部がハケ目かヘラミガキ、あるいはそれらの併用という手法が一般的である。とくに胴部についてみると、大形壺では器内外ともにハケ目調整というものが24個体みられ、ヘラミガキ調整3個体を大きく上回っている。中形壺ではヘラミガキ調整が14個体で、ハケ目調整8個体をやや上回っている。小形壺ではヘラミガキ調整が6個体、ハケ目調整7個体と両手法の使いわけは接近しているが、残りの個体は両手法を併用している。

以上のように、大形壺ではハケ目調整が主体を占めるのに対し、中形壺や小形壺ではヘラミガキ調整を軸にハケ目調整と併用するところに特徴がある。

文様が施された壺は、観察が可能な100個体のうち66個体(66%)にみられた。そのうち、大形壺が25個体(37.9%)、中形壺が25個体(37.9%)、小形壺が16個体(24.2%)となり、文様が施されるのは大形壺と中形壺に多くみられる。

施文の部位は口縁部から頸部にかけてであるが、胴部施文の例が小形壺に1個体だけのみみられた。

文様は沈線文、とりわけ多重横走沈線文が主体を占める。沈線文にははかに1～2条の

横走沈線文、縦走沈線文、斜走沈線文、鋸歯文などがある。

文様はほかに刻み目文、刺突文などもみられる。

これらの文様は単独か、あるいは複数が組み合わせとなって施文されている。大形甕では沈線文、とりわけ多重横走沈線文が17個体にみられ他の文様と組み合わせとなるものは2個体にしかみられないのに対し、中形甕、小形甕では多重横走沈線文を基調に種類が増加する傾向にある。

#### [6] 土師器「赤焼」土器

土師器環類7個体、瓶類5個体、「赤焼」土器環類4個体については、第Ⅴ章3・3(2)に示した。

そのうち、環類のロクロからの底部切り難しには、回転糸切り法によることが製作上もっとも大きな特徴のひとつであること、を指摘するにとどめる。

#### [7] 土器類の編年の位置

他の遺物同様土器についても、遺跡での出土状況や共存遺物等から、直接年代を知り得るような手掛りは発見されていない。

また、この種の土器を出土する北海道内の他の遺跡においても、直接年代を知り得るような手掛りが発見されたという情報もない。

北海道では土師器が東北地方からもたらされ、展開する時代を擦文時代という。その開始期の土師器は、坏類、甕類、壺類、甔などが組成をなしており、坏類の製作にロクロ調整がみられないことなどが大きな特徴となっている。このような土師の組成、製作技法などから判断して、擦文時代は西暦8世紀代に開始されたと考えられている。

それでは、サクシュコト川遺跡第2文化層のように、土師器の坏類の製作にロクロ調整が施される土器群は擦文時代の中でどのあたりに位置づけられるだろうか。

まず、擦文時代の遺跡で層位的・上下関係あるいは遺構の切り合い等によって、開始期の土師器と新旧関係を把握された例を示そう。

千歳市末広遺跡では竪穴住居跡88基、土坑墓1基、鉄造遺構1基を含む擦文時代の集落が発掘調査された。そのうち、竪穴住居が直接切り合っていたり、新たに竪穴住居を構築する際に、隣接する古い竪穴内に排土を投棄したりして、その新旧がわかった例が20数組あった(大谷・田村 1981, 1982 p. 28)。

そのなかで例えば、「I H14(旧)→I H15(新)」という遺構間の新旧関係は、竪穴住居の床面やカマドから出土したロクロ調整のみられない土師器坏の土器群がロクロ調整による土師器坏の土器群より時間的に先行するものである、という事実を示すものである。

末広遺跡でのこのような土器群の新旧関係が、擦文時代の土器編年の大筋を示しているとなれば、それは東北地方での土師器の変遷とつぎのような理由で符合し、矛盾がない。東北地方の土師器の変遷は、宮城県多賀城跡出土の土師類を中心とした最近の研究によればつぎのような傾向を示す。

土器は土師器、須恵器、須恵系土器(「赤焼」土器)の3種類が主体を占め、土師器では製作過程でロクロを使用しない土器群からすべての坏類がロクロによって製作される土器群へ、須恵器では坏類のロクロから切り難しがへら切りを主体とするものから糸切りを主体とするものへ、須恵系土器土器では坏類が比較的大型の坏類だけで構成されていたものからこれに小型の坏類が加わる組成のものへ、と変遷したことが確かめられている。

さらに、土師器の坏類がすべてロクロによって製作される土器群(C群土器)は、西暦9世紀の初頭からであるという年代観が示されている(進藤ほか 1982 pp.388~393)。

一方、擦文時代のロクロ調整のみられない土師器坏の土器群は3型式あるいはⅢ期に分



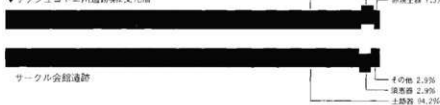
順されており、そのうちもっとも新しい土器群は西暦9世紀に入ってからのものである、とみられている(斎藤 1967, 横山 1984)。したがって、北海道でロクロ調整の上部器環が使用されるのは、東北地方より1期分遅れてからということになる。

それでは、サクシュコトニ川遺跡第2文化層の土器群とロクロ調整のみられない土器群の土器群のうち、もっとも新しい土器群との関係がどうであるか、を北大構内のサークル会館遺跡(古崎・岡田編 1981 P.P. 11~35)との比較を通してみよう。

サクシュコトニ川、サークル会館両遺跡から出土した土器の種類および形態別比較グラフを示す。

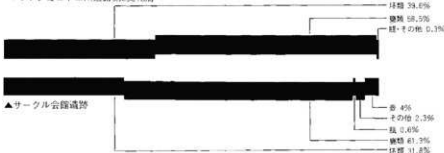
#### PL. III-18 土器の種類別組成比

##### ▼サクシュコトニ川遺跡第2文化層



#### PL. III-19 土器の形態別組成比

##### ▼サクシュコトニ川遺跡第2文化層



それによると、種類別ではいずれの遺跡でも土師器(土師質土器)が94~95%以上を占め、須恵器などより圧倒的に多いことが確かめられた。一方、サクシュコトニ川遺跡の土器組成に「赤埴」土器がみられることが特徴的である。

また、形態別ではいずれの遺跡でも皿がおよそ60%を占め、煮沸形態の土器が供膳形態の土器を上回る、という共通した特徴を示している。

主な器種別では、つぎのような特徴を示している。

##### ▶土師器環類

環類の製作で、サクシュコトニ川遺跡の土器はロクロ調整のみられるものとみられないものが共存していたが、サークル会館遺跡の土器には全くロクロ調整がみられなかった。

ロクロ調整がみられない土器のうち、サークル会館遺跡で主体を占めるのは体部に横走沈線文や段を施す器形のものであるのに対し、この種の器形の土器はサクシュコトニ川遺跡ではわずかに2個体(4.4%)しかみられなかった。また、体部に横走沈線文や段などを施さない器形のもはサークル会館遺跡ではわずかに2個体(18.2%)しかみられないのに対し、サクシュコトニ川遺跡では12個体(26.7%)とやや多くを占めていた。

さらに、両遺跡の環類のもっとも大きな違いに、サクシュコトニ川遺跡の環類の中にロクロ調整技術がみられることに加えて、ロクロ調整がみられないもので口縁部直下に横走沈線文や段を施す器形が出現することをあげることができる。

\* 派外活動共用施設遺跡の俗称である

器面調整はいずれもヘラミガキを基調とし、内面には黒色焼型を施す、という共通性がみられる。

#### ▶須恵器坏類

サークル会館遺跡の坏類(2.9%)、サクシュコト=川遺跡の坏類(3.9%)とも土器組成に占める割合が著しく低い、という共通した特徴を示している。

しかし、ロクロから底部を切り離す製作技法が、サークル会館遺跡の坏類では回転ヘラ切り法であるのに対し、サクシュコト=川遺跡の坏類では回転糸切り法である、という大きな違いをみる事ができる。

#### ▶土師器(土師質土器)甕類

サクシュコト=川遺跡の甕類は、大形甕が甕類全体のおおよそ半数を占めていたのに対し、サークル会館遺跡の甕類は大形甕に相当するものがみられず、すべて中・小形甕類によって占められていたという違いがある。

製作はいずれも幅およそ1cm~1.5cmの粘土紐の積み重ね法による、という共通性がみられる。しかし、サクシュコト=川遺跡の甕類にわずか4個体(2.2%)だけだが、ロクロ調整のものが伴出していることは注目される。

器面調整では顕著な違いはみられない。ただサークル会館遺跡の中・小形甕類にハケ目調整が多用される、という傾向がうかがえる。また、底外面の二次調整はサークル会館遺跡の甕の方がいさどいているようである、というのは、底外面にササや木の葉圧痕がみられるものが、サクシュコト=川遺跡の甕類ではおおよそ半数にのぼるのに対し、サークル会館遺跡の甕類ではわずか4例しかない、という違いがあるからである。

文様がみられる甕は、サークル会館遺跡ではわずか5多強と少ないのに対し、サクシュコト=川遺跡ではおおよそ12倍の66%にそれがみられる、という大きな違いがある。その結果、極類も沈線文と口縁部刻み目文しかみられないサークル会館遺跡の甕類に比べ、サクシュコト=川遺跡の甕類では多重沈線文を基調に変化に富んだ文様構成がみられるようになるわけである。

以上のような比較にもとづけば、サクシュコト=川遺跡第2文化層の土器群をサークル会館遺跡の上器群、つまりロクロ調整のみられない土師器坏の土器群のうち、もっとも新しい土器群の直後に位置付けることに何ら矛盾はない。そして、ロクロ調整のみられない土師器坏の土器群の段階を「察文時代前期」とするならば、サクシュコト=川遺跡第2文化層の土器群から「察文時代中期」とし、その開始を西暦9世紀中葉に求めることができる。

また第4章で述べたように、サクシュコト=川遺跡での層位は、第2文化層が第1文化層より古い時期の所産である、という事実を示している。ただ、第2文化層のような土器群が直接第1文化層のような土器群へ至るのか、あるいはその間にいくつかの異なった土器群が介在するのかなどの問題は、現状では判断することができず、今後の課題として残る。

(横山英介)

#### ◀引用文献(アルファベット順)▶

- ▶大谷敏三・田村俊之 1981, 1982「末広遺跡における考古学的調査(上),(下)」『千歳市文化財調査報告書第4巻』千歳市教育委員会
- ▶斎藤傑 1967「縄文文化初頭の問題」『古代文化』第19巻第5号 pp. 77~97
- ▶蓮華秋輝ほか 1982「多賀城跡一政庁跡本文堀一」宮城県教育委員会 宮城県多賀城跡調査研究所
- ▶横山英介 1984「北海道におけるロクロ使用以前の土師器—察文時代前期の設定—」『考古学雑誌』第70巻第1号 pp. 52~75
- ▶古崎昌一・岡田淳子編『1981北大構内の遺跡1』北海道大学

## VI-4

## [土製品類]

土製品類には、支脚、フイゴの羽口、紡錘車、玉などがみられた。

## ① 支脚

総数は7個体で、完形品は1個体（個体番号支脚1）である。

## ▶分布

- 個体番号支脚1 5号竪穴住居の床面(10-05[21]グリッド)と3号竪穴住居の覆土中(10-13グリッド)から出土した。
- 個体番号支脚2 5号竪穴住居の床面、1号土壌内、6号土壌内に破片が分布する。これは、5号竪穴住居で使用、破損したものの破片の一部を、個体番号墓40などの破片とともに1号土壌の中に敷設さらに他の破片を6号土壌の③層に廃棄したものである。
- 個体番号支脚3 焼土43に分布する。これは焼土43のビット内に固定して使用、破損したものである。
- 個体番号支脚4 5号竪穴住居の床面と1号土壌周辺の焼土・炭化物に破片が分布する。これは5号竪穴住居内で破損したものを1号土壌周辺の焼土・炭化物に廃棄したことを意味している。
- 個体番号支脚5 焼土22(08-11グリッド)から破片が出土した。
- 個体番号支脚6 2号竪穴住居のカマド焚口と炭化物52に破片がみられた。これは2号竪穴住居のカマド焚口に固定されて使用、破損後破片が炭化物52へ廃棄されたものである。
- 個体番号支脚7 焼土65(26-15グリッド)から破片が出土した。

## ▶用途

例として、焼土43でビット（個体番号支脚3）に、あるいは2号竪穴住居のカマド焚口（個体番号支脚6）に支脚が埋め込まれていたことをあげることができる。

## ▶形態・製作

円筒状で1対の通しが設けられ、天井が粘土板で封じられるもの（個体番号支脚1、同2、同4、同5、同6）が5点、天井が封じられないもの（個体番号支脚3、同7）が2点みられる。大きさは、最も大きいもの（個体番号支脚2）で器高が16.7cm、天井径8.2cm、脚間が11.6cmである。通しの高さは、器高の2/3弱のもの（個体番号支脚1、同4、同5、同6）と、1/3弱と小さいもの（個体番号支脚2、同3）との2種がある。製作は、いずれも幅1.5cm～2cm弱の粘土紐の積み上げによる。粘土紐の重なりは、器外側へ傾斜する。器面の整形は内面に明瞭に残されており、横位のハケ目調整である。

## 小括

a 形は円筒形で天井板のあるものとなないものの2種類があり、いずれも対になる通しが切りこまれる。

b 製作は、幅1.5～2cmの粘土紐を7～8段を積み上げたものである。器面はハケ目調整で、特に内面に顕著に残っている。

c 出土状況で支脚の用途を示すものは2個所でみられた(個体番号支脚3、同6)。それらはいずれも地面を掘り込んで固定(その場合支脚6によると、透しは焚口一雄道を結ぶ線とおよそ90度の向きを示している)し、煮沸用の器台として用いられていたことを示している。そのため二次的に過熱され、破損したものが多く、他の遺物とともに廃棄の場から出土した。

## ② 羽口

土師質で円筒状をなすもので、2点出土した。いずれも破損品である。

個体番号羽口1 先端部の小破片。直径6.0cm、孔の径は約4cmである。先端は強い火熱をうけて黒く、黄赤色に変色している。製作法や器面調整不明である。出土位置は、5号竪穴住居の覆土中(10-05[12]ドリッド)で、小破片が接合した。

個体番号羽口2 先端部の破片。直径は約8cm、孔の径約5cmで大型品である。この部分の破片には二次的に火熱されたようすがみられない。器面は外面が縦、斜めのナデ調整が施されている。口唇は器内外面にヨコナデ調整がみられる。孔内面は縦の条痕がみられ、芯に粘土を巻きつけ、ナデ調整で成形し、芯を引き抜いて焼成したことを示している。

出土位置は、5号竪穴住居の覆土中(10-05[02, 03]ドリッド)である。

## ③ 紡錘車

出土総数は、14点で完成品は3点(個体番号紡錘車2、同3、同4)である。

### ▶出土状況

- ① 住居に伴うもの—2点(個体番号紡錘車3、4)
- ② 土塚に伴うもの—1点(個体番号紡錘車2)
- ③ 炭化物マウンドと焼土43に破片がまたがるもの—1点(個体番号紡錘車9)
- ④ 炭化物52—2点(個体番号紡錘車6、同10)、炭化物マウンド—3点(個体番号紡錘車8、同9、同13)
- ⑤ 遺構外出土—6点(個体番号紡錘車1、同5、同7、同11、同12、同14)

### ▶形態

一面が平坦で、他面は周縁部以外へこむ、いわゆる紡錘形である。中央には芯棒を通す小孔(鉤成前)がみられる。

### ▶大きさ・重さ

完成品3点にもつけば、大きさは6.6～5cm(最大径)、厚さ2.4～1.5cmで2cm前後のものが多く、重さは、44g～100gである。

### ▶整形・文様

器面は表裏、側面ともにヘラミカキによって整形されている。文様は2点(個体番号紡

鍾車 6 は放射状文、個体番号鈔鍾車 8 は側縁に鋸歯状文) にみられる。

## ④ 土製玉

ここでいう土製玉とは、土部質で円柱状をなし、短軸方向に貫通孔を有するものである。17点出土しており、14点が完形品である。

### ▶出土状況

- ① 炭化物マウンドから出土したものは15点(個体番号玉1, 同2, 同3, 同4, 同5, 同6, 同7, 同8, 同9, 同10, 同11, 同14, 同15, 同16, 同17)
- ② 炭化物50から出土したもの1点(個体番号玉12)
- ③ 炭化物52から出土したもの1点(個体番号玉13)

以上のように、炭化物マウンドでの在り方は、小マウンドA、B双方から土器片などと共に出土した。

### ▶形態・大きさなど

完形品の形態は、A:縦断面が側面に膨らみをもち、方形に近いもの(個体番号玉1, 同7, 同8, 同9, 同10, 同12, 同13, 同15, 同16, 同17)が10点、B:円形に近いもの(個体番号玉2, 同3, 同4, 同5, 同6)が5点、C:長方形に近いもの(個体番号玉11)が1点で、Aが多い。

Tab. ④-6 土製玉計測表

No.	形	最大径(cm)	高さ(cm)	貫通孔直径(cm)
1	A	1.4	1.0	0.4
2	B	1.6	1.5	0.4
3	B	1.0	0.9	0.2
4	B	0.9	0.7	0.2
5	B	1.1	0.9	0.2
6	B	1.1	1.0	0.2
7	A	1.0	1.0	0.2
8	A	1.0	0.8	0.2
9	A	0.9	0.7	0.2
10	A	1.0	0.8	0.2
11	C	1.1	1.1	0.3
12	A	0.9	0.8	0.2
13	A	1.5	1.1	0.4
14	A	0.9	0.7	0.2
15	A	1.3	1.0	0.4
16	A	1.0	0.9	0.2
17	A	1.0	0.8	0.3

大きさは、最大径が0.9~1.6cm、高さが0.7~1.5cmである。

形態との関係を見ると、Aでは、0.9~1.0cm、Bでは0.9~1.1cmにまとまる。

貫通孔の直径は、0.2cmが多く、他に0.3cmと0.4cmがそれぞれ2点と4点みられる。

(横山英介)

## VI-5

## [石器・石製品および礫]

## ① 石器・石製品

## ▶種類と出土点数

石器・石製品の総数は77点である。石器は、石錐、スクレイパー、ピエス・エスキュー、剥片・破片と石核が72点(94.7%)、磨製石斧、たたき石、石製品が5点(5.3%)で、いわゆる剥片石器の類が石核石器を大きくうまわっている。

## ▶出土状況

13個所の遺構から出土した。竪穴住居では2号、5号竪穴住居の2個所から、土壌では4号土壌内から出土、残りは炭化物マウンドをはじめとする炭化物、竪上遺構からである。遺構外では、2号竪穴住居や炭化物52などの周辺部に多い。

## ▶種類別の特徴

- ① 石錐：07-13[11]グリッドから出土。頁岩製である。1.9cm×1.4cm×0.5cm。
- ② スクレイパー：2号、5号竪穴住居、炭化物マウンド、炭化物16、焼土43からそれぞれ1点、炭化物52から5点出土。残りの7点は遺構外から出土した。すべて黒曜石製で、剥片のエッジに細かな二次加工を施している。

Tab. ①-7 石器、石製品種類別出土点数

出土地点	石錐	スクレイパー	ピエス・エスキュー	剥片・破片	石核	磨製石斧	たたき石	石製品	合計
2号竪穴住居	—	1	—	2	1	—	—	—	4
5号竪穴住居	—	1	—	—	—	—	1	—	2
4号土壌	—	—	—	2	—	—	—	—	2
炭化物マウンド	—	1	—	2*	—	—	—	—	3
炭化物16	—	1	—	—	—	—	—	—	1
炭化物20	—	—	—	1	—	—	—	—	1
炭化物27	—	—	—	—	1	—	—	—	1
炭化物28	—	—	—	2	—	—	—	—	2
焼土43	—	1	—	3	—	—	—	—	4
炭化物52	—	5	—	10	—	—	—	1	16
焼土55	—	—	—	1	—	—	—	—	1
炭化物58	—	—	—	3	—	—	—	—	3
炭化物70	—	—	—	—	1	—	—	—	1
小計	—	10	—	26	3	—	1	1	41
遺構外部	1	7	2	22	0	2	0	1	35
合計	1	17	2	48	3	2	1	2	76

注\* フローテーションにより1個体抽出

- ③ ピエス・エスキュー：2点出土しており、いずれも遺構外である。もっとも大きなもの(図示のもの)で2.9cm×1.9cm×1.1cmである。黒曜石製。
- ④ 剥片・破片：48点出土した。すべて黒曜石製である。剥片の大きさは最大で3cm前後、最小で2mm前後である。剥片の形状は縦長、幅広、梯形などいわゆる不定形のものである。また、剥片の約6割には使用による細かな刃こぼれがみられる。
- ⑤ 石核：2号竪穴住居、炭化物27(破損品が接合して1個体になる)、炭化物70から

それぞれ1点出土した。

石核の技術的な特徴のひとつに打面の転位がほとんど行なわれないことがあげられる。黒曜石製。

⑥ 磨製石斧：2点出土した。

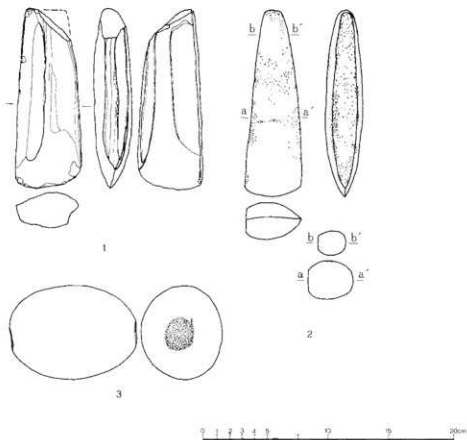
1：緑泥片岩製擦り切り磨製石斧。出土位置は16-17〔01〕グリッドで甕上43のスキに混じって出土。3号土層にも近接している。基部の一部が破損している。両刃で、一方の刃部に使用による刃こぼれがみられる。14.3×5.3×3.0cm。

2：閃緑玢岩(?)。両面、両側を研磨している。部分的に敲打痕も残っている。出土位置は、19-18〔03〕グリッドで、2号竪穴住居の西壁に近接している。14.9×4.5×3.8cm。

⑦ たたき石

頁岩。卵形の自然礫の両側に敲打痕がみられる。出土位置は、5号竪穴住居跡内出土(10-05〔00〕グリッド)である。10cm×7.5cm。

PL. Ⅱ-20 磨製石斧(1,2)とたたき石(3)



⑧ 石製品：2点出土した。

1：安山岩製。14-18〔30〕グリッドから出土した。棒状礫の一端寄りに敲打痕が一周する。陶物様石製品。11.1cm×4.8cm。

2：頁岩製。炭化物52(19-15〔23〕グリッド)から出土した。小礫の短軸にそってえぐり込みがみられる。性格不明。5cm×2.7cm。

## ▶接合資料

接合資料は9組ですべて黒曜石である。「石器の分布図」に線で結んで示してある。

- ① 接合資料1：割片(番号9116と9125)が2点割離面で接合する。番号9125は2号竪穴住居の床面から出土した。
- ② 接合資料2：割片(番号8159と12436)が2点割離面で接合する。番号8159は炭化物52から出土した。
- ③ 接合資料3：スクレイパー(番号906)1点と割片6点が割離面で接合する。番号12301以外は炭化物52から出土した。
- ④ 接合資料4：石核(番号1745)にスクレイパー(番号8928, 1720)2点と割片(番号12113)1点が割離面で接合する。石核は舟底状を呈する。スクレイパーは側面から割離された割片を用いている。分布は、石核が2号竪穴住居の床面、割片が炭化物52から、スクレイパーが2号竪穴住居の周辺部から出土した。割片の生産が2号竪穴住居内で行なわれたことを示している。
- ⑤ 接合資料5：スクレイパー2点と割片6点が割離面で接合する。これらの8点は同一平坦面から同一方向に割離されている。割離の順序はつぎようになる。  
番号9474→同9471→同6006→同6008→同11524→同6007  
→同12419→同11703  
分布は2号竪穴住居の北側に近接した所に集中する。
- ⑥ 接合資料6：スクレイパー(番号8288, 12043)2点と割片(番号9010, 11378)2点が割離面で接合する。分布は割片が炭化物52から、スクレイパーが遺構外から出土した。
- ⑦ 接合資料7：割片(番号6195, 6196)2点が割離面で接合する。21-05グリッドから出土した。
- ⑧ 接合資料8：破損したの割片が炭化物52(番号7682)と炭化物マウンド(番号8632)から出土した。
- ⑨ 接合資料9：破損した石核(番号15301と15302)が統土27内で接合した。

## 小括

- a これらの石器・割片類は、層位、出土・分布状況から判断して第2文化層に伴うことが確実である。
- b 出土・分布にみられる特徴は、これらの石器類がおもに2号竪穴住居と5号竪穴住居を起点として製作・使用された後、住居外へ廃棄された状況をよく示している。とくに「接合資料4」にもとづけば、割片の割離→割片石器の製作→石器の使用までの作業は2号竪穴内で行なわれ、産品は炭化物52など住居外へ廃棄されたことを示している。
- c 石器・割片類の大部分は、黒曜石によって作られている。石器の上体はスクレイパーで、ピンス・エスキューヤや石錐がわずかにみられる。また、割片の約6割に使用によるものとおもわれる刃こぼれがみられる。
- d スクレイパーの二次加工は、割片の一部に主要割離面側から施される。
- e 石器は、いわゆる第二次生産用具のなかにその役割を占めていた。2点の磨製石斧は縄文前期など、より古い時期の製品の再利用品である可能性が高い。



## ② 礎群

遺構内や遺構外から安山岩の礎がまとまって出土した。

## ① 遺構に伴う礎群

遺構に伴う礎群は2号竪穴住居と3号土壇から出土した。

## ① 2号竪穴住居の礎群

出土位置——床面で住居の北西隅寄りに10個の礎が集中して出土した。

状況——40cm×25cmの範囲内で、不規則にならんでいる。土製紡錘車（個体番号紡錘車3）を伴う。

重量——10個とも100g以上で、160g～180gのものが多い。

## ② 3号土壇④層の礎群

出土位置——土壇の中央部から西側へかけて33個の礎が集中して出土した。

状況——積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。土製紡錘車（個体番号2）を伴う。

重量——320gのものが1個みられるが、100g～200gにまとまり、その中でも140g～200gのものが多い。

## ② 遺構外の礎群

遺構外の遺物包含層で、礎群が5箇所から発見された。

## ① 13-10グリッドの礎群

出土状況——65cm×35cmの範囲内に39個の礎が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

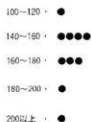
重量——80g～100gに5個、200g以上に3個みられるが、100g～200gにまとまり、その中でも100g～140gのものが多い。

## ② 20-08～21-08グリッドの礎群

出土状況——70cm×35cmの範囲内に45個の礎が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——150g以下に集中し、その中でも50g～110gのものが多い。

## PL. ①-21 礎石器の重量分布図



(重量:g) (個数)

## ③ 20-15グリッドの礎群

出土状況——30cm×50cmの範囲内に64個の礎が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——100g以上のものは2個で、それ以下にまとまりをみせる。その中でも20g～40gのものが多い。

## ④ 21-15グリッドの礫群

出土状況——2 m四方の範囲内に33個の礫が出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——100 g以下に18個、140 g以上に4個で120 g以下のものが多い。

## ⑤ 31-16グリッドの礫群

出土状況——35cm×20cmの小範囲内に7個の礫が集中して出土した。積み上げた様子はみられず、不規則にならんでいる。

重量——120 g～180 gにまとまる。

## 小括

a 礫群は遺構に伴うものが2個所と遺構外のもの5個所の合計7個所で出土した。遺構に伴うものは2号堅穴住居と3号土壇とである。

b 礫群に伴う遺物は土製紡錘車であり、いずれも遺構に伴う礫群に関係する。

c 礫群はもっとも少ない個数で7個(31-16グリッド)、もっとも多い個数で64個(20-15グリッド)である。それらは積み上げた様子はみられず、不規則に分布し出土した。

d 個個々の重量分布から礫群はおおよそつぎの3群にわけられる。

① 80 g～200 g以内で、200 g以上のものがわずかに含まれる。特に、140 g～200 gのものが多い礫群(2号堅穴住居や3号土壇、31-16グリッド)と100 g～140 gのものが多い礫群(13-10グリッド)がみられる。

② 100 g以下で20 g～60 gに集中する礫群(20-15、21-15グリッド)

③ 30 g～150 gで50 g～100 gに集中する礫群(20-08～21-08グリッド)

(横山英介)

## VI-6

## [金属器および鉄滓]

## ① 金属器

## ▶種類と出土点数

金属器は3点出土した。環状金属器が2点と刀子(?)の破片が1点である。

## ▶種類別の特徴

- ① 環状鉄製品：長径4.8cm、短径4.2cmで、厚さ0.4cmである。炭化物マウンド(17-11〔13〕グリッド)から出土した(個体番号金属器1)。
- ② 環状錫製品：長径3.4cm、短径3.3cmで、厚さ0.7cmである。5号壑穴住居の東側(11-04〔20〕グリッド)から出土した(個体番号金属器2)。
- ③ 刀子(?)：鉄製品。大部分が破損しているが、断面が三角形をなしており、刀子と思われる。遺構外(09-05〔22〕グリッド)から出土した(個体番号金属器3)。

## ② 鉄滓

鉄滓は、固形のもと粉末状のものが合計10点、遺構内外から出土した。

- ① 1号壑穴住居出土：固形の鉄滓1個(個体番号鉄滓4)。
- ② 4号土壌内出土：固形の鉄滓1個(個体番号鉄滓10)。
- ③ 6号土壌内出土：鱗片状の鉄片1個(個体番号鉄滓11)。
- ④ 炭化物マウンド出土：固形の鉄滓1個(個体番号鉄滓12)。
- ⑤ 塘土24出土：固形のもと鱗片状のものが採取された(個体番号鉄滓5、同6、同7、同8、同13)。
- ⑥ 10-08グリッド出土：固形の鉄滓1個(個体番号鉄滓9)。

(横山 美介)

## VI-7 〔骨角器〕

高橋 理・

2号竪穴住居の床面(18-18)より1点出土している。いわゆる挟入離頭鈎(大塚 1966)であるが、先端部と尾部のそれぞれ1部が欠損している。現存最大長は69.2mm、最大幅9.7mm、最大厚5.4mmである。また茎槽部はやや不明瞭であるが幅4.5mm長さ15mmほどで、コ形に造り出されている。この離頭鈎の先端部の表面(索溝のある面)および索溝から尾部へかけての一部に海綿状組織が残っていることから、索溝のある表面が素材としての骨角の内側となっていることがわかる。素材という点については確定的ではないが、先端部の裏面(茎槽のある面)に2~3の凹凸があることからシカの角を加工して作成されたと推定される。この離頭鈎はPL.Ⅱ-22に示したように、裏面(茎槽のある面)の側に湾曲している。この形状は中柄に着装し、鈎として機能させるには不都合であると推定されるが、全体が火を受けていることから、本来は直線のあるいは表面(茎槽のある面)の側に湾曲していたのが加熱によって変化したという可能性も考えられる。

縄文時代の遺跡における離頭鈎の出土例は多くはなく、サクシユコトニ川遺跡の離頭鈎に形態上類似する例としては、虻田郡豊浦町孔文華の小椋洞穴出土の離頭鈎(北大解例学教室調査団 1963)、岩内郡共和村免足の免足洞穴出土の離頭鈎(竹田 1964)、古宇郡神恵内村観音洞穴(石川 1982、石附 1983)出土の鈎頭が挙げられるであろう。

PL.Ⅱ-22 2号竪穴住居跡出土の離頭鈎



### 〈引用文献〉

- ▶ 北大解例学教室調査団 1963 「小椋洞窟遺跡」『北方文化研究報告』第18輯 pp.179~287
- ▶ 竹田輝雄 1964 『免足岩陰遺跡』小樽博物館 pp.9~17, fig.6
- ▶ 大塚和義 1966 「挟入離頭鈎」『物質文化7』 pp.33~46
- ▶ 石川直章 1982 「回転式鈎先—キタの遺蹟」『考古学と古代史』同志社大学考古学シリーズⅠ pp.19~28
- ▶ 石附喜三男 1983 「〈ニゾ地の鉄〉 稲と鉄—さまざまな王権の基盤—」『日本民俗学大系3』 pp.301~321

## M-8

## [動物遺存体]

高橋 理

サクシュトニ川遺跡においては、原文時代の竪穴住居跡内部・土壌・周辺に分布する多量の炭上や炭化物及び炭化物マウンドの中にサケ科魚類を主体としたかなりの量の骨片が含まれていた。このことは、採取した土壌をフローテーションによって処理した後の残液を双眼実体顕微鏡を用いて精査した結果判明した。これらの動物遺存体は、すべて熱をうけており白色化している。乾燥させた後、同定・測定・集計を行なった。

## ① 出土動物遺存体

同定された動物遺存体は以下である。

## ▶ 軟体動物門

腹足綱 Gastropoda  
陸産貝類

## ▶ 脊椎動物門

硬骨魚綱 Osteichthes  
サケ科 Salmonidae *gen. et sp. indet.*  
イトウ *Hucho perryi.*  
コイ科 Cyprinidae *gen. et sp. indet.*  
ウグイ *Tribolodon hakonensis*  
ニシン科 Clupeidae.  
マイワシ *Clupea pallasii*  
カサゴ科 Scorpaenidae *gen. et sp. indet.*  
鳥綱 Aves  
破片1点のみ  
哺乳綱 Mammalia  
ウサギ科 Leporidae *gen. et sp. indet.*  
ネズミ科 Muridae *gen. et sp. indet.*

## ② 動物遺存体の遺構別・地点別出土数

出土した動物遺存体の遺構別・地点別出土数は次頁の表のとおりである。

## ③ 出土動物遺存体の分析

## ▶ サケ科魚類を中心として

出土した動物遺存体の中で、量的に最も多いのはサケ科魚類である。サケ科魚類と同定できたのは遊離歯及びその破片・椎骨片で、その他頭骨と推定される骨片も出土しているが、部位が一定でなく、従って測定部分が決定できないことから今回は分析の対象から除

Tab. 10-8 サケ科魚類椎骨片・遊離骨

遺構	椎骨片	遊離骨
焼土・炭化物集積	4	5
	14	70
	18	184
	19	31
	20	14
	21	6
	22	47
	27	587
	43	273
	50	1
	52	1,828
	54	20
	56	3
	57	96
	59	13
	64	0
	65	4
	68	1
	69	2
	70	16
	72	89
	75	263
計	3,553	2,072

遺構	椎骨片	遊離骨
2号竪穴住居 カマド	880	55
カマドまわり	7	1
煙道	3	0
b <sup>2</sup> (17-16)	2	2
b <sup>2</sup> (17-18)	113	41
b <sup>2</sup> (19-17)	494	136
小計	(1,499)	(235)
3号竪穴住居	705	1,653
計	2,204	1,888

遺構	椎骨片	遊離骨
1号土壌	105	30
2号土壌	3	2
3号土壌	736	212
4号土壌	941	12
5号土壌	63	66
計	1,848	322

遺構	椎骨片	遊離骨
炭化物マウンド	17-09	0
	17-10	108
	17-11	488
	17-12	1,108
	18-10	68
	18-11	16
	展示用	1,207
計	2,995	1,882

Tab. 10-9 出土動物遺存体

遺構	出土動物遺存体	個数
焼土・炭化物集積層	19 ウサギ中節骨(基節骨?) (近位端)	2
	20 ウグイ咽頭骨	1
	コイ科魚類椎骨	3
	21 コイ科魚類椎骨 鳥類尺骨(?)	1
	22 コイ科魚類椎骨 ネズミ左上顎骨(基部)	10
	27 コイ科魚類椎骨	7
	43 コイ科魚類椎骨	1
	50 コイ科魚類椎骨	1
	52 コイ科魚類椎骨 イトウ椎骨	5
	57 コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	16
	70 コイ科魚類椎骨	1
	72 コイ科魚類椎骨	3

遺構	出土動物遺存体	個数
2号竪穴住居 カマド	陸産貝類(鱒穴部)	1
	コイ科魚類椎骨	5
	ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
	19-17 コイ科魚類椎骨	1
3号竪穴住居	コイ科魚類椎骨	2
	陸産貝類(鱒穴部)	1

遺構	出土動物遺存体	個数
1号土壌	コイ科魚類椎骨	11
3号土壌	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	4
4号土壌	コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	1
5号土壌	ウグイ椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	2

遺構	出土動物遺存体	個数
炭化物マウンド	17-10 コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨 カサゴ科魚類椎骨	1
	17-11 コイ科魚類椎骨 カサゴ科魚類椎骨 カサゴ科魚類背鳍棘 イトウ椎骨 ニシン科魚類椎骨 ネズミ類尾椎 ネズミ類中節骨(基節骨?) ネズミ類中手骨(中足骨?)	7
	17-12 コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨 イトウ椎骨 ネズミ類尾椎 ネズミ類基節骨 ネズミ類中節骨(基節骨?)	12
	18-10 コイ科魚類椎骨	4
展示用	ウグイ椎骨 コイ科魚類椎骨 ニシン科魚類(マイワシ)椎骨	9

出土位置不明	シカ中節骨	1
	シカ末節骨	1

Tab. ⑩-10 遊離態エナメル質高

遺構	遊離態エナメル質															(単位)%					
住士・灰化層集積	14	4.4	5.0																		
	14C1	4.7	4.5	2.6	2.7	3.1	3.3	1.4													
	14C2	5.6	5.2	3.7	6.2	3.1	3.0	2.0	4.3	5.0	3.9	4.0	6.4								
	14	5.0	2.5	1.2	3.7	3.0	3.4	3.7	4.6	6.1	3.7	3.0	4.0	4.4	3.0	4.1	2.6	3.6	4.2	2.8	
		1.9	4.2	2.7	3.1	3.4	1.1	2.7													
	11	2.1																			
	11C1	1.7	2.4																		
	11C2	1.8	1.8	2.4	1.8	1.5															
	11C3	4.2	5.2	3.2	4.7	5.2															
	11C4	3.2	3.2	5.0	4.2	4.8	4.2	3.4	2.7	3.3	2.8	2.8	3.0	3.6	2.0						
	11C5	3.9	2.1	2.9	1.7	3.6	4.0	3.0	3.0	1.9	2.9	3.2	3.2	2.0	2.2	2.1	3.4	3.2	2.7	2.6	
		2.5	2.1	1.4	1.6	2.0	1.6	3.1	3.0	2.0											
	11C6	4.0	4.9	3.9	4.4	4.5	3.2	3.9	3.8	1.8	2.1	2.2	2.1	1.4	1.1	2.5	3.3	1.4	2.3	1.6	
		2.6	2.5	2.8																	
	14C1	1.0	1.0																		
	14C2	5.9	5.0	5.4	3.2	4.0	3.2	1.6	4.4												
	56	2.3	1.4																		
	57C1	3.0	2.7	2.5	2.8	1.8	2.5														
	69	2.1																			
	72	5.3	1.7																		
	75	5.3	4.7																		
	計	149個																			
2号整穴直巻	N19-17	5.6	4.2	4.8	2.9	3.0	2.3	2.0	2.0	2.2											
	17-18	5.2	5.8	2.5	2.0	1.0															
	カマツ	2.5	3.0	3.3	1.7																
	計	18個																			
3号整穴直巻	①	2.8	3.9	3.3	3.0	2.4	3.3	3.4	1.6	3.1	1.7	1.6	1.7	1.9							
	②	4.3	6.0	5.1	4.3	3.4	3.5	3.0	2.0	2.5	3.3	3.2	4.1	2.5	1.5	3.0	1.0	2.8	1.8	2.2	
	③	6.5	5.8	5.5	6.2	5.3	6.4	4.6	5.4	4.9	4.2	3.8	2.8	2.3	2.7	2.6	4.2	5.2	4.0	4.2	
	④	4.0	2.9	2.3	2.7	4.4	2.5	3.0	3.0	3.7	2.6	3.0	1.7	5.1	3.7	2.7	5.1	2.1	3.1	3.4	
	⑤	3.0	3.4	3.5	2.7	3.2	3.7	3.1	2.8	2.5	3.9	2.7	3.2	2.2	2.2	3.0	2.4	2.4	3.0	2.2	
	⑥	1.6	1.9	3.3	2.3	1.7	2.4	1.9	1.8	1.7	1.9	1.5	2.1	1.3							
	⑦	4.6	4.9	3.5	6.0	4.6	4.2	3.2	4.5	4.6	4.6	4.0	4.0	2.7	5.3	3.9	2.9	2.5	3.0	4.3	
	⑧	2.9	3.4	3.0	1.9	3.9	2.5	2.0	2.5	3.8	1.8	3.0	2.5	2.3	2.5	3.2	3.3	2.9	1.9	3.2	
	⑨	2.7	3.2	2.1	1.8	2.8	2.5	1.4	1.7	1.6	2.4	2.3	2.0	1.3	2.7	2.8	2.0	2.5	2.0	2.3	
	⑩	2.8	1.2	2.3																	
	計	162個																			
1号土壌	①	4.7	2.3																		
	計	2個																			
2号土壌	①	1.7	1.8	2.2	1.8	1.3	0.7														
	②	4.0	5.0	4.6	4.0	5.0	2.7	2.1	2.4	5.3	2.9	2.8	3.4	3.7	1.8	3.4	4.0	2.7	2.6	1.8	
	③	2.4	3.1	2.9	3.0	1.8	2.3	3.8	2.0	2.2	2.4	1.4	1.3	1.5	2.0	1.5	4.4	1.8	1.7		
	計	43個																			
4号土壌	①	3.5	2.5	2.0																	
	計	3個																			
5号土壌	①	3.0																			
	②	4.3	2.4	2.1	3.1	2.5	2.3	1.4	1.0												
	計	9個																			
灰化物マウンド	17-11C**	3.6	1.9																		
	17-11C①	3.3																			
	17-11C②	3.0	2.0																		
	17-11C③	3.7	7.2	3.0	4.6	3.8	2.5	4.6	2.4	3.1	2.3										
	17-11C④	2.3																			
	17-11C⑤	4.5	6.1	4.3	3.6	5.3	3.9														
	17-11C⑥	4.0	3.9	4.5																	
	17-11C⑦	4.1	3.2																		
	17-11C⑧	4.1	3.6	2.8	2.1																
	17-11C⑨	2.2																			
	17-11C⑩	4.4	5.3	1.8	2.4	2.4	1.2	1.6	2.0	1.4											
	17-11C⑪	3.4	4.7	4.2	4.0	3.2	3.6	4.3	2.8	4.4	3.4	2.8	1.7	2.1	3.0	2.0					
	17-11C⑫	4.2	3.2	2.4	2.8	1.5															
	17-11C⑬	7.7	3.4	4.9	4.2	3.2	3.0	4.0	3.0	4.6	3.7	3.2	2.4	2.0	2.3						
	17-11C⑭	3.7	2.4	2.0																	
	18-10C①	4.4	4.9	4.6																	
	18-10C②	3.7	2.4																		
	18-10C③	2.1																			
	18-10C④	3.5	3.0	3.3	4.4	2.1	2.0	4.7	3.0	2.7	1.7	1.7	3.6	3.4	2.0	3.1	1.3	2.3	2.5	1.7	
	18-10C⑤	3.7	2.6	2.9	1.9																
	計	108個																			
総計		493個																			

\*○囲みの数字はサンプル番号、\*\*一で接続する数字はグリッドを示す。

Tab. 10-11 標本サケナメル質高測定値

S L. 630mm (単位:mm)					
歯骨		主上顎骨		前上顎骨	
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r
8.0	8.0	4.1	2.2	3.9	2.8
4.8	4.5	3.4	2.9	6.0	5.9
6.8	6.4	3.2	3.2	4.6	4.7
4.5	4.0	2.8	2.7	4.5	5.0
4.3	3.2	3.2	3.2	3.3	4.7
4.0	3.1	2.0	1.6	4.1	3.0
4.0	1.7	2.1	3.0	4.3	4.3
3.6	3.0	2.6	3.2		3.9
3.2	3.0	2.0	2.4		
3.4	2.7	1.2	2.4		
3.3	2.7	2.1	1.4		
2.4	2.5	1.9	2.0		
2.8	2.6	1.4	2.6		
2.8	2.1	1.8	2.2		
2.6	2.7	1.8	1.2		
2.9	2.9	2.0	1.3		
2.7	1.8	2.0	1.6		
2.3	3.0	1.9	1.9		
1.7	1.0	1.5	1.2		
3.0	2.6	1.5	1.3		
2.5	1.5	1.7	1.2		
2.8	1.7	0.8	1.4		
3.0	2.5	1.4	0.9		
1.2	2.2	1.7	1.1		
2.0	2.2	1.7	0.6		
2.3	1.6	1.2	1.0		
1.0	1.5	1.2	0.8		
	1.9	1.5	0.6		
	1.2	1.5			
	1.3	0.7			
	0.9	0.8			
	4.0	0.9			
		1.4			

測定部数

135

S L. 960mm (単位:mm)					
歯骨		主上顎骨		前上顎骨	
ℓ	r	ℓ	r	ℓ	r
5.7	9.3	3.8	2.3	7.9	6.7
8.6	9.4	5.2	3.9	6.7	6.0
6.1	6.3	3.6	4.8	6.0	6.7
5.4	5.2	3.8	4.1	5.9	7.9
4.2	3.8	3.6	5.0	6.7	5.9
3.1	2.7	4.8	4.1		
1.9	4.2	4.2	4.3		
3.3	3.0	3.8	3.1		
3.3	2.7	3.2	4.2		
3.4	3.3	3.3	4.0		
3.3	3.5	1.5	2.7		
2.4	2.7	2.5	2.6		
3.6	3.0	2.5	2.4		
3.1	1.8	3.0	2.0		
1.9	3.5	1.9	2.0		
2.7	3.6	2.0	1.5		
2.7	2.9	2.7	2.0		
3.1		2.5	1.2		
2.9		2.0	2.0		
2.4		2.5	2.4		
3.3		2.0	1.6		
1.5		2.0	1.5		
3.0		2.0	1.6		
4.0		1.4	1.2		

測定部数

99

Tab. 10-12 椎骨前位・後位端の横径測定値

S L. 630mm		S L. 960mm	
前位	後位	前位	後位
—	8.7	—	9.9
8.2	8.2	10.7	10.4
8.0	8.2	10.5	10.2
7.9	8.1	9.5	9.5
7.3	7.3	10.9	10.7
7.7	7.8	9.9	10.5
7.6	7.7	9.8	9.8
7.9	8.1	9.5	9.6
8.1	8.2	10.0	9.1
8.0	8.3	9.6	10.0
8.2	8.1	10.3	9.7
8.2	8.1	9.8	10.2
7.8	7.9	9.6	9.8
8.1	8.6	10.9	9.6
8.4	8.7	9.2	11.0
8.2	8.4	10.8	9.6
8.1	8.1	9.7	10.7
8.2	8.5	10.1	9.9
8.5	8.8	9.5	10.2
8.8	—	11.0	9.6
8.6	8.7	9.4	11.0
8.8	8.6	10.1	9.2
8.8	9.0	10.0	9.9
9.0	9.0	10.0	9.7
9.2	9.4	9.3	9.6
9.2	9.3	10.9	9.6
9.2	9.4	10.7	11.0
9.3	9.3	10.8	10.4
9.2	9.3	11.2	10.6
9.3	9.4	11.1	11.1
9.2	9.3	10.7	11.1
9.5	9.3	10.9	11.0
9.4	9.3	9.8	10.9
9.2	9.3	10.6	9.8
9.3	9.1	11.1	10.2
9.1	9.3	11.2	11.1
9.2	9.2	10.8	10.9
9.2	9.2	10.5	10.9
9.5	9.4	10.8	10.6
9.1	9.3	10.5	10.6
9.2	9.1	9.6	10.5
9.1	9.1	10.9	10.0
9.1	9.1	10.9	10.8
9.1	9.1	11.4	10.6
9.2	9.0	11.3	11.4
9.0	9.0	10.9	11.3
9.0	9.3	11.2	10.5
9.1	9.0	10.8	10.8
9.0	9.0	11.0	10.8
8.7	9.0	10.8	10.6
9.2	9.1	11.4	11.0
9.1	8.9	9.7	11.4
9.1	9.2	10.6	10.0
9.0	9.1	11.0	11.1
9.1	8.7	11.6	10.4
9.2	9.0	10.2	11.1
8.9	8.6	10.0	9.9
8.7	—	10.3	9.7
9.0	8.5	10.2	10.2
8.8	8.3	10.0	10.3
8.6	8.3	9.8	10.1
8.6	8.5	8.2	9.9
8.2	8.0	9.7	7.0
8.0	7.8	9.6	8.2
8.0	8.0		9.5
7.0	7.0		
5.9	5.3		

測定部数 131



Tab. Ⅱ-13 推定椎骨横径

遺構	推定椎骨横径				(単位:mm)
27①	11.0~11.5				
27②	11.0~11.5	10.5~11.0	8.0~8.5		
43②	7.0~7.5	7.5~8.0			
50②	9.5~10.0	9.0~9.5	7.0~7.5	7.5	9.0~9.5 8.0~8.5
52③	2.7(イトワ)	11.0~11.5	10.0~10.5		
57②	10.0~10.5	10.5~11.0	9.0~9.5		
72	10.0~10.5	7.0~7.5	7.5~8.0	7.0~7.5	
75	10.5~11.0				
2号堅穴住居	び19-17	9.0~9.5	9.0~9.5	10.0~10.5	7.0~7.5
	び17-18	10.5~11.0	7.0~7.5		
	かまど	8.5~9.0	11.0~11.5	7.0~7.5	8.5~9.0
3号堅穴住居	②	8.5~9.0			
3号土塚	②	11.0~11.5	8.0~8.5	8.0~8.5	9.0~9.5
炭化物マウンド	17-11⑤	11.0~11.5	3.9(イトワ)	5.0~5.5	
	17-11⑥	11.0~11.5			
	17-12①	3.5			
	17-12④	5.5(イトワ)			
	17-12⑤	10.0~10.5	10.0~10.5	10.5~11.0	
	17-12⑧	11.0~11.5	9.0~9.5	9.0~9.5	
	18-10①	6.5~7.0			
	展示用	10.5~11.0	8.5~9.0	10.0~10.5	
総計		54			

外した。検出した遊離歯の総数は6,036点、椎骨片10,092点である。椎骨は完形は皆無ですべて 1/2以下の大きさに割れていた。(上記の数値は残存の程度、大きさに関わりない破片数である。)各地点ごとの出土数はTab.Ⅱ-8に示してある。

#### ① 出土したサケ科魚類の体長推定

遊離歯・椎骨片から標準体長(吻端より終尾椎までの長さ、以下SLとする。)の推定を試みた。まず遊離歯の中でエナメル質の部分が完全に保存されているものを選別し、高さを測定した(Tab.Ⅱ-10)。

次に、現在手許にある2体のシロザケの現生標本について左右歯骨・前上顎骨・上顎骨の骨のエナメル質高を推定した。2体のシロザケはいずれもオスで、11~12月に宮城県沿岸の定置網で捕獲されたものである。SLはそれぞれ630mm・960mmで、産卵期にあたり、吻端・歯が著しく内湾している。それぞれの推定値はTab.Ⅱ-11に示した。

サケ科魚類は硬骨魚綱に属するが、真骨魚類の中でも原始的な部類で化骨の程度は低い。このことは脆い頭骨や網目状の椎骨などからもわかる。また歯数も固体によってばらつきがあり、しかも左右対称ではない。SL630mmは135本、SL960mmは99本である。測定の結果、630mmでは平均2.6mm、SL960mmでは平均3.62mmとなり両者を合すると測定数234、平均3.03mmで1.0~3.0mmに最も多い。

一方、遺存体の測定結果についてみると、3号堅穴住居跡出土の資料は測定数162で、平均3.08mm、1.5~3.0mmに最も集中する。2号堅穴住居跡・3号堅穴住居跡の資料合計については、測定数180、平均約3.10mmで、やはり1.5~3.0mmに最も集中する。

さらに、他の上墳出土の遊離歯を加えると測定数237、平均2.99mmとなり1.5~3.0mmに集中する。

また、焼土・炭化物分布域全体では測定数148、平均3.24mmで、1.5~3.0mmと4.0mmに多い。

また、1号住居跡の東側にある炭化物マウンドでは、測定数108、平均3.25mmであり、2.0mmに最も集中し、3.0~4.0mmがそれに次ぐようである。焼土・炭化物分布域と炭化物マウンドの合計では測定数256、平均3.24mmとなり1.5~4.0mmに多い。

最後に、遺跡出土の遊離歯磨計についてみると、測定数493、平均3.12mmとなり、1.5~3.2mmによく集中し、4.0mmがそれに次ぐ。

以上、標本と遺存体のエナメル質高分布を調べてきたが、これから次のことが言えるだろう。

各遺構ごとの出土した遊離歯のエナメル質高分布は互いによく似ている。平均3.0~3.3mmであり、共通して1.5~3.0mmに多く集中する。また、これら遺構出土の遊離歯のエナメル質高分布と2標本のエナメル質高分布もまた非常に似たものになっている。このことは特に2標本を合計した場合において一層明確といえるだろう。最小値についても、ともに0.5~1.0mm(未満)におさまる(S L 630mmの0.6mm、3号土層出土の0.7mm)。最大値の場合、S L 960mmの個体には、8.5~9.5mmに及ぶ歯があるが、遺存体の遊離歯では、7.5mm台の1点(炭化物マウンド出土の7.7mm)が最大で、7.0mm台にも1点あるにすぎない。今回は、エナメル質が完全に残されているものについて測定しているため、その対象外となった破損した遊離歯の中に、本来はより大型のものが含まれていた可能性があるが、筆者の実見した限りでは、8.5mm以上に及んだと考えられる遊離歯の破片はないようである。これにより、S L 960mmを大きく越える個体は遺存体の中には含まれていないと推定される。

以上より、サクシユコト川遺跡より出土したサケ科魚類の標準体長は、エナメル質高の分布から60~95cm程と推定される。

同様に、出土した椎骨片と、S L 630m・S L 960mmの2標本の椎骨との比較によって、標本体長の推定を試みた。前述したように、サケ科魚類の椎骨は、完全な形を留めているものはほとんどなく、1/4以下に割れており、しかも加熱、土圧の影響もあり変形している例が多い。従ってある程度の大きさを保ち、かつ変形のない(あるいは小さい)椎骨片は非常に少なく、全部で54点にすぎない。サケ科魚類の椎骨は、前・後位端面の形状は円ではなく、左右方向(横方向)に大きな楕円であり、また一つの椎骨でも、前位端面と後位端面の大きさが異なる。そこで、2つの標本の椎骨の大きさを左右の長さ、即ち横径で代表させることとし、前位端と後位端について測定した。標準体長の違いは椎骨の横径により反映され、S L 630mmとS L 960mmの分布はほとんど重複はないようである。次にこれらの標本の椎骨から0.5mmごとの大きさのものを選びだし、前位端と後位端のトレースによって輪郭線を作り、さらにそれを用いて型紙を作成した。54点の出七椎骨片を1点ずつ輪郭線と型紙にあてて横径の分布を推定した結果がTab. 13である。数が少なく、また測定の精度にも多少の問題があるので、細かい部分までは言及できないが、横径が7.0~11.5mmに多いことは明らかである。また、横径2.5・3.5・5.0・5.5mmの各1点ずつはサケ科の中のイトワの椎骨と同定されたので、これらを除けば椎骨の大きさの推定値からも、標準体長60~95cm程の個体が出土していることが裏付けられたと言えるだろう。

## ② 他の動物遺存体について

Tab. 9に示したように、サケ科魚類以外の動物遺存体の出土数は、同定困難で不明とした例を加えても非常に少ない。

貝類が2点出土しているが、いずれも陸産貝類であり、しかもマイマイのような大型の陸産貝類ではなく、ヒラキガイ科の貝類のような直径10mmにも満たない微細な個体である。これらの微細な貝類が捕獲の対象となったものではないことは言うまでもなく、この遺存体に限って熟を受けていないことをみても、廃棄物の中に後から混入したものであろう。

魚類では、コイ科魚類とニシン科魚類が多い。コイ科魚類は椎骨が多いが、種の判定は困難である。ただし大きさを考慮するとウグイ・フナ・コイなどが考えられる。また明らかにウグイと同定される咽頭骨・椎骨が出土していることから、ウグイの占める割合がかなり高いことも想定される。ニシン科魚類は椎骨のみ出土しているが、マイワシと同定される。非常に小型かつ大きさが幅っており、体長10cm以下の個体である。

鳥類は第21地点(08-10グリット)より骨片が1点出土している。小破片であり、後縁の形状は尺骨に類似するが断定はできない。

哺乳類については、中～大型の哺乳類の遺存体は、ほとんど検出されなかった。ウサギ類は第19地点(07-08)から出土しているだけであるが、ネズミ類は顎骨・中節骨・基節骨・尾椎など比較的多い。大きさはイエネズミほどである。

## ④ 小括

以上、動物遺存体の分析を行ってきたが、出土数は圧倒的に魚類が多い。特にサケ科魚類が主体を占めており、サクシュコトニ川遺跡を残した縄文時代の人々の漁撈活動は、サケ科魚類を中心としたものであったことが判明した。またサケ科魚類は、その遊離機がほとんど屈曲しており、標準体長は60～95cmと推定される個体に集中されることから、イトウ・カワマスなどの陸封魚ではなく、降海して海で成熟し、産卵のため遡河したサケ科魚類であろう。日本に生息するサケ科魚類の中で体長が60～96cmに達する降海型の種類は以下のサケ属に限られる。

### サケ属 Genus *Oncorhynchus*

ペーマス *Oncorhynchus nerka*

サケ(シロザケ) *Oncorhynchus keta*

ギンマス *Oncorhynchus kisutch*

マスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha*

サクラマス *Oncorhynchus masou*

この中で、日本、特に北海道西部地域において、一定量の捕獲が可能なサケ属はシロザケが圧倒的に多い。シロザケは、その捕獲される時期、場所によってトキシラズ・アキアジと呼び分けられているが、産卵のために沿岸に集来し、9～12月に河川を遡るのはアキアジである。サクラマスは、日本において主として捕獲される。日本海を中心に分布し、サケ科の中では最も温暖性である。幼魚はヤマメと呼ばれ、ふ化一年後の春にギンヤマメとして降海する。その年の冬、沿岸もどり、急速に成長し、北海道では5月下旬～6月下旬に産卵のため遡河する。豊平川の本流である石狩川に遡河するサケ科魚類は、やはりシロザケが主であり、明治元年から16年までの間の8年間は、年百万尾以上の水揚げが記録され、9月下旬の漁期には、川口の石狩町は非常にぎわいをもてたという(市川1977)。

シロザケとサクラマスを骨の形態から判別することは困難であるが、石狩川及びその支流において捕獲されるサケ科魚類のうち大型のものはシロザケが主体である。したがってサクシュコトニ川遺跡の臨むサクシュコトニ・セロベツ両川で捕獲されたサケ科魚類は、かなり高い確率でシロザケと限定できるのではないだろうか。

捕獲の方法としては、セロベツ川より出土した塚状遺構(テシ・樺状遺構)、及びその中から出土したヤス、マレットなどが大きく関わってくるだろう。

以上のサクシュコトニ川遺跡出土の動物遺存体の分析の結果をまとめると次のようになる。

- a 窟穴住居跡・土塊・周辺の焼土、炭化物中に多量の動物遺存体がふくまれていた。
- b 動物遺存体の主体はサケ科魚類であり、他にコイ科・ニシン科・カサゴ科魚類が少量出土した。
- c 魚類以外では、陸産貝類・鳥類・小型哺乳類がごく少数出土した。
- d サケ科魚類の遊離歯・椎骨片の大きさより、遺構・地点の別に関わりなく標準体長60～95cm程の個体が大部分であった。
- e これらのサケ科魚類は9～12月に産卵のために石狩川を溯河したシロザケを捕獲したものと推定される。

## ＜参考文献＞

- ▶ 東 正雄 『原色日本陸産貝類図鑑』 保育社1982
- ▶ 中村守純 『原色淡水魚検索図鑑』 古澤館1982
- ▶ 阿部宗明 『原色魚類検索図鑑』 北隆館1980
- ▶ 市川健夫 『日本のサケ—その文化誌と魚—』 日本放送出版協会 1977

## VI-9

## 植物種子遺存体

Gary W. Crawford

## サクシュコトニ川遺跡出土の植物遺存体

## はじめに

本論は、サクシュコトニ川遺跡出土の植物遺存体のうち、主にフローテーション・サンプルの分析と若干の考察からなっている。分析研究は現在も続行中であり、本論は最終報告ではない。この遺跡でフローテーション法を採用した目的は、a) 原文期における植物利用のパターンを復元すること、b) 同期における農耕の存在を検証すること、の2点である。ことに農耕の存在については、おおよそ同時期と考えられる遺内の3遺跡から炭化栽培植物が検出されていること、また農耕具も他の遺跡から検出されたことなどを考えあわせると非常に重要な問題であるといえよう(石階 1975; 岡田・山田 1982)。今回の調査で得られたフローテーション・サンプルの分析により、農耕の存在は確証を得たといえよう。

## サンプル

本論では種子と果実についてのみ触れる。同定できた種とその量はTab.Ⅱ-15にまとめられている。炭化物のうち調査済みのものは約197g、未調査のものは約200~210gである。調査済みの遺物の中には116,422個の種子が含まれていた。これより推察すると、この遺跡よりえられたすべてのサンプル中には約234,000個の種子が含まれ、そのほとんどが栽培植物のものであろう。なおこれらのサンプルは2号、3号住居の焼土、および住居外の「炭化物マウンド」から得られた。

## 同定

ここで報告する32種類の植物のうち10種類は栽培植物である。それに加え、同定はできず、分類しえなかったもの、同定もできなかったものなどがいくつかある。

非栽培植物は、1年生の雑草(非栽培植物のうち46%)、多肉果実(47%)、他に4種類の植物群からなる。タデ属(*Polygonum*)の中ではレンズ状の種子をもつ *P. densiflorum* が最も優勢である。オオイタドリ(*P. sachalinense*)に類似したものもみられた。イネ科雑草のうち穀果のものは、ヒエ属(*Echinochloa*)を除き、「未同定」の数の中に含まれている。「未同定」のイネ科雑草は、キビ属に含まれるものと、Crawford(1983: 37)であげた「Type 2」のイネ科雑草の2つに大きく分けられる。ヒエ属の種子は平均1.5mm×1.1mmであるが、縄文前期末から中期末にかけて種子の大きさが15%増大することが、亀田半島の遺跡で確認されている。イネ科植物の表現型が多様であることはよく知られており、例えばタイヌビユ(*Eragrostis Beauv. var. olysicola*)は水田雑草としてよくみられるものである(Barret 1983)。しかし、サクシュコトニ川遺跡でイネが検出されたとはいえず、ここでみられるヒエ属が水田雑草であることや、イネが栽培されていたという明確な証拠はない。この他にギンギン属(*Rumex*, 種はスイバ<*R. acetosa*>)、ギンギン(*R. japonicus*)、もしくはエゾギンギン(*R. obtusifolius*)とアカザ属(*Chenopodium*, おそらくシロザ<*C. album*>もしくは、コアカザ<*C. ficifolium*>)と思われる)が検出された(Craw-

ford 1983 : discussion参照), これらの植物は主に種子と葉を食用としていたと考えられる。非栽培植物の中で多肉果実の占める割合が47%であることはすでに述べた。しかし、多肉果実は一般に種子まで食され炭化種子となる蓋然性は低く、これらは数字以上に重要な食糧資源であったと考えられる。

現在までに道内の遺跡から5種類の多肉果実が検出されている。そのうち、イソホオズキ (*Solanum nigrum*)、ホオズキ属 (*Physalis*)、ガンコウラン属 (*Empetrum*) の3種類は、今回の検出例が最初である。これらはいずれも食用となる (Heiser 1969; Ohwi 1965 : 788)。また、最初の2種は荒地や農耕で攪乱された土地でよくみかけるものである。

多肉果実の遺存体については、すでに Crawford (1983) の中で触れているが、この種類の植物は食用以外にも利用されていて、この遺跡においても「テン」の多くがニワトコ (*Sambucus*) の木で作られている。また、ミズキ属 (*Cornus*)、ブドウ属 (*Vitis*) も食用の他、イナウなど宗教的器具の材料となる。

「その他」の中には4種類のものが含まれている。そのうちネギ属 (*Allium*) は、住居外の「灰化物マウンド」からかなり多量の検出があった。ただし炭化種子ではなく、炭化した球芽としてである。この種のうちノビル (*Allium grayi*) は、低地の草原でみられるものである (Ohwi 1965)。付表にあがっていない他の3種類はキハダ (*Phelodendron*)?, オニグルミ (*Juglans ailanthifolia*) そしてエンドウマメ様のマメ科植物である。最後のものはレンリソウ属 (*Lathyrus* sp.) として道内4箇所遺跡からの出土が知られている。

数字の上では、キビ (*Panicum miliaceum*) アフ (*Setaria italica*) は優勢な栽培植物である。この他にキビもしくはアフである可能性を持つグループがあるが、これは「未同定」としている。これらの中にヒエが含まれている可能性があるが、ヒエとキビとの区別は微妙なものであるため確定はできない。道内の先史遺跡からのヒエの出土例は報告されていないが、西南日本の歴史時代の遺跡からは3例が知られている。

PL-[1]-23, 24にキビとアフの種子の大きさの変異を示しておいた。2つの測定値ともヨーロッパ種 (Van Zeist 1968) として報告されたものの値の範囲におさまる。

この遺跡において、数の上では、最も優勢な栽培植物であった穀物はオオムギである。これは六条オオムギ (*hexastichous*) である。PL-[1]-25に示した測定値は、北部ヨーロッパ種 (Van Zeist 1968) の範囲におさまる。国内の他の先史遺跡出土のオオムギは比較的小型で、九州上ノ原の例 (3.8×2.0mm, 小谷 1972) を除くと、サタシュコトニ遺跡出土例のもつ変異の範囲におさまる。

この遺跡出土のコムギはあまり例のないもので、その測定値はコンパクトコムギ (*Triticum aestivum* ssp. *compactum*) の変異の範囲の外側に位置する。この種は、小型種のインディアンワフコムギ (*T.aestivum* ssp. *sphaerococcum*) となんらかの関係があることも考えられる。測定値は小型種のコムギとパンコムギの値の間に位置している (PL-[1]-26 参照 - Janushevich 1984 : 275, 276; Van Zeist 1968 : 126, 128)。またこれらはエンマコムギ (*T.dicoccum*) ともいくつかの類似点がみられる。

イネは6個体検出され、いずれも短粒型の *japonicum* である。測定可能であった1個体の値は 24.1×2.6mm (L/W=1.6) であった。なお佐藤 (1971) では、100以上の弥生遺跡出土のイネを分析し、L/W=1.3~2.0、短粒型であるとしている。

マメ科植物ではアズキ (*Vigna angularis* var. *angularis*)、ケツルアズキ (*V.radiatus* var. *radiatus*) を検出した。

ウリ (*Cucumis melo*) は破損したもの1個体を検出した。藤下 (1984 : 64) に日本各地出土の5,076個体のウリが集成されているが、本例に適合するものは含まれていない。この他にソソ (*Perilla frutescens* var. *crispa*)、アサ (*Cannabis sativum*) を検出した。ともに食用の他に油採集などに利用されたであろう。

## 考察

まだ分析していない試料の中に、かなりの量のユギの小穂の柄の一部が含まれている。このことは農耕の存在と矛盾しない。さらに、筆者はこれら栽培植物が食生活の中で重要な位置を占めていたと考えている。

これら栽培植物の多くは日本列島の先史遺跡からの出土としては最北の例である。また、アワ、イネ、ウリ、コムギは道内最初の例である。イネ、ウリはごく少量のため、ここで栽培されたものである確証はない。しかし、筆者は、小規模であるが、ここでの栽培を想定している。

最後にサクシュコトニ川遺跡の植物遺存体の構成は、カナダ・オンタリオの Woodland(Iroquoian)における構成に類似している点を指摘しておきたい。両者とも、各々の地域で最北の食糧生産地帯であること、狩猟採集を主な生業としていること、同様の技術体系をもっていることなど共通点を多くもっている。その中で植物の構成が類似していること(Crawford 1985, Monckton 1985)を考察することは、エゾ社会における初期農耕をめぐる議論の一助とならう。

## SAKUSHU-KOTONI-GAWA PLANT REMAINS

Gary W. Crawford •

### Introduction

This report details the analysis and initial interpretations of the flotation samples from Sakushu-Kotoni-Gawa. The data reported herein were identified and quantified in December of 1984 with some analysis continuing until the time of this writing. The purposes for collecting the plant remains were a) to describe plant use patterns in the Ezo-Hajj phase (Yoshizaki & Okada 1984) and b) to test for the existence of plant husbandry. The latter test was important because of previous discoveries of a few carbonized cultigen remains from three sites on Hokkaido dating to roughly the same time period as Sakushu-Kotoni, as well as agricultural tools from several other sites (Ishizuki 1975; Okada and Yamada 1982). In this first analysis of flotation samples from the ninth century in Hokkaido, the plant husbandry hypothesis has been confirmed. The quantities, taxonomy, and metric data regarding the cultigens, along with a discussion of wild and weedy taxa and their implications to understanding Ezo-Hajj subsistence are outlined.

### The Samples

Some 150 soil samples were floated by the excavation staff utilizing a form of the bucket method outlined in Crawford (1983). The light fractions were decanted into fine gauze rather than geological sieves. The gauze succeeded in collecting a large quantity of millet ranging from about 0.8 mm in minimum width, as well as smaller weed seeds. The carbonized seeds\* were separated from their light fraction matrix over a two year period. This analysis pertains to the resulting seed and fruit portion only. Contents of small samples were examined in their entirety. Larger samples were not because of extreme time constraints; 30-50% of those samples were carefully examined and the contents of the remaining portion estimated on the basis of the examined components. Identifications and quantifications are summarized in (Tab. 1-15)

Nearly 197g. of carbonized material have been analyzed to date. Approximately 200 to 210g. of sorted remains have not yet been examined. The unexamined samples number 65, averaging 3.0 to 3.2g. per sample. In the material examined so far are 116,422 seeds. Assuming that the unexamined light fractions have a similar composition, the total sample from Sakushu-Kotoni is expected to contain approximately 234,000 items, mostly cultigen seeds. The samples are from Houses 2 and 3, external house pits, areas of burned soil (e.g. unit 22-16) and refuse dumps outside houses (e.g. units 17-10 through 18-10).

### Identifications

Thirty-two plant taxa comprise the collection reported here. Ten of these are cultigens. An additional 16 taxa are identifiable (64 seeds) but not yet classified (unknown). Some unidentifiable specimens are present. Tab. 1-14 summarizes the taxa that occur in the samples. Items are listed in the same order that they appear in Tab. 1-15.

The non-cultigens (1679 items) consist of weedy annuals (46% of non-cultigens), fleshy fruits (47%), and four other taxa (7%) (Plate 1). Several species of *Polygonum* (11) are present, but the lenticular *P. densiflorum* is the most common. Nineteen achenes are likely *P. sachalinense* while eight specimens are unidentified, trigonous achenes. Caryopses of wild grasses in the sample belong

• Department of Anthropology, Erindale Campus, University of Toronto, Ontario, Canada



to a number of yet unidentified taxa except for the 109 specimens of *Echinochloa* (12). The unidentified grass seeds are mainly two types. One appears to be in the Paniceae tribe, with flat, rugulate caryopses measuring 1.2 by 0.9 mm. The second type is similar to the Type 2 grass illustrated in Crawford (1983:37). The *Echinochloa* seeds measure, on average, 1.5 by 1.1 mm. *Echinochloa* has been identified in Jomon samples from the Kameda Peninsula where the seeds increase in size by about 15% over a period spanning the end of the Early Jomon to the end of the Middle Jomon (1000 to 1500 year span) (Crawford 1983). The grass is genetically flexible and phenotypically variable. For example, *E. crus-galli* var. *oryzicola* Ohwi is a rice mimic in paddy fields. It is a large seeded form (Barrett 1983). Although rice is present at Sakushu-Kotoni, there is no evidence that the *Echinochloa* here is a large seeded rice mimic, nor does it appear to be a cultigen.

Two other herbaceous weeds, *Rumex* (14) and *Chenopodium* (15) are present. Both are present in archaeological collections from the Kameda Peninsula (Crawford 1983). The latter taxa cannot be identified to species at the moment, but the first is likely either *R. acetosa*, *R. japonicus* or *R. obtusifolius* and the latter is probably *C. album* or *C. ficifolium*. The possible identifications are based on the size range of the specimens (see Crawford 1983 for discussion). Plants in this herbaceous weedy annual group can be used for their seeds and greens except for the grasses which could be used as a grain source.

Fleshy fruit seeds are an important component of the Sakushu-Kotoni assemblage. Although they represent 47% of the non-cultigen seeds, their importance here is probably underestimated by the percentage figure. The weedy annuals are prolific seed producers in comparison with fleshy fruit producing plants. Fleshy fruits are usually ingested seeds and all, so again, the probability of fleshy fruit seeds being carbonized is lowered. The weedy annuals probably represent fortuitous weed seed inclusions in the cultigen harvest and to some extent represent a source of leafy vegetable food. The fleshy fruit group is more likely a food source.

Five of the fleshy fruit taxa have been previously reported from archaeological sites in Hokkaido. Three, *Solanum nigrum* (16), *Physalis* (17), and *Empetrum* (18), are reported here for the first time from archaeological contexts in Hokkaido. The first two are herbaceous weeds, common in waste ground and areas disturbed by cultivation. *Solanum nigrum* berries (16) are toxic when green, but present no problem once ripe. The young leaves of this plant are edible as well (Heiser 1969). *Physalis alkekengi* (17) is a weedy, perennial herb producing an edible berry within a bladderly calyx (Ohwi 1965:788). This is the only Asian species in northern Japan today. It is also found throughout Korea and northeastern China (ibid). It is often cultivated today, and it is a possible cultigen at Sakushu-Kotoni. *Empetrum nigrum* is an evergreen shrub that is common in Hokkaido and grows in dense mats (Ohwi 1965). It grows along the Japan sea coast today, and not in the immediate Sapporo area. Whether or not its distribution was different in the ninth century is unknown.

The remaining fleshy fruit taxa are all discussed in Crawford (1983). Of all the taxa in this group, *Sambucus* is the most common in the site vicinity today. As reported by Hirakawa elsewhere in this volume, much of the fish wier was constructed of elderberry wood. *Cornus* and *Vitis*, besides providing edible berries, are reportedly important sources of raw materials for making items such as *inau* and other sacred symbols (Sarashina and Sarashina 1976).

Within the "Other" category are four taxa, one of which, *Allium* (17), is in significant abundance in five samples from the large midden east of House 2. The remains of *Allium* are not seeds; they are carbonized sessile bulbils which form in place of flowers on some members of this genus. Ohwi (1965) lists only one species, *Allium grayi* (nobiru), in Japan with this charac-

Tab. 10-14 Plant Taxa Identified in the Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples

**Cultigens**

1. <i>Hordeum vulgare</i>	barley	o-mugi
2. <i>Triticum</i> c.f. <i>T. aestivum</i>	wheat	ko-mugi
3. <i>Panicum miliaceum</i>	proso or broomcorn millet	kibi, inakibi
4. <i>Setaria italica</i>	foxtail millet	asa
5. <i>Oryza sativa</i> var. <i>japonicum</i>	rice	kome
6. <i>Vigna angularis</i> var. <i>angularis</i>	adzuki	azuki
7. <i>V. radiatus</i> var. <i>radiatus</i>	mung bean	ketsuru-azuki
8. <i>Cucumis melo</i>	melon	uri, makura-uri
9. <i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>	beefsteak plant	shiso
10. <i>Cannabis sativum</i>	hemp	asa

**Weedy Grains/Greens**

11. <i>Polygonum</i> sp.	knotweed	tade zoku
<i>P. densiflorum</i>		inu-tade
<i>P. sachalinense</i>		o-itadori
12. <i>Echinochloa crusgalli</i>	barnyard grass	inubie, ta-inubie
13. Gramineae	grass family	ire ka
14. <i>Rumex</i> sp.	dock	gishi-gishi zoku
15. <i>Chenopodium</i> sp.	chenopod, goosefoot	akaza zoku

**Fleshy Fruits**

16. <i>Solanum nigrum</i>	black nightshade	inu-hozuki
17. <i>Physalis</i> sp. c.f. <i>P. alkekengi</i>	Chinese lantern plant	hozuki
18. <i>Empetrum nigrum</i>	crowberry	gankouran
19. <i>Rubus</i> sp.	bramble	ki-ichigo zoku
20. <i>Vitis</i> sp.	grape	budo zoku
21. <i>Actinidia</i> sp.	silvervine	matatabi, kokusa
22. <i>Sambucus</i> sp. c.f. <i>S. sieboldiana</i>	elderberry	ezo-nimaisoko
23. <i>Cornus</i> sp.	dogwood	mizu-ki zoku

**Others**

24. <i>Rhus</i> sp.	samsc	urushi zoku
25. <i>Ostrya japonica</i>	ironwood	asada
26. <i>Potamogeton</i>	pondweed	hiru-mushiro zoku
27. <i>Allium</i> c.f. <i>A. grayi</i>	onion	negi zoku; c.f. nobiru

teristic. *Nobiru* is found in lowland meadows, and would have probably been available close to the hamlet. Collection of *nobiru* may not always have taken the Ainu outside the hamlet. Sarashina and Sarashina (1976:160) mention that *nobiru* could be harvested from the back yards of Ainu houses. No mention is made of whether or not the plant was encouraged to grow there or in gardens. Nevertheless, both Sarashina and Sarashina (*Ibid.*) and Ohnuki-Tierney (1974) report that *nobiru* (presumably *nobiru* in the case of Ohnuki-Tierney who refers to "leeks") was minced and added to a variety of foods. Large quantities of *Allium* were stored and dried; harvesting took place in July to mid-August (Ohnuki-Tierney 1974:29).

Three other taxa are in the samples, but they are not listed in the Tables. The first is a single possible *Phelodendron amurense* (*kihada*, Amur corktree) in a sample from 18-11[00]. Fragments of *Juglans ailanthifolia* (*onigurumi*, walnut) are in the same sample as well as from 18-10[03] for a total of 0.69g. Finally, three pea-like legume seeds are present in the same midden. Their seed coats are missing, and their diameters are 2.4, 2.7 and 3.0 mm. The genus appears to be *Lathyrus* sp. (*reni-so zoku*, wild pea), with four possible species in Hokkaido (Plate k). The specimens bear close resemblance to *Lathyrus maritimus* (L.) Bigel (*L. japonicus* Willd.) (beach pea, *hama-endô*), a species common along beaches in Hokkaido today.

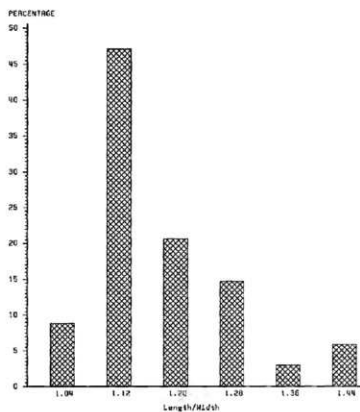
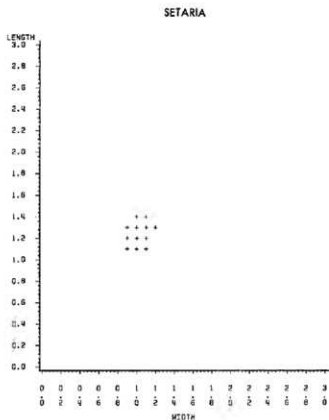
Broomcorn millet (3) and foxtail millet (4), are numerically the dominant cultigens in the samples (Plate 2). Few specimens are not hulled. They are found in nearly all contexts. A third group of large, panicoid grass seeds are difficult to further classify but seem to be either broomcorn or foxtail millet; these seeds are the "unidentifiable" millet in (Tab. [1]-15). Another type, barnyard millet (*Echinochloa utilis* or *hie*) may be present in the samples, but its presence has not been confirmed. The distinction between barnyard and broomcorn millet is subtle, but for the present, none is clearly identifiable as barnyard millet. This millet has not yet been found from any prehistoric Hokkaido site, although it is known from three historic sites in southwestern Japan (Matsutani 1984).

PL.[1]-23, 24 illustrate the size distribution of the two millet taxa. The sample of measured broomcorn millet numbers 108 while a sample of 105 foxtail millet seeds was measured. The length vs. width plot of foxtail millet shows few points due to considerable overlap of measurements. Both sets of measurements fall within the range of variation reported for European specimens (Van Zeist 1968).

Next to the millets, the numerically most common cultigen at Sakushu-Kotoni is barley. The barley is hexastichous, with both hulled and naked grains apparent. Length-width measurements are summarized in PL.[1]-25. The measurements fall within the range reported by Van Zeist (1968) for northern European specimens. Although Asian barleys are relatively unique, in particular by being small seeded (Takahashi 1964), the barley in this sample is not small (PL.[1]-25). Other prehistoric barley grains from Japan are relatively small, but except for the single measured grain from Uenoharu, Kyushu (3.8 by 2.0 mm) (Kotani 1972), they are within the Sakushu-Kotoni range.

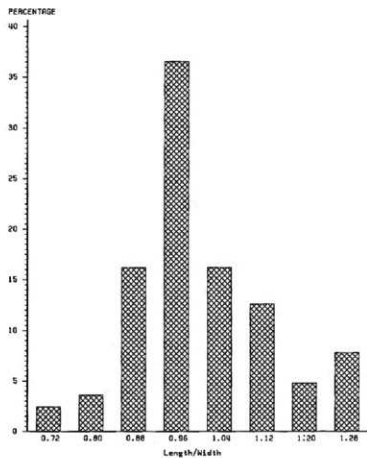
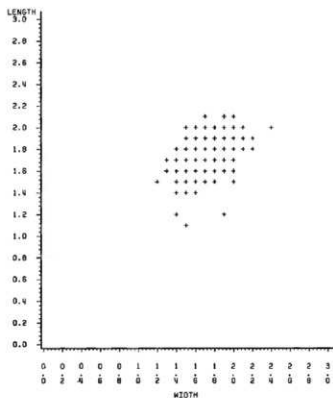
The Sakushu-Kotoni wheat is unique (see PL.[1]-26, PL.[2]-346 and PL.[2]-347). The sample of 106 measured caryopses has mean length and width measurements outside the range of the small club wheat, *Triticum aestivum* sp. *compactum*, which differs from bread wheat by one gene (Van Zeist 1978:53). The maximum width of the caryopses is toward the embryo end of the caryopses, making them somewhat drop shaped in contrast to the club and bread wheats. Indian dwarf wheat (*T. aestivum* sp. *sphaerococcum*) is another compact form that may have some historical and taxonomic relationship to the Ezo wheat, but this has not been closely examined

PL. 17-23 Carbonized Foxtail Millet (*Asa*): Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.  
 $n = 105$ , Mean  $L/W = 1.2$ , Mean  $L \times W = 1.2 \times 1.0$  mm.

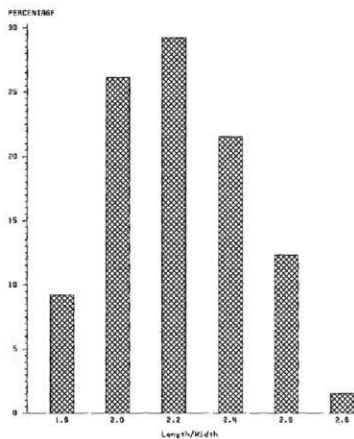
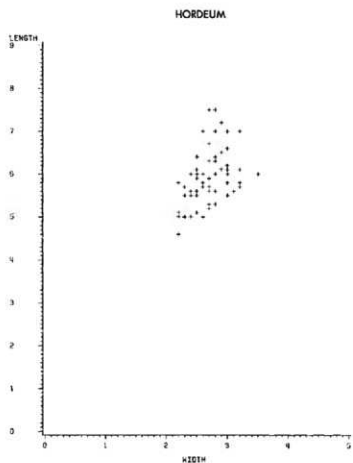


PL. 図-24 Carbonized Broomcorn Millet (*Kibi*): Plot of Length vs. Width (mm) and Length/Width.  
 $n = 105$ , Mean  $L/W = 1.0$ , Mean  $L \times W = 1.8 \times 1.8$  mm.

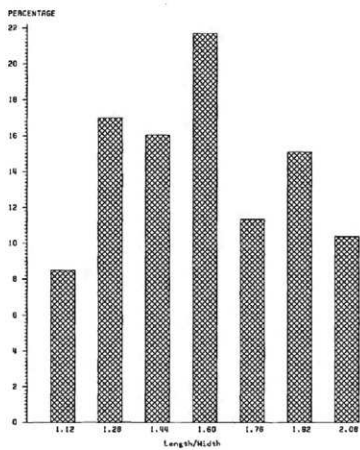
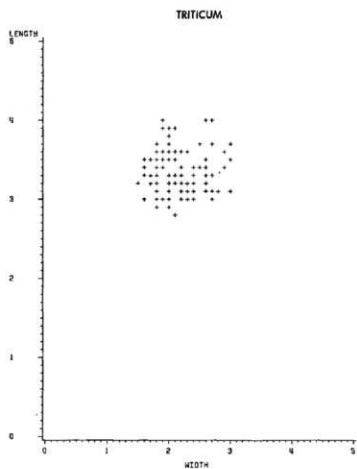
## PANICUM



PL. (I)-25 Carbonized Barley: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.  
 n = 63. Mean L/W = 2.2, Mean L × W = 5.9 × 2.7 mm.



PL. 田-26 Carbonized Wheat: Plot of Length vs. Width (mm) and Chart of Length/Width.  
 $n = 106$ , Mean  $L/W = 1.5$ , Mean  $L \times W = 3.4 \times 2.2 \text{mm}$ .



at the time of writing. The mean length/width ratio (PL. [1]-26) is between that reported for some compact forms and regular bread wheat (e.g. Janushevich 1984:275, 276; Van Zeist 1968:126, 128). In a way, the Sakushu-Kotoni wheat is similar to emmer (*T. dicoccum*), which occasionally has carbonized seeds which are drop shaped. These caryopses are wider at the end opposite the embryo. Emmer caryopses are larger than the Sakushu-Kotoni specimens as well, and are not nearly so plump (L/W ratios of emmer are larger than 1.6 for the most part).

The half-dozen rice caryopses from Sakushu-Kotoni are all the short-grained variety, *japonicum*. One measurable seed is 4.1 by 2.6 mm. (length/width = 1.6). Sato (1971) classifies rice caryopses from over 100 Yayoi sites with length/width ratios between 1.5 and 2.0 as short-grained as well. All prehistoric rice so far recovered in Japan is *Oryza sativa* ssp. *japonicum*.

Within the 61 specimens of the legume, *Vigna*, two types are present. These are adzuki (6) and mung (7). No attempt has been made to separate the whole sample of beans into the two taxa; however, examples of each have been examined. Mung appears to be rare in the assemblage. A sample of 13 beans were measured and have mean (range) dimensions in millimeters of 6 (4.8 - 8.0), 4.1 (3.0 - 5.7) and 3.8 (2.3 - 5.0) mm.

One broken melon (8) seed has been identified. It is not measurable, but compares well with reference specimens of cultigen melon seeds. Not including this specimen, 5076 archaeological melon seeds from 102 sites have been reported in Japan (Fujishita 1984:64). 69% are from sites later than the Yayoi period (later than A.D. 300).

A few specimens of beefsteak plant (9) are in the Sakushu-Kotoni collection. The plant was likely used as an herb and for its oil producing seeds. This is a red-leaved form of the plant. A green leaved form (*P. frutescens* var. *japonica:egoma*) has seeds which are generally distinguishable from *shiso* seeds.

Another relatively abundant cultigen seed is that of hemp (10), a plant indigenous to central Asia (Bailey 1976:218; Simmonds 1976:203). This plant has several uses: as an oil, food, fibre and drug source. Hemp grown in the north is usually used for oil, food, and fibre. The Ainu used hemp in weaving clothing and making baskets.

## Discussion

This report has dealt with an initial presentation of the Sakushu-Kotoni-Gawa plant remains. A number of technical and interpretive aspects of the remains have not been attempted at this stage. For example, Dennell (1972) and Hillman (1984) have documented techniques for determining crop processing methods using among other factors, grain size variation as a clue to sieving procedures. Metric data have been presented here to describe intra-specific variation; a full documentation of such variation by sample will be required eventually.

One important aspect of this ongoing research is that at Sakushu-Kotoni we have incontrovertible evidence for an ancestral Ainu food production phase. This phase was suspected from a few sporadic discoveries of plant remains throughout Hokkaido, but confirmation did not exist until the research on this collection. References to the early evidence can be found in English in Aikens and Higuchi (1982:307) and Crawford (1983:25). Two discussions in Japanese are by Ishisaki (1975) and Okada and Yamada (1982). To briefly summarize the interpretive status of the few cultigen reports until 1982, either the cultigens were considered sporadic imports because the few reports until then were coastal, or there was, indeed, an early agricultural phase in Hokkaido. The nearly quarter of a million carbonized seeds from Sakushu-Kotoni from excellent context, demonstrate that the latter was the case. Rice paddies and dry fields are common in the area



(Ishikari Plain) today. The Plain receives an average annual precipitation of 1200 mm. Between May and September are 2600 cumulative mean temperature degrees (Hokkaido Development Bureau 1983). Rice, for example, today requires more than 2500. The local environment is quite suitable for agriculture today.

This interpretation raises several questions. When did this plant husbandry begin and how did it develop? What became of it? What role does plant husbandry play in understanding Ainu history? Regarding the last question, the Ainu were considered to be foragers until 1884. In that year, the Japanese government instituted a programme to encourage the Ainu to take up agriculture (Watanabe 1967:72). Agriculture seems not to have been entirely new to the Ainu. Apparently, some Ainu in the Tokapchi and Azuma Valleys had done some small scale farming (Watanabe 1972:41). According to Watanabe, households grew foxtail millet (*awa*) and barnyard millet (*hie*) in plots of 1000–2000 m<sup>2</sup> on river banks. Hayashi (1975), too, has examined ethnographic data and has interviewed Ainu elders concerning this problem. The Ainu, according to Hayashi's data grew *awa*, *hie*, barley, wheat, *azuki*, pea, *daizu* (soy bean), *daikon* (radish), hemp, *negi* (leek or onion, *nobiru?*), cucumber, tobacco, a potato and two types of American squashes. Rice was known to the Ainu but was apparently imported. Naked barley was the most important of the *muigi* group which is also comprised of wheat (*konugi*) and hulled barley. Wheat was grown, but was not an important crop. All of these plants but *hie* (barnyard millet), according to Ainu myth, were introductions (Ibid.). Two legumes, *Vicia* and *Crotalaria* were reportedly harvested from gardens as well. This plant husbandry likely has a longer history in Hokkaido than previously suspected, a history needing considerable research.

Ten taxa of cultigen seeds appear in varying quantities in the samples. Another cultigen remain which has not been analyzed yet is the considerable quantity of barley and/or wheat rachis fragments. Including these fragments, the assemblage of carbonized plant remains are consistent with an interpretation that the Sakushu-Kotoni residents were involved in plant husbandry. Cultigen plants must have been an important part of their diet. No sickles, hoes or plough shares have been identified at the site yet, but the former are reported from three Ezo sites while the latter have been found at two Ezo sites (Okada and Yamada 1982).

Most of the cultigens at Sakushu-Kotoni are at their northernmost occurrences in prehistoric Japan. Foxtail millet, rice, melon and wheat are reported for the first time in prehistoric Hokkaido. Of these plants, rice and melon are so rare as to suggest they were not grown locally. I suspect, however, that they were grown at Sakushu-Kotoni but were not an important part of the plant husbandry system.

There are two cultigens conspicuous in their absence from the sample: buckwheat (*Fagopyrum esculentum* or *alba*) and safflower (*Carthamus tinctorius* or *benihana*). A single carbonized buckwheat seed was recovered from the late Early Jomon Hamanasuno site in southwestern Hokkaido in 1974 (Crawford, Hurley and Yoshizaki 1976; Crawford 1983). Since then, pollen analysis from archaeological contexts suggests the presence of buckwheat in northern Japan by the Final Jomon (Yamada 1980) and buckwheat pollen is known from several Zoku Jomon and Ezo period sites on Hokkaido (Yamada 1975, 1978, 1979; Okada and Yamada 1982:28). The presence or absence of buckwheat husbandry in prehistoric Japan remains a problem. To compound the issue, preservation characteristics may influence buckwheat seed recovery. In the Netherlands, the earliest carbonized buckwheat (a single seed) comes from Dommlein (Van Vilteren 1984:230). In later periods, the prehistoric buckwheat seeds are never carbonized and come from cespitis. Carbonized seeds do not occur at the same sites (Ibid.). Carbonized buckwheat reported from the Ezo site of

Tab. [1]-15 Sakushu-Kotoni-Gawa Flotation Samples: Seed Taxa as Percentage Total Number of Seeds per Sample

Cul	Cultigen											Weedy Grains/Greens				
	Pt	Hordeum	Triticum	Unidentifiable Mixes	Panicum (S/No)	Secaria (pov)	Oryza	Vigna	Commis	Pennis	Cannab	Polypogon	Echinochloa	Cratogeom	Rumex	Cleomepodi
4-7	-	-	-	-	30.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-7	-	-	-	-	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6-10	-	-	-	-	15.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-4	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-6/9	-	-	-	-	-	15.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7-9[30]	4	-	-	-	-	90.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-7	-	-	-	2.0	5.9	11.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-7	6	9.1	27.3	-	9.1	36.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-8	-	-	-	-	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-9[20]	4	12.1	3.4	-	37.1	43.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-9[30]	-	21.2	8.7	-	26.2	42.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-8	6	-	-	-	-	91.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8-10	-	-	-	-	25.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-10	-	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9-13	-	-	-	-	59.1	36.4	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-
10-16	-	-	-	-	21.7	78.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-11	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-19	-	-	-	-	17.9	35.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-22	-	-	5.3	-	-	17.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-10[23]	-	63.5	11.8	-	19.1	1.9	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-
17-11[20]	-	-	-	-	23.6	75.8	-	-	-	-	-	8.4	-	-	-	-
17-11[12]	-	0.1	-	-	17.7	81.3	-	-	-	-	-	9.4	-	0.1	-	-
17-11[24]	-	3.8	2.1	-	43.1	49.2	-	0.5	-	-	-	0.1	0.1	-	-	-
17-11[22]	-	2.3	0.3	-	38.8	51.4	-	-	-	-	-	2.4	0.5	0.2	-	-
17-11[23]	-	7.9	2.6	-	-	-	-	-	-	-	10.5	28.9	-	-	2.3	-
17-11[30]	-	23.5	10.7	14.0	44.2	7.8	-	-	-	-	0.5	-	-	-	-	-
17-11[34]	-	29.7	11.2	0.1	21.6	35.1	-	-	-	-	-	0.1	0.1	0.5	-	-
17-11[32]	-	4.3	1.1	-	59.8	33.7	-	-	-	-	-	0.1	0.2	-	-	-
17-12[11]	-	7.1	21.4	-	31.4	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17-12[20]	-	0.5	1.3	-	65.8	26.6	-	0.5	-	-	-	1.8	-	-	-	-
17-15	-	-	-	-	42.9	14.2	-	-	-	-	-	38.5	-	-	-	-
18-9	-	-	-	-	32.1	42.2	-	-	-	-	-	31.5	-	-	-	-
18-10	-	0.9	1.7	7.8	36.2	27.4	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9	1.7
18-10[30]	-	11.4	1.2	-	18.4	65.1	-	-	-	-	-	-	-	0.3	-	-
18-11[30]	-	26.4	7.1	-	11.5	53.4	-	-	-	-	-	0.1	-	0.2	-	-
18-12	-	-	-	-	30.0	37.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-11	-	-	-	-	-	30.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19-13	-	-	-	-	-	12.5	12.5	-	-	-	-	4.2	-	-	-	-
19-15	-	8.0	56.0	-	8.0	30.0	-	-	-	-	-	-	4.0	-	-	-
19-16	-	-	-	-	20.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-
19-18	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-12	-	-	-	-	30.0	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20-14	-	-	-	18.2	18.2	-	-	-	-	-	-	18.2	-	-	-	-
20-18	-	-	-	-	5.6	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-12	-	-	-	-	10.0	50.0	-	-	-	-	-	30.0	-	-	-	-
21-14	-	-	-	-	5.3	57.9	-	-	-	-	-	5.3	-	-	-	-
21-15	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-15	-	-	-	-	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22-16	-	-	-	-	3.0	52.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26-15	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26-21	-	-	-	-	20.0	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-14	-	-	-	-	29.5	65.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27-15	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-17	-	12.5	-	-	31.3	56.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30-16	4	-	-	4.8	54.3	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total Number		11443	4108	3158	34037	61030	6	61	1	10	136	429	106	90	140	5

at less than 0.01g \* less than 0.1%

Fleshy Fruits								Others						Weight(g)	Total Number
Solanum	Physalis	Eperuanum	Baba	Vitis	Actinidia	Sambucus	Cornus	Rhus	Oryza	Pometionum	Allium	Unidentifiable	Unknown		
														a	2
														a	2
	50.0					43.8						18.8	25.0	10.04	16
11.1						66.7		11.1				11.1		0.01	9
														0.02	20
	25.0			69.5	10.0							12.5		a	8
													15.0	0.02	20
8.8						55.0						2.0	0.7	0.06	140
						19.1								0.04	34
														0.02	11
	50.0					3.2								0.02	8
	1.6					0.2								0.2	124
	0.4									0.2				2.45	194
				8.3		12.5								0.01	12
						33.3								a	3
							2.3							0.14	44
														0.05	23
														a	2
						26.6						14.3		0.05	28
						45.5						16.2		0.02	11
						0.3						1.3		3.17	430
	0.8			1.0		0.3						*	*	35.23	41210
0.1	0.1										0.1	0.1		4.74	6291
				0.4									0.4	12.05	7447
0.1	0.4			0.3	0.1	*		*	*			0.4	0.1	6.16	5796
														0.14	28
	*										*	0.2		39.22	22416
	0.1	0.3	*	0.1	0.1	0.1					0.5	0.3		9.18	3298
0.1	*	0.1		0.1				0.1				0.3	0.3	5.50	2655
				0.2										a	14
0.2	0.7			1.3		0.1						0.4		0.75	1204
	14.3													0.01	7
														0.02	26
						19.8								0.03	116
	2.0	*			0.2						*	0.1	1.7	14.09	10036
*		0.7		0.1	*						0.2	0.2	*	27.42	10980
														0.02	8
						100.0								0.01	18
						50.0								a	4
						66.7						4.2		0.01	24
				4.0										0.10	25
												20.0		a	5
														a	1
						45.5								0.01	10
														0.01	11
						10.0						11.1		0.01	18
						5.2								2.81	10
		25.3				33.3								0.01	19
														a	3
														a	5
												20.0		a	5
												6.0		0.02	50
												33.3		0.01	6
														a	5
						4.1						0.8		0.10	122
														a	3
														0.03	16
														0.05	42
19	368	110	10	104	36	136	1	5	1	7	102	120	64	19690	116422

Toyotomi (Kohno 1959) have now been identified as safflower (Crawford 1985; Crawford and Yoshizaki, in preparation). These are the seeds I reported as an unknown composite (Crawford 1983:25). Safflower is native to the Middle East (Knowles 1976:31) and is known to have been in western Japan by the eighth century (Yamazaki 1961).

The wild and weedy component of the plant assemblage likely represents fortuitous inclusions in the case of rare items and weed seeds and utilized plants in other cases. The knotweeds, grasses, dock and chenopod are useful as both grain and green, leafy vegetable food sources. Such seeds can also appear as a result of contamination during harvesting. All of the fleshy fruits but crowberry, which is not found in Sapporo or around Sakushu-Kotoni today, are likely part of the anthropogenic flora established around and in the Sakushu-Kotoni hamlet by the numerous ecologically disruptive activities of the inhabitants. Chinese lanternplant is an unconfirmed garden plant and may have become established in Hokkaido with the prehistoric introduction of cultivars.

This plant remains assemblage is somewhat similar to Late Woodland (Iroquoian) assemblages I am familiar with in Ontario, Canada. The comparison is appropriate because both Ontario and Hokkaido are northernmost occurrences of food production in their respective areas, and both Late Woodland and Ezo societies were unranked, maintained foraging as an important activity, and had similar technologies. All of the genera of fleshy fruits except for *Actinidia* and *Empetrum* are known from such Ontario sites (Crawford 1985; Monckton 1985). In addition, *Polygonum*, Gramineae, *Chenopodium*, *Rhus* and *Ostrya* are part of such assemblages. The habitats around plant husbandry oriented communities in Ontario are analogous to those from which the plant remains at Sakushu-Kotoni were derived. This further supports the contention of a local plant husbandry adaptation in Ezo period Hokkaido.

#### Acknowledgements

I would like to acknowledge the support of Yoshizaki Masakazu who facilitated my contribution to the over all Sakushu-Kotoni project. The Office of Research Administration of the University of Toronto provided a grant to support the plant remains analysis. I would also like to thank the staff of the Salvage Archaeology Center of Hokkaido University, and Hayashi Kensaku, Kikuchi Toshihiko, Okada Atsuko, Okada Hiroaki and Yokoyama Eisuke in particular, for their part in making this research come to fruition. Matsutani Akiko of Tokyo University made the original identification of rice from Sakushu-Kotoni. Hirakawa Yasuhiko and Tsubakisaka Yasuyo did the preliminary sorting of the flotation samples. The scanning electron microscope photographs were taken in the agriculture department of Hokkaido University with the assistance of Hirakawa Yasuhiko. Hiroto Takamiya and Jane Macaulay assisted me in the Toronto lab. A final note of thanks must go to Clara Stewart, who typed this chapter with her usual patience and skill.

## REFERENCES CITED

- Aikens, C. Melvin, and Takayasu Higuchi  
1982 *Prehistory of Japan*. New York: Academic Press.
- Bailey, Liberty Hyde  
1976 *Hortus Third*. MacMillan Publishing Co., Inc., New York.
- Barrett, Spencer C.H.  
1983 Creep mimicry in weeds. *Economic Botany* 37(3):255-282.
- Crawford, Gary W.  
1985 Subsistence Ecology of the Seed Site. A Report on Ontario Heritage Foundation Grant ARG-156
- Crawford, Gary W.  
1983 *Paleoethnobotany of the Kameda Peninsula Jomon*. Ann Arbor, Michigan: Anthropological Papers, Museum of Anthropology, University of Michigan No. 73.
- Crawford, Gary W., William M. Hurley and Masakazu Yoshizaki  
1976 Implications of plant remains from the Early Jomon, Hamanasuno site. *Asian Perspectives* XIX(1):145-148.
- Crawford, Gary W. and Masakazu Yoshizaki (in preparation)  
Ainu Ancestors and Prehistoric Asian Agriculture.
- Dennell, R.W.  
1972 The Interpretation of Plant Remains: Bulgaria. In *Papers in Economic Prehistory*, edited by E.S.Higgs, pp. 149-60. London: Cambridge University Press.
- Fujishita, Noriyuki  
1984 *Shutsudo itai yori mita uri-ka shokubutsu no shurui to henkan to sono riyoho* (Archaeological occurrences: types, temporal change and their use). In *Kobunkazai no Shian-kagakuteki Kenkyu*, edited by Kobunkazai Henshu linkai, pp. 638-654. Tokyo: Dohosha.
- Hayashi, Yoshishige  
1965 *Ainu no noko bunka* [Ainu Agriculturalists]. Tokyo: Keiyusha
- Hillman, Gordon  
1984 Interpretation of archaeological plant remains: the application of ethnographic models from Turkey. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 1-42. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Hokkaido Development Bureau  
1983 *Agricultural Development in Hokkaido*. Agriculture and Fisheries Department, Sapporo, Hokkaido, Japan.
- Ishizaki, Kiso  
1975 *Satsumon shiki bunka ni okeru noko sakumotou* [Agriculture Crops in the Satsumon Phase]. *Kodaigaku Kenkyu* 74:36-38.
- Janusevich, Z.V.  
1984 The specific composition of wheat finds from agricultural centres in the USSR. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 267-276. A.A. Balkema: Rotterdam.
- Kohno, Hiromichi  
1969 *Hokkaido shutsudo no egata U jiki tekki ni tsuite*. A u-shaped iron tool excavated in Hokkaido. *Hokkaido Gakkei Daigaku Kokugaku Kenkyukai Ronraku*.
- Kotani, Yoshinobu  
1972 *Economic Bases During the Latter Jomon Period in Kyushu, Japan: A Reconsideration*. Ph.D. Dissertation, University of Wisconsin. Ann Arbor: University Microfilms.
- Monckton, Stephen  
1985 Investigations into Huron paleoethnobotany: an interim report. On file at the Ontario Heritage Foundation.

Ohnuki-Tierney, Emiko

- 1974 *The Ainu of the Northwest Coast of Southern Sakhalin*. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc.

Ohwi, Jisaburo

- 1965 *The Flora of Japan*. Washington, D.C.: Smithsonian Institution.

Okada, Atsuko and Goro Yamada

- 1982 *Hokkaido ni okeru noko no kigen ni kansuru yusensu* (A short note on the origin of agriculture in Hokkaido). In *Hokkaido ni okeru Noko no Kigen* (The origin of agriculture in Hokkaido) edited by T. Umehara, pp. 26-34. Sapporo.

Sarashina, Genzo, and Koh Sarashina

- 1976 *Kotan seibutsushi I* (Kotan Ethnobiology I). Tokyo: Hosei Daigaku Shuppan Kyoku.

Simmons, N.W.

- 1976 Hemp. In *Evolution of Crop Plants* edited by N.W. Simmonds, pp. 203-204. Longman: New York.

Takahashi, R.

- 1964 Further studies in the phylogenetic differentiation of cultivated barley. *Barley Genetics* 1: 19-26.

Van Vlieteren, V.T.

- 1984 The medieval village of Dommelin: a case study for the interpretation of charred seeds from postholes. In *Plants and Ancient Man* edited by W. Van Zeist and W.A. Casparie, pp. 227-235. Rotterdam: A.A. Balkema.

Van Zeist, W.

- 1968 Prehistoric and early historic food plants in the Netherlands. *Palaeohistoria* 14:61-173.

Watanabe, Hitoshi

- 1967 Subsistence and ecology of northern food gatherers with special reference to the Ainu. In *Man the Hunter* edited by Richard Lee and Irven DeVore, pp. 69-77. Chicago: Aldine.
- 1972 *The Ainu Ecosystem*. Seattle: University of Washington Press.

Yamada, Goro

- 1975 *Teshio-kawaguchi iseki no hafun bunseki* (Pollen analysis from the Teshio-kawaguchi Site). In *Teshio-kawaguchi Iseki*, pp. 50-53. Teshio: Teshio-Cho Board of Education.
- 1978 *Dojo shiryō no hafun bunseki ni tsuite* (Pollen analysis from soil). In *Archaeological Research in the Naibetsu Basin*, pp. 131-133. Hokkaido: Chitose Board of Education.
- 1979 *Nayoro-shi Chitoh iseki no hafun bunseki* (Pollen Analysis of the Chitoh Site, Nayoro). Nayoro: Nayoro Board of Education.
- 1980 *Iwate-ken Kitakami-shi Kunenbashi iseki no hafun bunseki ni tsuite* (Analysis of Pollen from the Kunenbashi Site, Kitakami, Iwate Prefecture). In *Kunenbashi Site, Report Number 6*, edited by the Kitakami board of Education, pp. 63-75. Kitakami: Kitakami Bunkazai Chosa Hokoku, No. 29.

Yamazaki, Akira

- 1961 *Kusaki-sume* (Dyeing with Natural Materials). Kanagawa: Getsumei-kai.

Yoshizaki, Masakazu and Okada, Atsuko

- 1984 *Kokugaku ni okeru Ezo-chi*.  
In *Sozo no Sekai*, 49: pp. 80-105 Shogakukan, Tokyo.

## VI-10 [炭化材]

### ① 炭化材の樹種鑑定結果

駆穴、土壌、焼土・炭化物集積遺構より出土した炭化材は、原形に近い形状を維持しているものと、土壌中に混じり合っている木片とがあるため、両方で取上げ法を変え、前者についてはバインダー・#17を含浸させ1点ずつ、後者については浮遊選別法により各遺構ごとに一括して取り上げを行なった。それらの炭化材の出土地点や数の内訳は以下の通りであるが、浮遊選別材については出土量把握の目安としておおよその重量を示す。しかし、この値には木粉等も大量に含まれているためあくまでも目安であることに注意されたい。

#### ① バインダー含浸材 (62点)

a, 2号駆穴住居跡	7点
b, 3号駆穴住居跡	45点
c, 2号土壌	10点

#### ② 浮遊選別材

a, 2号駆穴住居跡	覆土	約23kg
	かまど	約50g
	かまどまわり	約1kg
	煙道	約70g
b, 3号駆穴住居跡	覆土	約340g
c, 土壌	1号	約900g
	3号	約50g
	4号	約460g
	5号	約340g
	6号	約260g
d, 炭化物集積遺構 (炭化物マウンド)		約5.5kg
e, 焼土・炭化物 (33箇所)		約3.5kg
(16, 18, 19, 21, 22, 25, 27, 30, 32, 37, 38, 40, 41, 43, 44, 47, 48, 49, 51, 52, 54, 58, 59, 60, 61, 62, 64, 65, 68, 69, 70, 71, 72)		

これらのうち、バインダー含浸材については全点を、浮遊選別材については各地点ごとに適量を選び出し、樹種鑑定を行った。浮遊選別材は、木粉等も含めてではあるが検体重量が約35kgにも達するため、大体の樹種構成が把握された時点で鑑定を打ち切った。そのため少数個体樹種については見落しの可能性も否定できない。しかし、検索個体の全重量は約2.2kgに達し、検体(木片)1個の重量は0.5kg以下であることから、検体個数は24,400点以上にも上るため、樹種構成等の概要はほぼ把握できたものと考ええる。

樹種鑑定の方法は以下のとおりである。

バインダー含浸材からは1cm程度の木片を割り取り、浮遊選別材については木片をそのまま実体顕微鏡で観察、同定し、同定困難なものについては走査型電子顕微鏡(SEM)で

観察した。浮遊選別材については、無作為に選び出した木片の鑑定により樹種構成の一般傾向を把握してから、少数個体樹種の見落としがないよう肉眼的に質観の異なるものができるだけ多く選び出し、鑑定を進めた。

SEM観察試料の調整方法は、気乾状態の木片を、まず軸方向と直角方向に折り、一方を木口面観察試料とする。次に、残りの木片に片刃カミソリでわずかに切れ込みを入れ、割裂し、板目又は柱目面を露出させ、縦断面の観察試料とした。炭化材のSEM観察表面の露出には、刃物で切るのではなく、試料を割るか折る方法が効果的である。その後、試料を導電性ペーストでSEM試料台に貼付け、イオンスパッタリング法により金を7 mA、1 KV、DC、でコーティングした。時間は7～15分間であるが、チャージアップの発生が著しい場合にはさらにコーティングを加えた。炭化材では、一般的に知られているイオンスパッタリングによる試料損傷は少く、コーティング時間の延長に特に問題はない。SEM観察には、JSM-35CF IIを用い、加速電圧15KV～25KVで観察した。写真撮影用フィルムはネオパンSS（6×7 cm）である。

バインダー含浸材62点と浮遊選別材を鑑定した結果、20科、25属を同定し、そのうち5属については種のレベルまで同定することができた。それらを既述の項目別に炭化材の表1に示す。樹種構成は、針葉樹3属、広葉樹22属、ツル性植物1属（2属以上の可能性もある）であり、他に同定できなかったものが草本類も含め数種ある。各樹種の同定の根拠、組織・構造等については、第Ⅴ章の10～2を参照されたい。

以下には、炭化材の表1の各項目別に樹種鑑定結果の概略を記す。重量の単位はgである。

### ③ 2号竈穴住居跡

#### a バインダー含浸材

バインダー含浸材全7点中の内訳は、トネリコ、ヤナギ、クルミの各属が順に、5：1：1点であり、トネリコ属個体が多い。

#### b 覆土

15属が認められ、多いものから順に、トネリコ、クルミ、カエデ、ニレの各属で、重量比は635、65、10、5であり、他はキハダ、ニガキ、ヤナギ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、サクラ、ニシキギ、ミズキの各属が少量認められた。量的には、トネリコ属が圧倒的に多いのが特徴である。樹皮も7とかなり多い。

#### c かまど

12属が認められ、トネリコ属が3とやや多く、ニレ、ニシキギ、モミ、クルミ各属が2程度であり、コナラ、クワ、ハコヤナギ、ヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレンの各属が少量認められた。しかし、量的には、各樹種間で特に大きな差はない。樹皮もわずかに認められた。

#### d かまどまわり

13属認められた中で、特に多いのはトネリコ属の260であり、やや多いのはニレ、ヤナギ、クルミの各属にツル性植物で、重量比は8、5、5、5であった。その他のものは少なく、コナラ、クワ、イヌエンジュ、カバノキ、カツラ、モクレン、ニシキギ、ミズキ、ニワトコの各属が認められた。

#### e 掃道

2属認められたがツル性植物がやや多く、クワ、ヤナギ属がわずかに認められたにすぎず、炭化材は極めて少なかった。



## ② 3号竪穴住居跡

## a バインダー含浸材

全45点の内訳は、トネリコ属が29点と多く、以下、ヤナギ：4、キハダ：3、カバノキ：3、ニレ：2、クルミ：2、カエデ：1、タワ：1の順であった。

## b 覆土

12箇所認められた中で量的に多いものは、ニレ：13、キハダ：5、トネリコ：3、ヤナギ：3の順であり、他の各属、タワ、イヌエンジュ、クルミ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、サクラ、カエデ、ツル性植物は1～2と少量であった。

## ③ 土壌

## a 1号土壌

12属中、トネリコ属が10と多く、ヤナギ、ニワトコの各属が3とやや多い。その他は少量であり、モミ、ニレ、エノキ、タワ、キハダ、クルミ、ハンノキ、ニンギキ、カエデの各属とツル性植物であった。

## b 2号土壌

全10点中でヤナギ属が7点を占め、他にはニレ、キハダ、アジサイの各属が1点ずつであった。

## c 3号土壌

7属中でやや多いのがハンノキ属であるが、他と大きな差はない。他にはニレ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、カエデが認められた。

## d 4号土壌

15属中、ヤナギ属が5と多く、ニレ、トネリコ、クルミの各属が2～3とやや多い。その他は少量で、イチイ、コナラ、エノキ、タワ、ニガキ、トネリコ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、サクラ、ニワトコの各属とツル性植物が認められた。樹皮も8とかなり多いが、樹種の特定はできない。

## e 5号土壌

15属中、多いものはニワトコ、ヤナギの各属が各々5であり、ニレ、トネリコの各属も各々3とやや多い。その他は少量で、モミ、トウヒ、コナラ、イヌエンジュ、キハダ、クルミ、カバノキ、カツラ、サクラ、ニンギキ、カエデの各属とツル性植物が認められた。樹皮も5と多く、他に、草本類も少量認められた。

## f 6号土壌

10属中多いものはトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が順に、8、5、5、5であり、その他のタワ、イヌエンジュ、カバノキ、ハンノキ、カエデ、ニワトコの各属は少量であった。樹皮も3とやや多く、草本類も少量認められた。

各土壌間では、トネリコ属の多いもの（1号、6号）、ヤナギ属の多いもの（1号、2号、4号、5号、6号）等、変化に富み、竪穴のバインダー含浸材や覆土材でトネリコ属が多いのとは様相を異にする。また、草本と考えられる炭化物が認められる。

## ④ 炭化物マウンド

本遺構内では、炭化物層も複雑に入り組み、ある樹種では遺構内で偏在する等の傾向が認められるため、1×1mの小グリッドごとにかけて鑑定を行なった。

遺跡内でも最高の20属が認められ、ニレ、ヤナギ、トネリコ、クルミ各属の順に多く、量は、85、78、67、36であった。その他としては、モミ、コナラ、エノキ、タワ、イヌエンジュ、キハダ、ハコヤナギ、アサダ、カバノキ、ハンノキ、カツラ、モクレン、アジサイ、サクラ、カエデ、ニワトコの各属とツル性植物が認められた。遺構内では、北側に偏

に在する樹種(モミ、クルミの各属)、南側に偏在する樹種(エノキ、キハダ、アサダ、ハンノキ、モクレン、アジサイ、カエデの各属)、やや西側に偏在する樹種(コナラ、カツラ、サクラの各属)がある。他に、わずかではあるが草本も認められた。

#### ⑤ 焼土・炭化物

- №16: 全8属。ヤナギ属がやや多い。その他はニレ、エノキ、クワ、トネリコ、クルミ、ハンノキ、ニワトコの各属とツル性植物。
- №18: ヤナギ属が少量。
- №19: 全6属。ニレ属やや多い。その他はヤナギ、クワ、キハダ、トネリコ、ニワトコの各属が少量。
- №21: 全10属。ニレ属やや多い。その他は、イチイ、エノキ、クワ、トネリコ、ヤナギ、カツラ、サクラ、カエデ、ニワトコ、の各属とツル性植物。樹皮も多い。
- №22: ヤナギ属とツル性植物が少量。
- №25: 全7属。量的差異はなく、ニレ、クワ、ヤナギ、クルミ、カバノキ、サクラ、ニワトコの各属。
- №27: コナラ、ヤナギ、サクラ、ニワトコの4属。量的差異はない。
- №30: 全6属。量的差異はない。ニレ、クワ、イヌエンジュ、トネリコ、ヤナギ、カエデの各属。
- №32: ニレ、トネリコ、ヤナギの各属にツル性植物。量的差異はない。
- №37: イヌエンジュ、ヤナギ、ニワトコの3属が少量。
- №38: ヤナギ属が少量。
- №40: ハンノキ属のみ。
- №41: 全6属。ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、カバノキの各属とツル性植物。量的差異はない。
- №43: 全11属。トネリコ属が15と多く、ニレ属も3とやや多い。他は少量で、クワ、キハダ、ニガキ、ヤナギ、クルミ、アサダ、ハンノキ、サクラ、カエデの各属とツル性植物。
- №44: ツル性植物のみであるが、ブドウ属とは、若干異なる。
- №47: 全6属中、ツル性植物が5と多く、他は少量。ニレ、トネリコ、ヤナギ、アサダ、ハンノキ、ニワトコの各属。樹皮も5と多く、草本類も少量。
- №48: ニレ、ヤナギ、クルミ、ニワトコの4属で量的差異はない。
- №49: 全5属中、ニワトコ属が5、ツル性植物も6と多く、コナラ、ヤナギの各属も各々3とやや多い。他にはカエデとアジサイの各属が少量。
- №51: ヤナギ属とツル性植物。
- №52: 全12属中、トネリコ属が15と多く、ニレ、クルミの各属も各々3と多い。他には、ヤナギ属が3、コナラ、カエデ、ニワトコの各属が2とやや多く、トウヒ、クワ、イヌエンジュ、ハンノキ、ニシキギの各属とツル性植物は少量。
- №54: 全6属。ヤナギ属がやや多い。ニレ、クワ、トネリコ、カエデ、ニワトコの各属は少量。
- №58: 全7属。量的差異はない。ニレ、クワ、キハダ、トネリコ、ヤナギ、クルミ、ハンノキの各属とツル性植物。
- №59: 全6属。量的差異はない。ニレ、クワ、トネリコ、クルミ、カバノキ、カエデの各属。
- №60: サクラ属のみ。
- №61: ヤナギ、ニワトコの各属。

- №62：3属のみであるが、トネリコ属が15と多い、他にはニレ、クルミ各属が少量。
- №64：全4属。量的差異はない、ニレ、タワ、イヌエンジュ、ヤナギの各属とツル性植物。
- №65：ニレ、タワ、トネリコ、ヤナギの4属で、量的差異はない。
- №68：全8属中で、ヤナギ属が3とやや多い、その他は少量で、コナラ、ニレ、タワ、イヌエンジュ、トネリコ、ハンノキ、カエデの各属とツル性植物。
- №69：ヤナギ、カエデの各属。
- №70：全10属中、トネリコ属が20と多く、ヤナギ、カエデの両属も5と多い、他は少量で、コナラ、ニレ、エノキ、タワ、イヌエンジュ、カツラ、コウトコの各属とツル性植物。
- №71：ヤナギ属とツル性植物。
- №72：全9属中、トネリコ属が15と多く、クルミ属もやや多い、他は量的差異がなく、タワ、ハコヤナギ、ヤナギ、ハンノキ、カツラ、モクレン、ニワトコの各属とツル性植物。

焼土では、炭化材のない遺構や12属あるものまで、また樹種間で量的差異のないものからかなり大きいものまで、樹種数や個体数が各遺構ごとに多様である。しかし、トネリコ属に関しては若干の傾向が認められる。トネリコ属が他樹種より多い遺構は、№43、52、62、70、72の5地点であるが、それらは全て遺跡の西側に偏在している。また、これら5地点では、№62を除き、全て1地点内で10種以上と樹種数も多い地点である。また、1地点内で1～2属のみと少ないのは、№18、22、38、40、44、51、60、61、69、71の10地点であるが、樹種は、ヤナギ、ハンノキ、サクラ、カエデ、ニワトコの各属とツル性植物のうちいずれかであり、焼土全体としては量的に多く認められたトネリコ、ニレ、クルミの各属を含まないのが特徴である。

Tab.Ⅱ-16においては、各樹種の出土遺構数および各遺構ごとの樹種数も示したが、各樹種の遺跡内での分布の様相をPL-Ⅱ-27～30に示す。

出土遺構数は、検索全47箇所（バインダー含浸材3、浮遊選別材44）中で最も多く認められたのが、ヤナギ属の42箇所であり、以下ニレ属：31、トネリコ属：28等の順であり、最も少ないものは、イチイ属：2、トウヒ属：2、ミズキ属の2箇所であった。

また、各遺構内での樹種数は、ツル性植物を含めて炭化物集積遺構内（炭化物マウンド）での21を最高に、5号土壌：16、2号梁穴住居跡覆土：15、4号土壌：15等で多く、焼土内では全般的に樹種数は少なく、1種のみ遺構が5箇所ある。

以上に樹種鑑定結果の概要を記したが、遺跡全体の炭化材量の樹種別の比較の日安として、検索済炭化材量を多いものから順にTab.Ⅱ-17に示す。

浮遊選別材の重量は、各遺構ごとに無作為抽出し、鑑定を行っていることから、各樹種ごとの炭化材量比較の日安となりうるが、原形での個体数把握の根拠とはならない。例えば、大径材一本と小径材二本では、前者が大量に認められるものの、個体数はあくまで一点である。また、同条件で炭化した場合には、大径材の残存率が明らかに高いものと推定され、また、樹種的にも差があるものと考えられる。従って、個体数が重要な意味を持つ場合には、この種の炭化材量の値は参考とならない。

しかし、本遺跡中の炭化材については、梁穴等の構造材と推定される材についてはバインダー含浸させ個体数が把握されており、その他については、燃料用材が大部分であるものと思われ、利用樹種やその中の主要樹種の概略が分れば十分であるように思われる。

先の例であれば、個体数が仮に少ないにしても、大径材であれば、主要利用樹種と考えて問題ないであろう。

遺跡全体の炭化材量は、多いものから順に、トネリコ、ヤナギ、ニレ、クルミ、カエデの各属でありTab.11-17、中でもトネリコ属は堅穴で特に多く、その他の遺構においても全体的にみれば主要な材である。また、ヤナギ、ニレ、クルミの各属も各遺構で多く、やはり主要樹種といえるであろう。しかし、既述したように、各遺構ごとに利用樹種や主要樹種に違いがみられ、各遺構ごとに検討の要のあることはいうまでもない。また、出土炭化材全量からみれば、堅穴内覆土については全量の約5%、同様に7号では8%、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では9%、掘土では15%を検索したにすぎず、あくまでも一般傾向を把握したにすぎない。

以上の結果を基に、既述の項目別に炭化材について検討を進める。

▶ バインダー含浸材と覆土材

家屋等の構造材の一部と考えられるバインダー含浸材は、堅穴中では、2号で7点中5点、3号で45点中29点がトネリコ属であり、トネリコ属が両堅穴に共通の構造材の主要樹種であるものと考えられる。また、2号堅穴の他2属、ヤナギとクルミは、3号堅穴でも認められており、両堅穴に共通の構造材としては、トネリコ、ヤナギ、クルミの3属が挙げられる。これらの事実からも、両堅穴の家屋建築様式は樹種的な意味で類似しているも

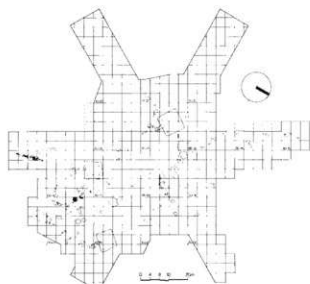
Tab. 11-16 炭化材の樹種

No.	属名	代表的樹種	出土遺構数	2号堅穴住居					3号堅穴住居					土壌			
				バインダー含浸材	覆土	かまど	かまど土	遺物	バインダー含浸材	覆土	1号	2号	3号	4号	5号	6号	
1	イチイ ( <i>Taxus</i> )	イチイ*	2														
2	モミ ( <i>Abies</i> )	トドマツ	4			○					○						
3	トウヒ ( <i>Picea</i> )	アカエゾマツ	2														○
4	コナラ ( <i>Quercus</i> )	ミスナラ	10			○	○										○
5	ニレ ( <i>Ulmus</i> )	ハルニレ	31		○	○	○	○	○(2)	○	○	○(1)	○	○	○	○	○
6	エノキ ( <i>Celtis</i> )	エゾエノキ	6								○						○
7	クワ ( <i>Morus</i> )	ヤマクワ	25			○	○	?	?(1)	○	?						○
8	イヌエンジュ ( <i>Monicia</i> )	イヌエンジュ	11								○						○
9	キハダ ( <i>Phellodendron</i> )	キハダ	12		○				○(3)	○	○	○(1)	?				○
10	ニガキ ( <i>Pterocarya</i> )	ニガキ	3		○												?
11	トネリコ ( <i>Fraxinus</i> )	ヤチダモ	29	○(5)		○	○	○	○(6)	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ハコヤナギ ( <i>Populus</i> )	ドロノキ	5		○	○											○
13	ヤナギ ( <i>Salix</i> )	エゾノカワヤナギ	42	○(1)	○	○	○	○	○(4)	○	○	○(7)	○	○	○	○	○
14	クルミ ( <i>Juglans</i> )	オニグルミ*	21	○(1)	○	○	○	○	○(2)	○	○	○	○	○	○	○	○
15	アサダ ( <i>Ostrya</i> )	アサダ	4														
16	カバノキ ( <i>Betula</i> )	シラカンバ	12		○	○	○		○(3)	?							?
17	ハンノキ ( <i>Alnus</i> )	ハンノキ	16		○	?					○	○		○	○		○
18	カツラ ( <i>Cercidiphyllum</i> )	カツラ*	7					○									?
19	モクレン ( <i>Magnolia</i> )	ホオノキ	5		○	○	○										?
20	アジサイ ( <i>Hydrangea</i> )	ノリウツギ	4		○								○(1)				
21	サクラ ( <i>Prunus</i> )	エゾヤマザクラ	10		○						○						?
22	ニシキギ ( <i>Elaeagnus</i> )	マユミ	6		○	○	○					○					○
23	カエデ ( <i>Acer</i> )	イタヤカエデ	18		○				○(1)	○	○	○	○	○	○	○	○
24	ミズキ ( <i>Cornus</i> )	ミズキ	2		○		○										
25	ニワトコ ( <i>Sambucus</i> )	ニワトコ	20				○										○
26	ワルビ植物 ( <i>Fritia</i> 等)	ヤマブドウ等	24				○	○									○
樹種数				3	15	12	14	3	8	13	13	4	7	16	16	10	

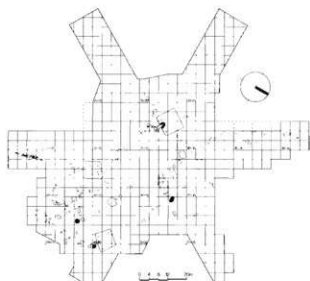
注1. バインダー含浸材には(●)内に点数表示をした。  
 2. ?はやや不確実なもの  
 3. 種名が同定されたものには●印



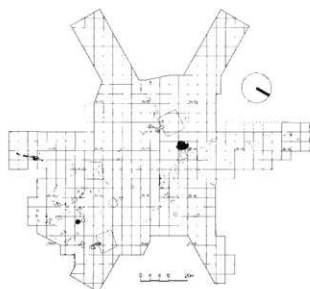
PL. Ⅱ-27 炭化材の樹種別分布①



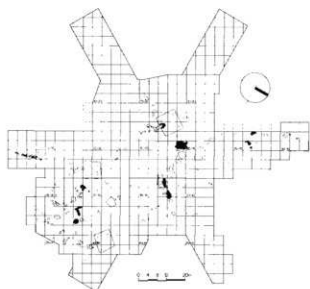
1 イチイ



2 モミ属 (トドマツ等)



3 トウヒ属 (アカエゾマツ等)



4 コナラ属 (ミズナラ等)



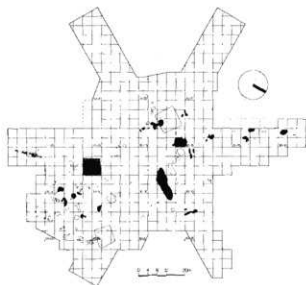
5 ニレ属 (ハルニレ等)



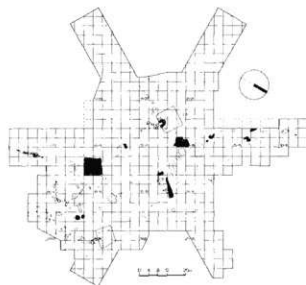
6 エノキ属 (エゾノキ等)

[注: ミズキは、HP(欄土中およびカド)まわりの認められたが図からは削除した]

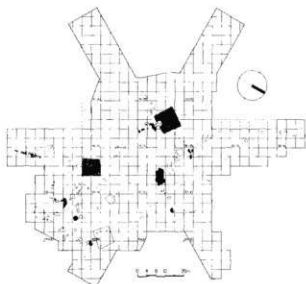
## PL. ①-28 炭化材の樹種別分布②



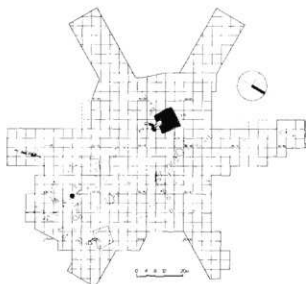
7 クワ属 (ヤマダケ等)



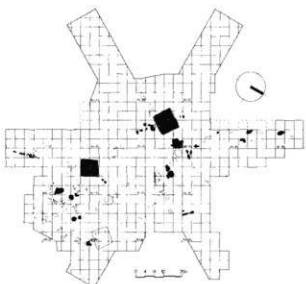
8 イヌエンジュ



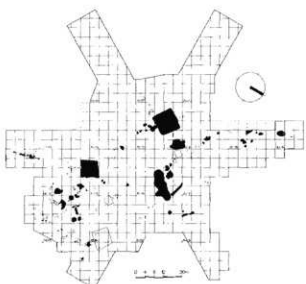
9 キハダ属 (キハダ等)



10 ニガキ

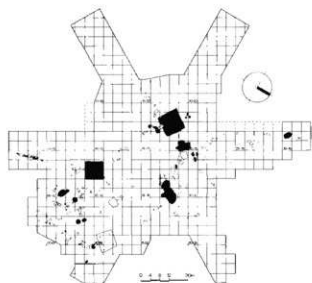


11 トネリコ属 (ヤナダケ等)

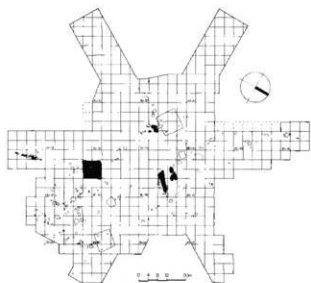


12 ヤナキ科 (ドロノキ、エゾノカワヤナギ等)

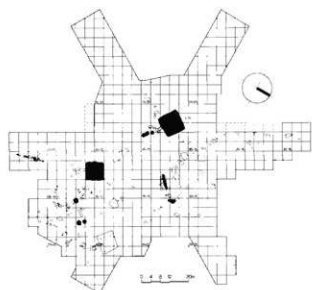
PL. Ⅱ-29 炭化材の棲種別分布③



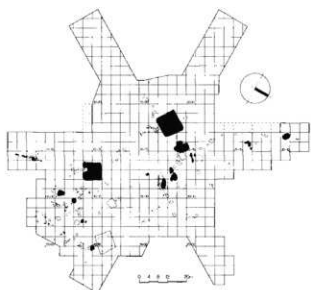
13 オニグルミ



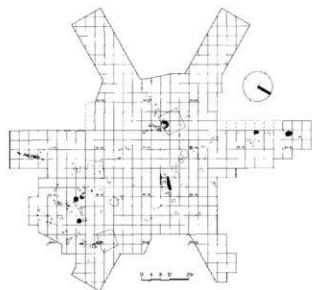
14 アサダ



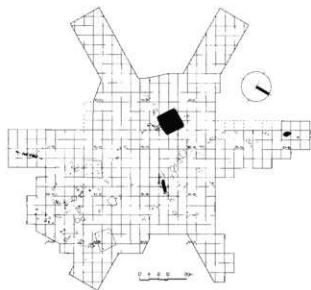
15 カバノキ属 (シラカンバ等)



16 ハノノキ属 (ハンノキ等)



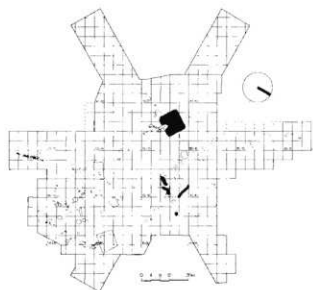
17 カツラ



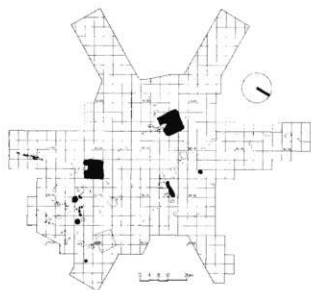
18 モクレン属 (ホコノキ等)



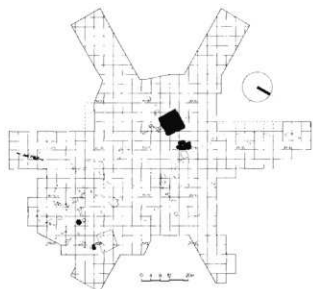
## PL. ①-30 炭化材の樹種別分布④



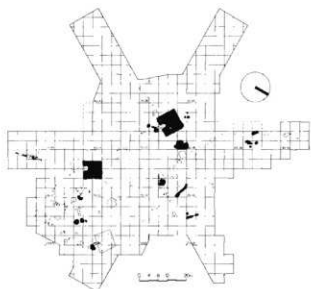
19 アジサイ属 (ノリウツギ等)



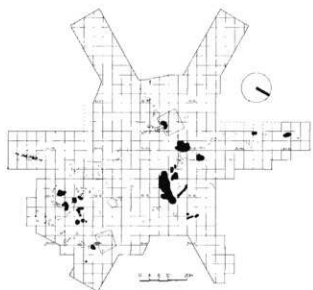
20 サクラ属 (エゾヤマザクラ等)



21 ニシキ属 (ノニミ等)



22 カエズ属 (イタマカヒダ等)



23 ニワトコ属 (エゾニワトコ等)



24 ツル性植物 (マツドク等)

ユエも多いことから、2号竪穴においてもそれらが構造材として使用されていた可能性が強いように思われる。これからの事実からみれば両竪穴の家屋建築様式は、樹種的には類似し、構造材としてはトネリコ属が大部分を占め、補助的にニレ、クワ、キハダ、クルミ、カバノキ、カユエの各属が使用されていたものと推定される。覆土中のその他の樹種も構造材として利用されていた可能性があるが、量的にも少なく、道具や新材である可能性の方がより高いように思われる。

竪穴ではトネリコ属材が主要樹種であるのに対して、2号土塚ではバインダー含浸材10点中7点がヤナギ属と、竪穴とはやや異なる樹種選択であり、やや異なる性質の構造物であったかもしれない。しかし、2号土塚中のニレ、キハダ、ヤナギの各属は3号竪穴の構造材としても認められており、主要樹種は異なっている、全く異なる樹種が利用されているわけではない。2号土塚中で認められたアジサイ属はノリウツギと推定されるが、小径体であり、道具類の一部と考えられる。これはテシ中で認められたヤス・中柄と同一樹種であり興味深い。

バインダー含浸材が構造材であるものとの前提で考察してきたが、テシとその周辺から出土した材と比較するならば、さらに興味深い事実が認められる。テシ中の割材の属材はトネリコ属であり、その上流部から出土した割材はキハダ属であった。これら2属の個体は当時の家屋構造材の一部と考えて問題ないものと思われ、これらが3号竪穴の構造材と一致することは、テシと周辺部竪穴との関係を知る上で大きくなっていくように思われる。

#### ▶カマド材、カマドまわり材、煙道材

カマド材は燃料用材と考えられるが、12属中でトネリコ属がやや多い程度で、樹種ごとの量的差は少なく、針葉樹、広葉樹等幅広く利用していたものと考えられる。多くの場合、年輪の曲率からみて枝材が多く、比較的出土地点数の少ない樹種（モミ、コナラ、モクレン、ニシキギの各属）をも含むのが特徴である。また、流土中で頻りに認められるニワトコ属、ツル性植物を含まないのも特徴的である。

カマド材は、ある程度炭化し燃え残りが蓄積された時点で竪穴外へ捨てられたであろうが、場所としては、全12属中11属を共有する炭化物集積遺構（炭化物マウンド）の可能性が高いかもしれない。

カマドまわり材は、13属と多いが、トネリコ属材が極端に多いのは、覆土材の一部が混入したのかもしれない。ツル性植物が多いのは、カマド材の一部とも考えられず、用途は不明である。

煙道では殆ど炭化材は認められない。

#### ▶土塚材

土塚材は各遺構ごとで構成樹種も異なり、また主要樹種も異なるなど変化に富み、各遺構の性格付けを木材からの情報だけで行なうのは困難である。しかし、4号と6号では、量的にトネリコ、ニレ、クルミ、ヤナギの各属が多く、炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似している。また、1号と5号では、トネリコ、ヤナギ、ニワトコが量的に多い点、さらに出土地点数の少ないモミ、ニシキギの各属を含む等の点においては、類似している。2号と3号は、樹種数も少なく、他とはやや性格の異なる遺構のようである。

#### ▶炭化物集積遺構（炭化物マウンド）

炭化物集積遺構（炭化物マウンド）では、小グリッドごとの検索により、遺構内で分布

傾向の異なる樹種が認められたが、それらは特に他の遺構との関係を示すものではない。炭化材全体で全25属のうち他遺構にあって本遺構にないものは、イチイ、トウヒ、ニガキ、ニシキギ、ミズキの5属であり、全て出土遺構数の少ない樹種である。炭化材量や樹種数が多い点において本遺構は遺跡中でもかなり重要な意味を持つ遺構であろうが、樹種的には他の全ての遺構のそれをカバーしてしまうため逆に他遺構との関連性について言及するのが困難である。既述したように、主要樹種は堅穴の構造材とはやや異なっており、燃料用材を代表する遺構であるといえるかもしれない。

#### ▶ 焼土・炭化物

焼土は既述したように、各遺構ごとで樹種構成等が多様であるが、№16、43、52、58の4地点では、トネリコ、ヤナギ、ニレ、クルミの4属を全て含む点において焼土以外の他の遺構と類似している。中でも№52は、これら4樹種が量的に多く、堅穴内覆土や炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似しているが、コナラ、ニワトコの各属やツル性植物を含む等の点においてはむしろ後者と類似している。

先のバインダー・含浸材樹種をとりあげると、焼土中においては、ヤナギ、ニレ、トネリコ、タワの各属が29～16地点と広く認められかつ量的にもやや多い地点がかなりあるが、カエデ、クルミ、キハダ、カバノキの各属は10～3地点と少ない。また、後4者のうち焼土中で量的に多いものは、№52でのクルミのみである。№52が炭化物集積遺構（炭化物マウンド）と類似し、単なる焼土とは性格を異にする可能性が強いことをからみれば、前4者（ヤナギ、ニレ、トネリコ、タワ）は、構造材、かまど用燃料材、たき火用材として幅広く利用されていたのに対して、後4者（カエデ、クルミ、キハダ、カバノキ）は構造材やかまど用燃料材として一部利用はされているものの、単なるたき火用材としてはほとんど用いられていなかったのかもしれない。それらに対して、ニワトコ属やツル性植物は出土地点数も多く、量的にも多い地点がある等たき火用材としては、かなり手軽に用いられていたのかもしれない。

炭化材についての分析結果をのべてきたが、炭化材は樹種数も多いことから遺構間で完全に樹種が一致する場合は少なく、遺構間の関連性等について樹種鑑定結果のみから言及するのは困難である。したがって、Tab. 16や同17等から気の付く点について羅列してきたが、これらについては他の遺物と照らし合わせてさらに検討していく必要がある。しかしいくつかの点においては、明らかに樹種的な特徴を示すものと思われ、それらは以下のように要約されるであろう。

- ① 堅穴構造材は、トネリコ属が主要利用樹種であり、補助的に他樹種が用いられ、それらはニレ、タワ、キハダ、ヤナギ、クルミ、カバノキ、カエデの各属である。
- ② 堅穴以外の遺構における構造材の使用例としては1例認められ、ヤナギ属が主要利用樹種であり、他にニレ、キハダの各属も使用されている。
- ③ 各遺構ごとに主要樹種は異っていても、構造材としては上記のいずれかが使用されている。
- ④ 構造材として使用されている樹種の中で、他にも燃料用材やたき火用材として大量に使用されているものには、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属がある。
- ⑤ 構造材として補助的に使用されていた樹種の中でもキハダ、カバノキの各属は、焼土中には少なく、たき火用材としての使用は少ない。
- ⑥ かまど用燃料材の中で7属（モミ、コナラ、ハコヤナギ、カバノキ、ハンノキ、モクレン、ニシキギ）は焼土中には極めて少なく、同じ燃料材でも樹種構成はかなり異なる。しかし、ニレ、トネリコ、ヤナギの各属は、両者で共通に使用されている。

- ⑦ 炭化材として幅広く使用されている3属（ニレ、トネリコ、ヤナギ）は、テシ中の基本骨格構造材の構成樹種であり、また、堅穴構造材の主要樹種であるトネリコ属は、テシ中においても骨格構造材の主要樹種である。

以上結果に加えて、炭化材の組織構造観察から得られた若干の知見についておのべる。炭化材をSEMにより観察した所、組織中には腐朽菌の菌糸や腐朽劣化跡、また泥状物質の沈着がしばしば認められた。これらは、一部の木材が、風倒や伐倒等の後に、かなりの時間放置されていたことや、河川流木であったことを示すものと考えられる。泥状物質の沈着は、炭化後の埋没中にも起こりうるであろうが、菌糸が炭化以前に繁殖していたことは確実である。PL-III-31の1と2には、モミ属とサクラ属の炭化材中における菌糸を、同の3にはコナラ属の小道管の腐朽がかなり進んだ例を示す。

樹種的には、針葉樹や広葉樹等にかかわらず菌糸が認められるが、バインダー含浸材や堅穴覆土中のトネリコ属材では菌糸侵入や腐朽の例は少なく、かなり良質の木材を使用していたものと推定される。それに対して焼土中の木材では、菌糸侵入の例は多い。しかし、同3に示したような顕著な腐朽の例は少なく、少なくとも河川流木のような木材の使用は少なかったものと思われる。また、構造材については、家屋建立後に長年を経たものならば環境条件によっては木材は腐朽劣化するものと考えられるが、それも少ないようであり、建立後さほど老朽化しない状態のまま火災にあったものと考えられる。

枯枝等に時間的にどの程度菌糸が侵入するかについての報告は少なく、明確な判断はできないが、木材腐朽菌は一般的にさほど高温、多湿でなくとも繁殖することが知られている。1や2に示した程度の菌糸侵入は、外観的に異常が認められない木材においてもみられる例であり、これらはかなり腐朽が激しい例といえ、流木等かもしれない。

従って、本遺跡中の燃料用材は、外見上では少なくとも腐朽がわからない程度の材を利用していたものと考えられ、流木等は少なかったものと推定される。それは、テシの自然流木中で、ハンノキ属個体が多数みられるのにもかかわらず、炭化材はさほどの量ではないことも一致している。構造材としては伐倒後の良材を、燃料用材としてはそれらの枝材に加えて枯枝や枯れた低木等を利用していたのではなからうか。

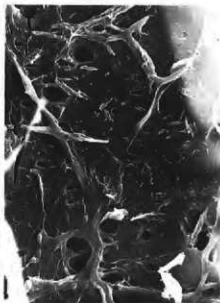
PL-III-31 炭化材中の木材腐朽菌



1 モミ属炭化材の環道管中の菌糸(×11,450)



2 サクラ属炭化材の道管中の菌糸(×2,820)



3 コナラ属炭化材の小道管内面側の腐朽状態(×1,140)

また、カマドや焼土の燃料用材では、枝材が多いことについては、それらの採取が容易であったことに加えて、木材の乾燥にも関係していたものと考えられる。例えば、頻繁に使用されているニレ属やトネリコ属でハルニレやヤチダモを利用していたとすれば、それらが多湿心材をもち心材部では伐倒後にもかなりの水分を含んでいることからみて大径木の伐倒直後の使用は困難であり、心材部が少なく乾燥しやすい枝を利用していただろう。

## ② 樹種同定の根拠, 写真の説明

サクジュコトニ川遺跡においては、テシの木材と竈穴、土壇、焼土、炭化物集積遺構の炭化材について樹種鑑定を行ない、前者では19科24属、後者では20科25属、全22科28属を同定した。それらの一覧表をTab. ⑩-18に示し、以下にはそれらの同定の根拠、および鑑定結果の写真を示す。なお、同定にあたっては、既往の報告 (Ohtani & Ishida 1976, 1978 a, 1978 b, 島地, 伊東 1982) および手持の材鑑と比較検討し、鑑定を行なった。

以下の樹種説明および写真の配列は、針葉樹、広葉樹の環孔材・散孔材、同定できなかったもの順とし、それらの中で配列順序や学名は、大井次三郎の日本植物誌 (大井 1978) に従った。テン木材の写真番号はアラビア数字で、炭化木材のそれは算用数字で表示してある。1組の写真 (例えば 1a, 1b, 1c) では大部分のものについては木口面、板目面、らせん壁厚等の特徴的な細胞壁変異の微細形態の順に配列しており、それらは全て同一個体の試料から得たものである。中には各樹種の典型的な組織・構造特徴を示さない写真もあるが、それは、枝やこぶ等のやや一般組織と異なるものが含まれていたり、腐朽等の影響により多少細胞壁形態が変化している場合があることによる。サクジュコトニ川遺跡から出土した木材の樹種同定の根拠、組織・構造の特徴は以下のとおりである。

### 1 イチイ (*Taxus cuspidata* Sieb. et Zucc.) [PL. ⑩-348, PL. ⑩-360]

材は仮道管と放射系細胞からなり (Ia, 1a), 分野壁孔はヒノキ型とトウヒ型の間である (Ib, 1b)。仮道管の内壁にはらせん壁厚が常に存在する (Ic, 1c)。1bの左側の仮道管内壁には菌糸が認められる。

### 2 モミ属 (*Abies*) [PL. ⑩-348, PL. ⑩-360]

材は仮道管と放射系細胞からなり (IIa, 2a)、晩材部の幅は狭い。分野壁孔は典型的なスギ型であり (IIb, 2b)、仮道管内壁にはいぼ状層が存在する (IIc, 2c)、放射系細胞の壁は厚く、じゅう状末端端壁を有する。トドマツ (*Abies sachalinensis* (Fr. Schm.) Masters) と推定される。

### 3 トウヒ属 (*Picea*) [PL. ⑩-348, PL. ⑩-360]

材は仮道管、放射系細胞、放射仮道管およびエビセリウム細胞からなり (IIIa, 3a)、分野壁孔はトウヒ型である (IIIb, 3b)。板目面では、水平樹脂道を含む紡錘形の放射組織がみられる (IIIc, 3c)。アカエゾマツ又はエゾマツと推定されるが、大量に出土した球果はアカエゾマツが大部分を占めており、アカエゾマツ (*Picea glehnii* (Fr. Schm.) Masters) の可能性が高い。

### 4 コナラ属 (*Quercus*) [PL. ⑩-349, PL. ⑩-361]

環孔材であるが、孔圏外の道管は急に大きさに減じ、やや放射状に配列する (IVa, 4a)。孔

樹部の大血管にはチャロースが認められる(Va)。放射組織は、単列および放射組織のみからなり(Vb,4b)、中間形ものは存在しない。ミズナラやコナラ等が推定されるが、孔圏外小血管が接線方向にかなり大きな幅で配列するものも認められ、カシワも存在するものと推定される。なお、Ohtaniによれば、ミズナラ小血管には特異的肥厚(Localized thickenings)が認められるとの報告(Ohtani&Ishida 1978b)があるが、その確認はできなかった。

#### 5 ニレ属(*Ulmus*) [PL図-349, PL図-361]

環孔材であり、孔圏外では多数の小血管が接合して複合管孔を形成し、接線方向にかなり規則的に配列する(Va, 5a)。放射組織は1~6細胞幅で、同性である(Vb, 5b)。小血管の内壁にはらせん肥厚が存在する(Vc, 5c)。ハルニレ又はオシショウと推定される。

#### 6 エノキ属(*Celtis*) [PL図-349, PL図-361]

環孔材で、孔圏外の小血管は多数集まって円形等のやや不規則な集団管孔をなす(Va, 6a)。

放射組織は1~2細胞幅の小型のものと7~10細胞幅の大型のものがあり、中間のものはない(Vb, 6b)。板目面では放射組織が異性であることは確認しづらいが、6bの左上の放射組織の下側では方形細胞が認められる。本属では樹脂細胞の存在が特徴的であることが知られているが、本検体ではその確認が困難であった。小血管には、常に顕著ならせん肥厚が存在している(Vc, 6c)。エゾエノキ(*Celtis jessoensis* Koidz.)と推定される。

#### 7 クワ属(*Morus*) [PL図-350, PL図-362]

環孔材で、孔圏部では2~3個の道管が複合し、孔圏外では小血管が複合して円形状をなす(VIIa, 7a)。道管内にはチャロースが認められ(VIIa, 7a, 7b)、放射組織は1~6細胞幅で異性である(VIIb, 7b)。小血管のらせん肥厚は一般的に走行方向が不規則なものが多いが、VIIcと7cではかなり規則的である。炭化材検体についてはヤマグワ(*Morus bombycis* Koidz.)と推定され、全く問題がないが、テシの検体についてはややらせん肥厚が規則的すぎ、他属樹種である可能性も否定できない。

#### 8 イヌエンジュ属(*Maackia*) [PL図-350, PL図-362]

環孔材であるが、孔圏部から孔圏外への道管の大きさの移行はゆるやかであり、年輪界付近には小血管の集団管孔の不規則な配列がみられる(VIIIa, 8a)。放射組織は1~8細胞幅で同性であり(VIIIb)。板目面では小血管が層状配列をなすことがわかる(8b)。小血管には顕著ならせん肥厚が認められ(8b, 8c)、マメ科等の特有のベスチャード嚙孔が認められる(VIIIc, 8c)。イヌエンジュ(*Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. var. *huoegeri* (Maxim.) C. K. Schm.)と推定される。

#### 9 キハダ属(*Phellodendron*) [PL図-350, PL図-362]

環孔材であり、孔圏部では大血管が2~3個接して存在する(Ka, 9a)。放射組織は、1~4細胞幅で同性であり(Kb, 9b)。小血管には顕著ならせん肥厚が認められる(9c)。また、大血管にも不規則ではあるがらせん肥厚が存在する(Kc)。キハダやヒロハノキハダ等と推定される。写真Kaと9aとは、同属であるにもかかわらず木口面の形状がかなり異なって見える。

10 ニガキ(*Picrasma quassioides* (D. Don) Benn.) (PL.2-363)

環孔材であり、孔周部道管は大きく、孔周外では急激に大きさを減じる(10a)、放射組織は1~5細胞幅であるが、高さは4から時には20細胞高と不揃いで異性である(10b)。道管にらせん肥厚は存在しない。

11 ハリギリ(*Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai) (PL.2-351)

環孔材であり、孔周部道管は1列であり、孔周外では小道管が多数接合し複合管孔を形成し斜線状に配列する(Xa)。放射組織は4~6細胞幅で異性である(Xb)。道管にらせん肥厚は存在しない。

12 トネリコ属(*Fraxinus*) (PL.2-351, PL.2-363)

環孔材であり、孔周部道管は大きく、孔周外では急激に大きさを減じかつ2~3個が半径方向に複合する(Xa, 11a)。放射組織は1~4細胞幅で、高さも10細胞高程度で比較的均一であり同性である(Xb, 11b)。道管壁にらせん肥厚は存在しない。ヤチダモやアオダモ等が推定される。

13 ハコヤナギ属(*Populus*) (PL.2-351, PL.2-363)

散孔材であり、道管の多くは2~4個の複合管孔を形成し(XIa, 12a)、全て単せん孔をもち、らせん肥厚は存在しない。写真12aではビスフレックスが認められる。放射組織は単列でかつ同性である(XIb, 12b)。ドロノキ(ドロヤナギ)やヤマナラシ等が推定される。

14 ヤナギ属(*Salix*) (PL.2-352, PL.2-364)

散孔材であり、道管は2~3個の複合道管を時々形成する(XIIIa, 13a)。また、全ての道管要素が単せん孔を持ち、らせん肥厚は存在しない。放射組織は単列でかつ異性である(XIIIb, 13b)。エゾノカワヤナギ、オノエヤナギ、バッコヤナギ、エゾノバッコヤナギ等が推定される。

15 オニグルミ(*Juglans ailanthifolia* Carr.) (PL.2-352, PL.2-364)

散孔材であり、大型の道管が単独又は2~3個が複合して存在し(XIVa, 14a)、チロースを含むことが多い(14a, 14b)。また、道管要素は単せん孔をもちらせん肥厚は存在しない。放射組織は1~4細胞幅であり、一般的には同性である(XIVb, 14b)。本種やサツグルミ属の特徴である、木口面で見られる柔細胞の接線方向への配列(XIVa)は、炭化材のSEM観察では認めにくい。

16 アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.) (PL.2-364)

散孔材で、比較的大型の道管が2~3個放射方向に複合し、年輪の外境付近では大きさを減じ、かつ3~8個放射方向に複合する(15a)。放射組織は1~3細胞幅であり、また20細胞高になる場合も多く同性である(15b)。道管要素は全て単せん孔をもつが、稀には特異な形状のものもあり、分布密度や走行方向が不規則ならせん肥厚をもつことが多い(15c)。

17 カバノキ属(*Betula*) (PL.2-332, PL.2-365)

散孔材で、道管は2~5個主として放射方向に複合し(XVa, 16a)、全ての道管要素は階段せん孔をもつ(XVb, c, 16b)。放射組織は1~4細胞幅で、同性である(XVb, 16b)。

また、写真16cでは、本属特有の道管相互間の壁孔が認められる。シラカンバやウダイコンバ等が推定される。

#### 18 ハンノキ属(*Alnus*) [PL.図-353, PL.図-361]

散孔材で、道管は2～5個が主として放射方向に複合する(XMa,17a)、放射組織は単列かつ同性であり(17b)、集合放射組織を形成する(XMb)、全ての道管要素は階段せん孔をもち(XMc,17c)、らせん肥厚は存在しない。ハンノキ、ケヤマハンノキ等が推定される。

#### 19 カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb.et Zucc.) [PL.図-353, PL.図-365]

散孔材であり、大部分の道管は複合せず単独で分布するが、道管の数は極めて多く年輪全体を通じて平等に分布する(XVla,18a)、放射組織は1～2細胞幅であり異性である(XVlb,18b)、全ての道管要素は階段せん孔をもち、Barの数も1せん孔につき20本以上と多い(XVlc,18c)、また、らせん肥厚は存在しない。

#### 20 モクレン属(*Magnolia*) [PL.図-353, PL.図-366]

散孔材であり、単独あるいは2～数個主として放射方向に複合した道管が平等に分布する(XVla,19a)、放射組織は1～2細胞幅であり異性であるが(XVlb,19b)、板目面では判別しにくい、多くの道管要素は単せん孔を持ち(XVlc)、階段壁孔(19c)およびらせん肥厚を持つ。ホノノキは隔壁木繊維を持つことが大きな特徴であるが、炭化材では確認しにくい、ホノノキ、コブシ等が推定される。

#### 21 アジサイ属(*Hydrangea*) [PL.図-354, PL.図-366]

散孔材であり、道管が単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布し、木口面では柔細胞が放射方向へと連続して認められるのが特徴である(XKa,20)、放射組織は多くの場合2～3細胞幅であり、板目面では上下方向で柔細胞と覆っている(XXb,20b)が、高さは3～5細胞高と低い、全ての道管要素は階段せん孔を持つ(20c)、らせん肥厚は稀に道管要素の一部に認められることが報告されている(Ohtani&Ishida 1978b)、本検体ではその存在は確認されなかった。材鑑標本および現生木から採取した標本と比較してノリウツギと一致することから、ノリウツギ(*Hydrangea paniculata* Siebold)と推定したが、アジサイ属の他樹種である可能性も否定できない。

#### 22 サクラ属(*Prunus*) [PL.図-366]

散孔材であり、道管は単独あるいは2～3個複合して年輪内に平等に分布する(21a)、放射組織は1～4細胞幅であり、20細胞高以上に達する場合が多く(21b)、異性であるが、板目面では判別しにくい、全ての道管要素は単せん孔を持ち、また幅の小さいらせん肥厚をもつ(21c)が枝分れするらせん肥厚は少ない、エゾヤマザクラ、ミヤマザクラ、シウリザクラ、ウツミズザクラ等が推定される。

#### 23 ニシキギ属(*Eunonymus*) [PL.図-367]

散孔材であり、極めて径の小さい道管が年輪内に平等に分布する(22a)、放射組織は単列かつ同性である(22b)、全ての道管要素は単せん孔を持ち、かつ、らせん肥厚を持つ(22c)、また、本属では木部繊維にもらせん肥厚を持つ(22b)ことが大きな特徴である。ニシキギ、マユミ、ツリバナ等が推定される。



24 カエデ属(*Acer*) [PL.図-354, PL.図-367]

散孔材であり、単独あるいは放射方向に数個複合した道管が均等に分布するが、道管数は比較的少ない(XXa, 23a)。放射組織は1~5細胞幅であり同性である(XXb, 23b)。道管要素は全て単せん孔を持ち、かつ比較的不規則ならせん肥厚を持つ(XXc, 23c)。本標体のらせん肥厚は階級線が長いことから、それが短いヤマキミジ等よりもイタヤカエデに近いものと推定される。しかし、カエデ属では、本道での自生種が多種に及ぶことが知られており、ハウチワカエデ、ヤマキミジ、イタヤカエデ、アカイタヤ等が推定されるもの、樹種の特定はできない。

25 シナノキ属(*Tilia*) [PL.図-354]

散孔材であり、多くの場合道管は2~5個接合して複合管孔を形成する。(XXIa)。また、柔細胞が短接線状に並ぶことが多い(XXIa)。放射組織は1~4細胞幅であり同性である(XXIb)。道管要素は単せん孔を持ち、顕著ならせん肥厚を持つ(XXIc)。シナノキまたはオオバボダイジュであるものと推定される。

26 ミズキ属(*Cornus*) [PL.図-355, PL.図-367]

散孔材であり、道管は単独あるいは放射方向に数個複合して均等に分布する(XXIIa, 24a)。放射組織は1~4細胞幅で上下両端部付近に直立細胞が多く、異性である。(XXIIb, 24b)。道管要素は全て階段せん孔を持ち(24c)、らせん肥厚は存在しない。本属は、エゴノキ属やリョウブ属と組織が類似しているが、前者は複合道管が極めて多い点、後者は道管内での特異的肥厚を持つ点で区別できる。ミズキ(*Cornus controversa* Hemsley)であるものと推定される。

27 ハシドイ属(*Syringa*) [PL.図-355]

散孔材であり、多くの道管は複合道管を形成する(XXIIIa)。放射組織は1~2細胞幅であり、同性である(XXIIIb)。全ての道管要素は単せん孔を持ち、2本の対をなすらせん肥厚を持つ(XXIIIc)ことが大きな特徴である。ハシドイ(*Syringa reticulata* (Blume) Hara)であるものと推定される。

28 ニワトコ属(*Sambucus*) [PL.図-355, PL.図-368]

散孔材であり、道管は複合道管を多く形成し(XXIVa, 25a)、紋様状に配列することもある。放射組織は1~4細胞幅であり、異性である(XXIVb, 25b)。道管要素は多くの場合単せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形状を示す場合がある(XXIVb, 25b)。道管要素は多くの場合単せん孔を持つが(25b)、稀に、多孔せん孔様の形状を示す場合がある(XXIVe, 25c)。ニワトコまたはエゾニワトコであるものと推定される。

29 ツル性植物(ブドウ属:*Vitis*, ノブドウ属:*Ampelopsis*, 等) [PL.図 356, PL.図-368]

木口面では、極めて径の大きい道管が不規則に分布しているのが認められ(XXVa, 26a)、放射組織も10細胞幅以上で100細胞高以上に達し(XXVb, 26b)、樹木の一般木部組織とは大きく異なっている。また、道管には、階段壁孔状の構造がみられる。

ツル性植物には数多くの種類があり、その組織構造に関する報告がほとんどないため断定はできないが、現生ヤマブドウのツルを観察したところ、本標体とは組織が極めて類似していた。したがってヤマブドウ(*Vitis coignetiae* Pulliat)と推定したが、炭化種子では、マタタビまたはコタリ(*Actinidia* sp.)と推定されるものも出土しており、ノブドウ属も含めて多種の可能性も否定できない。そのため、ここでは、一括してツル性植物とし

て扱った。XXIのa,bも写真XXVや26と組織が類似しているが、道管の配列状態や階段壁孔状の構造物のBarの数が少ない等々異なるため、写真を提示した。

以下には、不確実なものや同定できないものについて、テン、炭化材の順に記す。

### 30 不明1(ブナ科?) (PL図-356)

材は放射孔材であり、道管は年輪に関係なく放射方向に配列する(XXVIIa)。放射組織は、同性で、大部分が単列であるが、稀に2~3細胞幅のものも存在する(XXVIIb)。本検体は、クリ属、シイノキ属や常緑カン類と組織が類似しているが、同定はできなかった。

### 31 不明2(ウルシ属?) (PL図-357, PL図-368)

材は環孔材であり(XXIIIa)、道管にはチロースを含む。放射組織は1~3細胞幅であり、異性である(XXIIIb)。本検体は、放射組織の多列部が平伏細胞からなり、単列部が直立細胞からなることから、ウルシ属(*Rhus*)と推定されたが、ウルシ属特有のらせん肥厚がSEM観察でも確認できなかったことから不明樹種とした。しかし、本検体は自然流木で、細胞壁の劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を得なかった可能性が強く、ウルシ属である可能性がかなり強いように思われる。

### 32 不明3(PL図-357)

広葉樹材で道管配列は半環孔状であり(XXIa)、放射組織は1~5細胞幅で異性である(XXIb)。また、道管には、比較的規則的ならせん肥厚が存在する(XXXc)。樹種の特定はできなかった。

### 33 不明4(コシアブラ?) (PL図-357)

散孔材であり(XXXa)、年輪界に接する部分で道管は環孔状に配列する。放射組織は1~3細胞幅であり、上下部には方形細胞を含む(XXXb)。道管要素は全て単せん孔を持ち、らせん肥厚は持たない。本検体は道管がやや半環孔状に並ぶことなど、ワコギ属(*Acanthopanax*)のコシアブラに類似しているが、断定はできない。

### 34 不明5(クマシゲ属?) (PL図-358)

放射孔材であり(XXIIa)、放射組織は1~3細胞幅で異性である(XXIIb)。道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、道管配列や階段せん孔を持つことから、クマシゲ属またはハンパミ属と推定はされるが、典型的な集合放射組織が確認できず、少なくともハンパミ属とは考えにくい。また、クマシゲ属の可能性は高いものの、本検体ではらせん肥厚を確認できなかった。本検体も細胞壁劣化が著しく、そのためにらせん肥厚を認め得なかったものと思われ、クマシゲ属(サワシバ等)と推定されるものの断定はできない。

### 35 不明6(クマシゲ属?) (PL図-358)

放射孔材であり(XXIIa)、放射組織は1~2細胞幅で異性である(XXIIb)。道管要素は階段せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。写真XXXの検体と組織は類似しているが、道管数が極めて少なく、やや放射組織幅が狭い。本検体もクマシゲ属であるものと推定されるが断定はできない。

### 36 不明7(ニレ科?) (PL図-358)

散孔材であり、道管数は少なく、放射方向に複合する場合が多い(XXXIIIa)。また、道

管にはチロースを含む。放射組織は1~5細胞幅であり、異性である(XXXIII b)。道管要素は単せん孔を持ち、顕著ならせん肥厚を持つ(XXXIII c)。ニレ科のムクノキに組織は類似しているが、同定はできなかった。

#### 37 不明8(ナナカマド属?, リンゴ属?) (PL図-359)

散孔材であり、道管は、単独または2~3個接合し(XXXIV a)、放射組織は1~2細胞幅で同性である(XXXIV b)。道管要素は、単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められない。本検体は、ナナカマド属やリンゴ属と類似しているが、前者では特有のZ-helixのらせん肥厚の存在が知られており、後者でもらせん肥厚の存在が知られている。本検体は、自然流木であり、細胞壁の劣化が著しくらせん肥厚の確認が困難であったものと推定されいづれかの属であるものと考えられるが、特定はできない。

#### 38 不明9(ナナカマド属?, リンゴ属?) (PL図-359)

本検体も組織は写真XXXVの検体と類似しているが、やや道管数も少なく(XXXV a)、放射組織も2列細胞幅のものが多く(XXXV b)。その他の点では37の検体と同様であり、ナナカマド属またはリンゴ属と推定されるが特定はできない。

#### 39 不明10 (PL図-359)

散孔材であり、道管数は少なく、単独で散在している(XXXVI a)。放射組織は1~2細胞幅であり、異性である(XXXVI b)。道管要素は単せん孔を持ち、らせん肥厚は認められなかった。本検体は、細胞壁劣化が著しく、樹種特定ができなかった。

#### 40 不明11 (PL図-368)

広葉樹材であり、道管は半環孔状に配列し(27a)、大道管が時折複合して分布する。放射組織は1~7細胞幅で異性である(27b)。道管要素は単せん孔を持ち、比較的規則的に配向するらせん肥厚を持つ(27c)。一般的に環孔材ではあっても小枝や髓付近では、道管が典型的な環孔状配列をしないことは良く知られているが、仮に本検体が環孔材であるならば、ウルシ属(*Rhus*)の可能性が高いかもしれない。

#### 41 不明12 (PL図-369)

径1cm程の小棒状炭化物で髄は空洞である(28a)。横断面では、維管束形成層と推定される構造が不規則に並んでおり(28b)、縦断面では、道管や柔細胞が認められる(28c)。単子葉植物であろうと推定されるが、同定はできなかった。

#### 42 不明13 (PL図-369)

横断面では、写真28の検体と類似した構造が認められる(29a)。拡大像が29bであるが、この種の維管束配列は、ササ属(*Sasa*)にも類似しているように思われるが、同定はできなかった。

#### 43 不明14 (PL図-369)

径5mm程の小棒状炭化物で、髄は空洞である。横断面では径の揃った細胞が認められる(30a)。縦断面でも、比較的大きさの揃った細胞が認められ(30b)、写真28や29の検体とは組織がかなり違っている。同定はできなかったが、参考資料として提示した。

以上の不明樹種の中で、ウルシ属(写真XXXIII)、ウコギ属・コシアブラ(写真XXXI)、タマシダ属(写真XXXII)の3属については、細胞壁変異の観察が十分に行なえなかったことから不明樹種としたが、他に該当樹種もなく、おそらく同定には問題がないように思われる。また、ナナカマド属とリンゴ属(写真XXXIV, XXXV)については、前者では少数であるが知られている多孔せん孔が認められないことから、ややリンゴ属の可能性が強いように思われる。これらの代表樹種は、ウルシ属：ヤマウルシ、ヌルズ等、タマシダ属：サワシバ、リンゴ属：エゾノコリンゴ、ズミ等であろう。

以上の樹種鑑定にあたっては、テン材、炭化材にかかわらず、SEM観察が極めて有効であった。出土木材は枝材等が多く、光学顕微鏡による一般組織の観察のみでは同定が難しい場合が多々あったが、細胞壁変異の観察によりかなり確実な同定を行なうことができる。例えば、針葉樹材では年輪幅の狭い個体やア材組織が多く、イチイ属とモミ属の判断が難しいが、らせん肥厚といぼ状層の確認により確実な識別を行うことができ、また、広葉樹材では、イヌエンジュ属のベスチャード壁孔や、多くの樹種に認められるらせん肥厚の形態がかなり確実な同定の根拠となった。

炭化材では、腐朽の少ないものも多く、特に微細形態の観察が容易であるが、テン材のかなり腐朽の進んだものでもほとんどの場合道管内壁が残存しており、微細形態の観察は十分に行なうことが可能である。木材細胞の殻内腔で腐朽抵抗性が強いことは一般的に知られており、本検体中でもそれが裏付けられたといえよう。

SEM手法としては、テン材のような炭化していない材については、臨界点乾燥法を用いる必要がある程度で、他に特に難しい処理は必要なく、今後ともにこの種の研究にはSEMを用いていく必要があろう。

本遺跡では全28属にツル性植物が同定されたが、それらは北海道大学構内の現生植に照らしてみても特に大きく異なる樹種は含まれておらず(清水 1983)、当時の気候や地形等の環境条件は現代とさほど大きな差はなかったものと考えられる。テンと住居等の双方で大量に使用されているものはトネリコ、ニレ、ヤナギの各属であり、これらはヤチダモ、ハルニレ、エゾノカワヤナギ等と推定され、比較的湿潤な地を好むものであり、全体的にみれば、遺跡周辺はかなり湿地に近い環境であったように推察される。

しかし、ニワトコやニシキギ属等の低かん木類、また、炭化雑草種子ではギンギク属やイヌホオズキ属等の比較的日当たりの良い場所を好むものが認められている等の点からみれば、当時の遺跡周辺では、草原や疎林に近いような区域もあったように思われ、こまかくみれば周囲の環境はかなり変化に富んでいたように推察される。それらが人為的な、たとえば農耕等による環境変化によるものなのかどうかはさらに検討してから結論すべき問題であろう。

炭化種子との比較では、オニグルミ、エゾニワトコ、ミズキ属、ウルシ属、アサダ属の木本植物種子にブドウ属等のツル性植物種子が認められており、ウルシ属を除いては炭化材でも認められているものもある。しかし、炭化材中の他樹種、例えばイチイ、クワ、キハダ、モクレン、サクラ、ニシキギ等の各属の種子はかなり残りやすいものと思われるにもかかわらず見いだされていない。その理由としては種々あろうが、食用として遺跡内に持込まれず、かつ遺跡から離れた場所で材のみが採取されたためか、季節的な結実時期の違いが主なものであろう。ここで、注目したいのは、食用としても適し実の数も多いクワ属の材がかなり多く認められているにもかかわらず種子が見いだされていないことであり、本属が夏の時点で結実し、既述のエゾニワトコ等が秋に結実するのと異なる点である。これは、単に遺跡のごく近くの植生のためかもしれないが、仮に本遺跡が秋の生活跡のみを残しているとすれば、本遺跡が秋に限定されるような季節性をもった生活場所であった可能性も否定できないように思われる。

Tab. ①-18 サクシュコトニ川遺跡における木材の樹種

順名	代表的樹種	タシ木材		炭化材	
		加工材	自然炭木		
1	イチイ ( <i>Taxus</i> )	イチイ*	○	○	○
2	モミ ( <i>Abies</i> )	トドマツ	○	○	○
3	トウヒ ( <i>Picea</i> )	アカエゾマツ	○	○	○
4	コナラ ( <i>Quercus</i> )	ミズナラ	○	○	○
5	ニレ ( <i>Ulmus</i> )	ハルニレ	○		○
6	エノキ ( <i>Celtis</i> )	エゾエノキ	○		○
7	クワ ( <i>Morus</i> )	ヤマグワ		○	○
8	イヌエンジュ ( <i>Maackia</i> )	イヌエンジュ	○		○
9	キハダ ( <i>Phellodendron</i> )	キハダ	○		○
10	ニガキ ( <i>Picramnia</i> )	ニガキ			○
11	ハリギリ ( <i>Kalapanax</i> )	ハリギリ*	○	○	
12	トネリコ ( <i>Fraxinus</i> )	ヤチダモ	○	○	○
13	ハコヤナギ ( <i>Populus</i> )	ドロノキ	○	○	○
14	ヤナギ ( <i>Salix</i> )	エゾノカワヤナギ	○	○	○
15	クルミ ( <i>Juglans</i> )	オニグルミ*	○		○
16	アサダ ( <i>Ostrya</i> )	アサダ			○
17	カバノキ ( <i>Betula</i> )	シラカンバ	○		○
18	ハンノキ ( <i>Alnus</i> )	ハンノキ	○	○	○
19	カツラ ( <i>Cercidiphyllum</i> )	カツラ	○		○
20	モクレン ( <i>Magnolia</i> )	ホオノキ	○		○
21	アジサイ ( <i>Hydrangea</i> )	ノリウツギ	○		○
22	サクラ ( <i>Prunus</i> )	エゾヤマザクラ*			○
23	ニシキギ ( <i>Euonymus</i> )	マユミ			○
24	カエデ ( <i>Acer</i> )	イタヤカエデ	○	○	○
25	シナノキ ( <i>Tilia</i> )	シナノキ	○		○
26	ミズキ ( <i>Cornus</i> )	ミズキ	○		○
27	ハシドイ ( <i>Syringa</i> )	ハシドイ	○		○
28	ニワトコ ( <i>Sambucus</i> )	ニワトコ		○	○
29	ツル性植物 ( <i>Vitis</i> 等)	ヤマブドウ等	○		○

※順名が同定されたものには\*印

最後に本遺跡の木材の樹種鑑定や保存処理にあたって多くのご協力とご教授をいただいた北海道大学農学部石田茂雄名誉教授をはじめ林産学科、木材理学講座の諸先生方、また、開拓記念館の三野紀夫氏、山田悟郎氏に深甚なる謝意を表します。(平川泰彦)

#### 〈参考文献〉

- ▶増澤文武 「出土木材の性質と保存上の問題点」『材料』 28, 582-590 1979
- ▶松田隆嗣 「出土木材の自然乾燥にともなう内部形態変化」『保存科学研究室紀要』 Ⅲ 3, 71-85 1974
- ▶松田隆嗣 「出土木材のPEG含浸処理に関する実験(Ⅲ)」『保存科学研究室紀要』 Ⅳ 4, 23-31 1975
- ▶大井次三郎 『日本植物誌』 至文堂 1978
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. Study on the pit of wood cells using scanning electron microscopy Report 5, Vascular pits in Japanese dicotyledonous woods. *Res. Bull. College Exp. For. Hokkaido Univ.*, 33-2, 433-464, 1976
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. An observation on the perforation plates in Japanese dicotyledonous woods using scanning electron microscopy. *ibid.* 35-1, 65-98, 1978 a
- ▶Ohtani, J. & Ishida, S. An observation on the spiral thickenings in the vessel members in Japanese dicotyledonous woods using scanning electron microscopy. *ibid.* 35-2, 433-464 1978 b

- ▶ 岡本一・増澤文武 「出土木材，その性質と保存処理」『木材工業』 39-6, 7-13 1984
- ▶ 佐藤健 「ポリエチレングリコール(PEG)と木材」『木材工業』 38-5 7-13 1983
- ▶ 島地謙・伊東隆夫 『四説木材組織』 地球社 1982
- ▶ 清水雅男 「自然環境の復元」『北大構内の遺跡2』 吉崎・岡田編 16-17 北海道大学 1983
- ▶ W. Wilcox. Anatomical changes in wood cell walls attacked by fungi and bacteria. *Bot. Rev.* 36: 1-28 1970

## VI-11

## [刻字土器「夬」の意義]

佐伯有清・

## ①

北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡から出土した多数の遺物のなかに、2粒のコメと、「夬」という文字が刻まれている土師器片が発見されたのは、1982年12月のことであった(「千年前の米つぶ出土」〈昭和57年12月3日付『北海道新聞』、「千年前にも道内で米食」〈同日付『朝日新聞』参照)。

その後、土師器片に刻まれていた「夬」という「漢字らしきもの」が、なんとという文字なのか、判読してはしいと、北大埋蔵文化財調査室から依頼を受けた筆者は、ただちに、「夬」の字は、蝦夷の「夷」の異体字であろうと思われることを回答した。この判読については、まもなく新聞で報道されたが(「本道最古の漢字資料」〈昭和58年2月24日付『北海道新聞』参照)、それとは別に筆者は、「学内の遺跡から出土した文字のある西暦9世紀の土器片」と説明が付された同土器片の鮮明な写真を表紙に掲載した『北大時報』(昭和58年2月号、№347)に解説の短文を寄せた。

そのさい、「夬」の文字が、「夷」の異体字であろうとみなした論拠として、「夷」の字を、「夬」と書いた例のあることを指摘した。「夷」の字は、中国の隋唐時代の人である李靖(571～649)の書蹟などにみられる。だが、問題となるのは、土器片の「夬」の字には、3画目の「一」に、「夷」の字のように湾曲部分がないことがあげられるであろう。

しかし、『偏類碑別字』などの異体字書に掲げられている「夷」の異体字を調べてみると、たとえば、唐の等慈寺碑銘に「夷」の字が、「夷」と書かれているのとならんで、隋の首山舍利塔銘には、「夷」と記されていることは、注目してよいであろう。というのは、「夷」の字の「一」の部分の画が、「一」のように、真っすぐ一直線で書かれる場合のあったことが知られるからである。

事実、日本古代においても、「夷」の字の例ではないが、「佛」の字を、「併」と墨書している資料があるのは、「夬」を「夷」の字とみなしてよい傍証としてあげることができるであろう。ちなみに、「併」と書かれている墨書土器は、山形県東置賜郡川西町の道伝遺跡から出土したものである。同遺跡からは、寛平8年(896)の年紀を記す木簡が出土しており、「佛」の字を「併」と記す墨書土器も、9世紀のものと考えてよい(『木簡研究』第2号、47～49ページ参照)。

## ②

サクシュコトニ川遺跡から「夬」と刻字された土師器片が発見された当時、北大埋蔵文化財調査室では、同字体で記された遺物が、他の遺跡から出土していないかどうか、東北地方出土の墨書土器などについて克明な調査がなされた。しかし、他に類似した例が発見されず、本遺跡出土の刻字土器片は、孤立した資料として、その後の同類の資料の出現が望まれていたのである。

ところが、最近になって二つの同類の文字資料が知られるにいたった。

その(1)は、平城宮跡のS D2700と呼称されている推定第2次内裏東外郭回廊の東22メートルの位置において検出された玉石積の大規模な南北溝の遺跡から出土した墨書土器である。その土器片には、次頁の写真にみられるように、あきらかに「夬」の字が記されている。この土器片は、須恵器の坏であって、1964年度の第21次調査のさいに出土したもので

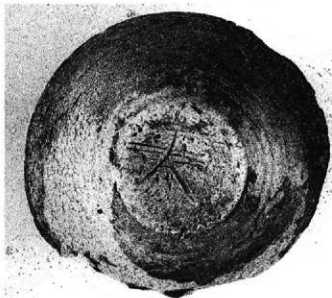
ある。この「夷」の文字は、不明文字として報告書では判読されていないが(奈良国立文化財研究所編『平城宮出土土器書土器集成』I, 17ページ参照)、サクシユコトニ川遺跡出土の刻字土器片の「夷」と、まったく同字体であって、「夷」の字と判読すべきであろう。

PL. III-32 平城の「夷」



その(2)は、秋田城跡の南約12キロメートルの位置にある湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器である。この土器は、3号土墳墓から検出した2点のうちの一つであって、須恵器の杯の底部に「夷」と刻字されている。同遺跡の報告書には、「1の底部にはへら描きがあるが判読できなかった」(247ページ)とあるが、最近刊行された富樫泰時氏の著書には、「三

PL. III-33 秋田市湯の沢F遺跡3号土墳墓出土土器の「夷」



号土墳墓から検出された杯の底部には線刻の文字があり、『夷』と判読される北海道大学構内の学生寮宿舎建設地区でも同様な線刻文字のある土器が検出されており、興味のもたれるところである(富樫泰時『日本の古代遺跡』24 秋田, 147ページ)と述べられており、また同土器の図の説明には「湯ノ沢F遺跡の須恵器の線刻『夷』の文字」(148ページ)とある。

## ③

東北地方の秋田城跡に比較的近い湯ノ沢F遺跡から「蝦夷」と同字義の「夷」の字が刻まれた土器が検出されたのは、それほど異様なことではない。しかし、北海道大学構内のサクシユコトニ川遺跡や、平城宮跡のS D 2700遺跡から「夷」の字が記された土器が出土したことは、どういふわけなのであろうか。歴史的に、その背景を探ってみる必要がある。



まず平城宮跡出土のものから考察を加えることにする。SD2700遺跡は、その煙土が6層に分れていたという。その最下層である第Ⅴ層からは、天平元年(729)、同2年(730)の年紀をもつ木簡が出土し、最上層である第Ⅰ層からは、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀を記す木簡が検出されている。これによって、この遺跡の年代が知られるが、出土した木簡のなかには、「宮内」「宮内省」と書かれているものが3点、「木工寮」「典書」「監子所」と記されたものが各1点あり、また「宮内省」「大炊」と墨書された土器も検出されており、宮内関係の名辭の比較的多いことが注意されている(奈良国立文化財研究所編「平城宮木簡」二、解説15~16ページ参照)。

なかでも、とくに注目されるのは、「宮内天長節」と墨書された土器が、第Ⅱ層より出土していることである。「天長節」のことが文献にみえる最初は、『続日本紀』宝龜6年(775)10月壬寅(11日)条であって、その記事には、

勅。十月十三日。是朕生日。每。至。比。辰。感。慶。兼。集。宣。令。諸。寺。僧。尼。每。年。是。日。輒。經。行。道。海。内。諸。國。并。宣。斷。屠。内。外。百。官。賜。醴。宴。一。日。仍。名。此。日。為。天。長。節。庶。使。題。斯。功。德。度。奉。先。慈。以。此。慶。情。普。被。天。下。

とある。同書には、この初見記事について、同年10月癸酉(13日)条に、

是日天長。大。醴。群。臣。獻。飯。好。酒。食。宴。畢。賜。祿。有。差。

とみえ、さらに宝龜10年(779)10月己酉(13日)条に、

是日當。天。長。節。仍。宴。群。臣。賜。祿。有。差。又。詔。贈。外。祖。父。從。五。位。上。紀。朝。臣。諸。人。從。一。位。

とみえる。これらの記事によって、「天長節」が、宝龜6年(775)から始まり、以後毎年、この節が宮中で催されたことが知られ、「宮内天長節」とある墨書土器が出土した第Ⅱ層は、延暦元年(782)、同2年(783)の年紀をもつ木簡が出土した第Ⅰ層に接する埋土層であるので、まさに第Ⅱ層は、宝龜年間に廃棄された遺物の包含層と断じてよい。

遺憾ながら「夫」と記された須恵器の坏がどの埋土層より検出されたのか報告書には記載がないが、おそらく宝龜年間という年次を考慮のうちにに入れてもよいであろう。なぜならば、宝龜年間に、宮内における「蝦夷」の動向が、しばしば記録にみられるからである。

- (1)天皇御。大。極。殿。受。朝。文武百官。游。海。蕃。客。陸。奥。出。羽。蝦。夷。各。依。儀。拜。賀。(『続日本紀』宝龜3年正月壬午朔<1日>条)
- (2)陸奥出羽蝦夷。賜。馬。爵。及。物。有。差。(宝龜3年正月丁酉<16日>条)
- (3)御。大。極。殿。受。朝。文武百官。及。陸奥出羽。各。依。儀。拜。賀。(宝龜4年正月丁丑朔<1日>条)
- (4)陸奥出羽蝦夷。賜。馬。叙。位。賜。祿。有。差。(宝龜4年正月庚辰<14日>条)
- (5)宴。五。位。已。上。於。楊。柳。宮。饗。出。羽。蝦。夷。俘。因。於。朝。叙。位。賜。祿。有。差。(宝龜5年正月丙辰<16日>条)
- (6)詔。停。蝦。夷。俘。囚。入。朝。(宝龜5年正月庚申<20日>条)
- (7)仰。陸奥出羽。追。蝦。夷。廿。人。為。擬。唐。客。拜。朝。儀。衛。也。(宝龜9年12月戊戌<26日>条)

これらの記事は、いずれも正月拜賀の儀に、「蝦夷」も参列したにかかわるものである。『続日本紀』におけるその初見は、

- (8)天皇御。大。極。殿。受。朝。華。人。蝦。夷。等。亦。在。列。左。將。軍。正。五。位。上。大。伴。宿。禰。旅。人。……等。於。皇。城。門。外。朱。雀。路。東。西。分。頭。陳。列。騎。兵。引。華。人。蝦。夷。等。而。進。(『続日本紀』和銅3年正月壬子朔<1日>条)
- (9)天皇御。重。閣。門。賜。宴。文武百官。并。華。人。蝦。夷。奏。諸。方。案。從。五。位。已。上。賜。衣。一。襲。華。人。蝦。夷。等。亦。授。位。賜。祿。各。有。差。(和銅3年正月丁卯<16日>条)

であるが、また同書には、

04天皇御=大極殿=受。朝。……陸奥出羽蝦夷、并南輪奄美。夜久。度感。信覚。球美等  
来朝。各貢。方物。其儀朱雀門左右陣。列彼吹竅兵。……(靈龜元年正月甲申朔<1日>  
条)

04蝦夷及南輪七十七人。授。位。有。差。(靈龜元年正月戊戌<15日>条)

04御=大極殿=受。朝。文武百官及陸奥蝦夷。各依。儀。拜賀。(神護景雲3年正月辛未<2日>  
条)

04御=法王宮。宴=於五位己上。道鏡与=五位己上摺衣人一領。蝦夷紳地人一領。、  
(神護景雲3年正月丙子<7日>条)

04御=東院=賜。宴於侍臣。、宴=文武百官。主典己上。陸奥蝦夷於朝堂。賜=蝦夷爵及  
物=各有。差。(神護景雲3年正月丙戌<17日>条)

などとみえる。

上に掲げた記事(5)・(9)・04などによって、正月拝賀の儀に参列した「蝦夷」が朝堂など  
において賜宴されていることが知られ、また記事(2)・(4)・(5)・(9)・04などから、「蝦夷」  
が位を授けられ、禄物を賜わったことがわかる。さらに記事(2)・(4)によって、「蝦夷」が  
拝賀の儀が終ると「帰郷」したことが知られるので、「蝦夷」は 拝賀の儀に参列するた  
めに、わざわざ陸奥・出羽の地から呼び出されたのであった。それは、記事(7)に、「蝦夷廿  
人を追(めさ)しむ」とあることから確かめられる。

上掲の記事が、年代的に飛び離れているのは、「蝦夷」の拝賀のことが記載されなかつ  
たというのではなく、「蝦夷」の地の情勢によって、「蝦夷」の拝賀をとりやめたことを  
反映しているともなすべきであろう。(6)に「蝦夷」と「俘囚」の入朝を停めたとあるのは、  
その年、すなわち宝龜5年(774)の陸奥国における不穏な状況によるものであって、それ  
は『続日本紀』宝龜5年7月丁巳(20日)条、同月庚申(23日)条、同月壬戌(25日)条、同年  
8月己巳(2日)条、同月辛卯(24日)条以下の記事についてみればあきらかである。

いずれにしても、神護景雲3年(769)より宝龜9年(778)にかけて、「蝦夷」が、しば  
しば正月拝賀の儀のために「入朝」し、饗宴を受けているのは、平城宮跡S D2700遺跡か  
ら出土した墨書土器の一つに「夷」と記されていることと無関係でないと考えられる。お  
そらく、「夷」銘のある須恵器の杯は、そうした「蝦夷」を饗応するために用いたものと  
みなして差し支えないであろう。

### ④

それでは、北海道大学構内のサクシュコトニ川遺跡から出土した「夷」と刻字されてい  
る土器器については、どのように考えたらよいのであろうか。

PL. 01-34 サクシュコトニ川遺跡出土土器



岡田淳子氏によると、その土器は、食物を盛る坏で、轆轤を使用して製作されており、内部が黒く塗られた典型的な本州の土器器であって9世紀に東北地方北部で焼かれたものと考えられるという(『本道最古の漢字資料』(前掲参照))。

また岡田氏は、その土器は、9世紀の半ばごろのものとも指摘している(岡田淳子『古代北方文化の形成』(『創造の世界』第49号、1984年2月刊、106ページ参照))。

この岡田氏の指摘によって、問題の土器器は、9世紀ごろに作られ、東北地方北部から北海道のサクシュコトニ川地域に持ち込まれたものであって、そうした背景には、当時、北海道の石狩地方と東北地方北部とのあいだに交流があったことが、当然考えられてくる。

そこで思いいたるのは、「渡嶋蝦夷」についてのことである。「渡嶋蝦夷」に関して、(A)陸奥国言。渡嶋狄二百余人来。著部下気仙郡。非。当国所。管。令。之。帰。去。狄。等。云。時。是。寒。節。海。路。難。越。願。候。来。春。欲。帰。本。郷。者。許。之。留。住。之間。宜。給。衣。粮。。

(『日本後紀』仁元年10月甲午(27日)条)

(B)出羽国言。渡嶋荒狄反叛。水軍八十艘。殺。略。秋。田。飽。海。両。郡。百。姓。廿。一。人。勅。教。宰。討。平。之。 (『三代実録』貞観17年11月16日乙未条)

とあるのによれば、「渡嶋蝦夷」は、海路によって陸奥国気仙郡に来着していること(A)、水軍をもって出羽国秋田・飽海両郡を襲撃していること(B)が知られ、ここにみえる「渡嶋」は、海を越えて行く地方で、関口明氏が指摘しているように、「津軽の北方、すなわち北海道を想定することが最も妥当」である(関口明『北海道古史と渡嶋蝦夷』(『古代文化』第37巻第7号)18ページ)。

このように、北海道の「蝦夷」とみなすことができる「渡嶋蝦夷」は、(A)の記事で知られるように、陸奥国の所管外にあり、それが出羽国の管轄下にあったことは、次の『日本紀』宝龜11年5月甲戌(11日)条の記事によって察することができる。

勅。出羽国。曰。渡嶋狄。早。効。丹。心。来。朝。貢。獻。為。日。稍。久。方。今。册。俘。逆。侵。播。辺。民。宜。符。軍。国。賜。饗。之。日。存。意。慰。諭。焉。

また、そのことは、延暦21年6月24日付の「太政官符」に、

右。被。右。大臣。宣。傳。渡嶋狄。等。来。朝。之。日。所。貢。方。物。例。以。雜。皮。而。王。臣。諸。家。贖。買。好。皮。所。殘。惡。物。以。擬。進。官。仍。先。下。符。禁。額。已。久。而。出。羽。国。可。寬。縱。曾。不。進。奉。為。吏。之。道。豈。合。如。此。自。今。以。後。嚴。加。禁。斷。如。違。比。罰。必。處。重。科。事。緣。訪。語。不。得。重。犯。

とあることからたしかめられる。

これらの記事によれば、「渡嶋蝦夷」は、出羽の国衙に「来朝貢獻」し、その「貢納物」には、雜皮があり、また「来朝」のさいには、「賜饗」のことがあったことがわかる。ここにいう「賜饗」とは、『養老令』職員令大田条に、「其陸奥出羽越後等国兼知。饗給。征討。斥候」とある「饗給」のことであって、『令義解』の同条に「酒。饗。食。并。給。祿。也」とあるように、「蝦夷」に対して食を饗し、祿を給することを「饗給」といったのである(関口明、前掲論文20ページ参照)。関口氏が述べているように、出羽の国司は、「来朝貢獻」した「渡嶋蝦夷」に対しても、職員令大田条の「饗給」の規定にもとづいて、饗宴を催し、祿物を給したのであった。そして、おそらく「夷」と刻字されているサクシュコトニ川遺跡出土の土器器は、そうした饗宴の場で用いられたものが、「渡嶋蝦夷」の手によって、「本郷」、すなわち北海道に持ち帰られたのであろう(関口明、前掲論文23ページ参照)。「渡嶋蝦夷」のことについては、さらに『三代実録』元慶3年(879)正月11日辛丑条に、

又渡嶋夷首百三人。率。種類。三千人。盡。秋。田。城。与。津。軽。俘。囚。不。遣。賊。者。百。余。人。同。共。船。蒸。聖。化。若。不。勞。賜。恐。生。怨。恨。由。是。遣。從。五。位。下。行。權。介。藤。原。朝。臣。統。行。從。五。位。下。行。權。權。文。室。真。人。有。房。及。令。望。滋。実。貞。額。等。勞。饗。

とみえる。この記事で注目されるのは、「渡嶋夷首」103人が、その「種類三千人」を率

いて秋田城に詣ったことであり、また出羽国の権介藤原朝臣統行、同権掾の文室真人有房、同権掾清原真人令望、左馬権大允藤原朝臣滋実、また出羽国の権大目茨田連貞頼らの国司などを遣わして「渡嶋蝦夷」を「勞襲」していることである。ここにいう「勞襲」とは、もちろん「賜襲」や「襲給」と同じ内容のものであり、もし彼ら多数の「渡嶋蝦夷」が、「本郷」に帰ったならば、彼らとともに、多量の出羽国内の物品が、北陸道に持ちこまれたことになるであろう。9世紀における「渡嶋蝦夷」は、出羽国や、その管轄下の秋田城と密接な関係があるから、「夷」と刻字された土師器の出所は、おそらく、そうした地域に求めてよいであろう。その意味で、秋田城跡の南方に位置する湯ノ沢F遺跡から出土した刻字土器の存在が注目されるのである。

## VI-12

## [出土スラグの顕微鏡観察について]

野口徹・小笠原正明・石井邦彦\*

1981年6月にサクシユコト川遺跡の発掘現場で出土し、鉄器またはスラグと推定された物質(個体番号4)について、顕微鏡による予備的な調査を行った。

この物質はPL-Ⅲ-35(切断後)に示すように縦8cm, 最大幅約5cm, 厚さ1.5-2cm程度の大きさの固体である。表面は赤褐色で凹凸があり、いたるところに気泡の凝固したあとが見られる。

マイクロトームを用いて図のように切断したところ、黒色の光沢をもつ面が得られた。しかし金属の存在を示す独特の光沢は認められなかった。断面のところどころに、気泡によるものと思われる大小さまざまな穴が見られた。

この断面の50倍および200倍の光学顕微鏡写真を、PL-Ⅲ-36およびPL-Ⅲ-37に示した。PL-Ⅲ-36に見られる黒い大きな影は、空孔によるものである。PL-Ⅲ-37の白い部分はマグネタイトの存在を示している。また残りの黒い部分はスラグによるものである。この部分をさらに拡大して見ると、未溶解のスラグが一部に認められた。

顕微鏡による観察からは、つぎのようなことが推定される。

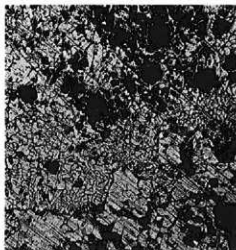
- ① この物質は、鉄の精錬の際に生じたスラグであって、鉄器ではない。
- ② 溶けかけたスラグが認められることから、この物質が生成した時の温度は1200度あるいはそれ以下と推定される。
- ③ マグネタイトは、空気中ではこのような低い温度では生成しないことから、一応還元的气氛で処理したときに生じたものと思われる。
- ④ しかし、マグネタイトよりもさらに酸素原子数の少ないウスタイトや金属鉄は認められないので、還元的雰囲気は完全とはいえず、密閉性の悪い、比較的簡単な炉の中で生成したものであることが推定される。

さらに信頼できる結論を得るためには、今後、化学分析およびエックス線マイクロアナライザーなどによるスラグの組成の分析が必要であろう。

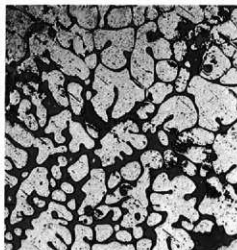
PL-Ⅲ-35 スラグの外観



PL-Ⅲ-36 スラグの顕微鏡写真(×50)



PL-Ⅲ-37 スラグの顕微鏡写真(×200)



## VI-13 [花粉化石について]

山田信郎・

### ① 試料および処理方法

ここで取扱った土壌試料は北海道大学構内のサタシユコト川遺跡の発掘調査に際して、住居の覆土・土壌の覆土・廃棄された炭化物の集積遺構・焼土から採取された14点である。

2号住居では覆土と床面から各1点、4号土壌の墳底から1点、廃棄された炭化物の集積遺構からは炭化物マウンド・炭化物4、16、19、40、52、58と呼称される7箇所から各1点が、焼土11・43・44・71の4箇所から各1点の試料がそれぞれ採取されている。試料はいずれも炭化物を多量に含む、腐植に富んだ砂質シルトである。

試料の処理にあたっては、土壌試料500gをビーカーにとり、下記のように化学・物理処理を行なった。

アルカリ処理(24時間)→水洗(3週間)→沈殿法により砂礫等を除く→混酸処理(3分間)→水洗→アルカリ処理(5分間)→水洗→比重分離(比重2.0, 1000r.p.m.で1時間遠心分離)→水洗→アセトリシス処理(3分間)→水洗→時計皿処理→HF処理→水洗の順に処理し、プレパラートを1試料につき各3点を作成した。

検鏡は通常40倍で行ない、必要に応じて1,000倍で行なった。同定にあたっては、樹木花粉を200個以上数えるまでに順次出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数するように努めた。しかし樹木花粉が200個以上産出した試料は無かった。

従って、表示にあたっては各試料から産出した花粉・胞子数を一覧表にして示した。

### ② 分析結果

試料が花粉・胞子が腐食作用を受けやすい、通気性の高い砂質堆積物である為か、土壌の花粉含有数は少なかった。また、焼土中には熱によって変形した花粉・胞子が多く含まれていた。

14点の試料から21属1科の樹木花粉、2属23科の草本花粉、3科の胞子、形態分類胞子2種類が産出した。その内訳及び想定される主な母植物は下記の通りである。

樹木: *Picea*(トウヒ属; エゾマツ・アカエゾマツ), *Abies*(モミ属; トドマツ), *Pinus*(マツ属; ハイマツ), *Salix-Populus*(ヤナギーハコヤナギ属; エゾノカラヤナギ・オノエヤナギ他), *Alnus*(ハシバミ属; ハシバミ・ケヤマハシバミ他), *Betula*(カバノキ属; シラカンバ・ウダイカンバ・ダケカンバ), *Fagus*(ブナ属; ブナ), *Juglans*(クルミ属; オニグルミ), *Carpinus*(クマシデ属; サワシデ), *Corylus*(ハシバミ属; ハシバミ・ツノハシバミ), *Quercus*(コナラ亜属; コナラ・ミズナラ・カシワ), *Ulmus*(ニレ属; ハルニレ・オヒョウニレ), *Fraxinus*(トネリコ属; ヤチダモ・アオダモ), *Magnolia*(モクレン属; ホウノキ・コブシ), *Tilia*(シナノキ属; シナノキ・オオバボダイジュ), *Acer*(カエデ属; イタヤカエデ・ハウチワカエデ他), *Rubus*(キイチゴ属; クマイチゴ・エビガライチゴ他), *Phellodendron*(キハダ属; キハダ), *Araliaceae*(ウコギ科; ハリギリ・タラノキ他), *Rhus*(ウルシ属; スルデ・ヤマウルシ他), *Sambucus*(ニワトコ属; エゾニワトコ), *Hydr-*

Tab. ①-19 産出した花粉・胞子化石数

	2号整穴住居		4号土壌	炭化物マウンド	炭化物				雑土					
	覆土	床面			4	16	19	40	58	11	43	44	52	71
<i>Picea</i>	1	2	2	1	1	4	1	4	1	5	2	1	3	—
<i>Abies</i>	3	5	5	13	2	8	5	8	2	11	6	5	5	1
<i>Pinus</i>	—	1	1	5	—	1	1	2	—	3	2	1	2	—
<i>Salix-Populus</i>	5	4	5	3	1	8	5	5	3	5	5	8	4	1
<i>Juglans</i>	11	15	11	5	2	11	7	12	5	9	11	7	8	3
<i>Alnus</i>	33	31	27	22	5	39	29	31	15	37	35	33	29	5
<i>Betula</i>	19	13	16	8	1	18	13	18	3	15	19	15	14	3
<i>Carpinus</i>	3	1	2	3	1	3	1	1	1	1	3	1	—	1
<i>Corylus</i>	2	1	2	2	—	2	1	1	—	1	1	—	—	—
<i>Fagus</i>	1	1	3	1	—	3	1	1	—	1	1	—	2	—
<i>Quercus</i>	39	41	36	36	3	36	37	39	19	45	43	41	38	11
<i>Ulmus</i>	18	20	21	18	1	23	19	23	13	24	21	19	19	9
<i>Magnolia</i>	2	1	1	2	—	3	1	1	1	2	1	1	2	—
<i>Hydrangea</i>	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—
<i>Rubus</i>	1	—	1	—	—	1	1	1	—	3	1	—	2	—
<i>Rhus</i>	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—
<i>Acer</i>	3	4	2	1	1	5	2	5	1	2	4	5	3	—
<i>Tilia</i>	3	5	4	4	2	3	3	6	3	5	4	3	3	1
Araliaceae	1	1	1	—	1	—	1	1	1	—	2	1	1	—
<i>Fraxinus</i>	1	3	3	1	1	6	3	3	1	3	3	1	4	—
<i>Phellodendron</i>	3	3	2	—	—	3	1	3	1	4	3	1	—	—
<i>Sambucus</i>	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—
Moraceae	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—
Urticaceae	—	3	—	—	—	1	—	—	—	3	2	—	5	—
Polygonaceae	22	35	29	3	1	26	15	23	16	24	26	24	14	21
Chenopodiaceae	1	5	3	—	—	5	3	1	1	1	1	—	1	1
Caryophyllaceae	1	4	2	—	—	2	3	2	1	—	2	2	—	1
Ranunculaceae	15	21	27	14	2	21	18	18	13	28	21	19	17	13
Cruciferae	1	6	1	3	—	1	—	—	1	3	—	1	2	—
Saxifragaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
Rosaceae	5	1	3	1	—	3	3	6	1	9	3	3	5	3
Leguminosae	1	1	2	—	—	2	1	—	—	1	—	—	1	—
Balsaminaceae	1	—	2	—	—	—	—	—	—	1	1	—	3	—
Haloragaceae	—	—	2	—	—	—	1	1	—	1	—	—	—	—
Umbelliferae	7	15	7	2	1	8	5	8	3	9	7	9	6	7
Labiatae	2	5	—	1	—	—	—	—	—	2	—	—	2	—
Vglerianaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—
Campanulaceae	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—
Garduoideae	13	25	8	4	1	11	5	11	12	5	21	20	6	9
Cichorioideae	3	6	1	—	—	3	1	3	1	1	3	1	1	1
<i>Artemisia</i>	41	59	39	9	8	45	36	43	25	31	45	44	37	25
Typhaceae	1	21	11	—	—	9	7	9	1	5	3	5	13	2
Gramineae	56	95	81	30	35	81	75	91	35	85	95	86	76	53
Gramineae(45μ>)	—	3	5	3	—	5	2	8	—	8	6	2	5	1
Cyperaceae	11	15	13	2	1	21	17	20	2	15	13	17	18	11
<i>Lysichiton</i>	—	9	3	—	—	3	3	4	—	2	1	3	5	1
Commelinaceae	—	—	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—
Liliaceae	1	—	1	—	—	1	1	1	—	1	2	—	1	—
Equisetaceae	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
Osmundaceae	6	8	2	1	1	5	1	1	1	3	5	3	2	2
Lycopodiaceae	3	1	2	2	—	2	1	3	1	2	2	2	1	1
Monolate type spore	25	46	21	13	8	28	18	31	15	27	23	25	18	11
Trilite type spore	2	3	—	—	—	3	—	—	—	2	2	—	1	—
合計(個)	369	539	412	216	82	466	348	451	198	443	452	409	386	197
Undetermined(個)	8	3	9	3	9	11	7	5	8	13	8	10	9	7

*anaga*(アジサイ属; ノリウツギ他)

草本; Moraceae(タワ科; カナムグラ・アサ), Chloranthaceae(センリョウ科; ヒトリシズカ他), Urticaceae(イラクサ科; イラクサ), Polygonaceae(タデ科; オオイタドリ・ミゾソバ・ハルタデ他), Chenopodiaceae(アカザ科; アカザ・シロザ), Caryophyllaceae(ナデシコ科; ハコベ・ミミナグサ他), Ranunculaceae(キンポウゲ科; カラマツソウ・アキカラマツ他), Cruciferae(アブラナ科; タネツケバナ・スカンタゴボウ他), Saxifragaceae(ニキノシタ科; ネコノメソウ他), Rosaceae(バラ科; オオダイコンソウ・エゾノシモツケソウ・ナガボノシロワレモコウ他), Leguminosae(マメ科; クサフジ・ハマエンドウ他), Balasaminaceae(ツリフネソウ科; キツリフネ・ツリフネソウ), Labiatae(シソ科; カワミドリ・イヌゴマ他), Onagraceae(アカバナ科; ヤナギラン), Araliaceae(ウコギ科; ウド), Umbelliferae(セリ科; ヤブジラミ・エゾニユウ・オオバセンキュウ他), Haloragaceae(アリノトウグサ科; アリノトウグサ), Artemisia(ヨモギ属; オオヨモギ他), Carduoideae(キタヤコ科; アキタビキ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・チシマアザミ他), Cichorioideae(タンポポコ科; ハチジョウナ・コウゾリナ他), Typhaceae(ガマ科; ガマ), Gramineae(イネ科; ススキ・ヨシ・イワノガリヤス・エノコログサ・栽培種(イネ科植物他), Cyperaceae(カヤツリグサ科; エゾアブラガヤ・オトノカノスゲ他), Lysichiton(ミズバシウ属; ミズバシウ・ザゼンソウ), Commelinaceae(ツクサ科; ツクサ), Liliaceae(ユリ科; バイクイソウ・オオウバユリ他)

胎子; Equisetaceae(トクサ科; トクサ・スギナ), Lycopodiaceae(ヒカゲノカズラ科; ヒカゲノカズラ他), Osmundaceae(ゼンマイ科; ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ他)

形態分類胎子; Monolate type spore(単条孔型胎子; シダ類), Trilite type spore(三条孔型胎子; ワラビ他)

14点の試料で確認された花粉・胎子は、ほぼ同様な出現傾向を示している。

樹木花粉では針葉樹の *Abies*, *Picea* と落葉広葉樹の *Juglans*, *Salix*, *Populus*, *Juglans*, *Alnus*, *Betula*, *Quercus*, *Ulmus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, 草本花粉・胎子では Polygonaceae, Ranunculaceae, Rosaceae, Umbelliferae, Carduoideae, Artemisia, Typhaceae, Gramineae, Cyperaceae, Lysichiton, Osmundaceae, Monolate type spore を主とした花粉化石群集が各試料で確認されている。

樹木花粉では *Alnus*, *Quercus*, *Betula*, *Ulmus* が優勢で、次いで *Juglans*, *Abies*, *Picea*, *Salix*, *Populus*, *Acer*, *Tilia*, *Fraxinus*, *Phellodendron* が多く産出している。肥沃な沖積地を好む *Ulmus*, *Tilia* や河畔に多い *Alnus*, *Juglans*, *Salix*, *Populus* が多く産出している。また、日当りのよい場所を好む *Rubus*, *Araliaceae*, *Sambucus* 等も産出するほか、現在その自生分布北限を黒松内低地帯とする、冷温帯落葉広葉樹の *Fagus* も僅かではあるが各試料で確認されている。針葉樹の *Picea*, *Abies*, *Pinus* は現地性の樹木ではないと考えられる。

草本花粉・胎子では Polygonaceae, Ranunculaceae, Artemisia, Gramineae, Monolate type spore が優勢で、次いで Chenopodiaceae, Caryophyllaceae, Rosaceae, Umbelliferae, Carduoideae, Typhaceae, Lysichiton, Cyperaceae, Osmundaceae が多く産出する。低湿地や幾分湿った場所を好む Urticaceae, Balasaminaceae, Typhaceae, Haloragaceae, Cyperaceae, Lysichiton や、日当りのよい草地を好む Polygonaceae, Ranunculaceae, Rosaceae, Umbelliferae, Artemisia, Gramineae 等の草本が多いのが注目される。

畑地雑草として耕作地に多く生育する Chenopodiaceae, Caryophyllaceae, Cruciferae, Commelinaceae が比較的多く産出しているほか、花粉の赤道直径が45 $\mu$ 以上の栽培種と考えられる Gramineae も各試料で確認されている。

わずかに産出している Moraceae の母植物について、栽培種のアサの可能性も考えられる。



## ④ 古環境について

### a) 古植生

サクシュコトニ川沿いの叢高地に位置した縄文時代のサクシュコトニ川遺跡の周囲には、ハンノキ、ヤチダモ、ヤナギ類、オニグルミ、シラカンバ、ハルニレ、ミズナラ、イタヤカエデ、シナノキ、キハダ等を主とした落葉広葉樹が分布していたと考えられる。

このような樹木構成からなる林は、河川沿いの肥沃な沖積地に発達したハルニレ、シナノキ、イタヤカエデを主とした落葉広葉樹林が、縄文時代の人々による伐採等の活動によって破壊され、一部にミズナラ、シラカンバ、オニグルミ等が進出して二次林が形成されたことを示すものと考えられる。

さらに、キイチゴ属、タラノキ、エゾニワトコ等の灌木の存在は、樹木が伐採され日当りの良い空間が存在したことを示している。

多く産出している陽地性のオオイタドリ、カラマツソウ、アキカラマツ、エゾニユウ、オオヨモギ、アキタブキ、チシマアザミ、バラ科植物、ススキは、遺跡周囲の林は伐採され陽地性草本群落が生育可能な、空間が広がっていたことを裏づけるものである。

また、河畔にはハンノキ、ヤチダモ、ヤナギ類からなる低湿地林が分布し、ガマ、ミズバショウ、エゾアブラガヤ、ヨシ、トクサ等が繁り、河畔沿いの豊分湿った場所にはフリスソウ、キツリフネ、アリノトウグサ、ゼンマイ、シダ類が繁っていたことが予想される。

針葉樹のトウヒ属、モミ属、マツ属と冷温帯落葉広葉樹のブナについては、花粉が風によって運ばれたもので、遺跡周辺に生育していたとは考えがたい。

現在、遺跡周辺の川辺にはハンノキ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデが優占する林が生育している。

### b) 栽培植物について

サクシュコトニ川遺跡の発掘に伴って、炭化物廃棄遺構の土壌や焼土が多量に採取され、大規模にフローテーションが行なわれている。これまでに発表された概報等のなかで、多量のサケの骨のはかにコメ、オオムギ、コムギ、緑豆、キビ、アワ等の栽培植物遺存体の産出が報告されている(吉崎・岡田編 1984)。

吉崎・岡田(1984)によると、オオムギの出土は多量で栽培植物種子がセットになっていることから、かなりの規模で農耕が行なわれていたと推定されている。

産出した花粉の中には赤道直径が45 $\mu$ 以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が含まれており、イネ科の雑穀が栽培されていたことを示している。

イネ科のどの栽培植物に該当するかは不明であるが、フローテーションで得られたコメ、オオムギ、コムギ、キビ、アワのいずれかの花粉であろう。

ただし、コメについては現地栽培されたと考えより、本州から移入したと考えるべきであろう。

さらに、母植物として樹木のクワ、草本のアサ、カナダラムが想定されるクワ科の花粉がわずかであるが産出している。アサの種子は福井県鳥浜貝塚の縄文時代前期の遺物包含層から産出し、かなり古い時代に日本に渡来し栽培されていたことがあきらかとなっており(笠原 1984)、本道では続縄文時代の江別太遺跡から産出している(矢野 1981)。ここで確認されたクワ科花粉の母植物がアサであるか否かは、炭化種子の産出によって裏づけられるであろう。

アカザ、ミミナグサ、ハコベ、タネツケバナ、スカシタゴボウといった雑草類の花粉も比較的多く産出しており、遺跡近くに耕作地が存在しフローテーションで得られた植物

が栽培されていたのは確かであろう。道内では12箇所の縄文時代遺跡から栽培植物遺存体や花粉化石が産出し、縄文時代に農耕活動が行なわれていたことは否定できない事実となっている。しかし、サクシュコトニ川遺跡のように、多量に栽培植物が産出するとともに多くの作物がセットとなって出土した例はなく、一見すると特異な遺跡に見える。このように多量の土壌のフローテーションを行なった発掘調査はかつてなく、縄文時代の遺跡の土壌の中に多くの情報が含まれていたことを示したもので、特異な遺跡とは言えないであろう。

#### ④ おわりに

サクシュコトニ川遺跡の発掘に際して、採取された14点の土壌試料の花粉分析を行なった結果、下記の事が明らかとなった。

- 1) 樹木花粉21属1科、草本花粉2属23科、胞子3科、形態分類胞子2種類が確認された。
- 2) 遺跡の周辺にはハンノキ、ヤチダモ、ミズナラ、ハルニレ、イタヤカエデ、シナノキ、シラカンバ、オニグルミ、ヤナギ類を主とした落葉広葉樹林が分布していた。
- 3) 林は二次林の様相を示すもので、樹木が伐採された生活空間には陽地性の草本群落が繁っていた。
- 4) 赤道直径45 $\mu$ 以上の栽培種と考えられるイネ科花粉が産出するとともに、畑地雑草のアカザ科、ナデシコ科、アブラナ科花粉も多く産出していることから、イネ科に属する雑穀が栽培されていたことがあきらかとなった。
- 5) わずかではあるが母植物としてアサが想定されるタワ科花粉が産出している。

#### 〈参考文献〉

- ▶ 笠原安夫 (1984) 「縄文時代 (前・後期) 遺跡から出土したゴボウ、アサの種実について」『昭和59年度文化財科学会大会研究発表要旨』
- ▶ 矢野牧夫 (1981) 「石狩低地帯の先史遺跡から出土した植物遺体」『北海道開拓記念館研究年報』第9号
- ▶ 吉崎昌一・岡田淳子編 (1984) 『北大構内の遺跡3—昭和57年度』
- ▶ 吉崎昌一・岡田淳子 (1984) 「考古学におけるエゾとエゾ地」『創造の世界』№49

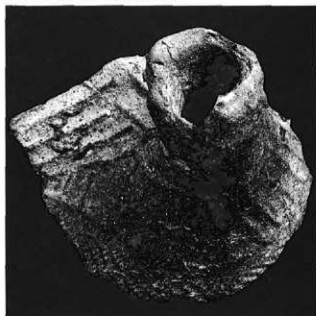
## VI-14

## [第3文化層の土器]

第Ⅵ層の砂層中から、統縄文期中葉（後北C 2式）の土器3個体分が出土した。そのうち図示した2個体は注口部分を残す破片である。PL-Ⅱ-38上は07-07〔12〕グリッドから、PL-Ⅱ-38下は06-10〔32〕グリッドから出土した。そこは畑没河川・セロンベツ川の左岸域にあたる。

（横山英介）

PL-Ⅱ-38 第三文化層出土の注口土器



## まとめにかえて

### 〈発掘と整理〉

北海道大学が新しい寮の建設を計画したのは、もう10年以上も前になる。昭和55年にその計画が具体化した時にまず問題となったのは、その敷地をどこにするかということであった。本学の施設部と埋蔵文化財プロジェクト・チームは幾多の協議を重ねながら、敷地の選定を模索した。できる限り埋蔵文化財の包蔵地にかからないよう配慮するためである。可能性のある地域はいくつかあったが、我々の手持ち資料と札幌市教育委員会の取集資料ならびに明治時代中期に調査された遺跡分布図から、文化財に関する情報のもっとも空白の地帯として、当時準硬式野球場だった現在地が選定された。記録によるかぎり、この場所は地下水位が高く、耕作も行なわれたことがなかったと伝えられている。ところが、全面的な発掘を実施した結果、濠文時代の集落が検出されたのである。ここに關するのは、その発掘報告である。

発掘調査は、北海道大学埋蔵文化財プロジェクト・チームの岡田宏明・岡田淳子・菊池俊彦・林謙作・古崎昌一と北海道大学埋蔵文化財調査室の横山英介・松岡達郎・平川泰彦・榎坂恭代ほか多数のメンバーがあたり、その作業を円滑に実施するため、北海道大学本部事務局が部・課の枠を越えた明確な支援態勢をととのえた。整理研究も同様である。

関連する諸分野についても多数の人々の御援助をいただいた。金属製品とスラグについては北海道大学工学部工業物理学講座助教授小笠原正明氏、機械材料科学講座助教授野口徹氏、金属工学第二講座助教授石井邦宣氏らが、植物種子の同定には以前から共同作業を続けている。カナダ・トロント大学助教授のG・W・クロフォード氏が参加した。植物種子と出土木材の電子顕微鏡写真の撮影には、北海道大学農学部木材理学科の全面的な支援を受け、名誉教授石田茂雄氏、教授深沢和三氏の指導で可能になったものである。出土した魚骨骨は、東北大学考古学研究室の須藤隆助教授指導のもとに、高橋理氏があたった。問題の刻字土器の歴史的検討には元北海道大学教授で現在成城大学教授の佐伯有清氏から玉稿をたまわった。また、花粉分析は北海道開拓記念館の山田哲郎氏に依頼した。

遺跡の調査活動の第一段階は、こうした人々の協力と支援によって到達されたものである。

### 残された問題

#### 〈土器の接合関係と遺構〉

濠文時代の遺跡をはば全面発掘できることになった時、大学構内という立地条件を生かして、いくつかの作業仮説の検討あるいは実験を含む調査を計画した。その一つは発掘区5,904㎡全域から出土する土器の接合関係を調べたことである。この方法は、先土器時代の発掘調査ではしばしば実施され、遺物スポットの相互関係の判断材料に使用されている。これを比較的遺物出土量の少ない濠文時代に適用し、そこから遺構や遺物の相互関係を判断する手がかりにしたいと最初に提案したのは横山である。その結果については、23～94頁を参照されたい。この分析から横山は遺構の相互関連に迫り、集落内部の変遷に触れている。だが、この手法が普遍的に無理なく使用できるためには、かなり量的にも多い接合

資料が必要となる。それなくしては、二次的な廃棄箇所からの混入という危険性を無視できない場合がある。今後の資料増加を待ち、より精度の高い手順の開発を進めたい。

#### 〈遺物の廃棄パターン〉

遺物の分布図と個体別出土表をみるかぎり、土器の廃棄散乱の状態におおまかに2種類あるように思われる。第一は特定個体を構成する破片が比較的多くまとまって出土する場合、第二は散乱の度合がはげしく、なかには50mも離れていた土器片が接合するといったケースも少なくない。この種の土器個体は、整理作業がある程度進行して後に復元、特定が可能になる場合が多い。このような廃棄散乱の差は、集落の存続期間中に使用されていた土器の時間的な新旧と関連するのであろうか。それとも遺物の種類によって廃棄の様式が異なるのだろうか。まだ検討の余地があり確定にいたっていない。今後、遺物廃棄パターンの資料として研究分析を実施したいと考えている。

遺物廃棄パターンに関連して、もうひとつ注意を喚起しておきたいことがある。それは各大型住居からの土器廃棄についてある傾向が認められそうなことだ。例を2号住居にとろう。29頁の記載にもあるとおり、この住居内の土器と接合関係を示す土器片は、2号住居の煙道に隣接する「焼土43」、住居の北東方向の「炭化物52」および「炭化物マウンド」に集中して発見された。横山も『2号竪穴住居の人々はもっぱら住居の周りや、炭化物マウンドを中心とする地域を廃棄の場として活用し、住居から大きくかけ離れた地域へはほとんど廃棄しなかった……』(116頁)と述べている。この基本的な廃棄のパターンは、他の2棟の大型住居についても同様に認められる。つまり、3、5号住居においても煙道に隣接して焼土や遺物の廃棄があるが、これらの住居に由来する土器は、主として両竪穴住居のほぼ中間に位置する地域、X08~09、Y05~10にかけて廃棄されていた。しかも横山の観察では3号住居が廃絶した直後に5号住居が建設されているから(92~94頁)、この廃棄の場に関するかぎりその場所は竪穴住居の移設とは関係なく、継続して利用されていた可能性が高い。

こうした廃棄の場が、ある程度の安定性をもって存在し得た背景は、どのように理解されるべきだろうか。それを説明するひとつの手がかりを、あまり検出例の多くない土玉の出土状況に求めたい。

この遺跡から総数で17個の土玉が検出されている。そのうち15個は2号住居と関連する炭化物マウンドから発掘され、1個はこのマウンドの周囲から、残る1個が炭化物52から見出された。

縄文時代の装飾品の検出例は、一般にあまり多くない。千歳末広遺跡から土製玉が玉と木製玉(千歳市教育委員会 1981, p.36)、ウサクマイN遺跡(石附 1977 p.17)と、恵庭市柏木川から土玉(高橋 1971, p.6)、留明管内小平遺跡からガラス玉(福士 1985, p.17~18)などが報告されているくらいである。このような状況のもとで、サクシュコニ川遺跡第二文化層に属する炭化物マウンドから10個をこす土玉が出土したことは、この場所が墳墓でないこともあって注目する必要があるであろう。発掘精度からみても、この遺跡の他の地域や竪穴住居中の土玉を見逃しているという可能性は一応排除できる。だとすれば、これらの土玉の出土は、特定の場をたいする意図的な廃棄として説明できるのではないだろうか。もしこの推測が的を得ているならば、これこそアイヌ民族例にみられるような「送り場」(宇田川 1985: pp.32~78)の初期形態の例として、検討されるべきであろう。

### 〈栽培植物の出現について〉

サクシュコトニ川遺跡の住民が農耕を行っていたことは、G・クロフォード氏と山田悟郎氏の報文に詳しい。濠文時代の農耕については評価がまちまちであるが、大方の見解としては、きわめて小規模の家庭菜園程度のものであろうというのが一般的であった（たとえば加藤はか 1983; p.21.21, 菊池 1983, p.2）。しかし、本報告のなかで述べられている資料からすれば、これまでの考えかたに変換を余儀なくさせる。

かつて筆者は、濠文時代の堅穴住居の形態、特にそれまで北海道に存在しなかった標道付きのカマドの出現を説明する仮説として、この時点でおきた食生活の大幅な変化一般物食の出現をあげたことがある。また、同時にそうした農耕文化が、北海道においては中世以降に衰退した可能性についてもふれた（吉崎はか 1972, pp.50~52）。

現在までに語られている濠文時代生業論の致命的な欠陥は、具体的な資料の検出を図らないで遺跡の立地から想像をたくましくしすぎた点にある。こうした弱点を補強する資料として、サクシュコトニ川遺跡の資料のもつ意味は大きい。

この遺跡ではオオムギ、コムギ、アワなどを中心とする雑穀栽培が、かなり大規模に実施されていたことは、検出された種子の組成からもまちがいない。しかし、その具体的な農耕がどのようなものであったかについては、まだ資料が不足している。農具そのものの出土もなかった。だが、北海道内で発掘されている他の濠文時代の遺跡からは、鉄製農具の鍬・鋤先・鎌などの出土が知られている（岡田・山田 1982, p.27~28）。とくに、前出の柏木川遺跡で発見された墳墓には、鍬先と鎌がセットになって埋葬されていたことを想起したい。しかし、これらの鉄製農具は北海道の脊梁山脈以西から発見されているので、岡田らも指摘しているように（前出）、この分布にみられる差が、北海道内における農耕伝統の違いをあらわしている可能性のあることも否定できない。その意味では、サクシュコトニ川遺跡は、西部北海道伝統の代表例として扱う必要があるのかもしれない。

最近の本州各地の発掘では、畑そのものの遺構がしばしば確認されているが、ここでは確認できなかった。小河川によって囲まれていたサクシュコトニ川遺跡の居住空間は、それほど大きくないので、主たる畑は集落から若干離れていた可能性はある。今後、プラント・オパールなどの資料を収集して、その位置を検討する機会をもちたいと思う。なぜなら、施肥をおこなわないで雑穀栽培を実施した場合、その畑が使用に耐えうるのは、ただか10年未満、状況によっては5年未満が限界であるからだ。第Ⅴ章で解説しているように、サクシュコトニ川・コトニ川水系には多数の遺跡が分布しているのだが、それらうち、サクシュコトニ川遺跡と時間的に平行する集落が存在するとすれば、各々の耕作地を含めた集落領域の広さを念頭において、分析しなくてはならないからだ。同時に彼等の重要な蛋白質を供給していた魚止め（アジ）の設置地点と集落領域との関連についての分析も重要項目である。

### 〈集落の廃絶と移動〉

サクシュコトニ川遺跡においては、第2文化層の上部を無遺物の砂質粘土層がおおい、その上に第1文化層が存在していた。つまり第2文化層の集落の放棄と埋没については、2つの見方を提示することができる。それは、第2文化層の集落がなんらかの理由で放棄された後にこの地域が一定期間水没した場合と、水没が直接の原因で放棄された場合とである。扇状地末端の微高地という立地条件からすれば、この地域が冠水することは珍しくなかった。それは、この地が準硬式野球場として利用されるまで毎年の融雪期には水没するケースが多く、耕作地として不適格であったことでも分る。また、はげしい冠水は時として蛇行する水路の変更をもたらし、サケ・マスの産卵床をも破壊した。これは当時の集落の生活に大きくかわる問題であった。農耕地の荒廃も含めてこうしたいくつかの原因

が複合して、集落の遷移が引き起こされた可能性は十分にある。この集落の遷移パターンが、北海道でも有数に密度の高いコトニ川水系の遺跡分布様相と無関係であるとはいえないであろう。

#### 結論にかえて

##### 〈生活形態のイメージ〉

サクシュコトニ川遺跡の古代人は、オオムギ、コムギ、アワなどの耕地を所有し、さらに集落のはずれの小河川の魚止めで、豊富な蛋白質を確保していた。集落の規模は4軒でいどで構成されると推定できる。集落内では、低火度の鍛冶もおこなわれていた。また、集落の立地が中小河川の上流域にみられるにせよ、ここが季節的な漁場キャンプとか狩猟キャンプであったという証拠は全くない。周辺に農耕地をもつ通常の集落であろう。彼等は、サケの産卵床近くに共同でテシを設置し、ウグイ・サケラマス・シロザケなどを捕獲していた。他の集団との間の主たる物流には、丸木舟による水上輸送が用いられていたであろう。この点、サクシュコトニ川遺跡の立地が、河川の状況からみて、その上流界に近い所に位置しているのは示唆的である。河川のこうした利用形態から考えれば、本文流を含む各地の住民が、なんらかの共通した規制のもとに生活していたことが予想されよう。もし、このような生活形態がサクシュコトニ川・コトニ川水系住民のみにみられる特殊なケースでないとすれば、従来いわれている縄文時代の集落論や生業論は、再考の余地がありそうである。

##### 〈縄文文化の概念について〉

遺物の記載部分のみでもわかるように、サクシュコトニ川遺跡出土の土器については、「土師器・土師質土器」という用語で説明されている。にもかかわらず「縄文時代あるいは縄文文化」という従来からの時代区分概念を検討せずに踏襲したことを断っておきたい。北海道のこの時代のものは、本州の土師器を伴う一般的な住居と同種の構造の住居を持ち、米以外の雑穀栽培がなされていたことも確認されている。たしかに、当時の政治組織からすれば、ここは化外の地であろう。しかし、物質文化の上からみれば、東日本の大部分の地域と「縄文文化」の間に、それ程の異質性を強調する理由が果たして存在するだろうか。本州東北部の文化の周辺として扱ってはいけないのであろうか。調査関係者の間でも、この問題に関しては意見が一致していないのである（たとえば、吉崎昌一・岡田淳子：1984, pp.80~105）。今後、広い視野からの検討が必要なのであろう。

（吉崎昌一）

##### 〈引用文献〉

- ▶石冢三男編著 1977 『ウサタマイ遺跡—N地点発掘報告書』千歳市教育委員会
- ▶宇田川洋 1985 「アイヌ文化期の送り場遺跡」『考古学雑誌』70巻4号 32~78 日本考古学会
- ▶岡田淳子・山田信郎 1982 「北海道における農耕の起源に関する予察」柳原達編『北海道における農耕の起源(予報)』pp.26~30
- ▶加藤晋平ほか 1983 「縄文期の生業をめぐって」『考古学ジャーナル』№213 pp.21~27
- ▶菊池謙夫 1983 「縄文文化研究の現状と課題」『考古学ジャーナル』№213 pp.2~3
- ▶高橋正勝 1971 『柏木川』恵那町教育委員会
- ▶千歳市教育委員会 1981 『東広道跡における考古学的調査(上)』千歳市教育委員会
- ▶福土廣志 1985 『高砂遺跡第Ⅱ地点発掘調査報告』小平町教育委員会 285p.
- ▶吉崎昌一ほか 1972 『シンボジュウム・アイヌ』北海道大学図書刊行会
- ▶吉崎昌一・岡田淳子 1984 「考古学におけるエゾとエゾ地」『創造の世界』49号 pp.80~105  
小学館

[本文編]

1

## サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初の農耕集落

昭和61年3月20日発行

発行所—北海道大学

札幌市北区北8条西5丁目

編集—北海道大学埋蔵文化財調査室

デザイン—桜井雅章

印刷所—(株)北海道機関紙印刷所

札幌市北区北6条西7丁目



付表



Tab. 10-2 第1文化層出土土師器・須恵器一覧表

発祥番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	産地・出土位置	調査遺跡名など	部位	関連PL番号
■	13183	68	09-10	[30]	■	遺構外	口縁部	PL-10-2
	13452	1	07-10	[01]	■	遺構外	口縁部	
	13089	1	06-10	[31]	■	遺構外	口縁部	PL-10-10
	13304	1	05-10	[21]	■	遺構外	口縁部	
	13132	1	07-10	[30]	■	遺構外	口縁部	
	13141	1	07-10	[11]	■	遺構外	口縁部	
	13185	6	06-10	[30]	■	遺構外	口縁部	
	13190	1	06-10	[31]	■	遺構外	口縁部	
	13191	1	06-10	[31]	■	遺構外	口縁部	
	13057	2	06-10	[20]	カクラン	遺構外	口縁部	
	13453	1	07-10	[01]	■	遺構外	口縁部	
	13067	2	06-10	[31]	■	遺構外	口縁部	
	13197	1	06-10	[32]	■	遺構外	口縁部	
	13472	1	07-10	[12]	■	遺構外	口縁部	
	13118	1	06-11	[21]	■	遺構外	口縁部	
	13477	1	07-10	[13]	■	遺構外	口縁部	
	13075	1	06-10	[00]	■	遺構外	口縁部	
	14332	1	06-10	[31]	■	遺構外	口縁部	
	13137	1	07-10	[01]	■	遺構外	口縁部	
	13176	1	07-10	[30]	■	遺構外	口縁部	
	13454	1	07-10	[02]	■	遺構外	口縁部	
	13068	6	06-10	[31]	■	遺構外	胴部	
	13185	4	06-10	[30]	■	遺構外	胴部	
	13205	1	05-09	[31]	■	遺構外	胴部	
	13202	2	06-09	[04]	■	遺構外	胴部	
	13179	5	06-10	[23]	■	遺構外	胴部	
	13182	4	06-10	[30]	■	遺構外	胴部, 底部1	
	13126	2	07-10	[01]	■	遺構外	胴部	
	13135	2	07-10	[01]	■	遺構外	胴部	
	13180	2	06-10	[23]	■	遺構外	胴部	
	13056	1	06-10	[12]	■	遺構外	胴部	
	13055	1	06-10	[12]	■	遺構外	胴部	
	13177	7	06-10	[02]	■	遺構外	胴部	
	13134	1	07-10	[04]	■	遺構外	胴部	
	13160	1	07-10	[11]	■	遺構外	胴部	
	13186	4	06-10	[31]	■	遺構外	胴部	
	13073	1	06-10	[33]	■	遺構外	胴部	
	13079	1	06-11	[30]	■上	遺構外	胴部	
	13279	1	07-08	[11]	■上	遺構外	胴部	
	13082	1	06-11	[30]	■上	遺構外	胴部	
	13111	1	06-11	[30]	■	遺構外	胴部	
	13120	1	06-11	[30]	■	遺構外	胴部	
	13458	1	07-10	[05]	■	遺構外	胴部	
	13184	9	06-10	[30]	■	遺構外	胴部	
	13149	1	07-10	[03]	■	遺構外	胴部	
	13147	1	07-10	[03]	■	遺構外	胴部	
	13049	1	08-08	[31]	■	遺構外	胴部	
	13171	1	07-10	[13]	■	遺構外	胴部	
	13124	1	06-11	[30]	■	遺構外	胴部	
	13125	1	06-11	[30]	■	遺構外	胴部	
	13187	1	06-10	[31]	■	遺構外	胴部	
	13122	1	06-11	[30]	■	遺構外	胴部	
	14417	1	06-10	[30]	カクラン	遺構外	胴部	
13065	1	06-10	[11]	■	遺構外	胴部		
14708	1	06-10	[33]	カクラン	遺構外	胴部		
13188	1	06-10	[31]	■	遺構外	胴部		
13146	1	07-10	[12]	■	遺構外	胴部		
13133	1	07-10	[00]	■	遺構外	胴部		
13139	1	07-10	[01]	■	遺構外	胴部		
13064	1	06-10	[22]	■	遺構外	胴部		
13334	1	09-09	[10]	■	遺構外	胴部		
13204	1	06-09	[23]	■	遺構外	胴部		
13142	1	07-10	[02]	■	遺構外	胴部		
13150	1	07-10	[03]	■	遺構外	胴部		
172片								
■	3078	2	09-08	[11]	■上	遺構外	口縁部	PL-10-11
	3047	2	09-08	[11]	■上	遺構外	口縁部	
	3049	1	09-08	[11]	■上	遺構外	口縁部	
	3057	12	09-08	[10]	■上	遺構外	口縁部	
	3058	2	09-08	[10]	■上	遺構外	口縁部	
3019	1	10-07	[02]	■上	遺構外	口縁部		

測体番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	調査P.L.番号	
■ (ツブネ)	3893	1	09-06	[22]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3896	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3828	5	10-06	[00]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3858	2	10-06	[03]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3825	2	10-06	[01]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3874	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3864	6	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3853	1	09-06	[20]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3865	2	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3866	4	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3830	2	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3834	1	09-06	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3831	2	09-06	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3833	3	09-06	[31]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3842	2	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3876	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	口縁部		
	3869	3	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3807	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3873	5	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3837	1	09-06	[22]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3829	1	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3815	1	09-06	[02]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3818	1	10-07	[02]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3825	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3871	7	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3857	7	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3824	3	10-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3861	4	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3809	3	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3877	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3841	1	09-06	[22]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3870	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3810	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3850	1	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3890	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3854	1	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3862	3	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3884	1	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3811	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3814	1	09-06	[30]	V	遺構外	胴部		
	3819	1	09-07	[20]	V	遺構外	胴部		
	3813	3	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3812	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	388	12	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3836	1	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3882	1	09-06	[12]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3878	2	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3875	3	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部2, 胴部1		
	3872	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3874	1	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3844	1	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3848	1	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3840	2	09-06	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
	3843	1	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部		
3804	3	09-06	[11]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3860	1	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3863	2	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3179	1	09-07	[22]	V	遺構外	胴部			
3845	1	09-06	[21]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3851	1	09-06	[30]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3855	1	09-06	[20]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3814	1	09-07	[00]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3883	1	09-06	[12]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3823	1	10-06	[00]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3820	1	10-07	[00]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3821	3	10-07	[00]	Ⅲ上	遺構外	胴部			
3835	3	09-06	[31]	Ⅲ上	遺構外	底部			
3856	1	09-06	[10]	Ⅲ上	遺構外	底部			
100片(口縁部6片, 胴部3片, 底面1片番号わからず)									
■	55	13461	1	07-10	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部	P.L. ②-9-4
		13158	1	07-10	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部	P.L. ②-13

案件番号 番 (ツブ)	建物番号	竣工年	大規模改修 有	小規模改修 有	層位・出立位置	用途・用途種別	部位	関連PL番号
55	13084	1	09-11	[30]	地上	地上22	廊下	
	13462	1	07-10	[30]	■	造替外	1階部	
	13483	7	07-10	[13]	■	造替外	1階部	
	13480	1	07-10	[13]	■	造替外	1階部	
	13129	1	06-11	[30]	■	造替外	1階部	
	13144	1	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13123	2	06-11	[30]	■	造替外	1階部	
	13172	1	07-10	[13]	■	造替外	1階部	
	13782	2	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13176	1	07-10	[30]	■	造替外	1階部	
	13142	2	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13148	1	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13873	2	06-10	[32]	■	造替外	1階部	
	13872	1	06-10	[30]	■	造替外	1階部	
	13149	1	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13167	1	07-10	[13]	■	造替外	1階部	
	13141	1	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13465	1	07-10	[02]	■	造替外	1階部	
	13686	1	07-10	[02]	コケラン	造替外	1階部	
	13116	2	06-11	[20]	■	造替外	1階部	
	13107	1	06-11	[11]	■	造替外	1階部	
	13174	1	07-10	[13]	■	造替外	1階部	
	13110	3	06-11	[20]	■	造替外	1階部	
	13876	1	06-11	[20]	■上	造替外	1階部	
	13119	1	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13130	1	06-11	[11]	■	造替外	廊下	
	13117	1	06-11	[11]	■	造替外	廊下	
	13127	1	06-11	[20]	■	造替外	廊下	
	13112	2	06-11	[20]	■	造替外	廊下	
	13128	1	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13126	1	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13129	1	06-11	[11]	■	造替外	廊下	
	13120	2	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13878	2	06-11	[30]	■上	造替外	廊下	
	13877	1	06-11	[20]	■上	造替外	廊下	
	13200	3	06-10	[30]	■	造替外	廊下	
	13199	1	06-10	[30]	■	造替外	廊下	
	13169	1	06-11	[20]	■	造替外	廊下	
	13115	1	06-11	[20]	■	造替外	廊下	
	13201	1	06-10	[32]	■	造替外	廊下	
	13178	1	06-10	[20]	■	造替外	廊下	
	13080	1	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13131	1	06-11	[11]	■	造替外	廊下	
	16075	2	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13154	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13153	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13181	1	06-10	[30]	■	造替外	廊下	
	13114	2	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13484	3	07-10	[13]	■	造替外	廊下	
	13463	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13489	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13490	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13494	1	07-10	[11]	■	造替外	廊下	
	13487	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13486	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13476	3	07-10	[13]	■	造替外	廊下	
	13133	2	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13455	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13468	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	14708	1	06-10	[30]	コケラン	造替外	廊下	
	13163	1	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13140	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13099	1	07-11	[11]	■	造替外	廊下	
	13169	1	07-10	[13]	■	造替外	廊下	
	13124	1	06-11	[30]	■	造替外	廊下	
	13162	2	07-10	[12]	■	造替外	廊下	
	13152	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13143	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13157	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13159	1	07-10	[02]	■	造替外	廊下	
	13173	1	07-10	[13]	■	造替外	廊下	

標本番号	植物番号	破片数	大ゲラド	小ゲラド	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連P.L.番号	
■ (ツブネ)	90	13148	1	07-10	(90)	■	遺構外	胴部	
	13145	1	07-10	(12)	■	遺構外	胴部		
	13196	1	06-10	(32)	■	遺構外	胴部		
	13189	1	06-10	(31)	■	遺構外	胴部		
	13188	2	06-10	(32)	■	遺構外	胴部		
	14708	8	06-10	(32)	■	コクラン	遺構外	胴部	
	14882	2	05-11	(30)	■	V	遺構外	胴部	
	13460	1	07-10	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	13454	1	07-10	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	13407	1	07-10	(12)	■	■	遺構外	胴部	
	13478	1	07-10	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	13479	1	07-10	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	13481	1	07-10	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	13457	1	07-10	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	13474	2	07-10	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	13496	1	07-10	(33)	■	■	遺構外	胴部	
	13491	1	07-10	(33)	■	■	遺構外	胴部	
	13488	1	07-10	(32)	■	■	遺構外	胴部	
	13889	2	07-10	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	13882	1	06-10	(28)	■	■	遺構外	胴部	
	13864	1	06-10	(32)	■	■	遺構外	胴部	
	13883	1	06-11	(30)	■	■	遺構外	胴部	
	13108	1	06-11	(22)	■	■	遺構外	胴部	
	13155	1	07-11	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	13096	2	07-11	(90)	■	■	遺構外	底部1, 胴部1	
	13156	1	07-10	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	13197	1	06-10	(32)	■	■	遺構外	胴部	
13466	1	07-10	(90)	■	■	遺構外	底部		
130件(胴部1片番号わからず)									
■	50	16366	10	09-18	(11)	■	遺構外	口縁部	PL-22-9-1
	16365	46	09-18	(11)	■	コクラン	遺構外	口縁部	PL-22-12
	16364	13	09-18	(11)	■	■	遺構外	口縁部	
	16367	18	09-18	(11)	■	コクラン	遺構外	口縁部	
	16412	40	09-18	(不明)	■	コクラン	遺構外	胴部	
	16363	11	09-18	(11)	■	■	遺構外	胴部	
	8710	4	09-18	(不明)	■	■	遺構外	胴部	
	142件								
■	100	3109	1	09-07	(11)	■	遺構外	胴部	PL-22-9-1
	3103	1	09-07	(90)	■	■	遺構外	胴部	PL-22-14
	3101	1	09-07	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3105	1	09-07	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3110	1	09-07	(11)	■	■	遺構外	胴部	
	3082	1	09-06	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3094	1	06-07	(31)	■	■	遺構外	胴部	
	3080	2	09-06	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3735	1	09-07	(91)	■	■	遺構外	胴部	
	3081	1	09-06	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3084	1	09-06	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	3086	1	09-06	(32)	■	■	遺構外	胴部	
	12915	1	07-06	(31)	■	■	遺構外	底部	
	3096	1	08-07	(31)	■	■	遺構外	口縁部	
	3085	2	09-06	(13)	■	■	遺構外	口縁部	
	3615	1	09-07	(13)	■	■	遺構外	胴部	
	3613	1	09-07	(98)	■	■	遺構外	胴部	
	3104	1	09-07	(90)	■	■	遺構外	口縁部	
	3097	1	08-07	(31)	■	■	遺構外	口縁部	
	3098	1	08-07	(31)	■	■	遺構外	口縁部	
	3612	1	09-07	(91)	■	■	遺構外	胴部	
	3095	1	08-07	(31)	■	■	遺構外	胴部	
	3082	1	09-06	(90)	■	■	遺構外	胴部	
	3094	1	08-07	(31)	■	■	遺構外	胴部	
	3110	1	09-07	(11)	■	■	遺構外	胴部	
	27件								
	■	107	12824	20	30-16	(23)	■	機上72	胴部10, 底部10
20件									
■	157	12642	2	31-17	(10)	■	遺構外	胴部	PL-22-9-3
	12644	22	31-17	(10)	■	■	遺構外	口縁部10, 胴部10, 底部2	
	12645	4	31-17	(10)	■	■	遺構外	胴部	
	12649	1	31-17	(10)	■	■	遺構外	胴部	
20件									

保存番号	遺物番号	種別	大ツリツド	小ツリツド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号
■	172	5630	1	39-16	(20)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		6118	1	39-16	(22)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		5993	1	39-16	(23)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		5996	1	39-16	(12)	Ⅲ	焼土71	口縁部
		6007	1	39-14	(12)	Ⅲ	透練外	口縁部
		6034	1	39-13	(23)	Ⅲ	透練外	口縁部
		6037	1	39-13	(25)	Ⅲ	透練外	口縁部
		12810	1	34-13	(23)	Ⅲ	透練外	口縁部
		6038	1	39-13	(30)	Ⅲ	透練外	口縁部
	5片							
■	173	12601	2	30-16	(22)	Ⅲ	焼土72	口縁部
		12604	2	30-16	(22)	Ⅲ	焼土72	口縁部
		4片						
■	174	6883	1	30-16	(20)	焼土上	焼土72	口縁部
		6892	1	30-16	(23)	焼土上	焼土72	胴部
		6330	1	29-14	(21)	Ⅲ	透練外	口縁部
		13827	1	29-15	(20)	Ⅲ	透練外	口縁部
		13767	1	27-14	(19)	Ⅲ	透練外	口縁部
		6309	1	27-13	(21)	V	透練外	口縁部
		13846	1	30-15	(22)	Ⅲ	透練外	口縁部
		13907	1	30-16	(25)	Ⅲ	透練外	胴部
		5片						
■	183	619	4	11-05	(11)	覆土①層	5号坑穴内	口縁部
		3306	1	09-07	(01)	Ⅲ	透練外	口縁部
		15721	1	05-05	(13)	Ⅲ	透練外	口縁部
	6片							
■	184	5497	1	36-17	[不明]	表土	透練外	口縁部
		5498	2	36-17	[不明]	表土	透練外	口縁部
		5509	1	26-18	(22)	Ⅲ	透練外	口縁部
		5526	1	26-16	(30)	Ⅲ	透練外	口縁部
	5片							
遺物部(備)	17	12632	10	30-17	(00)	Ⅲ	透練外	胴部
	10片							

PL-33-0-2

Tab. ①-21 第2文化層出土土器器一覽表

器物番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	調査遺構名	部位	関連PL、番号		
環	1	9508	1	10-15	(36)	Ⅱ	炭化物②	腰部	PL.②-266-1	
		11548	1	12-17	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		11985	1	10-16	(03)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		11978	8	10-17	(11)	Ⅱ	遺構外	腰部7, 底部1		
		11975	1	10-17	(01)	Ⅱ	遺構外	腰部		
		11538	1	11-17	(12)	Ⅱ	遺構外	腰部		
		11533	1	11-17	(12)	Ⅱ	遺構外	腰部		
	11903	1	11-17	(11)	Ⅱ	遺構外	腰部			
(完整品)			15片							
環	2	2180	9	09-05	(12)	Ⅱ	1号土層直下の遺土・炭化物	口縁部④, 腰部②, 底部①	PL.②-137-3 PL.②-131	
			9片							
環	3	1707	4	10-16	(03)	Ⅱ	遺構外	口縁部①, 腰部②, 底部①	PL.②-210 PL.②-268-1	
			4片							
環	4	10829	4	17-17	(11)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部③, 腰部①	PL.②-22-1
		1801	2	17-17	(11)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部	PL.②-44
		1800	1	17-17	(11)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部	
		10510	2	17-16	(22)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部	
		1812	1	17-17	(22)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	腰部	
		1834	2	17-17	(20)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	腰部①, 底部①	
			12片							
環	5	955	16	17-17	(11)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	腰部①⑤, 底部①	PL.②-32-2
		9509	5	10-15	(12)	Ⅱ	炭化物②	口縁部	PL.②-45	
			21片							
環	6	10796	2	17-11	(36)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-202-1
		10888	1	10-11	(06)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-211
		10677	1	10-11	(06)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	腰部-底部	
(完整品)			4片							
環	7	1163	1	10-20	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部	PL.②-66	
		1726	6	17-16	(11)	Ⅱ	遺構外	口縁部⑤, 腰部-底部①	PL.②-268-2	
			7片							
環	8	960	4	10-05	(21)	Ⅱ	Ⅱ土①層	5号壺穴内面	口縁部③, 腰部-底部①	PL.②-127-2 PL.②-132
			4片							
環	9	1743	1	17-16	(22)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部	PL.②-22-3
		9503	2	10-15	(36)	Ⅱ	炭化物②	口縁部	PL.②-270	
		7427	6	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物②	口縁部①, 腰部②, 底部②		
		8782	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物②	口縁部		
		8761	2	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物②	口縁部		
		8746	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物②	口縁部		
		8740	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物②	口縁部		
(完整品)			14片							
環	10	1902	2	17-16	(22)	Ⅱ	Ⅱ土①層	2号壺穴内面	口縁部	PL.②-202-2
		3542	2	17-12	(06)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL.②-212
		10837	1	17-12	(20)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10486	1	17-11	(22)	Ⅱ	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部	
		9305	1	17-11	(12)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10287	1	17-11	(22)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		10319	1	17-12	(21)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		3520	1	17-12	(06)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		7505	1	17-12	(21)	Ⅱ	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
		3453	1	17-11	(22)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9286	1	17-12	(10)	Ⅱ	マウンド上面	炭化物マウンド	底部	
		9386	1	17-11	(12)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	底部	
		2221	1	17-10	(21)	Ⅱ	Ⅱ	炭化物マウンド	腰部	
		10293	1	17-12	(20)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	腰部	
		9360	1	17-11	(12)	Ⅱ	マウンド内	炭化物マウンド	腰部	
		8757	1	17-12	(01)	Ⅱ	マウンド上面	炭化物マウンド	腰部	
(完整品)			10片							
環	11	2722	10	07-12	(22)	V	Ⅱ土①層	口縁部③, 腰部④, 底部③	PL.②-261-1	
		14800	1	08-12	(30)	V	Ⅱ土①層	口縁部	PL.②-271	
		11774	1	10-15	(06)	V	炭化物②明道	腰部		
			12片							
環	12	1563	1	10-05	(06)	Ⅱ	Ⅱ土①層	5号壺穴内面	PL.②-127-1 PL.②-123	
(完整品)			1個体							
環	13	1183	4	09-12	(02)	Ⅱ	Ⅱ土①層	3号壺穴内面	口縁部①, 腰部②, 底部①	PL.②-161-1 PL.②-161
			4片							
(完整品)			1個体					PL.②-268-3		
環	14	14500	1	08-08	(01)	Ⅱ	遺構外	口縁部②, 腰部①	PL.②-268-4	
		3860	3	10-08	(10)	Ⅱ	遺構外	口縁部③, 底部①		
		3845	4	10-08	(06)	Ⅱ	遺構外	口縁部③, 底部①		
		3858	1	10-08	(10)	V	遺構外	底部		
(完整品)			8片							

採出番号	遺物番号	破片数	大ダット	小ダット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL_番号	
環	11710	1	15-17	(31)	土壁内	3号土壁	1層部	PL_図-104-1	
	11645	2	15-17	(32)	礎土	礎土41	1層部	PL_図-213	
	3329	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	1層部		
	3325	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	3336	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	中部		
	6片								
環	10705	1	17-11	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	1層部	寺原岡5-上	
	10442	2	17-11	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	1層部1, 1層部1	PL_図-32	
	10567	1	17-11	(31)	マウンド内	炭化物マウンド	中部	PL_図-303-6	
	13255	1	07-08	(31)	IV	礎土18	中部	PL_図-214	
	13265	1	07-08	(31)	IV	礎土18	中部		
	14137	1	08-04	(32)	IV	礎土・炭化物28	中部		
	3866	1	10-08	(21)	IV	炭化物30	中部		
	14230	1	08-05	(10)	IV	遺構外	1層部		
	9片								
	環	12063	8	17-17	(12)	カマド	2号竈穴付厨	1層部6, 1層部～底部2	PL_図-32-4 PL_図-47
8片									
環	2204	5	09-05	(22)	礎土	1号土壁裏面の礎土・炭化物	1層部1, 1層部4	PL_図-157-1	
	2205	9	09-05	(22)	礎土	1号土壁裏面の礎土・炭化物	1層部1, 1層部5, 底部3	PL_図-154	
	14片								
環	73	1	19-15	(30)	(不明)	炭化物52	1層部	PL_図-266-2	
	71	2	19-16	(30)	(不明)	炭化物52関連	1層部1, 1層部1		
	9080	2	19-15	(23)	Ⅱ'	炭化物52	1層部1, 1層部1		
	9083	1	19-16	(30)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	7928	1	19-15	(22)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	7片								
環	9801	1	17-13	(00)	IV	炭化物マウンド関連	1層部	PL_図-202-3	
	8803	1	17-17	(11)	礎	礎土43	1層部	PL_図-215	
	9780	1	15-17	(21)	IV	礎土43	1層部		
	8219	1	15-17	(21)	Ⅲ	礎土43	1層部		
	4片								
環	13647	2	08-08	(31)	IV	礎土27	1層部	PL_図-202-4	
	10021	1	17-11	(22)	マウンド上層	炭化物マウンド	1層部	PL_図-216	
	7036	3	17-12	(30)	IV	炭化物マウンド	1層部2, 1層部1		
	7111	1	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	1層部		
	6901	11	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	1層部3, 1層部6, 1層部2		
	18片								
環	7421	1	19-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	1層部	PL_図-266-3	
	9097	1	19-15	(20)	Ⅱ'	炭化物52	1層部		
	11311	1	19-15	(30)	Ⅱ'	炭化物52	1層部		
	8183	1	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物52	1層部		
	7894	1	19-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	1層部		
	7700	1	19-15	(23)	Ⅱ'	炭化物52	1層部		
	7088	10	19-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	1層部6, 1層部3, 1層部1		
	7907	1	19-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	17片								
	環	8041	3	16-18	(21)	IV	礎土44	1層部	PL_図-202-5
		7981	1	19-15	(10)	Ⅱ'	炭化物52	1層部	PL_図-217
7149		2	17-12	(30)	IV	炭化物マウンド	1層部		
10679		1	18-11	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	1層部		
7030		1	17-12	(20)	IV	炭化物マウンド	1層部		
8772		1	17-12	(11)	マウンド上層	炭化物マウンド	1層部		
186		1	17-12	(10)	(不明)	炭化物マウンド	1層部		
7340		1	17-12	(10)	IV	炭化物マウンド	1層部		
7331		1	17-12	(04)	IV	炭化物マウンド	1層部		
7281		1	17-12	(11)	IV	炭化物マウンド	1層部		
7229		1	17-12	(04)	IV	炭化物マウンド	1層部		
7294		1	17-12	(21)	IV	炭化物マウンド	1層部		
15片									
環		8906	1	17-18	(00)	礎土5層	2号竈穴付厨	1層部	PL_図-266-4
	11649	2	15-17	(31)	礎土	礎土43	1層部	PL_図-273	
	11195	1	15-17	(31)	IV	礎土43	1層部		
	8711	1	16-17	(01)	礎土上層	礎土43	1層部		
	9087	2	19-15	(23)	Ⅱ'	炭化物52	1層部		
	5814	1	19-16	(30)	Ⅲ	炭化物52関連	1層部		
	5808	1	19-16	(30)	Ⅲ	炭化物52関連	1層部		
	10826	1	15-14	(22)	IV	遺構外	1層部		
	5201	1	20-17	(22)	遺構	遺構外	1層部		
	11片								
	環	15846	1	09-09	(02)	Ⅱ'	4号土壁	1層部	PL_図-194-3
14049		1	09-09	(02)	Ⅱ'	4号土壁	1層部	PL_図-167	



調査番号	遺物番号	縄文層	スプリット	小スプリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号		
環 (ツブネ)	26	15423	2	08-09	(02)	炭化物層	4号土壌	体部1, 底部1		
	4片									
	環	27	7175	7	26-16	(22)	炭化物層	炭化物・焼土70	口縁部2, 体部5	
		7300	3	27-16	(03)	炭化物層	炭化物・焼土70	体部2, 底部1	PL (図)-261-2	
7194		1	27-16	(03)	炭化物層	炭化物・焼土70	体部			
11片										
環	28	11957	1	18-15	(16)	青	炭化物22層位	口縁部	PL (図)-203-1	
	3338	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL (図)-218		
	9257	2	17-11	(13)	マウンド上層	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1			
	9308	1	17-11	(03)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部			
	9205	1	17-11	(03)	マウンド上層	炭化物マウンド	口縁部			
	9307	1	17-11	(03)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部			
	9310	1	17-11	(02)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部			
	7130	1	17-12	(10)	青	炭化物マウンド	口縁部			
	10285	1	17-12	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	体部			
	10310	1	17-12	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部			
	9639	2	17-12	(11)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部			
	9461	1	17-10	(23)	マウンド内	炭化物マウンド	底部			
9265	1	17-11	(12)	マウンド上層	炭化物マウンド	体部				
15片 (口縁部～胴部1片書券のみからず)										
環	29	1177	1	10-05	(20)	ホマド	5号堀穴住居	口縁部	PL (図)-127-4	
	1196	1	10-05	(20)	ホマド	5号堀穴住居	底部	PL (図)-128		
	1195	1	10-05	(20)	ホマド	5号堀穴住居	体部			
3片										
環	30	3491	8	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部3, 体部2, 底部1	PL (図)-202-2	
	8701	5	17-11	(22)	マウンド上層	炭化物マウンド	口縁部1, 体部4	PL (図)-219		
	9304	1	17-11	(02)	マウンド内	炭化物マウンド	体部			
	3340	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	体部			
	10253	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	体部			
	16片									
環	31	15687	1	08-09	(02)	赤	4号土壌	口縁部	PL (図)-154-2	
	1865	1	18-10	(11)	カタラン	炭化物マウンド	口縁部	PL (図)-230		
	1860	1	18-10	(12)	カタラン	炭化物マウンド	底部			
	2782	1	18-10	(01)	マウンド内	炭化物マウンド	体部			
	4463	1	16-22	(21)	青	炭化物42	体部			
	9274	0	20-15	(21)	赤	炭化物52	口縁部3, 体部3			
	8148	1	19-14	(20)	青	炭化物22層位	体部			
	1717	1	15-08	(23)	青	遺構外	体部			
	13片									
	環	32	1185	3	09-11	(20)	黒土①層	3号堀穴住居	口縁部1, 体部1	PL (図)-100-2
3片										
環		33	1354	7	11-06	(20)	赤黄	5号堀穴住居	口縁部2, 体部4, 底部1	PL (図)-168
		1263	1	11-06	(20)	赤黄	5号堀穴住居	口縁部	PL (図)-127-5	
	1453	1	11-06	(20)	赤	5号堀穴住居	体部	PL (図)-127		
	3890	1	08-08	(20)	青	焼土27層位	体部			
3294	1	08-08	(20)	V	1号土壌焼土層位	体部				
11片										
環	34	872	7	18-16	(22)	(不明)	炭化物52	口縁部2, 体部5	PL (図)-267-1	
	1790	1	18-16	(13)	黄	炭化物52	体部			
	11080	1	19-15	(22)	赤	炭化物52	底部			
	7669	1	19-15	(22)	赤	炭化物52	底部			
	1759	2	18-16	(13)	黄	炭化物52	体部			
	9052	1	19-15	(12)	赤	炭化物52	体部			
	7993	1	19-15	(22)	赤	炭化物52	体部			
	1754	1	18-14	(02)	黄	炭化物52	体部			
	1758	1	18-16	(13)	黄	炭化物52	体部			
	16片									
	環	35	4386	1	16-22	(01)	青	炭化物42	口縁部	PL (図)-203-3
		4384	1	16-22	(01)	青	炭化物42	口縁部	PL (図)-221	
4383		1	16-22	(01)	青	炭化物42	口縁部			
4387		1	16-22	(01)	青	炭化物42	体部			
4382		1	16-22	(01)	青	炭化物42	底部			
18519		1	16-12	(不明)	(不明)	炭化物マウンド周辺	口縁部			
4195		1	17-22	(00)	青	遺構外	体部			
42		1	13-22	(不明)	カタラン	遺構外	体部			
8片										
環		36	9494	2	17-11	(02)	青	炭化物マウンド	口縁部1, 体部1	PL (図)-203-4
	7434	1	19-15	(22)	赤	炭化物52	口縁部	PL (図)-222		
	9620	1	20-15	(02)	赤	炭化物52	口縁部			
	7451	1	19-15	(22)	赤	炭化物52	口縁部			
	9099	10	19-15	(22)	赤	炭化物52	口縁部3, 体部3, 底部4			

個体番号	遺物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
環 (ツブ8)	7621	2	19-15	(11)	Ⅱ'	炭化物52	口縁部1, 底部1		
	7977	1	19-15	(10)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	11083	1	19-15	(20)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	7668	1	19-15	(20)	Ⅱ'	炭化物52	底部		
	20円								
環	2972	1	18-16	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	底部	PL-図-203-5	
	2973	1	18-16	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL-図-203	
	2974	4	18-16	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部2, 底部2		
	2839	1	18-16	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
7円									
環	14905	1	07-08	(13)	焼土	炭化物19	口縁部	PL-図-201-3	
	15107	1	07-08	(13)	焼土下層	炭化物19	口縁部	PL-図-274	
	15130	1	07-09	(10)	焼土下層	炭化物19	底部		
	14333	1	10-17	(00)	V	遺構外	口縁部		
	4484	1	08-14	(12)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
	2717	1	08-12	(10)	V	遺構外	底部		
	15063	1	06-07	(30)	Ⅱ'	遺構外	底部		
	4099	1	11-16	(10)	V	遺構外	底部		
	8円								
環	538	4	17-17	(20)	層土化層	2分型穴注器	底部	PL-図-268-5	
	7800	1	14-15	(01)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
	7781	1	13-15	(20)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
	628	2	13-15	(11)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
	7702	2	13-15	(08)	Ⅱ'	遺構外	口縁部1, 底部1		
	1369	1	11-18	(21)	V	遺構外	底部		
	7540	1	13-15	(20)	Ⅱ'	遺構外	底部		
	8296	1	13-17	(21)	Ⅱ'	遺構外	底部		
	627	1	13-15	(11)	Ⅱ'	遺構外	底部		
	14円								
	環	8967	1	12-14	(20)	Ⅱ'	焼土35	底部	PL-図-261-4
7530		1	13-15	(20)	Ⅱ'	焼土37焼透	底部		
7527		1	13-15	(21)	Ⅱ'	焼土37焼透	底部		
7534		1	13-15	(23)	Ⅱ'	焼土37焼透	底部		
5876		1	13-15	(20)	Ⅱ'	焼土37焼透	底部		
7497		1	14-15	(00)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
7499		1	14-15	(01)	Ⅱ'	遺構外	底部		
7704		1	15-15	(00)	Ⅱ'	遺構外	底部		
8968		2	13-16	(13)	Ⅱ'	遺構外	口縁部		
10円									
環	9349	2	17-11	(13)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部1, 底部1	PL-図-200-6	
	9410	1	17-12	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	底部	PL-図-274	
	7610	1	19-15	(20)	Ⅱ'	炭化物52	口縁部		
	11492	2	21-15	(13)	Ⅱ'	焼土62	底部		
8円									
環	10246	3	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PL-図-203-7	
	8802	1	16-11	(20)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部	PL-図-225	
	7814	1	18-11	(01)	Ⅱ'	炭化物マウンド取付	口縁部		
	10760	1	17-11	(20)	マウンド下面	炭化物マウンド	口縁部		
	10030	1	17-11	(20)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部		
	10067	1	17-12	(21)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部		
	8692	1	17-11	(20)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部		
	10024	1	17-11	(20)	マウンド上面	炭化物マウンド	口縁部		
	9880	1	17-12	(11)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	10431	1	17-12	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	3519	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	10430	2	17-12	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	3412	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	3363	1	17-11	(23)	Ⅱ'	炭化物マウンド	底部		
	9354	1	17-11	(12)	マウンド上面	炭化物マウンド	底部		
	3366	1	17-11	(13)	マウンド上面	炭化物マウンド	底部		
	10383	1	17-12	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	10246	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	10430	1	17-12	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	底部		
	22円								
	環	1758	1	18-16	(13)	Ⅱ'	2分型穴注器	口縁部	PL-図-26-6
		492	1	16-17	(03)	M上	焼土43	口縁部	PL-図-226
		12261	1	16-18	(00)	Ⅱ'	焼土43	口縁部	
12256		1	16-18	(11)	Ⅱ'	焼土43	底部		
8027		1	16-18	(11)	Ⅱ'	焼土43	底部		
8039		1	16-18	(11)	Ⅱ'	焼土43	底部		
12828		1	16-18	(10)	Ⅱ'	焼土43	底部		

標榜番号	遺物番号	破片数	スリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号	
坪 (ツブネ)	43	13521	1	16-18	(00)	焼土	焼土43	坪部	
		441	1	16-17	(02)	Ⅱ上	焼土43	坪部	
		12190	1	16-18	(21)	Ⅲ	焼土44	口縁部	
		12253	2	16-18	(16)	Ⅲ	焼土44周辺	口縁部	
		10062	1	17-13	(21)	マウンド上層	炭化物マウンド	口縁部	
		7900	1	17-13	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部	
14片									
坪	44	6181	1	26-15	(22)	焼土	焼土68	口縁部	
		6182	1	26-15	(22)	焼土	焼土68	坪部	
		6171	1	26-15	(23)	焼土	焼土68	坪部	
		6126	1	26-14	(33)	Ⅲ	焼土68周辺	底部	
		6709	1	26-15	(11)	Ⅲ	焼土68周辺	底部	
5片									
坪	45	9816	1	17-13	(03)	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		10179	1	17-13	(02)	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		9807	2	17-13	(02)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		9808	1	17-13	(02)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		9838	1	17-13	(13)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		9969	1	16-13	(33)	Ⅲ	遺構外	底部	
		11454	1	20-15	(16)	Ⅲ	炭化物62周辺	底部	
8片									
坪	46	14923	1	07-08	(03)	焼土	炭化物19	口縁部	
		8394	1	20-14	(30)	Ⅲ	焼土61	底部	
		8396	1	20-14	(30)	Ⅲ	焼土61	底部	
		12967	1	07-07	(22)	Ⅲ	遺構外	坪部	
4片									
坪	47	14356	1	08-07	(22)	土壁内	6号土壁	坪部	
		14380	1	08-07	(21)	土壁内	6号土壁	坪部	
		13953	1	08-07	(20)	Ⅲ	6号土壁周辺	坪部	
		3733	1	09-07	(00)	Ⅲ	6号土壁周辺	口縁部	
		3732	1	09-07	(00)	Ⅲ	6号土壁周辺	口縁部	
		5194	1	09-06	(01)	V	6号土壁周辺	口縁部	
		3741	1	09-07	(02)	Ⅲ	6号土壁周辺	口縁部	
		5097	2	08-06	(22)	Ⅲ	6号土壁周辺	底部	
	9片								
坪	48	1494	1	10-06	(12)	床直	5号穴内直	坪部	
		1410	1	10-06	(12)	床直	5号穴内直	坪部	
		12862	1	08-07	(21)	土壁内	5号土壁	坪部	
		12771	1	08-07	(20)	Ⅲ	5号土壁周辺	底部	
		12914	1	08-07	(20)	Ⅲ	5号土壁周辺	坪部	
		1348	1	10-06	(21)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		1349	1	10-06	(21)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		16242	1	04-06	(30)	V	遺構外	坪部	
	8片								
	坪	49	10569	2	19-15	(22)	床直	2号穴内直	口縁部1, 坪部1
		6161	2	19-15	(01)	Ⅲ	炭化物62	口縁部	
		9020	1	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物62	口縁部	
		13571	1	20-15	(20)	Ⅲ	炭化物62	口縁部	
		7633	1	19-15	(02)	Ⅲ	炭化物62	坪部	
		9820	1	20-15	(02)	Ⅲ	炭化物62	坪部	
		697	1	11-08	(02)	Ⅱ上	炭化物30周辺	底部	
		9976	1	16-13	(22)	Ⅲ	遺構外	底部	
10片									
坪	50	9064	19	19-16	(20)	Ⅲ	炭化物62	口縁部6, 坪部11, 底部2	
	19片								
坪	51	11180	1	16-17	(21)	床直	2号穴内直	底部	
		10290	6	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部2, 坪部4	
		464	1	16-17	(12)	Ⅱ上	焼土43	底部	
		12592	1	16-17	(25)	Ⅲ	焼土43	底部	
		12546	1	16-17	(23)	Ⅲ	焼土43	底部	
10片									
坪	52	8301	1	16-16	(22)	Ⅲ	焼土43周辺	坪部	
		412	1	16-16	(21)	Ⅱ上	焼土43周辺	坪部	
		411	1	16-16	(21)	Ⅱ上	焼土43周辺	坪部	
		8290	1	16-16	(12)	Ⅲ	焼土43周辺	坪部	
		11814	1	15-17	(12)	Ⅲ	焼土43周辺	坪部	
		9092	3	14-17	(22)	Ⅲ	遺構外	口縁部	
		4228	1	11-11	(21)	Ⅲ	遺構外	底部	
		7496	1	14-15	(00)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		4171	1	13-18	(22)	Ⅲ	遺構外	坪部	
		4126	1	14-19	(20)	Ⅲ	遺構外	坪部	
	12片								

貨物番号	運物番号	破片数	大フラット	小フラット	層数・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号	
B	53	3314	1	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	13層部	PL-②-204-3
		3329	2	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	13層部1, 14層部1	PL-②-208
		3372	2	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	13層部	
		3371	2	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	13層部1, 14層部1	
		3369	2	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	底面	
		3315	3	17-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド	14層部	
		3379	1	16-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド周辺	14層部	
		3365	2	16-12	(90)	Ⅱ	炭化物マウンド周辺	14層部	
		3396	2	20-14	(90)	Ⅱ	遺構外	底面	
B	54	272	1	16-16	(33)	(不明)	焼土43	13層部	PL-②-204-3
		9106	1	16-16	(不明)	焼土上面	焼土43	13層部	PL-②-229
		264	1	16-16	(33)	(不明)	焼土43	14層部	
		204	4	16-17	(90)	(不明)	焼土43	14層部	
		3741	1	17-11	(32)	マウンド上面	炭化物マウンド	13層部	
		10091	1	17-11	(32)	マウンド上面	炭化物マウンド	13層部	
		10469	1	17-12	(90)	マウンド内	炭化物マウンド	14層部	
		2896	1	17-10	(32)	Ⅱ	炭化物マウンド	14層部	
		2413	1	17-10	(32)	Ⅱ	炭化物マウンド	14層部	
		1864	1	18-10	(12)	セキラン	炭化物マウンド	14層部	
		3516	1	13-17	(08)	Ⅱ	遺構外	底面	
B	56	3179	1	19-15	(11)	Ⅱ	炭化物2	14層部	PL-②-204-4
		3242	1	17-12	(90)	マウンド内	炭化物マウンド	13層部	PL-②-230
		10003	1	17-12	(31)	マウンド内	炭化物マウンド	13層部	
		10064	2	17-12	(31)	マウンド上面	炭化物マウンド	13層部	
		184	2	17-12	(14)	(不明)	炭化物マウンド	14層部	
		9660	1	17-12	(14)	マウンド内	炭化物マウンド	13層部	
		9648	2	17-11	(13)	マウンド上面	炭化物マウンド	14層部	
		7241	1	17-12	(16)	Ⅱ	炭化物マウンド	14層部	
		9239	1	17-12	(16)	マウンド上面	炭化物マウンド	14層部	
		3756	1	17-12	(31)	マウンド上面	炭化物マウンド	14層部	
		10099	1	18-14	(11)	Ⅱ	遺構外	13層部	
		4781	1	12-08	(01)	Ⅱ	遺構外	13層部	
B	58	539	2	17-17	(90)	焼土1層	2号穴6位階	13層部	PL-②-266-6
		537	2	17-17	(90)	焼土1層	2号穴6位階	13層部	
		7291	1	20-16	(14)	Ⅱ	炭化物6層部	14層部	
		225	2	15-16	(31)	(不明)	遺構外	13層部	
		7713	1	15-15	(13)	Ⅱ	遺構外	14層部	
		10813	1	15-14	(11)	Ⅱ	遺構外	14層部	
		7725	1	15-15	(33)	Ⅱ	遺構外	14層部	
		224	1	15-16	(90)	Ⅱ	遺構外	14層部	
B	57	105	2	21-14	(23)	(不明)	遺構外	13層部	PL-②-229
		106	7	21-14	(23)	(不明)	遺構外	13層部	PL-②-265-7
		3119	2	21-14	(22)	Ⅱ	遺構外	14層部	
		3132	2	21-14	(30)	Ⅱ	遺構外	14層部1, 15層部1	
		3400	2	21-14	(10)	Ⅱ	遺構外	14層部	
B	59	10341	1	17-12	(90)	マウンド内	炭化物マウンド	13層部	PL-②-231
		10761	1	17-11	(32)	マウンド下面	炭化物マウンド	13層部	
		3434	1	17-11	(33)	マウンド下面	炭化物マウンド	13層部	
		3435	1	17-11	(33)	マウンド下面	炭化物マウンド	13層部	
		3436	1	17-11	(33)	マウンド下面	炭化物マウンド	13層部	
		10342	1	17-12	(90)	マウンド内	炭化物マウンド	14層部	
		10761	1	17-11	(32)	マウンド下面	炭化物マウンド	14層部	
		9110	1	18-16	(23)	Ⅱ	炭化物3	14層部	
B	60	10330	1	21-17	(12)	Ⅱ	遺構外	13層部-14層部	PL-②-268-8
		10331	1	21-17	(12)	Ⅱ	遺構外	13層部-14層部	
		10335	1	21-17	(12)	Ⅱ	遺構外	13層部-14層部	
		12410	1	19-18	(11)	Ⅱ	遺構外	13層部-14層部	
		12908	1	21-13	(32)	Ⅱ	遺構外	13層部-14層部	
B	60	12483	1	19-15	(11)	Ⅱ	炭化物2	13層部	PL-②-276
		2195	1	19-15	(22)	Ⅱ	炭化物2	14層部	PL-②-266-7
		11973	1	19-15	(90)	Ⅱ	炭化物2	14層部	
		11877	1	16-15	(31)	Ⅱ	炭化物2	14層部	
		12155	1	19-16	(30)	Ⅱ	炭化物2周辺	14層部	
		211	1	20-16	(32)	(不明)	炭化物2周辺	14層部	

供体番号	通称番号	産出数	大フリット	小フリット	層位・床土位置	関連通称など	部位	関連PL番号
環 (ツブ)	12490	1	21-15	(21)	Ⅱ	焼土62	Ⅰ層部	
	12487	1	21-15	(21)	Ⅱ	焼土62	Ⅰ層部	
	7488	1	21-16	(02)	Ⅱ	焼土62附近	Ⅰ層部	
	12871	1	21-16	(00)	Ⅱ	焼土62附近	Ⅰ層部	
	11813	1	21-17	(11)	Ⅱ	遺構外	伴部	
	9902	1	23-17	(11)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部	
12片								
環	2904	2	17-10	(23)	Ⅱ	炭化物マウンド	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-232
	9268	1	17-11	(13)	マウンド上面	炭化物マウンド	Ⅰ層部	
3片								
環	2181	1	09-05	(11)	Ⅱ	1号土壌層位の焼土・炭化物	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-157-2
	2190	1	09-05	(12)	Ⅱ	1号土壌層位の焼土・炭化物	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-233
	2198	1	09-05	(22)	Ⅱ	1号土壌層位の焼土・炭化物	Ⅰ層部	
	2356	1	09-05	(11)	Ⅱ	1号土壌層位の焼土・炭化物	Ⅰ層部	
	14746	1	07-05	(00)	V	焼土17	Ⅰ層部	
	8075	1	17-12	(12)	マウンド上面	炭化物マウンド	Ⅰ層部	
	4735	1	14-09	(11)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部	
7片								
環	741	1	11-04	(01)	焼土5層	5号第六住居	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-194-6
	12926	1	08-07	(11)	土壌内	5号土壌	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-184
	12944	1	08-07	(12)	土壌内	5号土壌	Ⅰ層部	
	4123	1	10-08	(22)	V	炭化物30	Ⅰ層部	
4片								
環	11991	1	20-16	(20)	Ⅱ	炭化物52周遊	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-234
	11251	1	21-14	(01)	Ⅱ	炭化物52周遊	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-267-2
	11282	1	20-15	(22)	Ⅱ	炭化物53周遊	Ⅰ層部	
3片								
環	7043	1	18-12	(10)	Ⅱ	焼土47	Ⅰ層部～伴部	PL-Ⅱ-261-7
	2034	1	11-13	(02)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
	6649	1	18-12	(03)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
3片								
環	2232	1	10-04	(02)	Ⅱ	1号土壌層位の焼土・炭化物	Ⅰ層部～伴部	
	4756	2	11-12	(13)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	PL-Ⅱ-157-4
	4897	1	11-13	(10)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	PL-Ⅱ-149
	4698	1	11-13	(10)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
	4710	1	11-13	(10)	V	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
	4711	1	11-13	(10)	V	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
	4715	1	11-13	(10)	V	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
8片								
環	8202	2	14-16	(23)	Ⅱ	焼土43附近	Ⅰ層部	
	229	3	15-16	(33)	(不明)	焼土43附近	Ⅰ層部	
	706	1	11-09	(01)	Ⅱ上	遺構外	Ⅰ層部	
6片								
環	15947	1	08-09	(02)	Ⅱ <sup>a</sup>	4号土壌	Ⅰ層部	PL-Ⅱ-170
	16047	1	08-09	(02)	Ⅱ <sup>a</sup>	4号土壌	Ⅰ層部	
2片								
環	4220	1	11-11	(00)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部	
	8508	1	14-17	(03)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部	
	8561	1	14-17	(02)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部	
	8558	5	14-17	(11)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部3, 伴部2	
	8片							
環	7903	1	19-15	(13)	Ⅱ <sup>a</sup>	炭化物52	Ⅰ層部～伴部	PL-Ⅱ-235
	10739	1	14-13	(30)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部～伴部	
2片								
環	1422	1	10-05	(23)	Ⅱ或	5号第六住居	伴部	PL-Ⅱ-185
	5232	1	08-07	(11)	Ⅱ	5号土壌	Ⅰ層部	
	3154	3	09-04	(30)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部2, 伴部1	
	3135	1	09-04	(21)	V	遺構外	伴部	
	3128	1	09-04	(21)	V	遺構外	伴部	
	3129	1	09-04	(22)	V	遺構外	伴部	
	3078	1	08-05	(23)	Ⅱ上	遺構外	伴部	
2914	1	09-08	(30)	V	遺構外	Ⅰ層部		
10片								
環	5360	1	20-15	(22)	Ⅲ	遺構外	伴部	
	5361	1	20-15	(22)	Ⅲ	遺構外	伴部	
2片								
環	13549	8	10-10	(03)	Ⅱ	遺構外	Ⅰ層部3, 伴部5	PL-Ⅱ-171
8片								
環	9541	1	20-17	(30)	Ⅲ	炭化物-焼土70	Ⅰ層部	
1片								

団体番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位-出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
75	13071	1	09-11	[23]	N	遺構外	口縁部-体部	PL_III-172	
		1片							
76	14994	1	05-07	[06]	N	焼土7	口縁部-体部	PL_III-277	
		15551	1	05-10	[32]	焼土	焼土11		口縁部-体部
		3038	1	09-08	[33]	N	遺構外		口縁部-体部
		13982	1	09-06	[06]	N	遺構外		口縁部-体部
		12966	1	07-07	[22]	N	遺構外		口縁部-体部
		12712	1	09-10	[30]	N	遺構外		口縁部-体部
		6片							
77	10085	1	18-14	[00]	N	遺構外	体部		
		10400	1	18-14	[32]	N	遺構外		底部
		2片							
78	14303	1	08-09	[13]	焼土	4号土壌	底部	PL_III-276	
		1片							
79	7235	1	19-15	[11]	Ⅱ'	炭化物51	底部		
		7445	1	19-15	[32]	Ⅱ'	炭化物51		体部
		8864	1	19-15	[02]	Ⅱ'	炭化物52		体部
		8181	1	19-15	[04]	Ⅲ	炭化物53		体部
		4035	1	10-09	[23]	V	遺構外		体部
		3片							
80	14392	1	06-08	[20]	V	遺構外	底部		
		1片							
81	1361	1	11-06	[31]	床	5号無火住居	底部	PL_III-127-7	
		1片							
82	14022	1	08-09	[03]	V	4号土壌	底部		
		9318	1	17-13	[02]	N	遺構外		体部
		2片							
83	13908	1	09-09	[30]	N	遺構外	底部		
		5366	1	15-05	[32]	N	遺構外		底部
		10626	1	14-12	[12]	N	遺構外		底部
		3片							
84	14206	2	08-10	[30]	V	炭化物-焼土20-21	底部	PL_III-279	
		2片							
85	1708	1	16-09	[22]	N	遺構外	底部		
		1片							
86	2994	1	07-12	[31]	VI	焼土24	底部		
		1片							
87	7361	1	14-14	[03]	N	遺構外	底部		
		1片							
88	88	1	22-21	[21]	(不明)	遺構外	底部		
		1片							
89	242	1	15-21	[30]	(不明)	炭化物 42	底部		
		1片							
90	15133	1	06-11	[30]	IV	焼土11	底部	PL_III-281	
		14175	1	06-10	[33]	V	焼土11		底部
		2片							
91	13380	1	07-06	[12]	N	遺構外	底部		
		1片							
92	14542	1	05-06	[30]	V	遺構外	底部		
		14643	1	05-06	[20]	V	遺構外		底部
		2片							
93	15693	1	07-09	[22]	Ⅱ'	4号土壌	底部	PL_III-280	
		1片							
94	3115	1	09-07	[22]	IV	遺構外	底部	PL_III-282	
		4067	1	09-09	[23]	V	遺構外		底部
		2片							
95	12980	1	08-07	[21]	土壌内	5号土壌	底部		
		1片							
96	5348	1	20-16	[30]	Ⅲ	遺構外	底部		
		1片							
97	15761	1	04-09	[21]	IV	遺構外	底部		
		1片							
98	13092	2	08-11	[30]	IV	炭化物-焼土22	底部	PL_III-284	
		13649	1	10-10	[03]	IV	遺構外		底部
		3片							
99	15476	2	06-09	[16]	焼土	炭化物14	底部	PL_III-283	
		2片							
100	12943	1	08-07	[11]	土壌内	5号土壌	底部		
		14705	1	06-10	[32]	炭化物層	炭化物16		底部
		2片							
101	3796	1	09-08	[06]	IV	遺構外	底部		
		1片							

環形番号	遺物番号	環片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号																																																										
環	102 6035	1	20-16	(01)	Ⅲ	遺構外	底部																																																											
									1片																																																									
環	103 1350	1	10-06	(31)	Ⅲ	遺構外	底部	PL-②-127-6																																																										
									1片																																																									
環	104 15086	1	04-08	(11)	Ⅲ	炭化物4	底部	PL-②-285																																																										
									14802	1	06-10	(21)	カクラン	炭化物16	底部																																																			
																2片																																																		
環	105 1501	1	10-05	(11)	Ⅲ	遺構外	底部																																																											
環	106 12332	2	17-17	(11)	ホッド	3号堀穴住居	口縁部	PL-②-236																																																										
									9662	1	20-15	(13)	Ⅱ	炭化物62	口縁部																																																			
																3片																																																		
環	107 15683	1	07-09	(32)	Ⅱ	4号土壌	口縁部	PL-②-102																																																										
									15670	1	08-09	(03)	Ⅱ	4号土壌	口縁部																																																			
																16057	1	08-09	(03)	Ⅱ	4号土壌	口縁部																																												
																							13904	1	09-10	(03)	Ⅱ	炭土	口縁部																																					
																														4片																																				
環	108 614	1	10-05	(12)	Ⅱ	5号堀穴住居	口縁部	PL-②-185																																																										
環	109 612	4	10-06	(21)	Ⅲ	遺構外	口縁部																																																											
									1348	1	10-06	(21)	Ⅲ	遺構外	口縁部																																																			
																12103	1	07-11	(12)	Ⅲ	遺構外	口縁部																																												
																							6片																																											
環	110 2964	1	17-10	(16)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	PL-②-187																																																										
								1片	PL-②-237																																																									
環	111 15138	2	05-11	(30)	Ⅲ	炭土11	口縁部	PL-②-103																																																										
									14684	1	05-11	(30)	Ⅲ	遺構外	口縁部																																																			
																3片																																																		
環	112 1187	2	11-04	(10)	Ⅲ	遺構外	口縁部～序部	PL-②-138																																																										
									2片 (口縁部～序部1片番号わからず)																																																									
環	113 199	1	20-15	(31)	Ⅱ	炭化物62	口縁部	PL-②-294																																																										
									0575	1	20-15	(21)	Ⅱ	炭化物62	口縁部	PL-②-067-3																																																		
																	0570	1	20-15	(31)	Ⅱ	炭化物62	序部																																											
																								8103	2	20-14	(12)	Ⅲ	炭化物62周辺	口縁部																																				
																															10537	1	21-15	(00)	Ⅲ	炭化物62周辺	口縁部																													
																																						11284	1	20-15	(31)	Ⅲ	炭化物62周辺	口縁部																						
																																													9697	1	20-15	(31)	Ⅲ	炭化物62周辺	序部															
																																																				10538	1	21-15	(00)	Ⅲ	炭化物62周辺	序部								
																																																											11385	1	20-15	(32)	Ⅲ	炭化物62周辺	底部	
																																																																		10片
																																																																		その他(すり鉢類)
	2087	1	08-12	(22)	Ⅲ	3号堀穴住居																																																												
					5片																																																													

Tab. III-22 第2文化層出土須臾器一覧表

調査番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構の種	部位	関連PL番号			
調査群 (H)	1	15808	1	04-08	(M)	V	灰化物4	口縁部	PL図-202-1		
		15805	5	05-07	(M)	V上	遺構外	口縁部3, 伴部1			
		15749	1	06-07	(不明)	(不明)	遺構外	口縁部			
(光景品)			7片								
調査群 (H)	2	2334	1	17-11	(12)	上面	灰化物マウンド	口縁部	PL図-204-5		
	「赤線」	6785	1	19-11	(07)	N	灰化物・焼土50	伴部	PL図-238		
		6852	2	19-12	(13)	N	遺構外	口縁部1, 伴部1			
		10213	1	19-13	(16)	N	遺構外	伴部			
		10211	1	19-13	(05)	N	遺構外	伴部			
		7376	1	18-13	(11)	N	遺構外	底部			
		(光景品)			7片						
調査群 (H)	3	15456	1	06-09	(20)	焼土	焼土15	口縁部	PL図-202-2		
		15580	1	07-08	(不明)	(カタラン)	焼土18	伴部			
		13018	1	07-08	(03)	N	焼土18	底部			
		16532	1	09-03	(不明)	焼土	焼土25	伴部			
		16526	1	08-07	(不明)	焼土	6号土壁断面	伴部			
		14599	1	07-09	(05)	焼土	灰化物19	口縁部			
		13818	1	07-09	(05)	N	灰化物19	伴部			
		15359	1	07-08	(03)	焼土下面	灰化物19	底部			
		13817	1	07-09	(05)	N	灰化物19	底部			
		14112	1	06-08	(22)	N	遺構外	口縁部			
		15289	1	05-09	(11)	N	遺構外	底部			
	(光景品)			11片							
	調査群 (H)	4	14411	1	06-10	(16)	V	灰化物16		口縁部	PL図-202-2
		「赤線」	15567	2	05-10	(21)	V	遺構外		口縁部1, 伴部1	PL図-138
			15175	1	05-10	(22)	V	遺構外		口縁部	
15565			1	05-10	(21)	V	遺構外	伴部			
(光景品)			5片								
調査群 (H)	5	1181	1	20-18	(12)	N	焼土・灰化物59	口縁部	PL図-202-3		
	「赤線」	4186	1	20-18	(13)	N	焼土・灰化物59	口縁部			
		6085	1	21-17	(02)	N	遺構外	底部			
		10889	1	22-18	(05)	N	遺構外	底部			
(光景品)			4片								
調査群 (H)	6	783	2	21-15	(11)	N	焼土42	口縁部	PL図-202-4 PL図-104		
		6080	2	21-16	(02)	Ⅲ	遺構外	口縁部			
		3139	1	10-07	(01)	V	遺構外	口縁部			
		5489	4	17-07	(11)	V	遺構外	口縁部3, 伴部1			
		11459	5	20-16	(20)	N	遺構外	口縁部4, 伴部1			
		6055	1	21-16	(02)	Ⅲ	遺構外	口縁部			
		11463	2	20-16	(22)	Ⅲ	遺構外	口縁部1, 伴部1			
		9592	1	20-16	(21)	Ⅲ	遺構外	口縁部			
		7483	2	21-16	(01)	N	遺構外	伴部			
		11266	1	21-16	(02)	N	遺構外	伴部			
		11992	1	20-16	(20)	N	遺構外	伴部			
		11456	1	20-16	(11)	N	遺構外	底部			
		206	1	20-16	(20)	N	遺構外	底部			
		9593	1	20-16	(21)	Ⅲ	遺構外	底部			
	(光景品)			26片							
	調査群 (H)	7	13859	1	16-17	(13)	N	焼土43		口縁部	PL図-204-6 PL図-207
			9528	1	17-11	(12)	マウンド内	灰化物マウンド		口縁部	
		10675	1	18-11	(20)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部			
		10437	2	17-11	(21)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部			
		10751	1	17-11	(20)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部			
		10603	1	17-11	(22)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部			
		10791	1	17-11	(20)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部			
		10670	1	18-11	(05)	マウンド内	灰化物マウンド	伴部			
		10416	1	17-11	(21)	マウンド内	灰化物マウンド	伴部			
		10658	1	18-10	(01)	マウンド内	灰化物マウンド	伴部			
		2976	1	18-10	(02)	マウンド内	灰化物マウンド	伴部			
		10415	1	17-11	(21)	マウンド内	灰化物マウンド	底部			
		10462	1	17-11	(22)	マウンド下面	灰化物マウンド	底部			
		10461	1	17-11	(22)	マウンド下面	灰化物マウンド	底部			
(光景品)			15片								
調査群 (H)	8	1790	1	18-17	(12)	焼土・瓦層	2号掘穴柱礎	底部	PL図-204-6 PL図-209		
		1921	3	17-10	(23)	M	灰化物マウンド	胴部			
		1801	1	18-10	(13)	カタラン	灰化物マウンド	胴部			
		5874	1	18-10	(不明)	灰土	灰化物マウンド	胴部			
		6690	1	19-11	(22)	N	灰化物・焼土50	胴部			
		9578	1	20-15	(28)	M	灰化物52	胴部			
		9563	1	20-15	(11)	M	灰化物52	胴部			
	9569	1	20-15	(22)	M	灰化物52	底部				



標本番号	遺物番号	破片数	大アリヤト	小アリヤト	層位・出土位置	調査遺構名	部位	調査PL番号
須磨器(環) (フツト)	9 197	1	20-15	[X1]	M	炭化物28	胴部	
	9101	1	20-13	[13]	N	炭化物27	底部	
	11366	1	21-15	[10]	N	焼土62	胴部	
	3664	1	22-15	[00]	II	焼土64	胴部	
	5983	1	22-15	[05]	N	焼土64	底部	
	5672	1	22-16	[20]	II	焼土64	底部	
	5980	1	22-15	[22]	N	焼土64	底部	
	12807	1	22-16	[02]	N	焼土65	底部	
	5950	1	22-16	[01]	II	焼土65	底部	
	6000	1	22-14	[01]	N	遺構外	胴部	
	6490	1	11-10	[30]	N	遺構外	胴部	
	6220	1	20-11	[00]	N	遺構外	胴部	
	4084	1	20-10	[00]	V	遺構外	胴部	
5230	1	20-11	[01]	N	遺構外	胴部		
5233	1	20-11	[21]	N	遺構外	胴部		
6491	4	11-10	[11]	N	遺構外	胴部		
4721	1	14-05	(不明)	赤土	遺構外	胴部		
6700	1	21-13	[13]	N	遺構外	底部		
3片								
須磨器(片) 「赤焼」	9 7212	2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部	PL.区-202-5
	7217	3	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部1, 底部2	PL.区-209-9
	5290	1	27-15	[01]	II	炭化物・焼土70	口縁部	
	13005	3	27-16	[03]	II	炭化物・焼土70	口縁部1, 底部2	
	7258	2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	口縁部1, 底部1	
	7309	1	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	底部	
	7219	2	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	底部	
	7213	1	27-16	[03]	マウンド	炭化物・焼土70	底部	
	6271	1	27-16	[03]	II	炭化物・焼土70	底部	
	16片							
須磨器(器)	10 14460	1	06-07	[35]	M	6号土渠	口縁部	PL.区-194-0
	16069	1	06-10	[33]	V	焼土111	底部	PL.区-193
	13070	1	09-11	[20]	N	遺構外	口縁部	
	13512	1	09-11	[21]	N	遺構外	底部	
	10093	1	10-14	[10]	N	遺構外	底部	
5片								
須磨器(環)	11 1346	2	10-06	[20]	赤	9号型穴住居	口縁部～底部	PL.区-130-1
	2121	1	09-05	[21]	N	遺構外	口縁部～底部	PL.区-130
3片								
須磨器(環)	12 4682	1	11-12	[11]	N	遺構外	口縁部～底部	
	4685	1	11-12	[21]	V	遺構外	口縁部～底部	
	3293	1	09-06	[20]	V	遺構外	口縁部～底部	
	4229	1	11-11	[22]	N	遺構外	口縁部～底部	
	4207	1	11-10	[01]	N	遺構外	底部	
5片								
須磨器(器)	13 10086	1	10-14	[00]	N	遺構外	口縁部	
1片								
須磨器(器)	14 9722	1	12-12	[00]	N	遺構外	口縁部	
1片								
須磨器(器)	15 1421	1	10-05	[13]	赤土	5号型穴住居	口縁部	
	1441	1	11-05	[03]	赤	5号型穴住居	口縁部	
2片								
須磨器(器)	16 1911	1	10-17	[22]	赤土	2号型穴住居	口縁部	
	10955	1	17-10	[33]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
2片								

Tab. III-22 第2文化層出土土師器類一覧表

器物番号	器物番号	器片数	大フリヤ	小フリヤ	肩位・土位層	関連遺構など	部位	関連PI.番号	
■	1	14572	1	11-06	[11]	床	5号竈穴住居	底部	中城段上
		2664	14	09-04	[30]	土壁内	1号土壁	口縁部	PI.22-158
		2487	45	09-04	[30]	土壁内	1号土壁	胴部	PI.22-140
(完形品)									
■	2	2918	57	09-04	[30]	土壁内	1号土壁	口縁部11, 胴部25, 底部1	中城段上
	(完形品)								PI.22-159, 141
■	3	14044	5	08-08	[31]	瓦	焼土27	口縁部1, 胴部3,	
		13645	2	08-08	[31]	瓦	焼土27	口縁部1, 胴部1	PI.22-142
		14045	3	08-08	[31]	瓦	焼土27	胴部2, 底部1	
		15550	1	08-07	[30]	瓦	遺構外	口縁部	
	(完形品)								
■	4	10850	9	17-18	[11]	床	3号竈穴住居	胴部9, 底部1	PI.22-28-1
		9614	1	17-12	[11]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	PI.22-48
		9335	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		35-12	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
		9492	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
		9228	1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
		16645	1	17-11	[30]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
		4201	1	16-11	[30]	瓦	遺構外	口縁部	
		11124	1	16-13	[30]	瓦	遺構外	口縁部	
		11125	1	16-13	[30]	瓦	遺構外	口縁部	
	(完形品)								
	■	5	12134	1	11-17	[32]	瓦	遺構外	
(完形品)									
■	6	1511	12	09-12	[00]	覆土②層	3号竈穴住居	口縁部1, 胴部15, 底部1	PI.22-100-4
	(完形品)								
■	7	907	25	19-14	[11]	キマド	1号竈穴住居	口縁部5, 胴部15, 底部5	PI.22-201-1
	(完形品)								PI.22-21
■	8	1500	15	10-05	[11]	床	5号竈穴住居	口縁部1, 胴部1, 底部1	PI.22-137-6
	(完形品)								PI.22-143
■	9	737	14	19-14	[11]	キマド	1号竈穴住居	口縁部13, 胴部一底部1	PI.22-20-2
	(完形品)								PI.22-22-2
	10	582	1	19-14	[30]	覆土②層	1号竈穴住居	胴部	PI.22-207-1
		9670	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	PI.22-33
		9671	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		3542	19	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部17, 底部2	
		9554	1	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9344	1	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9591	1	17-12	[00]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9576	1	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		10474	2	17-11	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		9423	2	17-11	[12]	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		54	1	16-16	[32]	(不明)	焼土43周壁	口縁部	
		8157	1	16-14	[11]	瓦	炭化物56	胴部	
	64	1	19-16	[31]	(不明)	炭化物2周壁	口縁部		
	8134	1	19-14	[30]	瓦	遺構外	胴部		
	10083	2	19-14	[10]	瓦	遺構外	胴部		
	108	5	20-14	[12]	(不明)	遺構外	口縁部		
	112	1	20-14	[00]	(不明)	遺構外	口縁部		
	6595	1	22-17	[01]	瓦	遺構外	口縁部		
(完形品)									
■	11	7991	1	19-15	[32]	瓦	炭化物52	口縁部	PI.22-205-2
		16581	1	19-15	(不明)	瓦	炭化物52	口縁部	PI.22-49
		11859	1	18-15	[11]	瓦	炭化物2周壁	口縁部	
		11962	1	18-15	[11]	瓦	炭化物2周壁	口縁部	
		11521	10	18-15	[31]	瓦	炭化物2周壁	口縁部1, 胴部3, 底部1	
		12444	1	19-16	[30]	瓦	炭化物2周壁	口縁部	
		8177	1	19-15	[01]	瓦	炭化物2周壁	胴部	
		7119	1	17-12	[01]	瓦	炭化物マウンド	口縁部	
		16737	1	17-12	[11]	(不明)	炭化物マウンド	口縁部	
	(完形品)								
	■	12	309	1	16-17	[11]	(不明)	焼土43	口縁部
		275	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	口縁部	PI.22-50
		358	1	16-17	[32]	(不明)	焼土43	胴部	
		467	1	16-17	[20]	瓦	焼土43	胴部	
		300	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部	
		5320	9	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部	
		8340	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部	
		8341	1	16-17	[11]	焼土	焼土43	胴部	
		307	2	16-17	[11]	(不明)	焼土43	胴部1, 底部1	
		317	1	16-17	[31]	(不明)	焼土43	胴部	

保存番号	遺物番号	組片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号	
■ (ツブタ)	12	289	1	16-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部	
		461	1	16-17	(12)	炭	焼土43	胴部	
		12642	1	16-17	(25)	IV	焼土43	胴部	
		8333	2	16-17	(21)	焼土	焼土43	胴部	
		286	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部1, 底部1	
		2824	1	17-10	(33)	V	灰化物マウンド	口縁部	
		7631	1	19-15	(02)	a'	灰化物22	口縁部	
		11295	1	17-16	(22)	IV	遺構外	底部	
		6945	1	20-16	(02)	III	遺構外	口縁部	
	29片								
■	13	5206	1	18-14	(51)	IV	遺構外	口縁部	
		8429	4	18-14	(22)	IV	遺構外	口縁部1, 胴部5	
		10100	19	18-14	(11)	IV	遺構外	口縁部1, 胴部15	
		10022	1	18-14	(22)	IV	遺構外	底部	
		10067	1	18-14	(51)	IV	遺構外	胴部	
28片									
■	14	15443	2	08-09	(12)	IV	4号土庫	口縁部	
		4845	1	11-11	(21)	焼土	焼土32	口縁部	
		4848	1	11-11	(21)	焼土	焼土32	胴部	
		4847	1	11-11	(21)	焼土	焼土32	底部	
		4552	1	12-08	(02)	IV	遺構外	口縁部	
		1631	1	12-08	(02)	b'	遺構外	口縁部	
		770	1	12-08	(03)	b'	遺構外	口縁部	
		4638	1	12-08	(02)	IV	遺構外	口縁部	
		4787	2	12-08	(02)	IV	遺構外	口縁部	
		1474	1	12-08	(12)	b'	遺構外	胴部	
		4630	1	12-08	(02)	IV	遺構外	胴部	
		4636	1	12-08	(02)	IV	遺構外	胴部	
		1475	1	12-08	(12)	b'	遺構外	底部	
		4633	1	12-08	(01)	IV	遺構外	底部	
		4631	1	11-08	(22)	IV	遺構外	底部	
		4628	1	11-08	(21)	IV	遺構外	胴部	
		4079	1	11-10	(22)	IV	遺構外	口縁部	
		4217	1	11-10	(22)	IV	遺構外	胴部	
	20片								
	■	15	30511	1	17-17	(20)	III	2号貯六注居	底部
			174	2	17-11	(12)	IV	灰化物マウンド	胴部
			3191	1	17-11	(12)	IV	灰化物マウンド	胴部
			3337	1	17-11	(12)	マウンド内	灰化物マウンド	胴部
		178	1	17-11	(12)	マウンド内	灰化物マウンド	胴部	
		8576	1	13-13	(20)	IV	焼土34周辺	口縁部	
		9136	1	13-11	(20)	V	焼土34周辺	口縁部	
		8796	1	10-13	(02)	IV	焼土51	胴部	
		4948	1	12-12	(20)	V	遺構外	口縁部	
		8583	1	13-13	(21)	IV	遺構外	口縁部	
		4949	1	12-12	(20)	V	遺構外	口縁部	
		4946	1	12-12	(22)	V	遺構外	口縁部	
		4947	1	12-12	(23)	V	遺構外	口縁部	
		4908	1	13-13	(21)	V	遺構外	口縁部	
		4951	1	12-12	(20)	V	遺構外	口縁部	
		10717	1	14-12	(22)	IV	遺構外	口縁部	
		8947	4	14-13	(02)	IV	遺構外	口縁部1, 胴部3	
		8269	1	13-12	(22)	IV	遺構外	口縁部	
		9764	1	14-13	(12)	IV	遺構外	口縁部	
		11613	2	13-13	(22)	IV	遺構外	口縁部	
		11615	1	14-13	(02)	IV	遺構外	胴部	
		8982	1	13-13	(21)	IV	遺構外	胴部	
		8952	1	13-12	(02)	IV	遺構外	胴部	
	8950	2	13-12	(02)	IV	遺構外	胴部		
	10625	1	14-12	(02)	IV	遺構外	胴部		
31片									
■	16	1323	1	11-05	(02)	III	5号貯六注居	口縁部	
		1320	1	10-05	(23)	III	5号貯六注居	口縁部	
		1445	5	10-05	(22)	III	5号貯六注居	口縁部	
		1090	1	10-05	(21)	III	5号貯六注居	口縁部	
		684	3	11-04	(02)	III	5号貯六注居	口縁部	
		1542	1	10-05	(10)	III	5号貯六注居	胴部	
		1573	1	10-05	(13)	III	5号貯六注居	胴部	
		1547	1	10-05	(10)	III	5号貯六注居	胴部	
		1092	1	10-05	(20)	III	5号貯六注居	胴部	
		1541	1	10-05	(10)	III	5号貯六注居	胴部	

製品番号	通称番号	組片数	大アウフ	大アウフ	層位・出土位置	出土層階	部材	関連PL番号	
■ (ツブキ)	1086	1	10-05	[20]	床底	5号壁六住居	胴部		
	1543	2	10-05	[10]	煙道	5号壁六住居	胴部		
	1554	6	10-05	[13]	床底	5号壁六住居	胴部3, 底部		
25片									
■	1197	2	10-05	[30]	床	5号壁六住居	口縁部	PL-22-130-1	
	1192	1	10-05	[30]	床	5号壁六住居	口縁部	PL-22-145	
	1193	1	10-05	[30]	床	5号壁六住居	口縁部		
	1021	2	10-05	[31]	床	5号壁六住居	口縁部		
	989	1	10-05	[31]	床	5号壁六住居	口縁部		
	935	1	10-04	[30]	床底	5号壁六住居	口縁部		
	1089	4	10-05	[20]	床底	5号壁六住居	口縁部		
	942	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	口縁部		
	958	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	口縁部		
	931	4	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	927	2	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	928	1	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	934	1	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	1190	1	10-05	[30]	床	5号壁六住居	胴部		
	1190	2	10-05	[30]	床	5号壁六住居	胴部		
	1194	1	10-05	[30]	床	5号壁六住居	胴部		
	1061	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	胴部		
	941	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	胴部		
	833	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	胴部		
	1189	1	10-05	[30]	床	5号壁六住居	胴部		
	1215	2	11-05	[00]	床底	5号壁六住居	胴部		
	992	2	10-05	[31]	床	5号壁六住居	胴部		
	1177	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	胴部		
	815	1	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	831	1	10-05	[30]	床底	5号壁六住居	胴部		
	932	1	10-04	[32]	床底	5号壁六住居	胴部		
	988	2	10-05	[30]	床	5号壁六住居	胴部		
	957	1	10-05	[31]	床底	5号壁六住居	胴部		
	1204	7	10-04	[31]	床底	5号壁六住居	胴部3, 底部4		
	954	1	10-05	[31]	床底	5号壁六住居	口縁部		
974	1	20-21	[01]	IV	遺構外	口縁部			
80片									
■	2071	1	09-09	[22]	IV	遺構外	口縁部		
	2068	3	09-09	[31]	IV	遺構外	口縁部		
	2092	4	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部		
	2074	1	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部		
	4114	1	10-09	[03]	V	遺構外	口縁部		
	2075	4	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部		
	4013	2	10-09	[02]	IV	遺構外	口縁部		
	2076	4	09-09	[32]	IV	遺構外	口縁部		
	4111	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部		
	2069	1	09-09	[31]	V	遺構外	口縁部		
	2070	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部		
	4027	1	10-09	[03]	IV	遺構外	口縁部		
	4110	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部		
	2077	1	09-09	[32]	V	遺構外	口縁部		
	3081	4	09-09	[31]	IV	遺構外	胴部		
	2083	1	09-09	[31]	IV	遺構外	胴部		
	2080	1	09-09	[31]	IV	遺構外	胴部		
	2091	1	09-09	[31]	V	遺構外	胴部		
	4015	1	10-09	[02]	V	遺構外	胴部		
	4014	1	10-09	[02]	V	遺構外	胴部		
	4005	1	10-09	[01]	V	遺構外	胴部		
	4025	1	10-09	[02]	V	遺構外	胴部		
	2086	2	09-09	[30]	IV	遺構外	底部		
	4008	1	09-09	[30]	V	遺構外	底部		
	4009	1	09-09	[31]	V	遺構外	底部		
	2084	2	09-09	[31]	IV	遺構外	底部		
	40片								
	■ (光野呂)	6021	1	22-16	[02]	IV	焼土64	口縁部	PL-22-242-6
		6018	1	22-16	[11]	IV	焼土64	口縁部	
		6012	1	22-16	[02]	IV	焼土64	口縁部	
11272		1	21-16	[02]	IV	遺構外	口縁部		
11273		1	21-16	[32]	IV	遺構外	口縁部		
7405		1	21 86	[33]	IV	遺構外	口縁部		
5016		3	23-17	[13]	IV	遺構外	口縁部		
5052		1	22-17	[32]	IV	遺構外	口縁部		

建物番号	建物番号	竣工年	大グッド	小グッド	層位・出土位置	調査種類など	部位	調査PL、番号	
■ (ツブネ)	19	5923	2	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部	
	6661	1	22-13	(12)	Ⅴ	遺構外	口縁部		
	5945	1	22-16	(13)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
	5944	1	22-16	(13)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
	5920	5	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部1, 胴部4		
	6581	2	22-16	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
	6627	1	22-16	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6814	1	22-16	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6597	9	22-16	(20)	Ⅱ	遺構外	底部		
	11274	2	22-16	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	5646	1	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	83	1	22-17	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6592	1	22-16	(10)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6589	1	22-16	(23)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6811	1	22-16	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6921	1	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	83	3	22-17	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	5647	1	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	5648	1	22-17	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	6581	1	22-16	(10)	Ⅱ	遺構外	胴部		
	■ (笠形鉢)	47群							
20		9809	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL-207-3
9418		4	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部1, 胴部2	PL-204	
9851		3	17-11	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
2904		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	口縁部		
9423		1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
10279		5	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
9643		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
2767		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
3087		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
9641		1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
9853		1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
9897		3	17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
9278		1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
2311		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
7375		1	17-12	(20)	h	炭化物マウンド	胴部		
2069		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
2756		1	18-10	(01)	h	炭化物マウンド	胴部		
3488		2	17-11	(13)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
2742		1	18-10	(02)	h	炭化物マウンド	胴部		
10668		2	17-11	(20)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
7935	1	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	口縁部			
9094	1	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	口縁部			
7933	1	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	口縁部			
7851	1	19-15	(12)	x <sup>1</sup>	炭化物②	口縁部			
7442	1	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	胴部			
9070	1	19-15	(23)	x <sup>1</sup>	炭化物②	胴部			
11377	1	20-15	(13)	x <sup>1</sup>	炭化物②	胴部			
9093	1	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	胴部			
9088	3	19-16	(30)	x <sup>1</sup>	炭化物②	底部			
9091	3	19-15	(33)	x <sup>1</sup>	炭化物②	胴部			
5812	2	19-16	(30)	Ⅱ	炭化物②	胴部			
6052	3	19-16	(03)	Ⅱ	炭化物②	胴部			
11109	1	15-12	(03)	Ⅱ	遺構外	胴部			
■ (先形品)	21	8027	1	19-18	(04)	覆土位埋	3号鉢6注前	胴部	PL-201-1
	11827	1	16-17	(02)	土壁内	3号土壁	口縁部	PL-202	
	12552	1	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
	12589	1	16-17	(23)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12653	1	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	502	1	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
	12687	4	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
	12586	13	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
	12506	1	16-17	(12)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12518	2	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12651	4	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	485	1	16-17	(22)	h <sup>1</sup> 上	焼土43	胴部		
	12647	9	16-17	(23)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12661	1	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12596	3	16-17	(23)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	12650	2	16-17	(12)	Ⅱ	焼土43	胴部		

資料番号	遺物番号	鏡片数	大フリット	小フリット	磨粒・出土状況	関連遺構の名称	部位	調査区画・番号		
■ (ツブネ)	21	12602	5	16-17	[12]	焼土	焼土43	扉部		
	12602	1	16-17	[22]	IV	焼土43	扉部			
	12602	1	16-17	[13]	IV	焼土43	扉部			
	12666	1	16-17	[13]	IV	焼土43	扉部			
	12686	1	16-17	[22]	IV	焼土43	扉部			
	12693	1	16-17	[22]	IV	焼土43	扉部			
	12614	1	16-17	[22]	焼土	焼土43	扉部			
	12200	1	16-17	[12]	焼土	焼土43	扉部			
	9714	1	16-17	[04]	焼土上面	焼土43	扉部			
	12584	1	16-17	[12]	IV	焼土43	扉部			
	12555	1	16-17	[12]	IV	焼土43	扉部			
	12682	2	16-17	[02]	IV	焼土43	扉部			
	6038	2	16-18	[20]	IV	焼土43周辺	扉部			
	6030	3	19-15	[12]	a'	炭化物52	13扉部			
	11223	1	19-15	[13]	a'	炭化物52	13扉部			
	11891	1	19-15	[12]	a'	炭化物52	13扉部			
	9647	1	19-15	[12]	a'	炭化物52	13扉部			
	11892	1	19-15	[13]	a'	炭化物52	13扉部			
	9621	1	19-15	[13]	a'	炭化物52	13扉部			
	3227	1	17-11	[12]	マウンド内	炭化物マウンド	13扉部			
	16780	1	17-11	[20]	マウンド内	炭化物マウンド	13扉部			
	10226	2	17-11	[21]	マウンド内	炭化物マウンド	13扉部			
	2983	1	18-09	[22]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	2477	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	2686	1	17-09	[23]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	2297	1	18-19	[00]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	8760	1	17-12	[10]	マウンド上	炭化物マウンド	13扉部			
	2287	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	9662	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	扉部			
	10068	1	17-12	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	扉部			
	2295	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	2651	1	18-18	[10]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	2646	1	17-12	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	扉部			
	1987	1	18-18	[00]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	7382	1	17-12	[20]	IV	炭化物マウンド	扉部			
	6665	1	17-11	[21]	マウンド上	炭化物マウンド	扉部			
	10286	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	扉部			
	2460	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	10090	1	17-11	[21]	b'	炭化物マウンド	扉部			
	10200	1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	扉部			
	10238	1	17-11	[21]	マウンド	炭化物マウンド	扉部			
	389	1	13-21	[00]	(不明)	遺構外	13扉部			
	9640	1	17-12	[21]	IV	遺構外	扉部			
	12553	1	17-13	[13]	IV	遺構外	扉部			
	12705	1	10-19	[21]	V	遺構外	扉部			
	100片									
	■	22	714	2	12-09	[不明]	カクラン	4号館六住居	扉部	PL-図-119-1
715		2	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	13扉部			
716		1	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	扉部			
717		11	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	扉部			
718		5	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	扉部			
719		5	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	扉部			
720		4	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	扉部			
721		3	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	13扉部			
581		51	12-09	[02]	焼土②層	4号館六住居	13扉部15、扉部16			
94片										
■		23	12233	1	17-17	[11]	オマド	2号館六住居	扉部	
	12557	1	15-17	[12]	IV	焼土43周辺	13扉部			
	279	1	16-17	[10]	(不明)	焼土43	扉部			
	436	1	16-17	[10]	炭	焼土43	扉部			
	5074	3	19-15	[23]	a'	炭化物52	13扉部			
	12670	1	20-16	[10]	IV	炭化物52	13扉部			
	5723	6	19-15	[20]	炭	炭化物52周辺	扉部4、扉部5			
	2267	1	17-11	[13]	マウンド内	炭化物マウンド	13扉部			
	2227	4	18-10	[20]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	2315	1	18-10	[00]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	10295	1	17-11	[20]	マウンド	炭化物マウンド	13扉部			
	2476	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド	13扉部			
	2484	1	17-10	[21]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	2269	1	17-10	[20]	b'	炭化物マウンド	13扉部			
	7322	1	18-11	[02]	IV	炭化物マウンド	扉部			

調査番号	遺物番号	種別	スリット	小フナド	層位・出土位置	関連遺構名	部位	関連PL番号	
■ (フゾク)	3453	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	3477	4	17-11	(10)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	9880	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9421	1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9562	2	18-10	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9428	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9567	1	18-10	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9873	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9872	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	1993	1	18-10	(10)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	9667	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	7388	1	17-12	(12)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	1295	1	18-10	(10)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	10488	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9251	1	17-11	(12)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	10483	1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10285	2	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	2301	1	18-10	(01)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	2803	1	17-10	(30)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	2034	1	18-10	(01)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	2009	1	18-10	(01)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	9291	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	185	3	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9381	1	17-11	(08)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9315	1	17-11	(08)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	12044	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	3398	1	17-11	(13)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	2729	1	18-10	(02)	㍻	炭化物マウンド	胴部		
	3465	1	17-12	(00)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	3448	1	17-11	(31)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	3450	1	17-11	(32)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	3458	1	17-11	(23)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	9886	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
2289	1	17-10	(32)	㍻	炭化物マウンド	胴部			
2395	1	17-10	(30)	㍻上	炭化物マウンド	胴部			
9594	1	18-10	(21)	㍻	炭化物マウンド	胴部			
破片(17層部は、胴部1片番号のみを示す)									
■	24	947	1	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	口縁部	Pl. 図-130-3
		826	1	10-05	(20)	竊土応層	5号竪穴住居	口縁部	Pl. 図-147
		963	1	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	口縁部	
		1351	1	10-06	(20)	床敷	5号竪穴住居	口縁部	
		1029	1	10-05	(21)	床敷	5号竪穴住居	胴部	
		1210	1	10-05	(20)	床敷	5号竪穴住居	胴部	
		1500	2	10-05	(11)	床	5号竪穴住居	胴部	
		1503	2	10-05	(10)	横溝	5号竪穴住居	胴部	
		1026	1	10-05	(21)	床敷	5号竪穴住居	胴部	
		1212	1	10-05	(22)	床敷	5号竪穴住居	胴部	
		949	1	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	胴部	
		985	2	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	胴部	
		991	1	10-05	(21)	床	5号竪穴住居	胴部	
		951	1	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	胴部	
		748	1	10-05	(20)	竊土応層	5号竪穴住居	胴部	
		1178	1	10-05	(20)	キヤド	5号竪穴住居	胴部	
		945	1	10-05	(20)	床敷	5号竪穴住居	口縁部	
		953	1	10-05	(21)	床敷	5号竪穴住居	口縁部	
		742	1	11-04	(11)	竊土応層	5号竪穴住居	口縁部	
		2218	1	10-05	(00)	竊土応層	5号竪穴住居	口縁部	
		743	1	10-04	(23)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		617	1	10-04	(23)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		744	1	10-04	(23)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		810	1	10-04	(22)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		691	1	10-04	(23)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		746	1	10-04	(22)	床	1号土壌調査の竊土-炭化物	胴部	
		14040	1	08-07	(01)	床	6号土壌	口縁部	
		14352	1	08-07	(32)	土壌内	6号土壌	口縁部	
		14353	1	08-07	(32)	土壌内	6号土壌	口縁部	
		14107	2	08-07	(32)	床	6号土壌	口縁部	
	15513	1	08-07	(32)	土壌表面	6号土壌	胴部		
	15098	1	08-07	(01)	土壌内	6号土壌	胴部		
	15098	1	08-07	(32)	土壌表面	6号土壌	胴部		
	13972	1	08-07	(31)	土壌内	6号土壌	口縁部		

標本番号	遺物番号	種別	大グループ	小グループ	部位・出土位置	用途・遺構名	部位	関連P.L.番号	
遺 (ツブタ)	24	13959	1	09-07	(21)	IV	6号土層明道	12層部	
	3673	1	09-07	(01)	V	6号土層明道	12層部		
	3724	1	09-07	(09)	IV	6号土層明道	12層部		
	3753	2	09-07	(04)	IV	6号土層明道	12層部		
	3748	1	09-07	(03)	IV	6号土層明道	12層部		
	15314	1	09-07	(02)	粘土	6号土層明道	12層部		
	3180	1	09-07	(13)	V	6号土層明道	12層部		
	3170	1	09-07	(02)	V	6号土層明道	12層部		
	12072	1	09-07	(21)	IV	6号土層明道	12層部		
	12792	2	09-07	(22)	IV	6号土層明道	12層部		
	13950	1	09-07	(21)	IV	5号土層明道	12層部		
	13957	1	09-07	(21)	IV	5号土層明道	12層部		
	3031	1	17-11	(22)	IV	灰化物マウンド	12層部		
	1852	1	18-10	(01)	カタラン	灰化物マウンド	12層部		
	1181	1	11-04	(30)	IV	遺構外	12層部		
	1526	1	10-05	(01)	IV	遺構外	12層部		
	1179	1	11-04	(30)	IV	遺構外	12層部		
	1204	1	10-05	(11)	IV	遺構外	12層部		
	3127	1	09-06	(21)	V	遺構外	12層部		
	8181	1	09-06	(30)	IV	遺構外	12層部		
	16212	1	09-06	(01)	V	遺構外	12層部		
	併用(12層部2号層のかわらず)								
	遺	25	5339	3	13-09	(21)	IV	灰化物29	12層部
		11	1	15-07	(23)	(不明)	灰化物29	12層部	
5071		1	15-07	(13)	(不明)	灰化物29	12層部		
1222		1	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1223		1	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1224		1	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1221		1	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1225		2	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1226		1	12-06	(21)	IV	遺構外	12層部		
1626		1	12-06	(22)	IV	遺構外	12層部		
4570		3	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4571		6	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4572		1	14-08	(23)	IV	遺構外	12層部		
4725		1	14-07	(20)	IV	遺構外	12層部		
4564		1	14-07	(21)	IV	遺構外	12層部		
1339		1	13-08	(01)	IV	遺構外	12層部		
19		1	15-06	(21)	(不明)	遺構外	12層部		
9		1	15-06	(21)	(不明)	遺構外	12層部		
4576		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
4575		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
4577		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
4562		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
4561		2	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
1940		1	13-08	(13)	IV	遺構外	12層部		
4579		1	14-09	(02)	IV	遺構外	12層部		
4729		1	13-08	(21)	IV	遺構外	12層部		
6		1	15-08	(01)	IV	遺構外	12層部		
4574		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
1224		1	13-08	(19)	カタラン	遺構外	12層部		
4		1	15-08	(00)	(不明)	遺構外	12層部		
5		2	15-08	(19)	(不明)	遺構外	12層部		
722		1	15-07	(03)	IV	遺構外	12層部		
12		1	16-08	(11)	(不明)	遺構外	12層部		
1232		1	13-08	(01)	IV	遺構外	12層部		
1358		1	13-08	(01)	IV	遺構外	12層部		
1639		2	13-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4566		1	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4569		1	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4567		2	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4595		1	14-09	(20)	IV	遺構外	12層部		
1239		1	13-08	(11)	カタラン	遺構外	12層部		
1484		1	13-08	(12)	IV	遺構外	12層部		
1341		1	13-08	(02)	IV	遺構外	12層部		
1405		1	13-08	(11)	カタラン	遺構外	12層部		
4555		2	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
4566		7	14-08	(22)	IV	遺構外	12層部		
4596		1	14-08	(20)	IV	遺構外	12層部		
1342		1	13-08	(11)	IV	遺構外	12層部		
5349		1	18-07	(10)	IV	遺構外	12層部		



図体番号	建物番号	組片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連関連構造物	部位	関連PL番号	
■	5479	1	17-06	(33)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	8018	1	15-06	(18)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	5158	1	16-07	(00)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	5151	1	17-07	(30)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	5473	1	17-06	(33)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	5335	1	14-07	(03)	Ⅲ	遺構外	底部		
	瓦片(瓦面1片番号わからず)								
■	83	1	19-15	(31)	(不明)	炭化物②	胴部	PL②-43	
	4501	11	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	口縁部⑤, 胴部⑥	PL②-267-4	
	11481	1	20-16	(31)	Ⅲ	炭化物②陶器	口縁部		
	12479	1	20-17	(30)	Ⅲ	炭化物②陶器	口縁部		
	5687	1	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	口縁部		
	6013	1	20-16	(13)	Ⅲ	炭化物②陶器	底部		
	9458	2	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	5688	1	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	9591	1	20-16	(31)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	7804	1	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	213	6	20-16	(33)	(不明)	炭化物②陶器	胴部		
	11475	2	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	11454	1	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	219	2	20-16	(32)	(不明)	炭化物②陶器	胴部		
	201	1	20-15	(32)	(不明)	炭化物②陶器	胴部		
	209	1	20-16	(32)	(不明)	炭化物②陶器	胴部		
	211	1	20-16	(32)	(不明)	炭化物②陶器	胴部		
	5688	1	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部		
	12870	1	21-15	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	底部		
	11483	6	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部⑤, 底部③		
11476	1	20-16	(32)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部			
6014	1	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	胴部			
11479	1	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②陶器	底部			
破片(胴部5片番号わからず)									
■	27	450	1	19-14	(30)	麻直	1号壺穴住居	口縁部	PL①-3
	574	1	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	口縁部	PL②-30-3	
	575	1	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	口縁部	PL②-34	
	577	1	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	口縁部		
	578	1	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	胴部		
	579	1	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	胴部		
	581	2	19-14	(21)	麻直	1号壺穴住居	胴部①, 底部①		
	678	1	19-14	(16)	麻直	1号壺穴住居	胴部		
	735	1	19-14	(11)	ホマド	1号壺穴住居ホマド左縁	胴部		
	736	1	19-14	(12)	ホマド	1号壺穴住居ホマド右縁	口縁部		
	11838	1	15-17	(02)	土器内	3号土器	胴部		
	14561	1	18-13	(不明)	焼土	焼土④	胴部		
	7087	2	18-13	(30)	Ⅲ	焼土④-48陶器	口縁部		
	11485	1	18-12	(33)	Ⅲ	焼土④-48陶器	口縁部		
	12394	5	18-13	(16)	Ⅲ	焼土④-48陶器	口縁部②, 胴部③		
	10335	8	18-13	(16)	Ⅲ	焼土④-48陶器	口縁部⑦, 胴部①		
	6797	1	18-13	(16)	Ⅲ	焼土④-48陶器	口縁部		
	10309	3	18-13	(33)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	6796	1	18-11	(22)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	12044	1	18-12	(03)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	10315	1	18-13	(16)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	6725	1	18-13	(13)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	6844	1	18-13	(21)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	6841	1	18-13	(20)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	12383	1	18-13	(06)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	10319	2	18-13	(20)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	6686	1	18-12	(03)	Ⅲ	焼土④-48陶器	胴部		
	10340	1	18-14	(26)	Ⅲ	焼土⑤	胴部		
	10345	3	18-14	(23)	Ⅲ	遺構外	胴部		
10379	1	18-13	(25)	Ⅲ	遺構外	胴部			
10214	3	18-13	(13)	Ⅲ	遺構外	胴部			
(光景品)									
■	51片								
	28	9913	1	17-16	(32)	Ⅲ	2号壺穴住居	胴部	PL②-38-1
	6655	5	17-12	(04)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部③, 胴部②	PL②-55	
	3200	3	17-11	(32)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	7139	3	17-12	(23)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	171	5	17-11	(02)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	183	10	17-12	(02)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部		
	3341	1	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部		
	8388	3	17-12	(02)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		

保体番号	連物番号	破片数	大グループ	小グループ	腐蝕・塩土位置	調査年度など	部位	調査PL番号	
■ (ツブネ)	7328	1	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	7054	3	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	口縁部1, 胴部2		
	7056	4	17-12	(11)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	7134	1	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	8376	1	16-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8381	1	16-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8383	1	16-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8377	1	16-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7809	1	17-11	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7130	2	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	3359	1	17-11	(13)	マウンド内	炭化跡マウンド	胴部		
	8686	2	17-11	(21)	マウンド上	炭化跡マウンド	胴部		
	7355	1	17-12	(11)	マウンド	炭化跡マウンド	胴部		
	7544	1	17-12	(21)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7022	2	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7030	2	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	6992	4	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	3661	2	17-11	(03)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7055	1	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7053	1	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8430	2	16-12	(21)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7032	2	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8142	1	16-12	(21)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7542	1	17-12	(21)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7017	2	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7339	1	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	10010	2	17-11	(21)	マウンド上	炭化跡マウンド	胴部		
	10023	1	17-11	(22)	マウンド上	炭化跡マウンド	胴部		
	8700	2	17-11	(22)	マウンド上	炭化跡マウンド	胴部		
	6854	1	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	6853	1	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	3472	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化跡マウンド	胴部		
	7353	1	17-12	(11)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8387	1	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	9425	1	17-11	(13)	マウンド上	炭化跡マウンド	胴部		
	7115	1	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7113	3	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	8354	3	16-12	(21)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7126	1	17-12	(10)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	7018	2	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	3384	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化跡マウンド	底面		
	6993	2	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	胴部		
	176	2	17-11	(13)	(不明)	炭化跡マウンド	底面		
180	1	17-11	(13)	(不明)	炭化跡マウンド	底面			
3360	1	17-11	(13)	マウンド内	炭化跡マウンド	底面			
3344	1	17-11	(13)	マウンド内	炭化跡マウンド	胴部			
103片(胴部1片 番号わからず)									
■	29	3439	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部	PL-00-3
	8668	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化跡マウンド	口縁部	PL-00-56	
	7039	1	17-12	(21)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	8351	2	16-11	(20)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	7348	1	17-12	(11)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	3433	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3434	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	6858	1	17-12	(01)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	3334	1	17-11	(11)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3383	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	8781	1	17-12	(21)	マウンド上	炭化跡マウンド	口縁部		
	8484	1	16-12	(21)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	8449	1	16-12	(21)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	3413	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	10437	1	17-11	(22)	マウンド	炭化跡マウンド	口縁部		
	3430	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3396	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3425	1	17-11	(23)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3438	1	17-11	(23)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	10437	1	17-11	(22)	マウンド	炭化跡マウンド	口縁部		
	7031	1	17-12	(20)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	3332	1	17-11	(10)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		
	3040	1	17-09	(20)	■	炭化跡マウンド	口縁部		
	3333	1	17-11	(11)	マウンド内	炭化跡マウンド	口縁部		

領地番号	遺物番号	破片数	大ケラド	小ケラド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号
29 溝 (ツブキ)	3460	1	17-11	(33)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8572	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	8608	1	18-10	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	7034	1	17-12	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	8793	1	17-12	(16)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	3390	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8654	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	3418	2	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	口縁部	
	8715	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10011	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10089	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	10194	1	17-13	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	7166	1	17-12	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	3537	1	16-11	(33)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	7153	1	17-12	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	7042	1	17-12	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	9638	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	7122	3	17-12	(01)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部	
	3508	3	17-12	(00)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	6994	1	17-12	(01)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	8855	1	17-12	(01)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	8305	1	16-12	(31)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	7135	1	17-12	(16)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	7545	12	17-12	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	7037	1	17-12	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	1986	1	18-10	(00)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	10014	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	7230	1	17-12	(16)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	10020	1	17-11	(22)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	2988	2	18-09	(03)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	3180	3	18-11	(01)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2483	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2479	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2403	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2475	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2977	1	18-10	(00)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2494	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	3380	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	3381	2	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	7381	1	17-12	(20)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	8496	1	16-11	(11)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	8782	1	17-12	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	3374	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	7023	1	17-12	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	7801	1	17-12	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2032	1	18-10	(16)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
	2395	2	17-10	(30)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部	
2401	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	底部		
2487	1	17-10	(21)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部		
3392	1	17-11	(21)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
8588	1	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
8585	1	16-17	(23)	Ⅱ	焼土43	口縁部		
12589	1	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	胴部		
389	1	16-17	(30)	(不明)	焼土43	口縁部		
12668	1	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	胴部		
12665	1	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	胴部		
12585	1	16-17	(21)	埋没に露出	焼土43	胴部		
12489	1	16-17	(21)	埋没に露出	焼土43	胴部		
9079	3	19-15	(23)	Ⅱ	炭化物52	胴部		
12174	1	15-12	(22)	Ⅱ	透溝外	口縁部		
100片(口縁部3片 番号わからず)								
30	1802	3	17-17	(11)	麻葺	2号壺穴住居	口縁部	PL.Ⅱ-30-2
	10517	1	17-16	(23)	Ⅱ	2号壺穴住居	口縁部	PL.Ⅱ-37
	11013	1	17-18	(01)	Ⅱ	2号壺穴住居	口縁部	
	7518	1	13-15	(16)	Ⅱ	焼土37	胴部	
	12298	1	16-17	(12)	焼土	焼土43	口縁部	
	9999	1	16-17	(12)	焼土	焼土43	胴部	
	5785	2	19-15	(23)	Ⅱ	炭化物52	口縁部	
	11369	1	20-15	(16)	Ⅱ	炭化物52	口縁部	
	8775	2	19-15	(23)	Ⅱ	炭化物52	口縁部	
	11079	1	19-15	(12)	Ⅱ	炭化物52	口縁部	

映像番号	連作番号	巻片数	大アップ	小アップ	覆写・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL番号
30 (ツブネ)	9462	1	20-16	(33)	Ⅲ	炭化物②層遺	口縁部	
	11465	1	20-16	(23)	Ⅲ	炭化物②層遺	口縁部	
	7906	1	20-16	(23)	Ⅲ	炭化物②層遺	口縁部	
	6640	1	20-10	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	9082	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	2458	1	17-10	(33)	M	炭化物マウンド	口縁部	
	9434	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	9279	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	10294	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	2438	1	17-10	(31)	M	炭化物マウンド	口縁部	
	9204	1	17-11	(02)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	10585	1	17-11	(32)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	9447	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	9212	1	17-11	(00)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	9218	1	17-12	(00)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部	
	9697	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	
	9085	1	17-12	(00)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	10017	1	17-11	(21)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	186	1	17-12	(10)	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
	7105	1	17-12	(00)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部	
	3468	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	3829	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	187	2	17-12	(10)	(不明)	炭化物マウンド	胴部	
	5371	1	17-11	(20)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	8627	1	17-11	(20)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	
	2444	3	17-10	(32)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2280	2	17-10	(20)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2426	1	17-10	(31)	M	炭化物マウンド	胴部	
	10942	1	17-10	(30)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	2889	1	17-10	(33)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2911	1	18-10	(02)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2296	1	18-10	(00)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2763	1	18-10	(02)	M	炭化物マウンド	胴部	
	9663	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	2055	1	18-10	(00)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2056	1	18-10	(00)	M	炭化物マウンド	胴部	
	2443	1	17-11	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部	
	9892	1	17-12	(12)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	9693	1	17-12	(12)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	9625	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	9624	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	9620	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	7254	1	17-12	(01)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部	
	9672	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	9493	1	17-12	(12)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
	189	2	17-12	(11)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部	
	3264	1	17-11	(23)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部	
8642	2	17-11	(12)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
10040	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
3253	1	17-11	(23)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
3611	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
3615	3	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
3199	1	17-11	(23)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
8721	1	17-11	(31)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
3613	1	17-12	(00)	マウンド上	炭化物マウンド	底部		
9443	2	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
3612	1	17-12	(00)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
80片(胴部4片番号は6-9)								
31	11360	1	17-16	(33)	覆土・埋	2号掘穴埋	口縁部	PL-20-41-1
	10827	1	17-17	(02)	床直	2号掘穴埋	口縁部	PL-20-58
	1888	1	17-16	(23)	床直	2号掘穴埋	胴部	
	11844	1	17-16	(23)	床直	2号掘穴埋	胴部	
	10119	1	17-17	(01)	床直	2号掘穴埋	胴部	
	11826	1	16-17	(23)	土壁内	3号土壁	胴部	
	370	2	16-17	(23)	(不明)	礎土43	口縁部	
	11199	1	16-17	(23)	礎土	礎土43	胴部	
	9716	1	16-17	(22)	Ⅲ	礎土43	胴部	
	9087	2	18-16	(30)	M	炭化物②	口縁部	
	9299	1	20-16	(21)	Ⅲ	炭化物②層遺	胴部	
	9297	1	20-16	(21)	Ⅲ	炭化物②層遺	胴部	
	11289	1	20-16	(23)	Ⅲ	炭化物②層遺	胴部	

図録番号	遺物番号	遺物種別	大ナソド	小ナソド	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL番号	
集 (ツブ)	7605	1	30-16	(32)	Ⅲ	炭化物の珪石	底部		
	9590	1	30-16	(30)	Ⅲ	炭化物の珪石	底部		
	11458	1	30-16	(30)	Ⅲ	炭化物の珪石	底部		
	2084	1	18-09	(33)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	2401	1	17-10	(32)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	2607	1	18-10	(31)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	4605	1	18-10	(21)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	10441	1	17-11	(30)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	2490	1	17-10	(32)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	2990	1	18-09	(33)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	1919	1	17-10	(31)	カクラン	炭化物マウンド	口縁部		
	2828	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	2975	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	口縁部		
	10980	1	17-11	(30)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9238	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	1927	1	17-10	(13)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	6606	2	18-10	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	2250	1	17-10	(13)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	10867	1	17-10	(23)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9237	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	9040	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	2300	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	9248	1	17-11	(12)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	8629	1	17-11	(10)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	8625	1	17-11	(30)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	2895	1	17-10	(31)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	2744	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	2650	1	18-10	(10)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	2631	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	2747	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	10463	1	17-11	(22)	マウンド下	炭化物マウンド	胴部		
	10459	1	17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10963	1	17-10	(33)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	2745	1	18-10	(30)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部		
	1867	1	18-10	(12)	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
	1866	1	18-10	(31)	カクラン	炭化物マウンド	胴部		
	6607	1	18-10	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9430	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
	5888	1	14-14	(10)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	7748	1	14-15	(30)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	7507	1	14-15	(30)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	1155	6	13-14	(31)	Ⅲ	遺構外	口縁部4, 胴部2		
	5883	2	14-14	(30)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	5882	1	14-14	(32)	Ⅲ	遺構外	口縁部		
	160	1	13-14	(31)	(不明)	遺構外	胴部		
	67片 (胴部片番号から)								
	集	554	1	17-17	(11)	Ⅲ	3号型穴注器	口縁部	PL-②-35-1
		555	6	17-17	(11)	Ⅲ	3号型穴注器	口縁部, 胴部5	PL-②-35
		386	1	17-17	(22)	(不明)	3号型穴注器	胴部	
		12516	1	16-17	(22)	焼土	焼土43	口縁部	
475		5	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
471		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
476		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
12549		1	16-17	(22)	Ⅲ	焼土43	胴部		
8347		1	16-17	(12)	焼土	焼土43	胴部		
474		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
375		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
363		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
365		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
8480		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
12514		1	16-17	(22)	焼土	焼土43	胴部		
511		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
374		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
8586		2	16-17	(22)	Ⅲ	焼土43	胴部		
12519		2	16-17	(22)	焼土	焼土43	胴部		
8481		1	16-17	(22)	焼土	焼土43	胴部		
8476		1	16-17	(22)	焼土	焼土43	胴部		
373		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
397		1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	胴部		
515		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		
477		1	16-17	(22)	Ⅲ上	焼土43	胴部		

観測番号	観測番号	観片数	大アゾド	小アゾド	層位・土質位置	観測緯度	観測経度	部位	観測PL番号	
観測 (ツツボ)	7099	1	20-15	(02)	焼土上層	灰化物S2		観測		
	9002	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	11047	8	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	11046	5	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9045	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	7243	1	19-15	(22)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9042	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9008	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9017	7	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9041	4	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9019	4	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9018	4	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	9023	3	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	11950	2	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	11221	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		観測		
	2829	1	17-10	(22)	Ⅱ	灰化物マウンド		観測		
	10907	1	21-17	(22)	Ⅱ	遺構外		観測		
	4732	1	13-08	(22)	Ⅱ	遺構外		観測		
	4542	1	14-09	(02)	Ⅱ	遺構外		観測		
	4329	1	13-09	(01)	Ⅱ	遺構外		観測		
観測片(観測片番号ナシ)										
観測	565	2	17-17	(22)	焼土心層	2号層穴住居		観測	PL-22-27-2	
	549	1	17-17	(22)	焼土心層	1号層穴住居		観測	PL-22-40	
	297	1	17-17	(22)	(不明)	2号層穴住居		観測		
	545	1	17-17	(22)	(不明)	2号層穴住居		観測		
	296	1	17-17	(22)	(不明)	2号層穴住居		定部		
	550	1	17-17	(22)	焼土心層	2号層穴住居		定部		
	9482	22	16-17	(20)	焼土	焼土43		1号層11, 11号層10, 11号層1		
	123	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43		1号層11, 11号層1		
	124	4	16-17	(20)	(不明)	焼土43		1号層12, 11号層2		
	205	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43		観測		
	9481	1	16-17	(20)	焼土	焼土43		観測		
	126	15	16-17	(20)	(不明)	焼土43		観測		
	273	1	16-16	(18)	(不明)	焼土43		観測		
	8322	1	16-17	(20)	焼土	焼土43		観測		
	264	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43		観測		
	8307	1	16-17	(20)	焼土	焼土43		観測		
	278	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	1087	1	17-16	(02)	オウゴン	焼土43周辺		観測		
	8594	1	16-15	(22)	Ⅱ	焼土43周辺		観測		
	87	1	16-18	(20)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	112	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	296	2	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	11146	1	15-17	(21)	Ⅱ	焼土43周辺		観測		
	209	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	350	1	16-17	(22)	(不明)	焼土43周辺		観測		
	観測片									
	観測	1900	1	17-16	(22)	麻直	2号層穴住居		観測	PL-22-37-1
		11012	1	16-18	(21)	麻直	2号層穴住居		観測	PL-22-41
		11826	1	17-16	(22)	麻直	2号層穴住居		観測	
		524	1	17-16	(22)	麻直	2号層穴住居		観測	
1841		1	19-17	(20)	麻直	2号層穴住居		観測		
10873		1	19-17	(01)	麻直	2号層穴住居		観測		
1492		1	17-17	(01)	Ⅱ	2号層穴住居		観測		
120		3	16-17	(22)	(不明)	焼土43		観測		
11563		1	16-17	(02)	焼土	焼土43		観測		
8212		8	15-17	(22)	Ⅱ	焼土43		観測		
11885		3	16-17	(02)	焼土	焼土43		観測		
11364		2	16-17	(02)	焼土	焼土43		観測		
11682		1	16-17	(02)	焼土	焼土43		観測		
12540		2	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43		観測		
12536		1	16-17	(22)	Ⅱ	焼土43		観測		
1040		1	13-14	(01)	Ⅱ	焼土34周辺		観測		
4719		1	19-12	(11)	Ⅱ	焼土47周辺		観測		
7412		1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
8735		1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
8745		1	19-15	(22)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
8790		1	19-15	(22)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
11070		3	19-15	(21)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
7248		1	19-15	(22)	Ⅱ	灰化物S2		1号層		
11060	1	19-15	(12)	Ⅱ	灰化物S2		1号層			

製品番号	通称番号	額片数	大アソビ	小アソビ	層位・粘土位置	関連層番号	部位	関連PL番号	
■ (ツブ)	7425	2	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物S2	口縁部		
	7458	3	10-15	(21)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7466	1	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7683	1	10-15	(13)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7417	1	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	11890	1	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7239	1	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	85	1	10-15	(22)	(不明)	炭化物S2	胴部		
	5749	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物S2	胴部		
	7460	1	10-15	(21)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	8786	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物S2	胴部		
	8794	1	10-15	(22)	Ⅱ	炭化物S2	胴部		
	7238	1	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7640	1	10-15	(21)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	11049	1	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	9015	1	10-15	(13)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7682	2	10-15	(13)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
	7815	1	10-11	(02)	Ⅱ	炭化物マウンド	胴部		
	1689	1	17-10	(02)	カタラン	透視外	胴部		
	1714	1	14-09	(22)	Ⅱ	透視外	口縁部		
	11983	1	17-15	(20)	Ⅱ	透視外	口縁部		
5667	1	22-14	(12)	Ⅱ	透視外	胴部			
61	3	17-15	(22)	(不明)	透視外	胴部			
11301	1	17-16	(22)	Ⅱ	透視外	胴部			
12524	1	16-18	(12)	Ⅱ	透視外	胴部			
11785	1	18-15	(01)	Ⅱ	透視外	胴部			
71片(胴部4片番号わからず)									
■	1793	7	10-18	(00)	甌土心層	2号期六生器	口縁部	PL-22-62	
	1796	1	10-18	(01)	甌土心層	2号期六生器	胴部		
	8537	1	17-18	(12)	甌土心層	2号期六生器	胴部		
	542	2	17-17	(20)	甌土心層	2号期六生器	胴部		
	118	8	16-17	(21)	(不明)	焼土43	胴部		
	117	4	16-17	(21)	(不明)	焼土43	胴部		
	115	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
	127	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
	139	1	16-17	(22)	カタラン	焼土43	胴部		
	1690	1	16-17	(31)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	8321	1	16-17	(31)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	8309	1	16-17	(20)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	283	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
	8332	1	16-17	(20)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	1690	2	17-17	(00)	Ⅱ	透視外	胴部		
	1629	1	18-08	(00)	Ⅱ	透視外	胴部		
	8294	1	16-16	(25)	Ⅱ	透視外	胴部		
	8225	2	18-17	(10)	Ⅱ	透視外	胴部		
	37片(胴部1片番号なし・胴部1片番号わからず)								
	■	820	1	13-18	(10)	Ⅱ	焼土33-37	口縁部	PL-22-201下
		12657	2	16-17	(13)	Ⅱ	焼土43	口縁部	PL-22-200-1
7443		1	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物S2	口縁部	PL-22-63	
7902		1	10-15	(02)	Ⅱ'	炭化物S2	口縁部		
11737		1	10-15	(02)	Ⅱ	炭化物S2	口縁部		
9037		1	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物S2	口縁部		
9096		4	10-15	(23)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
9092		1	10-15	(23)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
7934		3	10-15	(23)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
9076		2	10-15	(23)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
7632		1	10-15	(02)	Ⅱ'	炭化物S2	胴部		
5278		2	10-15	(23)	Ⅱ	炭化物S2	胴部		
10248		1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
9424		1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
10258		1	17-11	(22)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
10041		1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
9273		1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
10042		2	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	口縁部		
3106		1	17-11	(23)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部		
3220		1	17-11	(23)	Ⅱ	炭化物マウンド	口縁部		
10237		1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
10290	6	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
9856	2	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
10036	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			

機体番号	機体番号	組立数	大グリッド	小グリッド	層位・組立位置	関連機体名	部位	関連PL番号	
機 (ツブネ)	9420	1	17-11	(13)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	10044	2	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10058	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10059	1	17-11	(22)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	2772	1	18-10	(02)	W	炭化物マウンド	胴部		
	2797	1	18-10	(01)	W	炭化物マウンド	胴部		
	9803	9	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9655	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9354	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9379	2	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9664	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9427	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10031	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9805	3	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9371	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10040	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	10077	2	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10050	1	17-12	(20)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10087	1	17-11	(23)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	10043	1	17-11	(23)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	9333	2	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	9652	2	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	底部		
	9482	14	20-16	(23)	W	透視外	口縁部		
	6012	1	20-16	(13)	W	透視外	口縁部		
	部材(口縁部4片, 胴部2片番号わからず)								
	機	12532	13	17-17	(12)	シャド	2号艦穴住居	口縁部4, 胴部9	PL-23-1
1778		1	18-17	(20)	床底	2号艦穴住居	口縁部	PL-23-44	
12248		1	17-17	(12)	シャド	2号艦穴住居	胴部		
12049		1	17-17	(12)	シャド	2号艦穴住居	胴部		
12050		2	17-17	(12)	シャド	2号艦穴住居	胴部		
1829		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
11004		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
11008		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
10505		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
1740		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
1891		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
9916		1	17-16	(23)	床底	2号艦穴住居	胴部		
12085		1	17-17	(11)	シャド	2号艦穴住居	胴部		
12070		1	18-16	(23)	床	2号艦穴住居	胴部		
12071		1	18-16	(23)	床	2号艦穴住居	胴部		
16284		1	17-17	(不明)	シャド	2号艦穴住居	胴部		
8892		1	18-16	(13)	床底	2号艦穴住居	口縁部		
16590		1	17-16	(不明)	床底	2号艦穴住居	胴部		
515		1	18-17	(23)	W上	焼土43	胴部		
8852		1	18-17	(23)	W	焼土43	胴部		
854		1	18-17	(23)	W上	焼土43	胴部		
11352		1	18-17	(23)	W	焼土43	胴部		
11194		1	18-17	(23)	W	焼土43	胴部		
11683		1	18-17	(02)	機土	焼土43	胴部		
2790		2	19-15	(22)	W	炭化物52	口縁部		
7481		1	19-15	(21)	W	炭化物52	口縁部		
7454		2	19-15	(22)	W	炭化物52	口縁部		
8789		1	19-15	(22)	W	炭化物52	口縁部		
7490		1	19-15	(22)	W	炭化物52	口縁部		
9083		1	19-16	(22)	W	炭化物52	胴部		
9090		1	19-15	(23)	W	炭化物52	胴部		
5719		1	19-15	(23)	W	炭化物52	胴部		
6018		1	20-16	(20)	W	炭化物52	胴部		
7584		1	20-16	(10)	W	炭化物52	胴部		
16580		1	20-17	(不明)	炭化物層	炭化物・機土70	胴部		
9811		1	17-13	(02)	W	透視外	口縁部		
10897		1	18-14	(22)	W	透視外	口縁部		
5822		1	19-16	(10)	W	透視外	口縁部		
11959		1	18-15	(20)	W	透視外	口縁部		
8977		1	15-14	(20)	W	透視外	口縁部		
11488		1	18-15	(10)	W	透視外	口縁部		
7707		1	15-15	(08)	W	透視外	口縁部		
11805	1	18-15	(20)	W	透視外	口縁部			
5827	1	18-15	(12)	W	透視外	口縁部			
7738	1	15-15	(23)	W	透視外	口縁部			
9385	1	17-13	(13)	W	透視外	口縁部			



調査番号	遺物番号	破片数	大ブリッジ	小ブリッジ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	調査PL・番号
■	37	10193	1	17-13	(13)	瓦	遺構外	□線部
		10723	1	14-12	(22)	瓦	遺構外	□線部
破片(□線部1片, 胴部11片番号わからず)								
■	38	12065	2	17-17	(12)	キマド	2号竪穴住居	□線部
		11837	1	17-16	(22)	灰	2号竪穴住居	□線部
		12231	1	17-17	(11)	キマド	2号竪穴住居	□線部
		10836	6	17-17	(12)	キマド	2号竪穴住居	□線部2, 胴部4
		12158	1	17-17	(12)	キマド	2号竪穴住居	□線部
		1755	1	18-16	(02)	灰	2号竪穴住居	胴部
		1749	1	17-17	(30)	灰	2号竪穴住居	胴部
		1830	1	17-17	(30)	灰	2号竪穴住居	胴部
		1748	1	17-17	(30)	灰	2号竪穴住居	胴部
		12084	1	17-17	(12)	キマド	2号竪穴住居	胴部
		10529	1	17-17	(不明)	キマド	2号竪穴住居	胴部
		12246	2	17-17	(12)	キマド	2号竪穴住居	胴部
		1011	1	16-17	(13)	灰	2号竪穴住居	胴部
		11020	1	16-17	(13)	灰	2号竪穴住居	胴部
		1754	1	16-16	(02)	灰	2号竪穴住居	胴部
		12027	1	18-17	(20)	灰	2号竪穴住居	胴部
		11841	1	18-16	(02)	灰	2号竪穴住居	胴部
		12277	1	15-16	(20)	瓦	焼土41	胴部
		534	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	胴部
		282	1	16-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部
		329	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	胴部
		8282	1	16-16	(00)	瓦	焼土43	胴部
		9704	1	16-17	(21)	焼土上	焼土43	胴部
		10504	1	16-16	(30)	焼土	焼土43	胴部
		11033	1	19-15	(12)	x <sup>1</sup>	炭化物52	□線部
		7460	1	19-15	(21)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		7241	1	19-15	(22)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		5740	1	19-15	(22)	■	炭化物52	胴部
		82	1	19-15	(22)	(不明)	炭化物52	胴部
		72	1	19-15	(22)	(不明)	炭化物52	胴部
		7612	1	19-15	(01)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		7613	1	19-15	(01)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		5718	1	19-18	(30)	■	炭化物52	胴部
		9039	1	19-18	(12)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		83	2	19-18	(22)	(不明)	炭化物52	胴部
		8851	1	19-15	(00)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		9027	1	19-15	(13)	x <sup>1</sup>	炭化物52	胴部
		5762	3	19-18	(22)	■	炭化物52	胴部
		5792	1	19-18	(23)	■	炭化物52	胴部
		5742	1	19-18	(22)	■	炭化物52	胴部
		5748	1	19-18	(22)	■	炭化物52	胴部
		3449	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	□線部
		3454	1	17-11	(22)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部
		10876	1	19-17	(01)	h <sup>2</sup>	遺構外	胴部
		7508	1	19-17	(不明)	コケラン	遺構外	胴部
		8061	1	13-14	(22)	■	遺構外	胴部
		8025	1	20-14	(10)	■	遺構外	□線部
	7596	1	20-14	(11)	■	遺構外	□線部	
	8017	1	20-14	(00)	■	遺構外	□線部	
破片(胴部3片番号わからず)								
■	39	605	2	11-06	(20)	灰	1号竪穴住居	胴部
		13647	1	10-10	(03)	■	遺構外	□線部
		13648	4	10-10	(01)	■	遺構外	□線部1, 胴部3
		13640	4	10-10	(02)	■	遺構外	□線部
		13642	6	10-10	(01)	■	遺構外	□線部1, 胴部5
		4056	1	10-10	(01)	■	遺構外	□線部
		4057	1	10-10	(30)	V	遺構外	□線部
		13554	1	10-10	(12)	■	遺構外	胴部
		4019	1	10-09	(13)	V	遺構外	胴部
		4061	1	11-10	(00)	V	遺構外	胴部
		13035	1	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		13037	4	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		13036	2	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		4076	1	10-10	(21)	V	遺構外	胴部
		14724	2	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		13043	5	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		13045	1	10-10	(02)	■	遺構外	胴部
		13044	3	10-10	(02)	■	遺構外	胴部

PL図-128-1

PL図-148

測体番号	建物番号	組片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	瓦通達種わご	部位	調査PL・番号	
■	(ツブネ)	13551	1	10-10	(12)	瓦	透櫓外	胴部	
		4037	1	10-09	(33)	瓦	透櫓外	胴部	
		4039	1	10-10	(90)	瓦	透櫓外	胴部	
		4040	1	10-10	(11)	瓦	透櫓外	胴部	
		4081	1	10-10	(11)	瓦	透櫓外	胴部	
		1455	1	15-09	(30)	瓦	透櫓外	胴部	
		13	1	15-09	(30)	(不明)	透櫓外	胴部	
		4053	1	10-10	(11)	瓦	透櫓外	胴部	
		4074	1	10-10	(08)	瓦	透櫓外	胴部	
		4048	1	10-10	(11)	瓦	透櫓外	胴部	
		4078	1	10-10	(30)	瓦	透櫓外	胴部	
		13534	1	10-10	(08)	瓦	透櫓外	胴部	
		705	1	11-08	(04)	瓦	透櫓外	胴部	
		4032	1	10-09	(13)	瓦	透櫓外	胴部	
		13539	3	10-10	(02)	瓦	透櫓外	胴部	
		13523	1	10-10	(12)	瓦	透櫓外	胴部	
		13533	1	10-10	(02)	瓦	透櫓外	胴部	
		13548	1	10-10	(08)	瓦	透櫓外	胴部	
		3097	1	09-10	(30)	瓦	透櫓外	胴部	
		4023	1	10-09	(32)	V	透櫓外	底部	
13335	1	09-09	(10)	瓦	透櫓外	底部			
(44件(測体番号からず))									
■	40	811	1	10-04	(22)	覆土・土層	5号館六住居	胴部	PL.20-1
		539	1	10-04	(23)	床底	5号館六住居	胴部	PL.20-149
		1564	1	10-05	(19)	煙道	5号館六住居	底部	
		1574	1	10-05	(19)	煙道	5号館六住居	胴部	
		2474	3	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	1階部1, 胴部2	
		2468	3	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	1階部2, 胴部1	
		2471	2	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2054	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2059	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2064	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2060	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2066	3	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2470	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2472	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2661	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2469	1	09-04	(32)	土壁内	1号土壁	胴部	
		14711	1	09-04	(不明)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2915	1	09-04	(不明)	土壁内	1号土壁	胴部	
		2158	1	09-04	(32)	瓦	1号土壁 瓦葺	胴部	
		2157	2	09-04	(32)	瓦	1号土壁 瓦葺	胴部	
		2258	2	09-04	(32)	瓦	1号土壁の礎土・炭化物	胴部	
		2832	1	09-04	(32)	礎土	1号土壁の礎土・炭化物	胴部	
		2833	1	09-04	(32)	礎土	1号土壁の礎土・炭化物	胴部	
		2831	1	09-04	(32)	礎土	1号土壁の礎土・炭化物	胴部	
		2835	2	09-04	(32)	礎土	1号土壁の礎土・炭化物	胴部	
		808	1	10-04	(13)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2166	1	09-05	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2168	1	09-05	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2107	1	09-05	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2165	2	09-05	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2166	1	09-05	(30)	瓦	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2165	1	09-05	(30)	瓦	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2229	1	09-04	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		2353	1	09-05	(30)	炭	1号土壁瓦葺の礎土・炭化物	胴部	
		4708	1	11-13	(19)	V	透櫓外	胴部	
		4715	2	11-13	(19)	V	透櫓外	胴部	
		5286	2	11-13	(13)	V	透櫓外	胴部	
		4699	1	11-13	(19)	V	透櫓外	胴部	
		4651	1	12-08	(04)	V	透櫓外	底部	
		(52件(測体番号からず))							
■	41	546	4	17-17	(21)	覆土・土層	2号館六住居	1階部2, 胴部2	PL.20-2
		1807	7	17-17	(21)	床	2号館六住居	1階部1, 胴部4	PL.20-66
		1808	4	17-17	(21)	床	2号館六住居	1階部3, 胴部1	
		1813	10	17-17	(22)	床	2号館六住居	1階部5, 胴部7	
		547	2	17-17	(21)	覆土・土層	2号館六住居	胴部	
		1806	4	17-17	(21)	床	2号館六住居	胴部	
		1806	1	17-17	(21)	覆土・土層	2号館六住居	胴部	
		1810	8	17-17	(21)	床	2号館六住居	胴部	
		1806	1	17-17	(21)	床	2号館六住居	胴部	

図録番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺物No	部位	関連PL・番号	
■ (ツブタ)	41	1899	5	17-17	[31]	土	2号瓶穴内蓋	胴部	
	1821	1	17-17	[20]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	551	3	17-17	[11]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	394	1	17-17	[12]	(不明)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	405	2	16-16	[01]	b'上	焼土43層	胴部		
	407	2	16-16	[01]	b'上	焼土43層	胴部		
	409	1	16-16	[01]	b'上	焼土43層	胴部		
	11506	1	18-15	[30]	IV	炭化物52	胴部		
	5831	1	16-15	[11]	IV	透視外	胴部		
	9943	1	16-15	[00]	IV	透視外	胴部		
	50片(胴部破片番号から)								
■	42	1818	1	17-17	[33]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部	PL-29-2
	11008	6	17-17	[33]	土	2号瓶穴内蓋	胴部	PL-29-2	
	8598	1	17-18	[30]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	11003	1	17-16	[30]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	9926	1	18-17	[00]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	10855	1	18-18	[20]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1817	1	17-17	[33]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	583	1	17-17	[32]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1882	2	17-17	[22]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	9701	2	17-18	[00]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1820	1	17-17	[22]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	10947	5	17-18	[00]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	11011	1	17-17	[13]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1815	6	17-17	[32]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	9925	1	17-17	[32]	土	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1816	1	17-17	[30]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	563	3	17-17	[32]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	1785	1	18-17	[23]	瀬土(6層)	2号瓶穴内蓋	胴部		
	15750	1	06-07	[00]	V	焼土13	胴部		
	10983	1	19-14	[10]	IV	透視外	胴部		
	30片								
	■	43	417	1	16-16	[12]	(不明)	焼土43	胴部
1191		1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部	PL-206-2	
11306		1	19-15	[22]	x'	炭化物52	胴部		
5775		6	19-15	[33]	IV	炭化物52	胴部		
9537		1	20-15	[03]	x'	炭化物52	胴部		
7478		1	20-15	[03]	焼土上	炭化物52	胴部		
12564		1	20-15	[03]	IV	炭化物52	胴部		
9069		1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
7916		1	19-15	[23]	x'	炭化物52	胴部		
221		1	18-15	[11]	(不明)	炭化物52周辺	胴部		
11786		1	18-15	[01]	IV	炭化物52周辺	胴部		
11787		1	18-15	[01]	IV	炭化物52周辺	胴部		
11789		1	18-15	[01]	IV	炭化物52周辺	胴部		
9622		1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
9623		1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
10489		1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
9609		1	18-10	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
2485		1	18-10	[03]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
9616		1	17-12	[11]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
7831		1	18-11	[00]	IV	炭化物マウンド	胴部		
9483		1	18-11	[00]	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
8624		1	17-11	[03]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
10222		1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
8753		1	17-12	[00]	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
9625		1	17-13	[11]	IV	炭化物マウンド	胴部		
10308		1	17-12	[21]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
10340		3	17-12	[30]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
10429		1	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
10229		2	17-12	[20]	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
7122		1	17-12	[10]	IV	炭化物マウンド	胴部		
7264		1	17-12	[21]	IV	炭化物マウンド	胴部		
2358		1	17-10	[28]	b'	炭化物マウンド	胴部		
9081		1	13-08	[30]	IV	透視外	胴部		
12383		8	18-16	[21]	IV	透視外	胴部		
10262		1	19-14	[23]	IV	透視外	胴部		
8170		1	20-13	[30]	IV	透視外	胴部		
21片(胴部破片番号から)									
■	44	954	2	10-05	[21]	床直	5号瓶穴内蓋	胴部	PL-229-2
	831	1	10-05	[30]	カマド	5号瓶穴内蓋	胴部	PL-229-2	

個体番号	遺物番号	鏡片数	大ワイド	小ワイド	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連P.L.番号	
■ (ツブキ)	44	1020	1	10-05	[12]	キマド	5号竈六住居	竈部	
		987	1	10-05	[20]	キマド	5号竈六住居	竈部	
		1191	1	10-05	[30]	煙道	5号竈六住居	竈部	
		1194	1	10-05	[30]	キマド	5号竈六住居	竈部	
		1023	1	10-05	[14]	扉家	5号竈六住居	竈部	
		993	1	10-05	[14]	扉家	5号竈六住居	竈部	
		1027	1	10-05	[14]	扉家	5号竈六住居	竈部	
		944	1	10-05	[30]	キマド	5号竈六住居	竈部	
		1019	1	10-05	[14]	扉家	5号竈六住居	竈部	
12件									
■	45	12083	1	17-17	[12]	キマド	2号竈六住居	竈部	PL-23-3-2
		12285	1	17-17	[04]	煙道	2号竈六住居	竈部	PL-23-08
		11014	1	17-18	[01]	扉家	2号竈六住居	竈部	
		11847	1	17-18	[01]	扉家	2号竈六住居	竈部	
		1855	1	17-19	[11]	埴	灰化物マウンド	竈部	
		1856	1	17-19	[11]	埴	灰化物マウンド	竈部	
		7254	1	19-15	[30]	埴	灰化物C2	竈部	
		11783	1	18-15	[01]	埴	灰化物C2	竈部	
		7945	2	19-15	[12]	埴	灰化物C2	竈部	
		8894	2	18-15	[14]	埴	灰化物C2	竈部	
		7877	1	19-15	[30]	埴	灰化物C2	竈部	
		8025	1	18-18	[11]	埴	遺構外	竈部	
	14件(竈部1片番号ナシ)								
	■	46	14368	1	05-08	[01]	V	遺構外	竈部
		14667	1	05-08	[10]	V	遺構外	竈部	
		10387	1	19-13	[30]	埴	遺構外	竈部	
		6507	1	20-09	[03]	埴	遺構外	竈部	
		2132	1	09-06	[10]	埴	遺構外	竈部	
		10285	1	19-13	[30]	埴	遺構外	竈部	
		10284	1	19-13	[30]	埴	遺構外	竈部	
		10286	1	19-13	[30]	埴	遺構外	竈部	
4件(竈部1片番号わからず)									
■		47	4586	1	14-09	[11]	埴	遺構外	C1竈部
		5333	3	14-09	[11]	埴	遺構外	C1竈部1, 竈部2	
		6793	1	19-13	[01]	埴	遺構外	C1竈部	
		6798	4	19-13	[10]	埴	遺構外	C1竈部1, 竈部3	
		8929	1	14-11	[12]	埴	遺構外	C1竈部	
		8935	4	14-11	[12]	埴	遺構外	C1竈部1, 竈部3	
		7832	1	15-10	[03]	埴	遺構外	C1竈部	
		8032	4	14-11	[03]	埴	遺構外	竈部	
		8821	12	14-11	[12]	埴	遺構外	竈部	
		8822	3	14-11	[12]	埴	遺構外	竈部	
		9278	1	14-11	[12]	埴	遺構外	竈部	
		5895	2	19-11	[02]	埴	遺構外	竈部	
		8936	1	14-11	[01]	埴	遺構外	竈部	
		8937	2	14-11	[01]	埴	遺構外	竈部	
		9276	1	14-11	[02]	埴	遺構外	竈部	
	41件								
	■	48	1722	4	18-16	[30]	埴	灰化物C2	C1竈部1, 竈部3
		11750	1	20-15	[08]	埴	灰化物C2	C1竈部	PL-23-042
		9102	1	18-16	[30]	埴	灰化物C2周辺	竈部	
		12454	1	19-16	[30]	埴	灰化物C2周辺	竈部	
		12453	2	19-16	[30]	埴	灰化物C2周辺	竈部	
		12456	1	19-16	[30]	埴	灰化物C2周辺	竈部	
		12455	6	19-16	[30]	埴	灰化物C2周辺	C1竈部3, 竈部3	
		9010	1	18-16	[21]	埴	灰化物C2	竈部	
		15627	1	17-11	[21]	マウンド	灰化物マウンド	C1竈部	
		185	1	17-12	[10]	(不明)	灰化物マウンド	C1竈部	
		7343	1	17-12	[10]	埴	灰化物マウンド	C1竈部	
		3330	2	17-11	[12]	マウンド内	灰化物マウンド	C1竈部1, 竈部1	
		3408	1	17-11	[20]	マウンド内	灰化物マウンド	C1竈部	
		3407	3	17-11	[20]	マウンド内	灰化物マウンド	竈部	
20件									
■	49	1906	2	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	C1竈部	PL-23-43-1
		1775	2	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	C1竈部	PL-23-49
		1773	2	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	C1竈部	
		1838	2	18-17	[14]	埴	2号竈六住居	C1竈部	
		1777	1	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	竈部	
		1772	1	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	竈部	
		1960	1	18-17	[20]	埴	2号竈六住居	竈部	

供体番号	遺物番号	鏡片数	大プリット	小プリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号		
■ (ツブB)	1804	1	17-17	[31]	Ⅲ	2号穴六層	胴部			
	1816	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	1818	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	1844	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	1847	2	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	2273	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	2335	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	1848	1	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	胴部			
	1845	2	17-10	[31]	Ⅱ'	炭化物マウンド	胴部			
	1860	1	17-10	[30]	Ⅱ'	炭化物マウンド	口縁部			
	8054	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部			
	8050	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部			
	7834	1	18-15	[02]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部			
	7913	1	18-15	[23]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部			
	7975	1	18-15	[10]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部			
	7230	2	18-15	[不明]	ホケラン	炭化物②	口縁部			
	7471	1	20-15	[05]	焼土上	炭化物②	胴部			
	7849	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	5721	1	18-15	[21]	Ⅲ	炭化物②	胴部			
	16531	1	18-15	[不明]	[不明]	炭化物②	胴部			
	8049	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7905	1	18-15	[13]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7891	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	11076	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	8051	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	8034	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	11045	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7438	1	18-15	[23]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7851	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7857	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	11061	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	8853	1	18-15	[01]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7234	1	18-15	[11]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7897	1	18-15	[32]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	8040	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	11077	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	11036	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7864	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7850	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
	7932	1	18-15	[12]	Ⅱ'	炭化物②	胴部			
7838	1	18-15	[02]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部				
7858	1	18-15	[22]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部				
7860	1	18-15	[10]	Ⅱ'	炭化物②	口縁部				
7091	1	20-15	[20]	Ⅲ	炭化物①埋込	胴部				
11102	1	15-12	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部				
50片(胴部2片番号わからず)										
■	50	6413	1	21-09	[不明]	ホケラン	遺構外	口縁部		
		6338	1	21-09	[08]	ホケラン	遺構外	口縁部		
		5437	1	20-10	[18]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		6404	1	20-09	[13]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		6342	2	21-09	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5413	1	20-10	[20]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		6240	1	21-10	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		720	1	20-10	[11]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5455	1	20-10	[18]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5434	2	20-10	[18]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5405	1	20-10	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5404	5	20-10	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部、胴部		
		5405	1	20-10	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5403	1	20-10	[10]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		6346	1	21-09	[00]	Ⅲ	遺構外	口縁部		
		5407	1	20-10	[30]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		5437	1	21-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		5438	1	21-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		6259	1	21-10	[00]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		5423	2	20-10	[11]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		5419	1	20-10	[21]	Ⅲ	遺構外	胴部		
		6339	2	21-09	[03]	Ⅲ	遺構外	胴部		
	32片(胴部2片番号わからず)									
	■	51	13917	4	06-06	[20]	Ⅲ	焼土②	口縁部	PL ②-264-2
			13303	1	06-06	[11]	Ⅲ	焼土②	口縁部	PL ②-174

図号	建物番号	図片数	大プリント	小プリント	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
■	51	13647	6	06-06	(30)	焼土	焼土27	□線部1, 線部5	
		13640	1	06-06	(21)	IV	焼土27	□線部	
		13615	6	06-06	(20)	IV	焼土27	□線部4, 線部2	
		13614	1	06-06	(10)	IV	焼土27	線部	
		13646	1	06-06	(30)	焼土	焼土27	□線部	
		13010	1	07-06	(13)	IV	透視外	線部	
		21片							
■	52	11144	1	17-17	(12)	Ⅲ	2号掘穴住居	□線部	PL-29-3 PL-29-70
		1884	1	17-17	(20)	焼土付層	2号掘穴住居	□線部	
		1885	1	17-17	(21)	焼土付層	2号掘穴住居	□線部	
		1881	1	17-17	(12)	オマド	2号掘穴住居	□線部	
		1811	1	17-17	(12)	Ⅲ	2号掘穴住居	□線部	
		1749	1	17-17	(30)	Ⅲ	2号掘穴住居	□線部	
		16528	1	19-17	(不明)	Ⅲ	2号掘穴住居	□線部	
		16884	2	17-17	(不明)	オマド	2号掘穴住居	□線部	
		1831	1	17-17	(20)	Ⅲ	2号掘穴住居	□線部	
		12156	1	17-17	(02)	オマド	2号掘穴住居	□線部	
		12080	1	17-17	(12)	オマド	2号掘穴住居	線部	
		9132	1	16-16	(21)	焼土付層	2号掘穴住居	線部	
		43	2	15-17	(11)	(不明)	焼土41	線部	
		8035	3	16-16	(01)	IV	焼土43	線部	
		8019	1	16-16	(11)	IV	焼土43	線部	
		11883	2	16-17	(02)	焼土	焼土43	線部	
		11882	2	16-17	(02)	焼土	焼土43	線部	
		11873	1	15-17	(22)	焼土	焼土43	線部	
		11881	1	16-17	(02)	焼土	焼土43	線部	
		8048	1	16-19	(22)	IV	焼土44	線部	
		12206	1	16-18	(12)	IV	焼土44	線部	
		7440	1	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		5075	1	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		12117	1	19-15	(20)	IV	灰化物52	□線部	
		7919	2	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		9072	1	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		7966	1	19-15	(22)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		16518	1	19-15	(不明)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		7931	1	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		8640	1	20-15	(02)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		9077	2	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	□線部	
		7487	1	20-15	(13)	焼土上層	灰化物52	線部	
		11367	1	20-15	(02)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		7932	4	19-15	(21)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		74	1	19-15	(20)	(不明)	灰化物52	線部	
		5774	2	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		7444	1	19-15	(20)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		75	2	19-15	(20)	(不明)	灰化物52	線部	
		9653	1	20-15	(12)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		12143	1	19-15	(20)	IV	灰化物52	線部	
		9628	1	20-16	(02)	Ⅲ	灰化物52	線部	
		16718	1	19-15	(不明)	(不明)	灰化物52	線部	
		12142	1	19-16	(20)	IV	灰化物52周辺	□線部	
		12483	2	20-16	(02)	IV	灰化物52周辺	□線部	
		11450	2	20-16	(10)	IV	灰化物52周辺	線部	
		12583	1	20-15	(08)	IV	灰化物52周辺	線部	
		1366	3	17-10	(21)	Ⅲ	灰化物マウンド	□線部	
		2807	1	17-10	(21)	Ⅲ	灰化物マウンド	□線部	
		8364	1	17-11	(02)	IV	灰化物マウンド	□線部	
		1962	1	17-10	(11)	Ⅲ	灰化物マウンド	□線部	
		2031	1	18-10	(12)	Ⅲ	灰化物マウンド	線部	
		8776	1	17-12	(12)	マウンド上	灰化物マウンド	線部	
1365	2	17-10	(21)	Ⅲ	灰化物マウンド	線部			
4452	1	15-16	(21)	IV	透視外	線部			
12205	2	16-16	(11)	IV	透視外	線部			
6061	1	20-16	(12)	Ⅲ	透視外	線部			
6060	1	20-16	(12)	Ⅲ	透視外	線部			
8031	1	16-18	(11)	IV	透視外	線部			
8723	1	19-12	(12)	IV	透視外	線部			
4500	1	06-13	(22)	(不明)	透視外	線部			
78片(線部4片番号わからず)									
■	57	44	2	15-16	(02)	(不明)	焼土41	□線部	PL-29-244
		10851	1	15-16	(08)	IV	焼土41	線部	
		48	1	15-16	(02)	(不明)	焼土41周辺	線部	

標本番号	遺物番号	組片数	サブゾナ	小ゾナ	層位・出土位置	陪葬品類など	部位	関連PL番号	
■ (フゾナ)	10803	1	15-16	(02)	Ⅱ	焼土41層位	胴部		
	272	5	16-16	(30)	(不明)	焼土43	口縁部		
	8453	1	16-17	(12)	Ⅱ	焼土43	胴部		
	231	1	15-17	(31)	(不明)	焼土43	胴部		
	10206	1	18-13	(31)	V	焼土48	胴部		
	6741	1	19-11	(00)	Ⅱ	灰化物・焼土50	胴部		
	9544	1	20-15	(00)	Ⅱ	灰化物52	胴部		
	18420	1	20-16	(21)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	11452	1	20-16	(10)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	11987	1	20-16	(13)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	11440	1	20-16	(23)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	11477	8	20-16	(33)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	9457	1	20-16	(22)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	797	2	20-16	(11)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部		
	11447	8	20-16	(01)	Ⅱ	灰化物52層位	胴部、底部6片		
	2642	1	18-10	(05)	Ⅱ	灰化物マウンド	口縁部		
	16577	1	17-11	(31)	マウンド	灰化物マウンド	胴部		
	2266	1	17-10	(32)	Ⅱ	灰化物マウンド	胴部		
	10929	1	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	胴部		
	4333	1	17-20	(13)	Ⅱ	透視外	胴部		
	7760	1	14-15	(23)	Ⅱ	透視外	胴部		
	248	5	14-16	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	7746	1	14-15	(11)	Ⅱ	透視外	胴部		
10230	1	18-13	(02)	Ⅱ	透視外	胴部			
7736	1	15-15	(31)	Ⅱ	透視外	胴部			
7361	1	14-15	(30)	Ⅱ	透視外	胴部			
8326	1	14-17	(33)	Ⅱ	透視外	胴部			
1041	1	13-13	(02)	Ⅱ	透視外	胴部			
7716	1	15-15	(13)	Ⅱ	透視外	胴部			
7767	2	14-15	(32)	Ⅱ	透視外	胴部			
12404	3	20-17	(01)	Ⅱ	透視外	胴部			
11289	1	21-16	(30)	Ⅱ	透視外	胴部			
246	1	14-16	(33)	(不明)	透視外	胴部			
10399	1	18-14	(22)	Ⅱ	透視外	胴部			
84片 (胴部6片番号から5片)									
■	6707	1	22-14	(21)	Ⅱ	透視外	口縁部		
	11215	3	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	口縁部		
	12414	1	20-17	(11)	Ⅱ	透視外	口縁部		
	11216	1	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	胴部		
	10896	1	21-17	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11214	1	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11549	1	21-17	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11537	1	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	胴部		
	6002	3	20-17	(23)	Ⅱ	透視外	胴部		
	6005	3	20-17	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	10624	1	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	胴部		
	9470	1	20-17	(21)	Ⅱ	透視外	胴部		
	6069	1	21-17	(02)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11884	1	20-17	(21)	Ⅱ	透視外	胴部		
	10940	1	21-17	(22)	Ⅱ	透視外	胴部		
	6067	11	21-17	(02)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11234	1	21-17	(22)	Ⅱ	透視外	胴部		
	11236	1	21-17	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	10897	1	21-17	(32)	Ⅱ	透視外	胴部		
	1159	1	20-18	(10)	Ⅱ	透視外	底部		
	11227	3	21-17	(12)	Ⅱ	透視外	底部		
	36片 (胴部6片番号から5片)								
	■	1846	1	17-16	(32)	Ⅱ	2号穴六住居	胴部	PL-②-71
1875		1	17-17	(33)	Ⅱ	2号穴六住居	胴部		
12446		1	20-16	(13)	Ⅱ	灰化物52	口縁部		
9523		1	20-15	(00)	Ⅱ	灰化物52	胴部		
188		1	17-12	(10)	(不明)	灰化物マウンド	口縁部		
2071		1	18-10	(02)	(不明)	灰化物マウンド	口縁部		
8383		1	18-11	(33)	Ⅱ	灰化物マウンド	口縁部		
6659		1	18-11	(22)	Ⅱ	灰化物マウンド	口縁部		
3343		1	17-11	(13)	マウンド内	灰化物マウンド	口縁部		
10907		1	17-11	(32)	マウンド下	灰化物マウンド	口縁部		
10773		1	17-11	(32)	マウンド	灰化物マウンド	口縁部		
9693		1	17-12	(00)	マウンド	灰化物マウンド	口縁部		
6606		1	18-10	(11)	マウンド	灰化物マウンド	口縁部		
10445		1	17-11	(32)	マウンド下	灰化物マウンド	口縁部		

図様番号	透物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	用途・用途名	部位	関連P.L.番号
■	99	16737	1	17-12	(11)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部
		8762	1	17-12	(10)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
		180	1	17-11	(11)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
		177	1	17-11	(11)	(不明)	炭化物マウンド	口縁部
		10484	1	17-11	(02)	マウンド下	炭化物マウンド	胴部
		8746	1	17-11	(02)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部
		10553	1	17-11	(00)	マウンド	炭化物マウンド	胴部
		9876	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部
		9315	1	17-11	(00)	マウンド	炭化物マウンド	胴部
		3532	1	17-12	(00)	■	炭化物マウンド	胴部
		60	8	17-16	(11)	(不明)	遺構外	口縁部4, 胴部4
		4434	1	14-18	(01)	■	遺構外	口縁部
		4186	1	14-18	(11)	■	遺構外	口縁部
		7794	1	15-13	(00)	■	遺構外	胴部
		7494	1	21-16	(21)	■	遺構外	胴部
	破片(口縁部)片, 胴部1片番号トから付)							
■	80	843	1	17-17	(不明)	カタラン	2号貯穴注込	胴部
		1082	2	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		1071	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		8962	1	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		5291	2	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		1079	10	12-14	(11)	■	焼土35	口縁部
		1070	1	12-14	(00)	■	焼土35	口縁部
		8663	1	12-14	(11)	■	焼土35	口縁部
		5283	1	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		5290	3	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		8961	2	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		1077	1	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		1073	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		1072	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		1075	2	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		9739	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		1132	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		1153	1	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		1151	1	12-14	(00)	■	焼土35	胴部
		1080	2	12-14	(11)	■	焼土35	胴部
		5162	2	15-07	(02)	■	炭化物99	胴部
		8061	1	13-14	(11)	■	遺構外	口縁部
		1043	1	13-13	(00)	■	遺構外	口縁部
		1080	1	13-14	(01)	■	遺構外	口縁部
		7312	1	15-13	(16)	■	遺構外	胴部
		1045	1	13-13	(00)	■	遺構外	胴部
		8574	8	13-14	(21)	■	遺構外	胴部
		7511	1	14-15	(00)	■	遺構外	胴部
		7305	1	14-14	(11)	■	遺構外	胴部
		1063	1	13-14	(01)	■	遺構外	胴部
		8273	1	13-13	(00)	■	遺構外	胴部
		1061	2	13-14	(01)	■	遺構外	胴部
		1064	1	13-14	(01)	■	遺構外	胴部
	7307	1	14-14	(00)	■	遺構外	胴部	
	827	2	13-13	(02)	■	遺構外	胴部	
	11611	1	13-13	(00)	■	遺構外	胴部	
	8964	2	13-14	(01)	■	遺構外	胴部	
	5890	1	13-14	(00)	■	焼土	遺構外	
破片(胴部)4片番号トから付)								
■	81	372	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	胴部
		480	1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部
		12514	2	16-17	(02)	■	焼土43	胴部
		478	1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部
		475	1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部
		7637	1	19-15	(00)	■	炭化物52	胴部
		5737	1	19-15	(02)	■	炭化物52	胴部
		9002	4	19-15	(11)	■	炭化物52	胴部
		9023	2	19-15	(11)	■	炭化物52	胴部
		7473	1	20-15	(00)	■	焼土上	炭化物52
		8007	1	19-15	(02)	■	炭化物52	胴部
		8006	1	19-15	(02)	■	炭化物52	胴部
		7998	2	19-15	(20)	■	炭化物52	胴部
		9781	2	19-15	(00)	■	炭化物52	胴部
		76	1	19-15	(00)	(不明)	炭化物52	胴部
		7314	2	14-13	(11)	■	遺構外	胴部



駅番号	建物番号	線片数	大アグリ	小アグリ	層位・床土位置	開通経緯など	部材	開成PL番号
開	7283	1	14-13	(21)	Ⅱ	透換外	鋼部	
	8961	1	14-14	(06)	Ⅱ	透換外	鋼部	
26片								
開	8707	1	17-17	(18)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	PL-15-42-4
	10111	1	17-17	(08)	Ⅲ土①層	2号型穴住居	鋼部	PL-15-73
	8868	1	17-18	(08)	Ⅲ土①層	2号型穴住居	鋼部	
	10879	4	19-18	(06)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	8925	1	19-18	(06)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	12890	1	17-17	(12)	ホヤド	2号型穴住居	鋼部	
	1879	1	17-17	(12)	ホヤド	2号型穴住居	鋼部	
	10841	1	17-17	(02)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	16849	1	17-17	(02)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	11010	3	17-17	(02)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	10842	1	17-17	(02)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部	
	10838	10	17-17	(02)	Ⅲ	2号型穴住居	鋼部S、底部S	
	3042	1	08-13	(03)	Ⅲ	焼土24層位	鋼部	
	347	4	16-17	(12)	(不明)	焼土43	11線部S、鋼部S	
	335	1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	11線部	
	338	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	11線部	
	12537	1	16-17	(12)	Ⅲ	焼土43	鋼部	
	342	1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	鋼部	
	269	2	16-17	(22)	(不明)	焼土43	鋼部	
	9931	2	16-16	(23)	焼土	焼土43	鋼部	
	16598	1	16-17	(不明)	焼土	焼土43	鋼部	
	120	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	鋼部	
	8470	1	16-17	(23)	焼土	焼土43	鋼部	
	9164	1	19-15	(32)	Ⅲ	炭化物S2	11線部	
	5803	1	19-15	(12)	(不明)	炭化物S2	11線部	
	79	1	19-15	(32)	(不明)	炭化物S2	11線部	
	5797	1	19-15	(32)	Ⅲ	炭化物S2	11線部	
	5757	3	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物S2	11線部	
	7430	2	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7649	1	19-15	(31)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	11078	3	19-15	(21)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7628	1	19-15	(02)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	8727	4	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	8724	1	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	8178	1	19-15	(11)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	9556	1	20-15	(12)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7976	1	19-15	(10)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7687	1	19-15	(12)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7689	1	19-15	(12)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	7690	1	19-15	(12)	Ⅲ	炭化物S2	鋼部	
	6030	1	20-16	(10)	Ⅲ	炭化物S2異径	鋼部	
	11513	2	18-15	(31)	Ⅲ	炭化物S2異径	鋼部	
	217	7	18-15	(30)	(不明)	炭化物S2異径	鋼部	
	5739	1	19-15	(22)	Ⅲ	炭化物S2異径	鋼部	
	11496	1	18-15	(21)	Ⅲ	炭化物S2異径	鋼部	
	16454	1	19-18	(11)	V	透換外	11線部	
	16455	1	19-18	(11)	V	透換外	11線部	
16457	2	19-18	(11)	V	透換外	11線部S、鋼部S		
8254	1	13-17	(21)	Ⅲ	透換外	11線部		
4269	1	13-17	(22)	Ⅲ	透換外	11線部		
10740	2	13-16	(33)	Ⅲ	透換外	11線部		
16500	1	19-19	(21)	Ⅲ	透換外	11線部		
1375	2	11-19	(01)	V	透換外	11線部		
942	1	12-21	(22)	Ⅲ	透換外	11線部		
4432	1	13-18	(02)	Ⅲ	透換外	11線部		
8514	1	13-17	(12)	Ⅲ	透換外	11線部		
4772	1	13-17	(02)	Ⅲ	透換外	11線部		
16305	1	19-18	(21)	Ⅲ	透換外	11線部		
805	1	11-16	(不明)	ホクラン	透換外	11線部		
8258	3	13-17	(21)	Ⅲ	透換外	鋼部		
1367	9	11-18	(12)	V	透換外	鋼部		
1374	5	11-19	(10)	V	透換外	鋼部		
1377	1	11-19	(02)	V	透換外	鋼部		
1380	1	11-19	(12)	V	透換外	鋼部		
11780	1	19-15	(06)	Ⅲ	透換外	鋼部		
11294	1	17-16	(22)	Ⅲ	透換外	鋼部		
1275	1	11-19	(01)	V	透換外	鋼部		
8252	1	13-17	(22)	Ⅲ	透換外	鋼部		

図号	図名	図番	図寸	大図寸	小図寸	層位・土土位置	調査時期	部位	調査PL番号		
02	(ツブキ)	9903	1	10-12	(23)	N	遺跡外	銅部			
		8590	1	10-17	(不明)	カクラン	遺跡外	銅部			
		14356	2	10-18	(11)	N	遺跡外	銅部			
		16432	1	10-18	(11)	V	遺跡外	銅部			
		16443	1	10-18	(11)	V	遺跡外	銅部			
		11574	1	10-16	(00)	N	遺跡外	銅部			
		8507	1	14-17	(22)	N	遺跡外	銅部			
		15283	1	10-18	(12)	N	遺跡外	銅部			
		9952	2	10-14	(30)	N	遺跡外	銅部			
		9830	2	17-13	(12)	N	遺跡外	銅部			
		9663	1	16-13	(33)	N	遺跡外	銅部			
		9834	2	17-13	(08)	N	遺跡外	銅部			
		16488	1	09-18	(21)	N	遺跡外	銅部			
		16372	1	10-18	(23)	N	遺跡外	銅部			
		16430	2	10-18	(02)	V	遺跡外	銅部			
		16427	2	10-18	(01)	N	遺跡外	銅部			
		16391	1	10-18	(02)	N	遺跡外	銅部			
		16426	2	10-18	(01)	N	遺跡外	銅部			
		16391	2	10-18	(23)	N	遺跡外	銅部			
		16402	4	10-18	(16)	V	遺跡外	銅部			
		16488	1	09-18	(22)	N	遺跡外	銅部			
		16497	1	10-18	(02)	V	遺跡外	銅部			
		16434	1	10-18	(16)	V	遺跡外	銅部			
		16444	1	10-18	(16)	V	遺跡外	銅部			
		16379	1	10-18	(12)	N	遺跡外	銅部			
		16380	1	10-18	(02)	N	遺跡外	銅部			
		16350	1	10-17	(21)	N	遺跡外	銅部			
		4252	2	11-17	(11)	N	遺跡外	銅部			
		16408	1	10-19	(21)	N	遺跡外	銅部			
		16421	2	10-18	(01)	V	遺跡外	銅部			
		16400	1	10-18	(16)	N	遺跡外	銅部			
		16429	1	10-18	(02)	V	遺跡外	銅部			
		銅片(銅板)片番号おからす									
03		12501	1	10-17	(12)	礎土	礎土43	口縁部	PL-02-72		
		✓ 10579	5	17-11	(21)	マウンド	炭化跡マウンド	口縁部			
		✓ 10577	1	17-11	(21)	マウンド	炭化跡マウンド	口縁部			
		✓ 8550	2	17-11	(13)	マウンド上	炭化跡マウンド	銅部			
		✓ 1165	8	17-10	(21)	W	炭化跡マウンド	口縁部			
		✓ 9075	1	10-15	(23)	M	炭化跡52	銅部			
		✓ 7928	2	10-15	(23)	M	炭化跡52	口縁部			
		✓ 7439	2	10-15	(23)	M	炭化跡52	口縁部			
		✓ 7097	2	10-15	(02)	礎土上面	炭化跡52	銅部			
		✓ 7058	2	10-15	(02)	礎土上面	炭化跡52	口縁部			
		✓ 7056	1	10-15	(02)	礎土上面	炭化跡52	銅部			
		✓ 7100	2	10-15	(02)	礎土上面	炭化跡52	銅部			
		33片									
		04		0453	1	15-16	(02)	■	礎土43周部	口縁部	PL-02-200-1
8087	4			15-16	(02)	■	礎土43周部	口縁部	PL-02-288		
5840	2			15-16	(11)	■	礎土43周部	口縁部			
5846	1			15-16	(02)	■	礎土43周部	口縁部			
6454	2			15-16	(02)	■	礎土43周部	銅部			
5648	4			15-16	(02)	■	礎土43周部	銅部			
47	2			15-16	(02)	(不明)	礎土43周部	銅部			
5846	2			15-16	(02)	■	礎土43周部	銅部			
5847	2			15-16	(02)	■	礎土43周部	口縁部			
5842	2			15-16	(01)	■	礎土43周部	銅部			
8087	1			15-16	(02)	■	礎土43周部	銅部			
44	4			15-16	(02)	(不明)	礎土43周部	銅部			
48	1			15-16	(02)	(不明)	礎土43周部	銅部			
49	1			15-16	(02)	(不明)	礎土43周部	銅部			
50	1			15-16	(01)	(不明)	礎土43周部	銅部			
8839	1			15-16	(11)	■	礎土43周部	銅部			
10148	1			15-16	(00)	■	礎土43周部	銅部			
8308	1			16-17	(20)	礎土	礎土43	口縁部			
285	1			16-17	(20)	(不明)	礎土43	口縁部			
209	27			16-16	(23)	(不明)	礎土43	銅部			
208	1			16-16	(23)	(不明)	礎土43	銅部			
13089	1			16-16	(23)	■	礎土43	銅部			
432	1			16-16	(23)	W上	礎土43	銅部			
12283	2			16-16	(23)	■	礎土43	銅部			
8303	1			16-16	(20)	■	礎土43周部	口縁部			

領件番号	遺物番号	鏡片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号		
■ (フツボ)	04	001	5	16-16	(32)	(不明)	鏡土43周辺	11号部		
	0067	1	16-16	(不明)	カタラン	鏡土43周辺	胴部			
	12097	2	16-16	(33)	珪	鏡土43周辺	胴部			
	14998	1	07-08	(03)	鏡土	炭化物019	胴部			
	14938	1	07-09	(00)	鏡土	炭化物019	胴部			
	0361	2	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	186	3	17-12	(16)	(不明)	炭化物マウンド	胴部			
	9322	1	17-11	(03)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2314	1	18-10	(03)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	112	1	20-14	(06)	(不明)	遺構外	胴部			
	16484	1	09-18	(31)	珪	遺構外	口縁部			
	8986	1	14-14	(12)	珪	遺構外	口縁部			
	5087	2	14-14	(12)	珪	遺構外	口縁部			
	10147	2	14-16	(32)	珪	遺構外	口縁部			
	10145	1	14-16	(00)	珪	遺構外	口縁部			
	249	1	14-16	(30)	(不明)	遺構外	口縁部			
	7761	1	14-15	(30)	珪	遺構外	口縁部			
	7781	1	13-15	(32)	珪	遺構外	口縁部			
	5870	2	14-16	(32)	珪	遺構外	胴部			
	11979	1	20-17	(11)	珪	遺構外	胴部			
	9792	1	14-16	(14)	珪	遺構外	胴部			
	9505	1	14-15	(21)	珪	遺構外	胴部			
	0082	1	21-16	(03)	珪	遺構外	胴部			
101片(胴部1片番号わからず)										
■	05	12234	1	17-17	(11)	ハマド	2号壺穴住居	胴部	PL-図-30-3	
	0471	2	16-17	(32)	鏡土	鏡土43	胴部	PL-図-24		
	371	2	16-17	(32)	(不明)	鏡土43	胴部			
	277	1	16-17	(16)	(不明)	鏡土43	胴部			
	9530	3	20-15	(03)	珪	炭化物02	底部			
	7231	4	18-15	(03)	珪	炭化物02周辺	胴部			
	13487	1	19-16	(30)	珪	炭化物02周辺	胴部			
	1764	4	18-16	(23)	珪	炭化物02周辺	胴部			
	2821	1	17-10	(32)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	2823	1	17-10	(23)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	2825	1	17-10	(23)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	2826	1	17-10	(23)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	10957	1	18-10	(03)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	2653	2	18-10	(11)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	9433	2	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	6604	1	18-10	(30)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	9211	1	17-11	(03)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部			
	186	1	17-12	(16)	(不明)	炭化物マウンド	胴部			
	3013	2	18-10	(12)	珪	炭化物マウンド	胴部			
	10794	1	17-11	(30)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10700	1	17-11	(30)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10670	2	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
	10678	1	18-11	(06)	マウンド	炭化物マウンド	胴部			
1874	1	18-10	(12)	カタラン	炭化物マウンド	底部				
2014	1	18-10	(12)	カタラン	炭化物マウンド	胴部				
30片(胴部2片,底部1片番号わからず)										
■	06	12130	1	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	口縁部	PL-図-36-3	
	✓11145	1	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部	PL-図-125		
	✓12063	1	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部	PL-図-75		
	✓12079	2	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部			
	✓12081	2	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部			
	✓2161	1	10-04	(13)	ハマド	5号壺穴住居	口縁部			
	✓9552	4	20-15	(12)	珪	炭化物02	胴部			
	✓9550	5	20-15	(12)	珪	炭化物02	胴部			
	✓5784	1	18-15	(33)	珪	炭化物02	胴部			
	12143	1	18-15	(23)	珪	炭化物02	口縁部			
	10片(胴部6片番号わからず)									
	■	✓07	16008	2	19-17	(不明)	珪	2号壺穴住居	胴部	PL-図-41-2
		✓	16091	1	19-17	(不明)	珪	2号壺穴住居	胴部	PL-図-76
✓		12160	1	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部		
✓		12131	1	17-17	(12)	ハマド	2号壺穴住居	胴部		
✓		714	5	12-09	(不明)	カタラン	鏡土33周辺	胴部		
✓		8336	1	16-17	(11)	鏡土	鏡土43	胴部		
✓		502	3	16-17	(13)	珪	鏡土43	胴部		
✓		0466	3	16-17	(13)	鏡土	鏡土43	胴部		
✓	0465	3	16-17	(13)	鏡土	鏡土43	胴部			
✓	0464	3	16-17	(13)	鏡土	鏡土43	胴部			

領券番号	遺物番号	破片数	大ブリット	小ブリット	腐食・土位置	関連遺物など	部位	関連PL番号	
第 1 種 〔ツブキ〕	67	10519	1	10-17	(12)	IV	焼土43	胴部	
		12508	2	10-17	(12)	焼土	焼土43	胴部	
		10533	2	10-17	(12)	IV	焼土43	胴部	
		12667	1	10-17	(12)	IV	焼土43	胴部	
		12890	1	10-17	(20)	IV	焼土43	胴部	
		11043	1	10-16	(12)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		11305	1	10-16	(22)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		8001	1	10-15	(22)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		11004	4	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		8888	1	10-15	(02)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		9545	2	10-15	(12)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		9589	1	10-15	(02)	Ⅱ'	炭化物52	胴部	
		11763	1	10-15	(12)	IV	炭化物52関連	胴部	
		11764	1	10-15	(12)	IV	炭化物52関連	胴部	
		12662	1	10-15	(02)	IV	炭化物52関連	胴部	
		7118	2	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	胴部	
		6856	1	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	胴部	
	6994	1	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	胴部		
	7320	1	17-12	(01)	IV	炭化物マウンド	胴部		
47片(胴部2片番号おからず)									
第 2 種	88	8554	1	10-17	(11)	Ⅱ土位層	2号瓶六住層	胴部	PL-D2-33-7 PL-D2-77
		500	1	17-17	(21)	Ⅱ土位層	2号瓶六住層	胴部	
		18086	1	17-17	(01)	関連	2号瓶六住層	胴部	
		146	1	17-17	(12)	(不明)	2号瓶六住層	胴部	
		534	1	17-17	(01)	Ⅱ	2号瓶六住層	胴部	
		552	1	17-17	(11)	Ⅱ	2号瓶六住層	胴部	
		607	1	09-13	(10)	Ⅱ土位層	2号瓶六住層	胴部	
		9534	1	10-17	(20)	焼土	焼土43	口縁部	
		443	1	10-17	(02)	Ⅱ上	焼土43	口縁部	
		8334	1	10-17	(21)	焼土	焼土43	口縁部	
		597	1	10-17	(05)	(不明)	焼土43	口縁部	
		380	1	10-17	(31)	(不明)	焼土43	口縁部	
		429	1	10-16	(33)	Ⅱ上	焼土43	口縁部	
		129	2	10-17	(31)	(不明)	焼土43	口縁部	
		200	1	10-16	(32)	(不明)	焼土43	胴部	
		280	1	10-17	(10)	(不明)	焼土43	胴部	
		417	1	10-16	(12)	Ⅱ上	焼土43	胴部	
		10115	1	10-17	(31)	IV	焼土43	胴部	
		8330	1	10-17	(31)	焼土	焼土43	胴部	
		451	1	10-17	(12)	Ⅱ上	焼土43	胴部	
		452	1	10-17	(12)	Ⅱ上	焼土43	胴部	
		972	1	10-16	(22)	(不明)	焼土43	胴部	
		8325	1	10-17	(31)	焼土	焼土43	胴部	
		8326	1	10-17	(31)	焼土	焼土43	胴部	
		11190	1	10-17	(31)	焼土	焼土43	胴部	
		9486	1	10-17	(21)	焼土	焼土43	胴部	
		18602	1	10-17	(不明)	焼土	焼土43	胴部	
		118	1	10-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部	
		122	1	10-17	(30)	(不明)	焼土43	胴部	
		9706	1	10-16	(22)	焼土	焼土43	胴部	
		10828	1	10-17	(31)	焼土	焼土43	胴部	
		1602	1	17-17	(01)	IV	焼土43関連	胴部	
		1054	1	17-16	(12)	IV	焼土43関連	胴部	
		379	1	10-17	(21)	(不明)	焼土43関連	胴部	
		6885	1	10-16	(01)	IV	焼土43関連	胴部	
		131	1	10-17	(31)	(不明)	焼土43関連	胴部	
		563	1	17-17	(11)	(不明)	焼土43関連	胴部	
		408	1	10-16	(01)	Ⅱ上	焼土43関連	胴部	
		268	1	10-16	(33)	(不明)	焼土43関連	胴部	
		11188	1	10-17	(02)	IV	焼土43関連	胴部	
		1794	6	17-16	(04)	オクラン	焼土43関連	胴部	
		11280	1	17-16	(13)	IV	焼土43関連	胴部	
		10683	1	10-11	(00)	マウンド	炭化物マウンド	胴部	
		4030	1	10-09	(13)	V	炭化物30関連	口縁部	
		9533	4	10-15	(03)	Ⅱ'	炭化物52	口縁部	
		11775	1	10-15	(00)	IV	遺物外	胴部	
		7289	1	14-17	(20)	IV	遺物外	胴部	
	18153	1	10-14	(12)	IV	遺物外	胴部		
	45	1	15-16	(02)	(不明)	遺物外	胴部		
	12275	1	10-15	(03)	Ⅱ	遺物外	胴部		
破片(口縁部2片, 胴部1片番号おからず)									

供体番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連尸・番号	
■	566	4	17-17	(28)	覆土①層	2号竈穴住居	口縁部	PL-図-43-1	
	1770	1	18-17	(16)	■	2号竈穴住居	口縁部	PL-図-78	
	12072	1	18-16	(28)	■	2号竈穴住居	口縁部		
	1799	1	17-17	(11)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
	564	1	17-17	(38)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
	6539	1	17-18	(16)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
	8546	10	17-18	(21)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部4、底部4		
	841	1	17-17	(36)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
	8589	2	17-18	(08)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
	7246	1	19-15	(28)	■	炭化物②	口縁部		
	8144	1	16-12	(21)	■	炭化物マウンド	胴部		
	230	2	15-17	(26)	(不明)	焼土41	胴部		
	11155	4	15-17	(38)	■	焼土41	胴部		
	228	1	15-16	(38)	(不明)	焼土41	胴部		
	8534	1	15-17	(36)	■	焼土41甕道	胴部		
	12211	1	15-17	(21)	■	焼土41甕道	胴部		
	458	2	16-17	(12)	■'上	焼土43	口縁部		
	9489	2	16-17	(21)	■	焼土43	口縁部1, 胴部1		
	9487	1	16-17	(21)	■	焼土43	口縁部		
	377	1	16-17	(21)	(不明)	焼土43	口縁部		
	133	7	16-17	(21)	(不明)	焼土43	口縁部		
	303	3	16-17	(08)	(不明)	焼土43	胴部		
	9709	1	16-16	(13)	■土上	焼土43	胴部		
	323	1	16-17	(21)	(不明)	焼土43	胴部		
	281	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
	272	1	16-16	(33)	(不明)	焼土43	口縁部		
	361	1	16-17	(22)	(不明)	焼土43	口縁部		
	8456	1	16-17	(11)	■	焼土43	口縁部		
	331	1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	口縁部		
	337	2	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部		
	457	1	16-17	(12)	■'上	焼土43	胴部		
	345	1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部		
	120	1	16-17	(23)	(不明)	焼土43	胴部		
	517	3	16-17	(23)	■'上	焼土43	胴部		
	8457	1	16-17	(11)	■	焼土43	胴部		
	286	1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
	8490	2	16-17	(21)	■	焼土43	胴部		
	336	1	16-17	(11)	(不明)	焼土43	胴部		
	9703	1	16-17	(21)	■	焼土43	胴部		
	11200	1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部		
	10735	1	16-17	(31)	■	焼土43	胴部		
	8018	3	16-18	(10)	■	遺構外	口縁部		
	9450	1	20-16	(22)	■	遺構外	口縁部		
	8482	2	16-18	(20)	■	遺構外	胴部		
	77片(胴部1片番号未かも)								
	■	70	2	18-16	(02)	覆土①層	2号竈穴住居	口縁部	PL-図-94-2
		530	1	17-17	(01)	■	2号竈穴住居	胴部	PL-図-79
		9053	1	17-18	(02)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部	
		570	3	18-16	(02)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部	
		10112	1	17-17	(02)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部	
1802		1	17-16	(23)	■	2号竈穴住居	胴部		
536		1	17-17	(26)	覆土①層	2号竈穴住居	胴部		
11186		1	15-17	(32)	■	焼土41	胴部		
341		2	16-17	(12)	(不明)	焼土43	口縁部		
9713		1	16-17	(01)	■土上	焼土43	胴部		
257		1	16-17	(02)	(不明)	焼土43	胴部		
343		1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部		
11102		1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部		
9229		1	16-17	(12)	■	焼土43	胴部		
463		1	16-17	(12)	■'上	焼土43	胴部		
449		1	45-17	(12)	■'上	焼土43	胴部		
444		1	16-17	(02)	■'上	焼土43	胴部		
505		1	16-17	(13)	■'上	焼土43	胴部		
508		1	16-17	(13)	■'上	焼土43	胴部		
340		1	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部		
516		1	16-17	(23)	■'上	焼土43	胴部		
295		1	16-17	(20)	(不明)	焼土43	胴部		
342		4	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部		
330	2	16-17	(12)	(不明)	焼土43	胴部			
497	1	16-17	(13)	■'上	焼土43	胴部			
11186	1	16-17	(02)	■	焼土43	胴部			

資料番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
Ⅲ (ツブス)	70	12537	1	16-17	[13]	Ⅱ	施土43	胴部	
	8235	1	19-15	[00]	(不明)		炭化物52	胴部	
	7232	1	19-15	[00]	Ⅱ		炭化物53	胴部	
	5796	1	19-15	[03]	Ⅱ		炭化物53	胴部	
	9403	2	17-14	[33]	Ⅱ		遺構外	口縁部	
	12261	1	17-14	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	10395	1	17-14	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	5645	1	24-14	[32]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	12179	1	16-13	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	11798	1	18-15	[10]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	107	1	17-14	[33]	(不明)		遺構外	胴部	
	8383	1	17-13	[04]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	11108	1	15-12	[00]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	6648	1	19-12	[03]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	7723	1	15-15	[22]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	9405	1	17-14	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	9404	1	17-14	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	9414	1	18-14	[13]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	7729	1	15-15	[23]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	8037	1	16-18	[20]	Ⅱ		遺構外	胴部	
9721	1	16-18	[20]	Ⅱ		遺構外	胴部		
12252	1	16-18	[10]	Ⅱ		遺構外	胴部		
57片(底面1片番号ナシ)									
Ⅳ	71	1602	2	10-13	[04]	Ⅱ	5号壁穴住居	口縁部1, 胴部1	PI. 図-99-6
	1302	1	10-06	[12]	Ⅱ		5号壁穴住居	胴部	PI. 図-105
	15687	2	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	口縁部1, 胴部1	
	16289	1	08-09	[13]	Ⅱ		4号土室	口縁部	
	15642	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	口縁部	
	15674	1	08-09	[13]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	16057	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	15649	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	15438	1	08-09	[03]	Ⅱ		炭化物層	4号土室	胴部
	15663	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	16036	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	16053	1	08-09	[03]	Ⅱ		4号土室	胴部	
	15423	1	08-09	[03]	Ⅱ		炭化物層	4号土室	胴部
	15429	1	08-09	[03]	Ⅱ		炭化物層	4号土室	口縁部
	13891	4	09-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52	口縁部	
	13897	5	09-11	[03]	Ⅱ		施土・炭化物52	口縁部	
	13899	3	09-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52	口縁部	
	14291	1	09-11	[00]	V		施土・炭化物52	胴部	
	13895	3	09-11	[00]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	14290	3	09-11	[00]	V		施土・炭化物52	胴部	
	13894	5	09-11	[00]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	13896	5	09-11	[00]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	13898	1	08-11	[33]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	13899	3	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	14346	1	08-11	[30]	V		施土・炭化物52	胴部	
	13898	1	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	13094	1	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52	胴部	
	13893	8	09-11	[00]	Ⅱ		施土・炭化物52	口縁部1, 胴部7	
	13091	2	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部1, 胴部1	
	13743	8	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部1, 胴部7	
	13098	10	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部9, 胴部1	
	14793	1	08-10	[13]	V		施土・炭化物52(周辺)	口縁部	
	13723	1	08-10	[33]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部	
	13745	1	08-11	[30]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	胴部	
	14345	1	08-11	[30]	V		施土・炭化物52(周辺)	胴部	
	13730	1	09-10	[13]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部	
	13526	2	09-10	[13]	Ⅱ		施土・炭化物52(周辺)	口縁部	
	14297	1	09-11	[30]	V		施土・炭化物52(周辺)	胴部	
	4849	1	11-11	[21]	Ⅱ		施土52	胴部	
	13871	7	04-10	[33]	Ⅱ		炭化物54(周辺)	口縁部	
	2985	1	18-09	[03]	Ⅱ		炭化物マウンド	胴部	
	12035	1	19-16	[13]	Ⅱ		炭化物52(周辺)	胴部	
	4694	1	11-12	[12]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	8574	1	13-14	[23]	Ⅱ		遺構外	口縁部	
	16199	1	04-08	[30]	V		遺構外	胴部	
	15087	1	04-08	[31]	Ⅱ		遺構外	胴部	
	7310	1	14-14	[33]	Ⅱ		遺構外	胴部	
1007	1	13-14	[03]	Ⅱ		遺構外	胴部		

調査番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	製造過程など	部位	関連PL番号		
第1 (ツブキ)	71	9141	1	13-13	(20)	N	遺物外	胴部		
		10151	1	06-05	(00)	V	遺物外	胴部		
100片(胴部1片番号わからず)										
第2	72	9050	2	19-15	(22)	a <sup>2</sup>	炭化物⑫	胴部	PL-②-90	
		9059	2	19-15	(22)	a <sup>2</sup>	炭化物⑫	胴部		
		8249	2	19-15	(20)	N	炭化物⑫	胴部		
		12040	1	19-14	(32)	N	炭化物⑫製造	胴部		
		8127	1	21-14	(33)	N	遺物外	胴部		
		11432	1	21-16	(10)	N	遺物外	胴部		
		11435	1	21-16	(10)	N	遺物外	胴部		
		11432	1	21-16	(10)	N	遺物外	胴部		
		11412	3	21-16	(00)	N	遺物外	胴部		
		4320	1	17-20	(02)	N	遺物外	胴部		
		4331	2	17-20	(13)	N	遺物外	胴部		
		4428	1	16-20	(32)	N	遺物外	底部		
		4415	1	16-20	(21)	N	遺物外	底部		
		4180	1	17-21	(10)	N	遺物外	底部		
		4317	1	17-20	(01)	N	遺物外	底部		
21片(胴部1片番号わからず)										
第3	73	15445	1	08-09	(12)	炭化物層	4号土壌	胴部	PL-②-176	
		15443	1	08-09	(01)	炭化物層	4号土壌	胴部		
		15438	1	08-09	(12)	炭化物層	4号土壌	胴部		
		3551	1	08-12	(00)	N	焼土⑭	胴部		
		2947	1	08-12	(11)	V	焼土⑭	胴部		
		13688	1	07-12	(10)	N	遺物外	胴部		
		13054	1	10-11	(01)	N	遺物外	胴部		
		13055	1	10-11	(01)	N	遺物外	胴部		
		13056	1	10-11	(01)	N	遺物外	胴部		
		13057	1	10-11	(01)	N	遺物外	胴部		
		4884	1	12-11	(00)	V	遺物外	胴部		
		1705	1	16-09	(01)	N	遺物外	胴部		
		15453	1	06-09	(20)	N	遺物外	胴部		
		4503	1	19-09	(03)	N	遺物外	胴部		
		5452	1	16-06	(21)	N	遺物外	胴部		
15片(胴部1片番号わからず)										
第4	74	1451	1	11-06	(00)	灰	5号焼土瓦器	胴部	PL-②-129-3 PL-②-150	
		1420	1	10-05	(20)	焼土⑮等	5号焼土瓦器	胴部		
		685	1	11-04	(12)	灰	5号焼土瓦器	胴部		
		2173	1	09-05	(11)	M	焼土・炭化物⑲	胴部		
		3043	1	10-04	(03)	焼土	焼土・炭化物⑲	胴部		
		1497	2	10-06	(01)	N	遺物外	胴部		
		1498	2	10-06	(01)	N	遺物外	胴部		
		14001	1	08-09	(20)	N	遺物外	胴部		
	10片									
	第5	75	12187	2	17-17	(12)	キッド	2号焼土瓦器		17層部1, 胴部1
		12185	1	17-17	(02)	キッド	2号焼土瓦器	胴部		
		11324	1	19-15	(13)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		8852	1	19-15	(20)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		7901	1	19-15	(22)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		7841	1	19-15	(21)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		5863	1	19-15	(22)	重	炭化物⑬	口縁部		
		7246	1	19-15	(22)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		8882	1	19-15	(31)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		11089	1	19-15	(21)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		9025	1	20-15	(02)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		9027	1	20-15	(02)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	口縁部		
		9168	1	19-15	(21)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	胴部		
		9513	1	18-15	(21)	a <sup>2</sup>	炭化物⑬	胴部		
		11500	1	18-15	(23)	N	炭化物⑬製造	口縁部		
		11871	1	18-15	(21)	N	炭化物⑬製造	口縁部		
		11862	1	18-15	(20)	N	炭化物⑬製造	口縁部		
		12452	1	19-16	(30)	N	炭化物⑬製造	口縁部		
		9050	1	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
		3009	1	18-10	(11)	M	炭化物マウンド	口縁部		
		3010	1	18-10	(11)	M	炭化物マウンド	口縁部		
		3011	2	18-10	(12)	M	炭化物マウンド	口縁部		
		3012	1	18-10	(12)	M	炭化物マウンド	口縁部		
		10577	1	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
		2309	1	18-10	(02)	M	炭化物マウンド	口縁部		
	2300	1	18-10	(00)	M	炭化物マウンド	口縁部			
	2038	2	18-09	(12)	M	炭化物マウンド	口縁部			

領収番号	建物番号	坪数	大アリカ	小アリカ	居住・出立位置	築造年	築造構造	部材	築造PL番号	
■ (ツブ)	2085	4	18-10	(18)	W		炭化物マウンド	口縁部		
	7104	1	17-12	(00)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	6889	1	17-12	(10)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	8754	1	17-12	(00)	マウンド上		炭化物マウンド	口縁部		
	7541	1	17-12	(10)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	7360	1	17-12	(11)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	2649	1	18-10	(08)	W		炭化物マウンド	口縁部		
	11641	1	18-11	(28)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	2082	1	18-10	(01)	W		炭化物マウンド	口縁部		
	7057	1	18-12	(30)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	8705	1	17-12	(11)	マウンド上		炭化物マウンド	口縁部		
	11640	1	18-12	(20)	N		炭化物マウンド	口縁部		
	1854	1	18-10	(11)	カタラン		炭化物マウンド	口縁部		
	18727	1	17-12	(11)	マウンド		炭化物マウンド	口縁部		
	1885	1	17-10	(21)	W		炭化物マウンド	胴部		
	3503	1	17-11	(08)	マウンド内		炭化物マウンド	胴部		
	8626	1	17-11	(08)	マウンド上		炭化物マウンド	胴部		
	8709	1	17-12	(11)	マウンド上		炭化物マウンド	胴部		
	1905	4	17-10	(21)	W		炭化物マウンド	口縁部		
	2064	4	18-10	(11)	W		炭化物マウンド	胴部		
	8362	1	13-17	(10)	N		透視外	口縁部		
	10361	1	18-14	(22)	N		透視外	口縁部		
	8564	1	13-17	(10)	N		透視外	口縁部		
	02片(口縁部1片,胴部1片番号わかず)									
	■	16185	1	08-09	(08)	W		4号土壌	胴部	PL-11-194-8
		15698	1	08-09	(08)	W		4号土壌	胴部	PL-11-177
		18697	1	08-09	(08)	W		4号土壌	胴部	
		15699	1	08-09	(08)	W		4号土壌	胴部	
		14742	1	06-06	(18)	N		焼土12	口縁部	
		15380	1	06-06	(18)	焼土		焼土12	口縁部	
		14768	1	06-06	(30)	N		焼土12	口縁部	
		15534	1	07-06	(10)	V		焼土12	胴部	
		13435	2	07-06	(05)	N		焼土13	胴部	
15381		2	06-06	(10)	焼土		焼土12	胴部		
13213		1	07-06	(30)	N		焼土18	口縁部		
15808		1	07-06	(00)	N		焼土18	口縁部		
15381		2	07-06	(10)	V		焼土18	口縁部1,胴部1		
13049		1	07-06	(10)	N		焼土18	胴部		
15540		1	07-06	(00)	N		焼土18	胴部		
16159		10	07-06	(00)	V		焼土18	胴部10,胴部2		
15896		2	08-06	(18)	N		焼土27	口縁部		
16213		1	08-06	(18)	N		焼土27	胴部		
13223		1	08-06	(18)	N		焼土27	胴部		
15456		1	08-09	(18)	焼土		炭化物14	胴部		
15383		1	07-09	(10)	V		炭化物19	口縁部		
15386		1	07-09	(20)	V		炭化物19	口縁部		
16095		1	04-06	(18)	V		透視外	胴部		
16243		1	04-06	(30)	V		透視外	胴部		
14820		1	06-09	(28)	V		透視外	胴部		
16294		1	04-09	(28)	V		透視外	胴部		
16301		1	06-05	(08)	V		透視外	胴部		
15000		1	06-05	(21)	V		透視外	胴部		
15006		1	06-05	(31)	V		透視外	胴部		
15002		1	06-05	(30)	V		透視外	胴部		
8181		1	14-06	(18)	N		透視外	胴部		
15716		1	05-06	(18)	V		透視外	胴部		
15582		2	06-08	(30)	V		透視外	胴部		
15004		1	06-05	(30)	V		透視外	胴部		
15023		1	06-05	(18)	V		透視外	胴部		
15454		2	06-06	(30)	V		透視外	胴部		
15005		2	06-05	(21)	V		透視外	胴部		
15451		2	06-06	(30)	N		透視外	胴部1,胴部2		
15453		1	06-06	(30)	N		透視外	胴部		
14318		1	06-08	(30)	N		透視外	胴部		
14395	1	06-08	(30)	N		透視外	胴部			
16105	1	06-05	(08)	N		透視外	胴部			
15063	1	06-07	(30)	N		透視外	胴部			
15000	1	06-05	(11)	V		透視外	胴部			
15453	1	06-06	(30)	N		透視外	胴部			
14396	2	06-08	(30)	V		透視外	底面			
07片(胴部4片番号わかず)										



標榜番号	遺物番号	総片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号		
■	77	13602	1	08-07	[11]	土層内	5号土壌	胴部	PL区-264-1	
		13321	1	08-08	[13]	冚	焼土27	胴部	PL区-260	
		13323	3	08-08	[13]	冚	焼土27	胴部		
		13831	1	08-08	[31]	冚	焼土27	口縁部		
		13941	3	08-08	[33]	冚	焼土27周辺	底部		
		13329	1	08-08	[21]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13334	1	08-08	[23]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13645	1	08-08	[23]	冚	焼土27周辺	胴部		
		14146	1	08-05	[10]	冚	焼土29	胴部		
		8236	2	08-05	[23]	冚	焼土・炭化物28	胴部		
		610	1	10-05	[11]	冚	遺構外	口縁部		
		14163	8	08-09	[30]	V	遺構外	口縁部4, 胴部4		
		13811	1	08-09	[30]	冚	遺構外	口縁部		
		14208	12	08-09	[30]	冚	遺構外	口縁部1, 胴部10		
		3754	2	08-07	[33]	冚	遺構外	口縁部		
		3133	1	09-06	[33]	冚	遺構外	口縁部		
		13810	1	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		13811	2	08-09	[20]	冚	遺構外	胴部		
		3123	1	10-07	[00]	冚	遺構外	胴部		
		14209	1	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		15903	1	09-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		15905	1	09-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		14009	1	08-09	[34]	冚	遺構外	胴部		
		13652	1	09-09	[50]	冚	遺構外	胴部		
		13616	1	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		13608	1	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		14010	1	08-09	[34]	冚	遺構外	胴部		
		14098	2	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		13610	2	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		13614	1	08-09	[30]	冚	遺構外	胴部		
		13383	1	08-07	[13]	冚	遺構外	胴部		
		13816	1	08-09	[31]	冚	遺構外	底部		
		3745	1	08-07	[02]	冚	遺構外	胴部		
		5241	2	08-07	[10]	冚	遺構外	胴部		
		10210	6	09-08	[03]	冚	遺構外	胴部		
		13948	1	09-08	[03]	冚	遺構外	胴部		
		13650	1	09-08	[03]	冚	遺構外	胴部		
	瓦片(胴部2片 番号わからず)									
	■	78	1607	1	09-12	[03]	線道	3号瓦穴住居	胴部	PL区-99-5
			1612	1	09-13	[00]	キマド	3号瓦穴住居	胴部	PL区-104
		1613	1	09-13	[00]	キマド	3号瓦穴住居	胴部		
		1625	4	09-13	[00]	キマド	3号瓦穴住居	胴部		
		1627	1	09-13	[03]	キマド	3号瓦穴住居	胴部		
瓦片										
■	79	13845	1	08-08	[30]	焼土	焼土27	胴部	PL区-188	
		13841	1	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	口縁部	PL区-260-2	
		13827	3	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	口縁部1, 胴部1		
		13820	4	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	口縁部1, 胴部1		
		13831	6	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	口縁部1, 胴部1		
		13925	1	08-06	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13246	1	08-06	[01]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13928	1	08-06	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13839	2	08-06	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13927	1	08-06	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13804	3	08-09	[00]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13838	2	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13381	1	08-08	[02]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13974	1	08-07	[23]	冚	焼土27周辺	胴部		
		12940	1	08-08	[30]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13300	1	08-08	[11]	冚	焼土27周辺	胴部		
		13909	1	08-08	[10]	冚	焼土27周辺	胴部		
		4657	2	15-22	[21]	冚	遺構外	胴部		
	瓦片									
	■	80	1549	8	10-05	[00]	覆土①層	5号瓦穴住居	胴部	PL区-157-4
		2218	1	10-05	[00]	覆土①層	5号瓦穴住居	胴部		
		2231	1	10-04	[00]	W	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		
		2381	2	09-05	[11]	W	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		
		2182	1	09-05	[11]	W	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		
		2183	1	09-05	[21]	W	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		
		2203	1	09-05	[22]	W	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		
		2104	1	09-05	[30]	冚	1号土層周辺の焼土・炭化物	胴部		

図号	図名	図寸	図位	図注	図説	図注	図説
01	2161	3	10-04	(13)	N	1号土留置の焼土・灰化層	鋼部
02	2090	2	08-07	(26)	炭	5号土留置	鋼部
03	1535	1	10-05	(01)	N	遺構外	鋼部
04	2045	1	10-05	(02)	V	遺構外	鋼部
22片							
05	01140	1	10-12	(06)	焼土①層	3号土留置	鋼部
06	065	1	09-13	(16)	焼土①層	3号土留置	鋼部
07	1135	1	09-13	(22)	焼土①層	3号土留置	鋼部
08	1137	1	09-13	(22)	焼土①層	3号土留置	鋼部
09	066	1	09-13	(16)	焼土①層	3号土留置	鋼部
10	1130	1	09-12	(22)	焼土①層	3号土留置	鋼部
11	064	1	09-13	(16)	焼土①層	3号土留置	鋼部
12	058	1	09-13	(11)	焼土①層	3号土留置	鋼部
13	080	14	09-13	(20)	焼土①層	3号土留置	鋼部、鋼部9
14	1538	1	09-13	(26)	焼土①層	3号土留置	鋼部
15	000	1	09-14	(20)	N	遺構外	鋼部
24片							
06	1535	1	09-13	(26)	焼土①層	3号土留置	鋼部
07	1517	1	05-11	(20)	N	遺構外	鋼部
2片							
08	29	1	09-13	(21)	(不明)	焼土24	鋼部
09	591	1	09-13	(21)	(不明)	焼土24	鋼部
10	2858	1	09-13	(21)	V	焼土24	鋼部
11	2927	1	09-13	(21)	V	焼土24	鋼部
12	2938	2	09-13	(21)	V	焼土24	鋼部
8片							
09	12097	3	31-16	(20)	N	遺構外	鋼部
3片							
10	05/11552	1	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
11	15497	1	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
12	12284	1	17-17	(04)	埋土	2号土留置	鋼部
13	12283	2	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
14	12496	1	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
15	1803	1	17-17	(22)	床	2号土留置	鋼部
16	1833	1	17-17	(20)	床	2号土留置	鋼部
17	0531	1	17-18	(00)	床	2号土留置	鋼部
18	12297	5	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
19	12295	1	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
20	0529	1	17-18	(00)	床	2号土留置	鋼部
21	12340	4	17-17	(22)	カマド	2号土留置	鋼部
22	12329	1	17-17	(22)	床	2号土留置	鋼部
23	11143	1	17-17	(02)	床	2号土留置	鋼部
24	12238	2	17-17	(12)	カマド	2号土留置	鋼部
25	12296	1	17-17	(01)	埋土	2号土留置	鋼部
26	12500	1	16-17	(21)	埋土	2号土留置	鋼部
27	1828	1	17-16	(23)	床	2号土留置	鋼部
28	12516	1	16-17	(22)	焼土	焼土43	鋼部
29	488	1	16-17	(22)	M'上	焼土43	鋼部
30	450	1	16-17	(12)	M'上	焼土43	鋼部
31	472	1	16-17	(22)	M'上	焼土43	鋼部
32	498	1	16-17	(11)	M'上	焼土43	鋼部
33	485	4	16-17	(22)	M'上	焼土43	鋼部
34	482	1	16-17	(01)	M'上	焼土43	鋼部
35	483	1	16-17	(22)	M'上	焼土43	鋼部
36	11693	1	16-17	(12)	焼土	焼土43	鋼部
37	12280	1	16-16	(22)	N	焼土43埋置	鋼部
38	9942	1	16-17	(21)	N	焼土43埋置	鋼部
39	12548	1	16-17	(22)	N	焼土43埋置	鋼部
40	9717	2	16-17	(22)	N	焼土43埋置	鋼部、鋼部1
41	208	1	16-17	(22)	(不明)	焼土43埋置	鋼部
42	12547	1	16-17	(22)	N	焼土43埋置	鋼部
43	12283	1	16-16	(不明)	(不明)	焼土43埋置	鋼部
44	12282	1	16-16	(22)	N	焼土43埋置	鋼部
45	6770	1	19-11	(20)	N	焼土60	鋼部
46	12480	1	19-15	(21)	N	焼土62	鋼部
47	7973	1	19-15	(00)	炭	灰化層2	鋼部
48	7923	1	19-15	(11)	炭	灰化層2	鋼部
49	11344	1	19-15	(22)	炭	灰化層2	鋼部
50	9005	1	19-15	(13)	炭	灰化層2	鋼部
51	8997	1	19-15	(13)	炭	灰化層2	鋼部
52	7251	1	19-15	(22)	炭	灰化層2	鋼部

資料番号	遺物番号	破片数	大ブツ	小ブツ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
■	9069	1	19-15	(33)	x'	炭化物②	口縁部		
	12118	1	19-15	(33)	■	炭化物②	胴部		
	✓7921	1	19-15	(33)	x'	炭化物②	胴部		
	✓7827	1	19-15	(11)	x'	炭化物②	胴部		
	✓3766	2	19-15	(32)	■	炭化物②	胴部		
	✓7925	1	19-15	(33)	x'	炭化物②	胴部		
	✓9076	1	19-15	(32)	x'	炭化物②	胴部		
	✓7586	1	20-16	(10)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓11449	2	20-16	(10)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓12564	1	20-16	(90)	■	炭化物②陶器	胴部		
	5040	1	20-16	(11)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓5890	5	20-16	(10)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓5019	4	20-16	(10)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓6020	2	20-16	(10)	■	炭化物②陶器	胴部		
	✓8788	1	17-12	(30)	マウンド上部	炭化物マウンド	口縁部		
	✓172	1	17-11	(33)	マウンド	炭化物マウンド	口縁部		
	✓7028	1	17-12	(30)	■	炭化物マウンド	口縁部		
	3300	4	17-11	(30)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	7804	1	17-11	(13)	■	炭化物マウンド	胴部		
	✓9680	3	17-12	(10)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	✓8708	1	17-11	(33)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
	✓3341	2	17-11	(12)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部		
	✓3385	1	18-09	(30)	■	炭化物マウンド	胴部		
	✓10259	1	17-11	(11)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	✓18827	1	17-11	(31)	マウンド	炭化物マウンド	胴部		
	✓8888	2	17-11	(32)	マウンド上部	炭化物マウンド	胴部		
	✓9960	2	16-13	(33)	■	遺構外	口縁部		
	✓3380	2	17-13	(11)	■	遺構外	口縁部		
	✓9384	1	17-13	(13)	■	遺構外	口縁部		
	✓8655	2	19-12	(32)	■	遺構外	口縁部		
	✓9388	1	17-13	(11)	■	遺構外	口縁部		
	✓9997	1	16-13	(22)	■	遺構外	口縁部		
	✓5897	42	17-19	(11)	■	遺構外	口縁部		
	✓10737	1	16-13	(90)	■	遺構外	口縁部		
	15433	3	16-18	(11)	■	遺構外	胴部		
	✓27	1	16-18	(30)	(不明)	遺構外	胴部		
	✓12304	1	16-18	(11)	■	遺構外	胴部		
	✓9413	1	17-14	(90)	■	遺構外	口縁部		
	✓2946	1	16-14	(38)	■	遺構外	口縁部		
	138	1	16-13	(11)	(不明)	遺構外	口縁部		
	1800片								
	■	11437	1	21-16	(10)	■	遺構外	口縁部	
		5938	1	22-16	(01)	■	遺構外	口縁部	
		10990	1	22-18	(00)	ホタテ	遺構外	口縁部	
		11420	1	21-16	(10)	■	遺構外	胴部	
		11409	1	21-16	(00)	■	遺構外	胴部	
		8921	4	20-13	(11)	■	遺構外	胴部	
11419		1	21-16	(10)	■	遺構外	胴部		
11427		1	21-16	(10)	■	遺構外	胴部		
11417		1	21-16	(10)	■	遺構外	胴部		
11414		1	21-16	(01)	■	遺構外	胴部		
11442		1	21-16	(11)	■	遺構外	胴部		
11436		1	21-16	(10)	■	遺構外	胴部		
9476		1	21-16	(01)	■	遺構外	胴部		
5895		1	20-15	(38)	■	遺構外	底部		
7881		5	21-16	(02)	■	遺構外	胴部2, 底部3		
22片(口縁部1片, 胴部1片, 底部1片番号わからず)									
■		1882	1	17-17	(22)	壁土①層	3号穴内底部	底部	PL-23-03
		11809	1	15-17	(32)	土壁内	3号土壁	胴部	PL-23-03
		338	1	16-17	(12)	(不明)	壁土①	胴部	
		259	1	16-16	(32)	(不明)	壁土①	胴部	
		7625	1	19-15	(11)	x'	炭化物②	胴部	
	3028	2	18-10	(01)	■	炭化物マウンド	胴部		
	2423	1	17-10	(30)	■	炭化物マウンド	胴部		
	1897	2	18-10	(12)	ホタテ	炭化物マウンド	胴部		
	1899	1	18-10	(00)	■	炭化物マウンド	胴部		
	1999	1	18-10	(11)	■	炭化物マウンド	胴部		
	1869	1	18-10	(01)	ホタテ	炭化物マウンド	胴部		
	1872	1	18-10	(01)	ホタテ	炭化物マウンド	胴部		
	1870	1	18-10	(01)	ホタテ	炭化物マウンド	底部		
	1853	1	18-10	(01)	ホタテ	炭化物マウンド	胴部		

期待番号	建物番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺物No	部位	関連PL・番号		
■ (ツブ)	07	2309	1	17-10	(30)	B'	炭化物マウンド	胴部		
		2813	1	17-10	(31)	B'	炭化物マウンド	胴部		
		8734	1	17-11	(31)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部		
		2270	1	17-10	(30)	B'	炭化物マウンド	胴部		
		20片								
■	08	11881	1	18-15	(31)	N	炭化物52	口縁部	PL-02-267-4	
		9815	1	18-15	(32)	a'	炭化物52	口縁部		
		11813	1	18-15	(31)	N	炭化物52	口縁部		
		9512	1	18-15	(31)	a'	炭化物52	胴部		
		8438	2	19-14	(11)	カクラン	炭化物52周面	口縁部		
		11490	3	18-15	(10)	N	炭化物52周面	口縁部(胴部)		
		11795	1	18-15	(10)	N	炭化物52周面	胴部		
		11794	1	18-15	(10)	N	炭化物52周面	胴部		
11片(胴部1片番号わからず)										
■	09	14150	1	09-08	(20)	V	焼土13	胴部	PL-02-175	
		14393	1	09-08	(20)	V	焼土13	胴部		
		15289	1	07-08	(01)	焼土	焼土18	口縁部		
		15407	1	07-08	(13)	V	焼土18周面	胴部		
		13026	2	07-08	(11)	N	焼土18周面	胴部		
		6片								
■	00	2755	1	18-10	(01)	B'	炭化物マウンド	口縁部	PL-02-205-1 PL-02-243	
		1123	3	21-22	(03)	N	遺構外	胴部1, 胴部2		
4片										
■	91	11443	1	21-16	(20)	IV	遺構外	口縁部		
		12669	1	21-15	(23)	IV	遺構外	口縁部		
		12022	1	21-17	(12)	IV	遺構外	口縁部		
		11830	1	21-17	(21)	IV	遺構外	胴部		
		11831	1	21-17	(21)	IV	遺構外	胴部		
		11279	1	21-18	(20)	IV	遺構外	胴部		
		11277	1	21-16	(30)	IV	遺構外	胴部		
		7片								
■	92	1751	1	18-16	(01)	麻笥	2号竪穴住居	胴部	PL-02-43-3 PL-02-44	
		11855	1	18-16	(03)	麻笥	2号竪穴住居	胴部		
		1758	1	18-16	(13)	麻笥	2号竪穴住居	底部		
		7697	1	19-15	(23)	a'	炭化物52	胴部		
		5727	2	19-15	(11)	II	炭化物52	胴部		
		7684	1	19-15	(13)	a'	炭化物52	胴部		
		8686	1	19-15	(31)	a'	炭化物52	胴部		
		7617	1	19-15	(01)	a'	炭化物52	胴部		
		5726	1	19-15	(11)	II	炭化物52	胴部		
		222	1	18-15	(23)	(不明)	炭化物52	底部		
		5751	1	19-15	(22)	III	炭化物52	胴部		
		16777	1	19-15	(不明)	(不明)	炭化物52	胴部		
	13片									
	■	93	393	1	17-17	(12)	カマド周面	2号竪穴住居		胴部
		8214	1	15-17	(21)	II	焼土41周面	胴部		
		8204	1	15-17	(31)	II	焼土41周面	胴部		
		8209	1	15-17	(20)	II	焼土41周面	胴部		
		9754	1	15-17	(33)	IV	焼土41周面	胴部		
		8460	1	16-17	(13)	焼土	焼土43	底部		
		8232	1	15-17	(20)	II	焼土43周面	胴部		
		11170	2	15-17	(22)	IV	焼土43周面	胴部		
		8208	1	15-17	(22)	II	焼土43周面	胴部		
		8207	1	15-17	(22)	II	焼土43周面	胴部		
		5854	1	15-17	(21)	II	焼土43周面	胴部		
		5853	1	15-17	(21)	II	焼土43周面	胴部		
		11187	1	15-17	(22)	IV	焼土43周面	胴部		
		11171	1	15-17	(22)	IV	焼土43周面	胴部		
		11148	1	15-17	(21)	IV	焼土43周面	胴部		
		11167	1	15-17	(13)	IV	焼土43周面	胴部		
		903	1	15-17	(13)	IV	焼土43周面	胴部		
		11146	1	15-17	(13)	IV	焼土43周面	胴部		
		5857	2	15-17	(13)	IV	焼土43周面	胴部		
		5837	1	15-16	(23)	II	焼土43周面	胴部		
		14521	1	04-08	(22)	V	炭化物4	底部		
		11513	2	18-15	(31)	N	炭化物51	胴部		
		12971	1	18-15	(31)	a'	炭化物51	胴部		
		8681	1	18-15	(31)	a'	炭化物51	胴部		
		8687	1	19-15	(01)	a'	炭化物51	胴部		
		7611	1	19-15	(01)	a'	炭化物51	胴部		
		8656	1	19-15	(01)	a'	炭化物51	胴部		

標本番号	遺物番号	破片数	大アリタ	小アリタ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号		
■ (ツブ)	93	7429	1	19-15	[30]	x <sup>2</sup>	炭化物62	胴部		
		9308	1	19-15	[30]	x <sup>2</sup>	炭化物62	胴部		
		3767	1	19-15	[30]	遺	炭化物62	胴部		
		7452	2	19-15	[30]	x <sup>2</sup>	炭化物62	胴部		
		4449	1	19-18	[30]	冚	遺構外	胴部		
		5303	1	18-18	[不明]	表層	遺構外	胴部		
		4448	1	19-18	[30]	冚	遺構外	胴部		
		4447	1	19-18	[30]	冚	遺構外	胴部		
		4144	1	19-18	[31]	冚	遺構外	底部		
		3022	2	18-18	[11]	冚	遺構外	底部		
		4133	1	19-18	[30]	冚	遺構外	胴部		
		42片(胴部4片番号わからず)								
	■	94	9167	1	19-15	[31]	x <sup>2</sup>	炭化物62	胴部	
		9169	4	19-15	[30]	x <sup>2</sup>	炭化物62	胴部3, 胴部1		
	5片									
■	95	381	1	16-17	[30]	(不明)	焼土43	胴部	PL-25-85	
		8315	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		3814	6	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		383	2	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		8317	3	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		9936	2	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		9729	1	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
		9484	2	16-17	[31]	焼土	焼土43	胴部		
		9482	4	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		8314	1	16-17	[30]	焼土	焼土43	胴部		
		24片(胴部3片番号わからず)								
■	96	4178	2	21-18	[31]	冚	遺構外	口縁部	PL-25-245	
		4242	4	21-18	[30]	冚	遺構外	口縁部2, 胴部2		
		878	1	21-19	[92]	冚	遺構外	口縁部		
		862	7	21-19	[20]	冚	遺構外	口縁部4, 胴部3		
		866	1	21-19	[31]	冚	遺構外	口縁部		
		4245	1	22-18	[91]	冚	遺構外	胴部		
		854	1	21-19	[30]	冚	遺構外	胴部		
		858	1	21-19	[30]	冚	遺構外	胴部		
		861	1	21-19	[30]	冚	遺構外	胴部		
		864	1	21-19	[30]	冚	遺構外	胴部		
		857	3	21-19	[30]	冚	遺構外	胴部		
		871	1	21-19	[90]	冚	遺構外	胴部		
		24片(胴部1片番号わからず)								
	■	97	87	2	22-21	[31]	(不明)	遺構外	口縁部	
			90	15	22-21	[31]	(不明)	遺構外	口縁部2, 胴部11	
		91	2	22-18	[31]	(不明)	遺構外	胴部		
		912	7	22-21	[31]	冚	遺構外	口縁部4, 胴部3		
		913	10	22-21	[31]	冚	遺構外	口縁部4, 胴部2		
		916	2	22-21	[31]	冚	遺構外	胴部		
		918	1	22-21	[32]	冚	遺構外	底部		
		774	1	22-21	[18]	冚	遺構外	底部		
		775	2	22-21	[18]	冚	遺構外	底部		
		43片								
■	98	15954	2	09-09	[90]	x <sup>2</sup>	4号土層	口縁部	PL-25-194-7	
		15936	4	09-09	[90]	x <sup>2</sup>	4号土層	口縁部1, 胴部2	PL-25-178	
		13891	1	09-11	[90]	焼土	焼土・炭化物62	胴部		
		13902	1	09-11	[90]	焼土	焼土・炭化物62	胴部		
		13893	1	09-11	[90]	焼土	焼土・炭化物62	胴部		
		13069	4	09-11	[90]	冚	焼土・炭化物62	口縁部1, 胴部2		
		14283	1	09-10	[90]	冚	焼土・炭化物62周辺	口縁部		
		14片(口縁部1片番号わからず)								
■	99	5343	1	17-11	[31]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL-25-209-3	
		5312	1	17-11	[90]	マウンド	炭化物マウンド	口縁部	PL-25-246	
		2874	10	18-10	[90]	冚	炭化物マウンド	口縁部6, 胴部4		
	12片									
■	100	3854	4	19-08	[91]	冚	遺構外	口縁部1, 胴部2	PL-25-179	
		3857	5	19-08	[91]	冚	遺構外	口縁部		
		3860	5	19-08	[11]	冚	遺構外	口縁部1, 胴部2		
	14片									
■	102	4444	1	18-10	[31]	冚	炭化物マウンド	胴部	PL-25-247	
		6610	4	18-10	[31]	冚	炭化物マウンド	胴部		
		8384	1	18-10	[33]	冚	炭化物マウンド	胴部		
		8266	3	18-11	[30]	冚	炭化物マウンド周辺	胴部		
		6839	6	18-10	[11]	冚	焼土49周辺	胴部		
		6640	3	18-10	[11]	冚	焼土49周辺	胴部2, 胴部1		

個体番号	遺物番号	種別	大グリット	小グリット	層位・出土状況	関連遺構の記	部位	関連図、番号	
■ (ツブキ)	102	5413	1	20-10	[20]	IV	焼土49層遺	胴部	
	6449	2	19-10	[13]	IV	焼土49層遺	胴部1, 底部1		
	6456	1	19-10	[13]	IV	焼土49層遺	底部		
	6611	1	19-11	[12]	IV	灰化物-焼土50	胴部		
	6688	1	19-11	[30]	IV	灰化物-焼土50	胴部		
	6477	8	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6485	1	11-10	[33]	IV	透構外	胴部		
	6487	1	11-10	[20]	IV	透構外	胴部		
	6483	1	11-10	[20]	IV	透構外	胴部		
	6481	3	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6479	1	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6480	2	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6488	1	11-10	[33]	IV	透構外	胴部		
	6481	1	11-10	[30]	IV	透構外	胴部		
	6471	1	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6482	1	11-10	[30]	IV	透構外	胴部		
	6487	1	11-10	[22]	IV	透構外	胴部		
	6475	3	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6486	1	11-10	[22]	IV	透構外	胴部		
	6476	1	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6489	2	11-10	[22]	IV	透構外	胴部		
	6483	2	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6485	1	11-10	[20]	IV	透構外	胴部		
	6473	1	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6478	4	11-10	[21]	IV	透構外	胴部		
	6474	3	11-10	[21]	IV	透構外	底部		
	12644	8	31-17	[30]	IV	透構外	口縁部		
	6436	1	18-09	[22]	IV	透構外	胴部		
	6508	1	20-09	[02]	IV	透構外	胴部		
	6553	1	20-10	[20]	IV	透構外	胴部		
	6440	1	18-09	[33]	IV	透構外	胴部		
	6441	1	18-09	[33]	IV	透構外	胴部		
	6509	1	20-09	[01]	IV	透構外	胴部		
6558	1	18-09	[22]	IV	透構外	胴部			
78片									
■	103	1448	1	10-05	[21]	IV	5号型穴注部	胴部	PL-22-130-4
	1302	3	10-05	[12]	IV	5号型穴注部	胴部2, 底部1	PL-22-151	
	1301	1	10-05	[12]	IV	5号型穴注部	底部		
	1466	1	12-06	[20]	IV	透構外	胴部		
6片									
■	104	2032	2	06-13	[11]	V	焼土34	胴部1, 底部1	PL-22-110
2片									
■	105	12296	2	16-17	[21]	IV	2号型穴注部	胴部	PL-22-97
	11708	1	15-17	[22]	土層内	3号土層	胴部		
	11197	1	16-17	[02]	焼土	焼土43	胴部		
	12622	1	16-16	[23]	焼土	焼土43	胴部		
	12682	2	16-17	[13]	IV	焼土43層遺	底部1, 胴部1		
	12096	1	16-16	[23]	IV	焼土43層遺	胴部		
	173	1	17-11	[12]	[不明]	灰化物マウンド	胴部		
	9223	1	17-11	[02]	マウンド上	灰化物マウンド	胴部		
	16550	1	17-12	[30]	マウンド上	灰化物マウンド	胴部		
	9625	1	17-11	[03]	マウンド上	灰化物マウンド	胴部		
	7798	1	17-12	[30]	IV	灰化物マウンド	胴部		
	9630	1	17-12	[11]	マウンド	灰化物マウンド	胴部		
	9270	1	17-11	[13]	マウンド上	灰化物マウンド	胴部		
	9655	1	17-12	[30]	マウンド	灰化物マウンド	胴部		
	9695	1	17-12	[30]	マウンド	灰化物マウンド	胴部		
	2421	1	17-10	[30]	M	灰化物マウンド	底部		
	16524	1	07-09	[23]	[不明]	透構外	胴部		
	15975	1	06-05	[23]	IV	透構外	胴部		
	20片								
	■	106	5731	16	15-15	[01]	IV	灰化物52	胴部12, 底部4
16片									
■	108	1623	3	06-13	[20]	IV	3号型穴注部	胴部2, 底部1	PL-22-99-3
	1624	4	09-13	[00]	IV	3号型穴注部	胴部	PL-22-111	
7片									
■	109	7271	1	27-16	[12]	IV	灰化物-焼土30	底部	
	7360	3	27-16	[02]	IV	灰化物-焼土30	胴部1, 底部1		
2片									
■	110	5497	1	25-17	[不明]	焼土	灰化物-焼土30	底部	
	5498	1	25-17	[不明]	焼土	灰化物-焼土30	胴部		

探検番号	遺物番号	破片数	スプリット	小フリット	層位・出土位置	製造場所など	部位	関連PL番号																	
■	110	5510	2	10-16	(32)	Ⅲ	炭化物-焼土70	胴部																	
										4片															
										■	111	13374	1	07-08	(02)	Ⅲ	炭化物13	胴部							
																			14894	2	07-08	(02)	焼土	炭化物19	胴部1, 底部1
																			16471	1	10-17	(22)	V	遺構外	底部
16474	1	10-17	(32)	V	遺構外	胴部																			
5片(胴部1片番号わからず)																									
■	112	7918	3	10-15	(23)	Ⅱ	炭化物53	胴部																	
										8858	3	10-15	(01)	Ⅱ	炭化物53	胴部2, 底部1									
										9073	1	10-15	(23)	Ⅱ	炭化物52	胴部									
										895	1	10-20	(10)	Ⅲ	遺構外	底部									
										899	1	10-20	(10)	Ⅲ	遺構外	底部									
										1162	2	10-20	(10)	Ⅲ	遺構外	胴部									
										8片															
										■	113	9220	1	17-12	(00)	マウンド上	炭化物マウンド	胴部	PL. ②-249						
✓3523	4	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部																			
✓3530	1	17-12	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	胴部																			
✓189	1	17-12	(11)	(不明)	炭化物マウンド	胴部																			
✓7347	3	17-12	(10)	Ⅲ	炭化物マウンド	胴部1, 底部2																			
✓9426	1	17-11	(13)	マウンド	炭化物マウンド	底部																			
✓3543	1	17-13	(00)	マウンド内	炭化物マウンド	底部																			
12片																									
■	114	156	6	10-14	(32)	(不明)	遺構外	胴部3, 底部3																	
																				9431	1	10-14	(23)	Ⅲ	遺構外
										7片															
■	115	7415	3	10-15	(12)	Ⅱ	炭化物52	底部	PL. ②-68																
										11980	3	10-15	(30)	Ⅲ	炭化物52周辺	胴部1, 底部2									
										9816	1	17-13	(03)	Ⅲ	炭化物マウンド周辺	胴部									
										10170	1	17-13	(00)	Ⅲ	炭化物マウンド周辺	胴部									
										11575	3	10-16	(02)	Ⅲ	遺構外	胴部									
										7281	1	10-13	(32)	Ⅲ	遺構外	底部									
										1237	1	12-07	(32)	Ⅲ	遺構外	底部									
										11片															
										■	116	1737	1	17-16	(33)	埋土空堀	2号堀穴付近	底部	PL. ②-60-6						
																				11194	1	15-17	(31)	Ⅲ	焼土43
11286	1	17-16	(12)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部																			
11063	1	10-15	(21)	Ⅱ	炭化物52	胴部																			
9046	1	10-15	(12)	Ⅱ	炭化物52	胴部																			
78	1	10-15	(32)	(不明)	炭化物52	胴部																			
218	1	10-15	(30)	(不明)	炭化物52周辺	胴部																			
11630	1	10-13	(30)	Ⅲ	遺構外	胴部																			
8片																									
■	117	14096	1	00-10	(10)	V	炭化物-焼土30-31	口縁部																	
										14727	1	00-09	(00)	V	炭化物-焼土30-31	口縁部									
										14729	1	00-09	(12)	V	炭化物-焼土30-31	口縁部									
										14285	1	00-10	(10)	V	炭化物-焼土30-31	口縁部									
										14050	1	00-10	(00)	V	炭化物-焼土30-31	口縁部									
										14725	1	00-10	(20)	V	炭化物-焼土30-31周辺	口縁部									
										4022	1	10-00	(22)	V	炭化物-焼土30-31周辺	口縁部									
										4066	1	00-09	(23)	V	炭化物-焼土30-31周辺	口縁部									
										14089	1	00-09	(11)	V	炭化物-焼土30-31周辺	口縁部									
										9片															
										■	118	1889	1	17-16	(22)	南直	2号堀穴付近	口縁部	PL. ②-43-2						
																				16524	2	17-17	(不明)	Ⅱ	2号堀穴付近
16702	1	17-17	(不明)	Ⅱ	2号堀穴付近	口縁部																			
12141	1	17-17	(不明)	Ⅱ	2号堀穴付近	胴部																			
535	1	17-17	(10)	南直	2号堀穴付近	胴部																			
12220	1	17-17	(12)	Ⅱ	2号堀穴付近	胴部																			
1802	1	17-17	(11)	南直	2号堀穴付近	胴部																			
9193	1	17-18	(00)	南直	2号堀穴付近	胴部																			
9194	1	17-18	(00)	南直	2号堀穴付近	底部																			
16517	1	10-18	(不明)	南直	2号堀穴付近	口縁部																			
5858	1	15-17	(00)	Ⅲ	焼土43	胴部																			
8096	1	15-17	(00)	Ⅲ	焼土43	胴部																			
11812	1	15-17	(00)	(不明)	焼土43	胴部																			
11188	1	16-17	(00)	Ⅲ	焼土43	胴部																			
11150	1	15-17	(30)	Ⅲ	焼土43	胴部																			
12088	1	16-16	(21)	Ⅲ	焼土43周辺	口縁部																			
11649	2	15-16	(30)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部																			
9750	1	15-17	(01)	Ⅲ	焼土43周辺	胴部																			
223	3	15-16	(30)	(不明)	焼土43周辺	胴部																			

保存番号	遺物番号	破片数	大フラット	小フラット	層位・出土位置	関連遺物など	部位	関連PL番号
■ (ツブ)	225	3	15-16	(21)	(不明)	焼土43附近	胴部	
	226	1	15-16	(21)	(不明)	焼土43附近	胴部	
	7572	1	18-17	(20)	IV	焼土47	胴部	
	7050	1	18-13	(20)	IV	焼土47	胴部	
	11643	1	18-12	(20)	IV	焼土47	胴部	
	7056	1	18-12	(20)	IV	焼土47	胴部	
	8389	1	20-12	(20)	IV	焼土46附近	口縁部	
	10068	1	17-12	(21)	マウンド	灰化物マウンド	口縁部	
	1912	2	17-10	(21)	V	灰化物マウンド	胴部	
	17721	1	17-10	(不明)	V	灰化物マウンド	胴部	
	2045	1	17-09	(13)	V	灰化物マウンド附近	口縁部	
	6769	1	19-11	(01)	IV	灰化物・焼土50	口縁部	
	6743	1	19-11	(11)	IV	灰化物・焼土50	口縁部	
	6778	1	19-11	(21)	IV	灰化物・焼土50	胴部	
	6776	1	19-11	(21)	IV	灰化物・焼土50	胴部	
	6739	1	19-11	(02)	IV	灰化物・焼土50	胴部	
	6743	2	19-11	(11)	IV	灰化物・焼土50	胴部	
	6744	1	19-11	(13)	IV	灰化物・焼土50	胴部	
	10553	1	19-15	(10)	a	灰化物52	口縁部	
	6711	2	19-15	(10)	II	灰化物52	口縁部	
	8897	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	11968	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	8898	2	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	12138	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	11880	1	18-15	(11)	IV	灰化物52	口縁部	
	8851	1	19-15	(00)	a	灰化物52	口縁部	
	11907	2	18-15	(20)	IV	灰化物52	口縁部	
	8883	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	12440	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	11875	1	18-15	(20)	IV	灰化物52	口縁部	
	8000	1	19-15	(00)	a	灰化物52	口縁部	
	8899	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	11965	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	9048	1	18-15	(12)	a	灰化物52	口縁部	
	7410	1	18-15	(11)	a	灰化物52	口縁部	
	7620	1	18-15	(11)	a	灰化物52	口縁部	
	11870	1	18-15	(20)	a	灰化物52	口縁部	
	12562	1	20-15	(03)	II	灰化物52	口縁部	
	9536	1	20-15	(02)	a	灰化物52	胴部	
	13127	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	11876	1	18-15	(20)	IV	灰化物52	胴部	
	11968	2	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	9508	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	12140	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	12125	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	12139	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	11506	1	18-15	(20)	IV	灰化物52	胴部	
	9507	1	18-15	(20)	a	灰化物52	胴部	
	11446	1	20-16	(20)	IV	灰化物52風通	口縁部	
	9691	1	20-16	(16)	II	灰化物52風通	胴部	
12568	1	20-16	(00)	IV	灰化物52風通	口縁部		
8184	1	19-14	(33)	IV	遺構外	口縁部		
10370	1	18-14	(33)	IV	遺構外	口縁部		
10373	1	18-14	(33)	IV	遺構外	胴部		
10353	1	18-14	(23)	IV	遺構外	胴部		
10355	1	18-14	(23)	IV	遺構外	口縁部		
10370	1	18-14	(23)	IV	遺構外	口縁部		
4080	1	10-10	(21)	V	遺構外	胴部		
4034	1	10-09	(23)	IV	遺構外	胴部		
11632	1	18-13	(21)	IV	遺構外	口縁部		
7753	1	14-15	(21)	IV	遺構外	口縁部		
8060	1	13-14	(22)	II	遺構外	口縁部		
5859	1	14-17	(20)	II	遺構外	胴部		
3023	1	09-07	(A3)	II	遺構外	胴部		
9955	1	18-14	(20)	II	遺構外	胴部		
破片(口縁部3片 胴部6ヶ所)								
■	118	7472	1	20-15	(03)	焼土上	灰化物52	底部
		8786	1	17-12	(22)	マウンド上	灰化物マウンド	底部
2片								
■	120	2454	1	17-11	(22)	マウンド内	灰化物マウンド	底部





案件番号	連作番号	紙片数	大プリント	小プリント	原住・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL_番号	
■	147	543	1	17-17	(不明)	カマラン	2号館六住居	底部	
		81	1	19-15	(30)	(不明)	炭化物52	底部	
		7419	1	19-15	(12)	≠	炭化物52	底部	
		11097	1	19-15	(12)	≠	炭化物52	底部	
		221	4	18-15	(31)	(不明)	炭化物53階段	底部	
8片(底部2片巻付わからず)									
■	148	6166	1	20-15	(25)	焼土	焼土68	底部	
		6097	1	20-15	(21)	瓦	溝縁外	底部	
	2片(底部1片巻付わからず)								
■	149	617	1	30-04	(35)	瓦	1号土庫埋めの焼土・炭化物	底部	
		8033	1	30-04	(12)	炭化物層下	1号土庫埋めの焼土・炭化物	底部	
		3785	1	30-07	(13)	N	溝縁外	底部	
		14888	1	09-07	(02)	≠	溝縁外	底部	
		10717	1	05-06	(12)	V	溝縁外	底部	
		10996	2	05-06	(20)	V	溝縁外	底部	
	7片(底部1片巻付わからず)								
■	150	9122	1	18-18	(13)	焼土・瓦層	2号館六住居	底部	
	1片								
■	151	7185	1	27-16	(02)	瓦	炭化物・焼土70	底部	
		7307	2	27-16	(00)	瓦	炭化物・焼土70	底部	
		5497	1	20-17	(不明)	赤土	炭化物・焼土70	底部	
		5498	2	20-17	(不明)	赤土	炭化物・焼土70	底部	
	6片								
■	152	15163	1	08-09	(02)	≠	4号土庫	底部	
		15475	1	06-09	(10)	焼土	炭化物14	側部	
		15477	1	06-09	(10)	焼土	炭化物14	側部	
		15488	1	06-09	(11)	焼土	炭化物14	口縁部	
		13548	1	07-09	(10)	N	炭化物19	口縁部	
		15394	1	07-09	(00)	カマラン	炭化物19	口縁部	
		14908	1	07-08	(13)	焼土	炭化物19	側部	
		14914	1	07-08	(13)	焼土	炭化物19	側部	
		13586	1	07-09	(00)	N	炭化物19階段	口縁部	
		13017	1	07-08	(08)	N	炭化物19階段	口縁部	
		13223	1	07-08	(21)	N	炭化物19階段	側部	
		13023	1	07-08	(00)	N	炭化物19階段	側部	
		2094	2	08-12	(22)	V	焼土34	側部	
		12099	1	05-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		10754	1	04-09	(11)	N	溝縁外	側部	
		10631	1	05-06	(21)	V	溝縁外	側部	
		14382	1	06-08	(30)	V	溝縁外	口縁部	
	18片								
	■	153	14549	1	09-10	(31)	焼土	炭化物16	底部
			14404	1	09-10	(00)	V	炭化物16階段	底部
		4632	1	12-08	(04)	N	溝縁外	口縁部	
		1653	2	12-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		4629	1	11-08	(21)	N	溝縁外	口縁部	
		4630	1	12-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		1632	1	12-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		1018	1	12-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		4784	1	12-08	(02)	N	溝縁外	口縁部	
		4639	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		4785	1	12-08	(00)	N	溝縁外	側部	
		4786	2	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		4623	1	11-08	(11)	V	溝縁外	側部	
		4624	1	11-08	(11)	V	溝縁外	側部	
		4625	1	11-08	(20)	N	溝縁外	側部	
		925	2	12-08	(04)	N	溝縁外	側部	
		763	1	11-08	(33)	N	溝縁外	側部	
		765	1	12-09	(00)	N	溝縁外	側部	
		4638	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		4640	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		1468	1	12-08	(11)	N	溝縁外	側部	
		755	1	11-09	(20)	N	溝縁外	側部	
		834	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		836	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		936	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		4636	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		1634	1	12-08	(02)	N	溝縁外	側部	
		762	1	11-10	(10)	N	溝縁外	側部	
31片(口縁部1片,側部1片,底部1片巻付わからず)									
■		154	63	1	10-20	(31)	(不明)	溝縁外	口縁部

領伴番号	遺物番号	産出数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構名	部位	関連PL番号		
■ (ツブ)	154	907	1	30-30	(00)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		908	1	30-30	(00)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		918	45	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部A, 胴部37		
		921	5	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		1128	11	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		914	14	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		915	18	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部15, 底部3		
		917	22	22-21	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部16, 底部9		
	119片(口縁部2片, 胴部9片)底部3片番号わからず									
	■	195	5602	19	22-16	(02)	Ⅱ	焼土64	口縁部6, 胴部13	PL-D-203-2
		5978	1	22-15	(12)	Ⅱ	焼土64	口縁部		
		5941	1	22-16	(21)	Ⅱ	焼土64	口縁部		
		5939	1	22-16	(11)	Ⅱ	焼土64	口縁部		
		5661	1	22-16	(02)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		778	1	22-16	(12)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		777	1	22-16	(11)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5533	1	22-16	(00)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5531	1	22-16	(00)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5657	1	22-16	(01)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5690	1	22-15	(02)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5533	4	22-16	(20)	Ⅱ	焼土64	胴部		
		5659	2	22-16	(01)	Ⅱ	焼土64	底部		
		7494	2	21-16	(21)	Ⅱ	焼土64周辺	口縁部1, 胴部1		
		6058	2	21-16	(01)	Ⅱ	焼土64周辺	胴部		
		5819	2	19-16	(01)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
41片(口縁部2片, 胴部3片番号わからず)										
■		196	9123	1	18-19	(20)	Ⅱ	2号物穴底部	胴部	PL-D-40-2
			12485	1	19-14	(02)	Ⅱ	炭化物62周辺	口縁部	PL-D-94
		12084	1	19-18	(21)	Ⅱ	焼土・炭化物19	胴部		
		4182	1	30-18	(01)	Ⅱ	焼土・炭化物19	胴部		
		4200	1	30-18	(02)	Ⅱ	焼土・炭化物19	底部		
		4187	1	18-18	(22)	Ⅱ	焼土・炭化物19周辺	口縁部		
		1140	2	30-18	(10)	Ⅱ	焼土・炭化物19周辺	口縁部		
		4315	1	17-30	(01)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		4345	1	17-30	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		4350	1	17-30	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		4356	1	17-30	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		10899	3	21-17	(22)	Ⅱ	遺構外	底部		
		10978	1	21-17	(12)	Ⅱ	コケラン	底部		
		11841	1	21-17	(不明)	Ⅱ	コケラン	底部		
	17片(胴部2片番号わからず)									
	■	198	3747	1	09-07	(22)	Ⅱ	遺構外	口縁部	PL-D-251
			3920	8	09-07	(22)	V	遺構外	口縁部	
			3839	1	09-08	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部	
			3823	2	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	口縁部	
		3828	2	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		3831	2	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		3838	1	09-08	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		3843	1	09-08	(21)	Ⅱ	遺構外	口縁部		
		3820	1	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3821	1	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3830	1	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3837	1	09-08	(21)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3922	3	09-07	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3747	1	09-07	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3818	1	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		3919	1	09-07	(22)	V	遺構外	底部		
		3913	1	09-08	(11)	Ⅱ	遺構外	底部		
		3769	1	09-07	(22)	Ⅱ	遺構外	底部		
		3817	1	09-08	(20)	Ⅱ	遺構外	底部		
30片										
■		199	13670	1	07-09	(10)	Ⅱ	炭化物19	胴部	PL-D-40-6
			14031	1	07-09	(21)	Ⅱ	炭化物19	胴部	PL-D-253
			14016	1	08-09	(22)	Ⅱ	炭化物層	炭化物・焼土20-21	胴部
		14019	1	08-09	(22)	Ⅱ	炭化物層	炭化物・焼土20-21	胴部	
		14010	1	08-09	(22)	Ⅱ	炭化物層	炭化物・焼土20-21	底部	
		14013	1	08-09	(22)	Ⅱ	炭化物層	炭化物・焼土20-21	底部	
		4202	1	10-11	(22)	Ⅱ	遺構外	胴部		
		14271	1	08-10	(20)	V	遺構外	底部		
		14205	1	08-10	(20)	V	遺構外	胴部		
	3片									

部材番号	通称番号	縦寸数	大ワット	小ワット	部位・出土位置	関連簿帳名	部位	関連PL・番号
■	180	15139	1	06-11	[30]	N	透視外	底部
		15140	1	06-10	[00]	N	透視外	底部
		10385	1	06-09	[12]	N	透視外	底部
		3片						
■	181	6079	2	23-16	[01]	N	焼土64	胴部
		12805	1	23-16	[31]	N	焼土64	胴部
		5606	1	23-16	[01]	N	焼土67	底部
4片							PL.図-148	
■	182	6053	1	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		6056	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		8940	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		8943	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		7174	1	26-16	[22]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		7205	2	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		7218	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		7222	1	27-16	[03]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		7262	1	27-16	[02]	炭	炭化物・焼土70	胴部
		18019	1	27-16	[不明]	炭化物層	炭化物・焼土70	胴部
		5557	1	27-16	[03]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		5558	1	27-16	[02]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		5569	1	27-16	[13]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		5576	1	27-16	[13]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		6245	1	27-16	[02]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		6248	1	27-16	[02]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		6265	1	27-16	[03]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		6296	1	27-16	[12]	Ⅲ	炭化物・焼土70層近	胴部
		6331	1	27-16	[20]	N	炭化物・焼土70層近	胴部
		21片						
■	183	828	1	10-05	[80]	硬土①層	3号管穴付近	口縁部
		2098	2	09-10	[21]	N	焼土・炭化物②	口縁部
		13724	2	09-10	[22]	N	焼土・炭化物②	胴部
		13723	2	09-10	[22]	N	焼土・炭化物②	胴部
		13722	1	09-10	[23]	N	焼土・炭化物②	口縁部
		13661	1	09-09	[03]	N	透視外	口縁部
		13665	1	09-09	[03]	N	透視外	口縁部
		13078	1	09-11	[23]	N	透視外	口縁部
		5198	1	09-06	[02]	N	透視外	口縁部
		12883	1	09-06	[01]	N	透視外	口縁部
		12886	2	09-09	[03]	N	透視外	胴部
		16片						
		■	184	626	2	13-15	[10]	N
1651	1			13-09	[20]	N	透視外	胴部
7744	1			14-15	[10]	N	透視外	口縁部
163	1			13-14	[20]	N	透視外	口縁部
7303	1			14-14	[20]	N	透視外	胴部
6片								
■	185	√2009	1	09-12	[12]	埋土	3号管穴付近	胴部
		668	2	09-13	[11]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		1131	1	09-12	[11]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		1531	1	09-12	[23]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		674	1	09-13	[21]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		√1518	1	09-12	[23]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		√679	4	09-13	[12]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		√1520	2	09-12	[23]	硬土①層	3号管穴付近	胴部
		2356	1	07-13	[12]	N	焼土24	胴部
		√2536	1	07-13	[20]	V	焼土24	胴部
		√2587	1	09-12	[21]	V	焼土24	胴部
		√2962	1	09-12	[12]	V	焼土24	胴部
		√2546	3	09-13	[10]	V	焼土24	胴部
		√1581	2	09-12	[21]	N	焼土24	胴部
		√1604	4	09-13	[23]	(不明)	焼土24	胴部
		√17	1	09-13	[01]	(不明)	焼土24	胴部
		18	2	09-13	[01]	(不明)	焼土24	胴部
		√2540	1	07-13	[21]	V	焼土24	胴部
		2543	1	09-13	[10]	V	焼土24	胴部
		√2578	1	09-12	[02]	V	焼土24	胴部
		√2575	1	09-12	[12]	V	焼土24	胴部
		√1824	1	09-12	[22]	N	焼土24	胴部
		√2582	1	09-12	[12]	V	焼土24	胴部
		2576	1	09-12	[12]	V	焼土24	胴部
√24	3	09-13	[12]	(不明)	焼土24	胴部		

保体番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL.番号
■ (ツブネ)	185	2534	1	07-13 (20)	V	焼土34	胴部	
	✓2580	1	06-12 (18)	V	焼土34	胴部		
	✓3009	1	06-13 (06)	V	焼土34	胴部		
	レ2610		07-12 (18)	V	焼土34	胴部		
				43片				
■	166	1409	4	08-13 (30)	埋藏	3号館六住居	胴部	PL.Ⅱ-99-4
	1526	1	08-13 (30)	■	焼土56層	3号館六住居	胴部	PL.Ⅱ-115
	1341	1	10-12 (08)	■	焼土56層	3号館六住居	胴部	
	1342	1	10-12 (08)	■	焼土56層	3号館六住居	胴部	
	1520	4	08-12 (23)	■	焼土56層	3号館六住居	胴部1, 胴部1	
	1515	1	08-12 (33)	■	焼土56層	3号館六住居	胴部	
	2544	1	08-13 (10)	V	焼土34	胴部		
			13片					
■	187	16305	9	08-10 (30)	V	炭化物・焼土20-21	胴部4, 胴部3	
	4513	1	08-16 (30)	IV	遺構外	胴部		
			10片					
■	169	10414	1	19-13 (33)	IV	遺構外	底部	
				1片				
■	169	9558	1	22-16 (03)	IV	遺構外	胴部	
	7486	2	22-16 (03)	IV	遺構外	胴部		
	7491	1	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11282	2	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11283	1	22-16 (36)	IV	遺構外	口縁部		
	11285	1	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11287	1	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11288	1	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11289	1	22-16 (21)	IV	遺構外	胴部		
	11275	1	22-16 (36)	IV	遺構外	胴部		
	11441	1	22-16 (11)	IV	遺構外	胴部		
	11533	1	22-17 (12)	IV	遺構外	胴部		
	12012	1	22-17 (11)	IV	遺構外	口縁部		
	12328	4	22-17 (21)	IV	遺構外	胴部		
			19片					
■	170	1618	1	06-13 (36)	埋藏	3号館六住居	底部	PL.Ⅱ-116
	1624	1	06-13 (36)	埋藏	3号館六住居	底部		
			2片					
■	171	4259	8	15-22 (36)	IV	遺構外	底部	
				8片				
■	176	1534	2	10-05 (06)	■	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部	PL.Ⅱ-128-2
	2180	3	10-04 (13)	IV	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	2235	2	10-04 (13)	■	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	940	1	10-04 (23)	■	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	2370	2	09-05 (23)	■	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	3040	1	10-04 (08)	炭化物層下	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	1575	1	10-04 (08)	■	1号土庫間の焼土・炭化物	口縁部		
	14143	1	07-05 (31)	IV	遺構外	口縁部		
	1182	1	11-04 (16)	IV	遺構外	口縁部		
				14片				
	■	177	6123	1	27-15 (23)	■	焼土	焼土49
6309		1	28-16 (22)	IV	焼土71	胴部		
5371		1	23-15 (26)	IV	遺構外	胴部		
6080		1	23-15 (21)	■	遺構外	胴部		
6106		1	23-15 (26)	IV	遺構外	胴部		
6110		1	23-14 (06)	IV	遺構外	口縁部		
6113		1	23-15 (21)	IV	遺構外	口縁部		
6131		4	23-14 (不明)	カタラン	遺構外	胴部		
6147		1	23-13 (33)	■	遺構外	口縁部		
6318		1	23-14 (16)	IV	遺構外	口縁部		
6319		1	23-14 (16)	IV	遺構外	口縁部		
6321		1	23-14 (12)	IV	遺構外	口縁部		
6322		1	30-14 (06)	IV	遺構外	口縁部		
6323		1	30-14 (01)	IV	遺構外	胴部		
6324		1	30-14 (02)	IV	遺構外	胴部		
6325		1	30-14 (02)	IV	遺構外	胴部		
6326		1	30-14 (11)	IV	遺構外	胴部		
6329		1	30-14 (26)	IV	遺構外	口縁部		
12800		2	23-14 (21)	IV	遺構外	口縁部		
				23片				
■		178	13621	1	08-09 (32)	IV	遺構外	胴部
	13762	1	09-09 (01)	IV	遺構外	胴部		
	13817	2	08-09 (23)	IV	遺構外	胴部1, 胴部1		

団体番号	通称番号	破片数	大グリット	小グリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL・番号	
■	178	13495	1	07-10	[32]	■	遺構外	瓦部	
		13819	2	04-09	[31]	■	遺構外	瓦部	
			7枚						
■	179	3553	1	19-17	[00]	■	土壌層	2号堀穴住居 □柱部	PL-22-42
		19700	1	06-09	[13]	■	4号土層	□柱部	PL-22-251
		15218	1	06-09	[02]	■	■	4号土層 □柱部	
		8023	1	17-11	[02]	(不明)	炭化物マウンド	□柱部	
		2083	1	19-30	[13]	(不明)	炭化物マウンド	□柱部	
		9258	2	17-11	[13]	(不明)	炭化物マウンド	□柱部	
		13339	1	06-07	[13]	■	5号土層瓦道	□柱部	
		13077	1	06-08	[30]	■	■	■	■
		3801	1	06-08	[00]	V	■	■	■
		13022	1	06-08	[30]	■	■	■	■
		13975	1	06-08	[30]	■	■	■	■
		13023	1	06-08	[30]	■	■	■	■
		13643	1	06-08	[30]	■	■	■	■
		4253	1	13-11	[01]	■	■	■	■
		652	3	10-07	[19]	■	■	■	■
		10702	1	14-12	[31]	■	■	■	■
				18枚					
■	180	12899	1	06-07	[12]	土壌内	5号土層	■	PL-22-180
		13899	16	00-30	[00]	■	■	■	PL-22-204
		14284	1	00-30	[03]	V	■	■	■
		13898	1	00-30	[03]	■	■	■	■
		13889	4	06-11	[30]	■	■	■	■
		13725	5	06-30	[33]	■	■	■	■
		14472	1	06-30	[12]	■	■	■	■
		16115	1	05-08	[02]	■	■	■	■
		13998	1	06-09	[20]	■	■	■	■
		13950	1	06-08	[02]	■	■	■	■
				32枚					
	■	181	1087	1	10-05	[20]	■	■	■
		1090	2	10-05	[20]	■	■	■	
			3枚						
■	182	12893	1	06-07	[11]	土壌内	5号土層	□柱部	PL-22-204-3
		12895	1	06-07	[11]	土壌内	5号土層	□柱部	
		12851	1	06-07	[11]	■	■	■	
		13656	6	06-08	[30]	■	■	■	
		2555	1	06-13	[11]	V	■	■	
			8枚						
■	185	6817	1	27-16	[22]	■	■	■	
		13648	2	31-17	[11]	■	■	■	
		13688	1	28-13	[23]	■	■	■	
		12751	1	30-15	[30]	■	■	■	
			5枚						
■	186	6880	1	31-16	[22]	■	■	■	
		6983	1	27-16	[22]	■	■	■	
		6985	1	27-16	[32]	■	■	■	
			3枚						
■	187	1318	1	10-05	[32]	■	■	■	
		1090	1	13-13	[13]	■	■	■	
			2枚						
■	188	3148	2	09-07	[30]	V	■	■	
			2枚						
■	189	5368	2	30-16	[01]	■	■	■	
		12832	1	29-15	[20]	■	■	■	
			3枚						
■	190	14501	2	04-08	[21]	■	■	■	
		14502	1	04-08	[21]	■	■	■	
		14450	1	04-08	[21]	■	■	■	
		15033	1	04-08	[21]	■	■	■	
		15328	1	06-09	[11]	V	■	■	
		5043	2	11-06	[03]	■	■	■	
		3168	1	09-07	[13]	V	■	■	
		15832	1	05-08	[21]	V	■	■	
			10枚						
■	191	1087	4	10-05	[20]	■	■	■	
			4枚						
■	192	2650	1	08-13	[11]	V	■	■	
			1枚						

図録番号	遺物番号	破片数	大フリット	小フリット	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号
墳	11085	3	19-15	(21)	a'	炭化物⑫	口縁部	
	11900	2	19-15	(20)	a'	炭化物⑫	口縁部	
7片								
墳	154	✓1031	2	10-05	(20)	崖	5号墓穴内	口縁部
		1213	1	10-05	(20)	崖	5号墓穴内	口縁部
		✓1008	1	10-05	(21)	崖	5号墓穴内	口縁部
		997	1	10-05	(21)	崖	5号墓穴内	口縁部
		14254	1	08-07	(22)	土壌内	4号土塚	口縁部
		2890	1	08-08	(20)	冚	焼土27層	口縁部
7片								
墳	195	2274	1	17-10	(31)	b'	炭化物マウンド	口縁部
		2814	1	17-10	(31)	b'	炭化物マウンド	口縁部
2片								
墳	196	15059	1	06-07	(31)	冚	焼土13層	口縁部
		12996	1	07-08	(01)	冚	焼土18層	口縁部
		13272	1	08-08	(00)	冚	焼土27層	口縁部
		12061	1	07-06	(00)	冚	遺構外	口縁部
	4片							

Tab. III-24 第2文化層出土支脚一覧表

供出番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号
支脚	1	678	1	10-13	[00]	焼土・漆層	5号館六住居	PL.図-136-下
		1200	1	10-05	[20]	床	5号館六住居	PL.図-197-1
			(発祥品)			2片		PL.図-361
支脚	2	956	2	10-05	[31]	床	5号館六住居	PL.図-197-2
		1015	1	10-04	[32]	床	5号館六住居	PL.図-302
		1036	1	10-04	[32]	床	5号館六住居	
		1203	1	10-04	[33]	床裏	5号館六住居	
		1850	1	10-05	[00]	煙道	5号館六住居	
		2063	1	09-04	[33]	(不明)	1号土蔵焼土	
		2016	2	09-04	(不明)	焼土	1号土蔵	
		2017	1	09-04	(不明)	焼土	1号土蔵	
		14097	1	09-07	(不明)	V	6号土蔵	
		14363	1	05-08	[13]	V	遺構跡	
				(発祥品)			12片	
支脚	3	10000	1	10-17	[31]	床	焼土43	PL.図-254上
		132	1	10-17	[31]	(不明)	焼土43	PL.図-298-1
						2片		PL.図-303
支脚	4	956	2	10-05	[31]	床裏	5号館六住居	PL.図-298-2
		957	4	10-05	[31]	床裏	5号館六住居	PL.図-304
		968	1	11-04	[03]	床裏	5号館六住居	
		3023	1	09-04	[33]	焼土	1号土蔵周回の焼土・炭化物	
		3030	1	10-04	[03]	炭化物層下	1号土蔵周回の焼土・炭化物	
						9片		
支脚	5	13085	1	09-11	[30]	N	焼土22	PL.図-305
						1片		
支脚	6	12274	3	17-17	[12]	オマド	2号館六住居	PL.図-27
		5790	1	10-15	[33]	Ⅲ	炭化物53	PL.図-28
		5801	1	10-15	[33]	Ⅲ	炭化物53	PL.図-30
		7422	4	10-15	[13]	a'	炭化物52	PL.図-158-3
		8996	1	10-15	[13]	a'	炭化物52	PL.図-306
		6030	3	20-16	[01]	Ⅲ	炭化物52煙道	
		6029	1	20-16	[11]	Ⅲ	炭化物52煙道	
	6041	1	20-16	[11]	Ⅲ	炭化物52煙道		
			(発祥品)			15片		
支脚	7	6184	1	20-15	[33]	焼土	焼土65	
		6177	3	20-15	[32]	焼土	焼土65	PL.図-307
						4片		

Tab. III-25 第2文化層出土土製玉一覧表

供出番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号	
土製玉	1920	1	17-10	[31]	V	炭化物マウンド		PL.図-309-1	
	2247	1	17-10	[32]	V	炭化物マウンド		PL.図-309-2	
	6760	1	10-11	[01]	Ⅲ	炭化物マウンド煙道		PL.図-309-3	
	7386	1	17-12	[30]	Ⅲ	炭化物マウンド		PL.図-309-4	
	7386	1	17-12	[32]	Ⅲ	炭化物マウンド		PL.図-309-5	
	8172	1	17-11	[03]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.図-309-6	
	8173	1	17-12	[30]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.図-309-7	
	8175	4	17-10	[32]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.図-309-8,9,10,11	
	9206	1	17-11	[03]	マウンド上面	炭化物マウンド		PL.図-309-12	
	16501	2	17-12	[32]	マウンド	炭化物マウンド		PL.図-309-13,14	
	16530	2	17-12	[10]	マウンド	炭化物マウンド		PL.図-309-15,17	
	5051	1	10-15	[32]	Ⅲ	炭化物53		PL.図-309-16	
							17個		PL.図-312



Tab. ①-26 第2文化層出土紡錘車一覧表

器物番号	遺物番号	破片数	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	部位	関連PL番号						
紡錘車	1	725	1	09-13	(01)	層土⑤層	3号籠穴住居	PL②-399-1						
								1個	PL②-308					
紡錘車 (実物品)	2	11800	1	15-17	(32)	礎土	3号土壌	PL②-399-3						
								1個	PL②-308					
紡錘車 (実物品)	3	11800	1	18-18	(21)	床面	2号籠穴住居	PL②-399-3						
								1個	PL②-308					
紡錘車 (実物品)	4	1032	1	10-05	(20)	床底	5号籠穴住居	PL②-399-4						
								1片	PL②-308					
紡錘車	5	1117	1	13-10	(32)	M上	透櫛外	PL②-399-5						
								1118	1	13-10	(32)	M上	透櫛外	PL②-308
								2片						
紡錘車	6	7233	1	19-15	(06)	M	炭化物S2	PL②-300-6						
								10951	1	19-15	(16)	M	炭化物S2	PL②-308
								2片						
紡錘車	7	3390	1	09-09	(30)	Ⅲ	透櫛外	PL②-300-7						
								3397	1	09-06	(23)	Ⅲ	透櫛外	PL②-308
								2片						
紡錘車	8	9689	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	PL②-300-8						
								9693	2	17-12	(08)	マウンド	炭化物マウンド	PL②-308
								9674	1	17-12	(16)	マウンド	炭化物マウンド	
4片														
紡錘車	9	6537	1	18-12	(31)	Ⅲ	炭化物マウンド	PL②-300-9						
								8056	1	18-16	(22)	Ⅲ	礎土43	PL②-308
								2片						
紡錘車	10	7411	1	19-16	(11)	M	炭化物S3	PL②-300-10						
								9185	1	19-15	(32)	M	炭化物S3	PL②-308
								2片						
紡錘車	11	1322	1	13-21	(13)	V	透櫛外	PL②-300-11						
								1片						PL②-308
紡錘車	12	4131	1	10-09	(16)	V	透櫛外	PL②-308						
								1片						
紡錘車	13	10280	1	17-11	(21)	マウンド	炭化物マウンド	PL②-308						
								1片						
紡錘車	14	1103	1	12-05	(06)	層土⑤層	5号籠穴住居	PL②-308						
								1片						

Tab. ①-27 第2文化層出土フイゴ羽石・石製品一覧表

器物番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺構など	部位	関連PL番号						
フイゴ羽石	1	613	9	10-05	(12)	層土⑤層	5号籠穴住居	PL②-310-1						
								9片	PL②-313					
フイゴ羽石	2	1387	3	10-05	(03)	Ⅲ	透櫛外	PL②-310-2						
								1388	2	10-05	(03)	Ⅲ	透櫛外	PL②-313
								1389	1	10-05	(02)	Ⅲ	透櫛外	
								4片						
石片 (実物品)	1	400	1	16-17	(01)	M上	礎土43	PL②-310-1						
								1個	PL②-310-11					
石片 (実物品)	2	4237	1	19-16	(08)	Ⅲ	透櫛外	PL②-310-2						
								1個	PL②-310-12					
たつき石 (実物品)	999	1	10-05	(20)	床底	5号籠穴住居		PL②-310-3						
								1個	PL②-310-10					
石製品	1	190	1	14-18	(36)	(不明)	透櫛外							
								1片						

Tab. ①-28 第2文化層出土金属器・鉄片一覧表

器物番号	遺物番号	破片数	大グループ	小グループ	層位・出土位置	関連遺構など	部位・備考	関連PL番号
金属器	1	8527	1	17-11	(33)	マウンド	炭化物マウンド	層底
								PL②-200 F
金属器	2	1180	1	11-04	(26)	Ⅲ	透櫛外	層底
								PL②-310-4
金属器	3	2374	1	09-05	(22)	Ⅲ	透櫛外	刀+(?)
								PL②-310-7
鉄片	4	580	1	19-14	(24)	Ⅲ	1号籠穴住居	鉄片
								PL②-310-9
鉄片	5	2735	1	08-13	(16)	礎土	礎土34	鉄片
								PL②-310-8
鉄片	6	2737	1	08-13	(16)	礎土	礎土34	鉄片
鉄片	7	2802	1	08-13	(06)	V	礎土34周辺	鉄片
鉄片	8	3096	1	08-12	(05)	V	礎土34周辺	鉄片
鉄片	9	3845	1	10-08	(00)	Ⅲ	透櫛外	鉄片
鉄片	10	16000	1	07-09	(33)	(不明)	4号土壌	鉄片
鉄片	11	14482	1	08-07	(32)	(不明)	5号土壌	鉄片
鉄片	12	3321	1	17-11	(13)	マウンド内	炭化物マウンド	鉄片
鉄片	13	—	1	—	—	—	礎土34	銅片状

Tab. Ⅱ-29 第3文化層出土土器一覽表

器体番号	器物番号	破片数	大フリフ	小フリフ	肩段・底土位置	胴通溝幅(%)	部位	調査P.L.番号	
Ⅱ口	1	14886	1	06-10	(30)	Ⅴ	通溝外	口縁部	PL(Ⅱ)-38上
	2	13587	1	07-07	(12)	Ⅵ	通溝外	口縁部	PL(Ⅱ)-38下

2片

Tab. 田-30 焼土・炭化物集積一覧

№	位置(グリッド)	層	形状	大きさ	状態(厚さ)	備考
1	03-14		川砂	—	—	自然地積
2	02-08-03-08	V	楕円	70cm強	炭化物, 焼土, 粘土の混合(8cm)	
3	04-07	IV	不整形	1m	焼土(70mm)	
4	04-07-04-08-05-07-05-08	IV	不整形	約4m	炭化物, 焼土	
5	03-08-04-08	IV	不整形	1m弱	焼土(10-40mm)	
6	05-05-06-05	V	不整形	大80cm, 小30cm	炭化物(1-3mm)	2個
7	05-07	IV	不整形	大1.2m, 小1m	焼土(5-20mm)	4個
8	04-07-05-07	IV	不整形	大2.5m, 小0.5m	焼土(5-10mm)	3個
9	05-09	V	不整形	1.3m	焼土(15mm)	
10	05-09	IV	不整形	1.5m	焼土(30-50mm)	
11	05-10-06-11	V	不整形	大1.5m, 小0.5m	焼土(5-10mm)	3個
12	06-06-07-06	V	不整形	大0.7m, 小0.3m	焼土	4個
13	06-07-06-08	V	不整形	2.7m	焼土(5mm)	
14	06-09	V	不整形	2.1m	炭化物(10-20mm)	
15	06-10	V	不整形	0.6m	焼土	
16	06-10-07-10	IV下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物(10-50mm)	
17	07-05	V	不整形	1-1.3(m)	焼土	3個
18	07-08	V	不整形	大1.4m, 小0.8m	焼土(60mm)	2個
19	06-10-07-08-07-09	IV下~V	不整形	3.6×2.5(m)	炭化物(10-40mm)	
20	08-09-08-10	V	不整形	2m	炭化物(5-6mm)	21と重複
21	08-09-08-10	V	不整形	2m	焼土	20と重複
22	08-10-08-11-09-10-09-11	IV中	不整形	2.4m弱	焼土・炭化物	
23	08-10	IV	不整形	大1.5m, 小0.4m	焼土(2-3mm)	3号竪穴煙道前
24	07-12-07-13-08-12-08-13	IV	不整形	大7m, 小1m	焼土	
25	09-03	IV	不整形	1m弱	焼土(2-4mm)	
26	09-10	IV	不整形	1.3m	炭化物・焼土	
27	08-08	IV	不整形	大2.6m, 小1m	焼土	
28	08-04-08-05-09-04-09-05	V	不整形	0.5m強	焼土・炭化物	
29	08-05-08-05	V	不整形	1m強	焼土(10-20mm)	2個
30	10-06	IV	不整形	2m強	炭化物(10-15mm)	
31	10-10	IV	不整形	1.1m	炭化物(1-3mm)	
32	11-11	IV	不整形	大0.8m弱, 小0.4m強	焼土(10-40mm)	
33	12-09-12-10-13-09-13-10	IV下	不整形	1.5m	焼土(10-70mm)	
34	12-13-12-14	IV	楕円形	1.4×0.6(m)	焼土	
35	12-14-12-15	V	不整形	大0.6m, 小0.4m	焼土(10mm)	2個
36	13-09	V	不整形	1m強	炭化物	
37	13-15	IV下	不整形	1.6m	焼土(10mm)	
38	14-11	IV	不整形	0.8m	焼土	
39	15-07-16-07	IV	不整形	2.4m弱	炭化物(30-40mm)	
40	15-12-16-12	IV	不整形	1.5m	炭化物	
41	15-16-15-17	IV	不整形	大1.5m, 小1m強	焼土	
42	15-21-15-22-16-21, 16-22	IV	不整形楕円形	大7m	炭化物	
43	2号竪穴煙道前	IV	不整形		焼土・炭化物	
44	16-18-16-19	IV	不整形	大3m強, 小0.8m	焼土	2個
45	16-11	IV	不明	不明	焼土	
46	16-13	IV	不明	不明	焼土	
47	18-11-18-12-18-13-19-11-19-12	IV	不整形	3m-1.5m	焼土	3個
48	18-13	IV	不整形	1.5m	焼土	
49	18-10-19-10-20-10-20-11	IV	不整形	7.5×1(m)	焼土	
50	19-11	IV	不整形	炭化物2.6m, 焼土0.6m	炭化物・焼土	2個
51	18-13-19-13	IV	不整形	大2.5m, 小0.6m	焼土	2個
52	18-15, 19-14, 19-15, 19-16, 20-14	IV	不整形	8m弱	炭化物	
53	18-16-19-16	V上	不整形楕円形	1.8×1.2(m)	炭化物	
54	19-07-20-07	IV	不整形	大3m弱	焼土	
55	20-07-20-08-21-08	IV	不整形	2m強	焼土(30-50mm)	
56	20-12	IV	不明	不明	焼土	
57	20-13	IV	不明	不明	炭化物	
58	20-13-20-14-21-14	IV	不整形	大2.3m強	焼土	3個

No.	位置	層	形状	大きさ	状態	備考
59	19-18~20-18	IV	不整形	焼土・大0.9m, 炭化物・大0.3m	焼土・炭化物	
60	21-12	IV	不整形	1.7m	焼土	
61	21-14	IV	不整形	2.8m	焼土	
62	21-15	IV	不整形	2.3m	焼土	
63	22-11	IV	不整形	1.8m	焼土	
64	22-15~22-16~23-16	IV	不整形	大2.5m, 小0.8m	焼土	
65	23-16	IV	不整形	0.7m	焼土	
66	24-13	IV	不整形	0.4m	焼土,(8cm)	
67	25-16	IV	不整形	1.3m	焼土,(10~60cm)	
68	26-15~26-16	IV	不整形	大2.5m, 小0.8m	焼土,(5~7cm)	
69	27-15	IV	不整形	0.7m 強	焼土	
70	26-16~26-17~27-16~27-17	IV	不整形	約2m	炭化物・焼土	
71	28-16	IV	不整形	大1.5m, 小0.5m	焼土,(20~40cm)	
72	30-16~31-16	IV	不整形	5m 強	焼土	第1文化層
73	31-16	IV	不整形	1m 強	炭化物,(5cm)	
74	16-08, 17-09	IV	不整形	1.10~1.4(m)	焼土	3個
75	21-17	IV	不明	不明	炭化物	

注:「炭化物マウンド」はこの表に示していない。

Tab. ①-31 集石の計画

## ■2号契穴位置表

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
11849	8.36	4.45	3.77	160
12051	7.92	4.67	2.70	150
12052	10.35	5.34	3.64	200
12053	9.16	5.10	2.93	200
12054	3.28	4.60	3.08	164
12055	7.73	4.32	3.32	148
12056	7.87	4.55	3.09	150
12057	8.22	4.01	3.47	154
12058	7.10	5.26	3.11	170
12059	8.03	3.20	2.37	107
11838	11.47	6.70	2.78	198
12060	9.16	4.04	3.03	153
12073	10.95	4.31	2.85	187
12078	—	—	—	— 204

## ■2号土層の厚と重

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
11652	9.65	3.89	2.96	165
11653	8.51	4.14	2.60	130
11654	10.11	3.43	2.58	125
11655	8.05	5.34	2.79	164
11656	11.46	4.32	2.49	162
11657	8.11	4.10	3.76	165
11658	7.99	3.61	3.79	158
11659	8.20	5.26	2.24	134
11660	10.37	3.50	2.67	157
11661	8.02	4.64	3.12	166
11662	10.21	3.82	3.49	162
11663	11.07	5.57	3.53	206
11664	8.84	5.01	2.75	167
11667	8.30	5.44	2.65	164
11668	9.11	4.11	2.83	137
11669	8.26	3.95	2.86	136
11670	9.07	5.52	3.00	200
11671	9.23	4.99	3.37	196
11672	8.38	4.54	3.28	173
11674	11.03	4.05	2.88	216
11675	8.38	4.66	2.33	130
11676	7.76	4.80	3.04	176
11677	8.85	4.62	3.45	187
11678	8.20	4.72	3.70	182
11679	8.43	5.00	3.20	212
11680	8.00	5.01	3.03	182
11684	4.40	4.47	1.89	105
11685	6.77	4.15	2.68	136
11686	8.94	5.05	3.67	172
11687	7.68	3.84	2.23	102
11688	8.67	4.37	2.56	134
11689	8.16	3.81	3.13	134
11690	8.01	2.69	3.21	137

## ■31-16グリッド

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
12025	8.76	5.86	2.47	164
12026	8.24	6.43	2.38	152
12027	8.12	5.63	2.97	170
12028	8.72	4.99	3.12	130
12029	8.77	4.29	2.96	151
12030	8.23	4.80	3.24	177
12031	7.80	4.91	2.85	150

## ■13-10グリッド

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
4804	6.98	4.91	3.31	154
4805	6.52	5.04	3.42	197
4806	7.12	5.01	3.47	99
4807	6.59	4.54	3.54	130
4808	9.38	5.48	2.51	226
4809	8.23	4.65	3.74	163
4810	7.60	4.33	3.16	121
4811	5.82	4.05	3.46	133
4812	6.29	4.63	3.66	53
4813	6.91	5.12	3.43	152
4814	4.67	4.48	3.53	150
4815	7.33	4.24	3.03	130
4816	7.90	4.47	3.00	130
4817	7.71	4.51	4.17	228
4818	8.26	4.61	3.78	146
4819	7.31	4.69	3.23	128
4820	10.71	6.09	2.58	252
4821	8.50	3.90	1.95	89
4822	6.52	4.37	3.40	91
4823	8.05	4.62	3.47	135
4824	5.66	4.40	3.14	108
4825	6.78	4.50	3.58	197
4826	7.80	4.61	3.72	129
4827	7.95	3.96	3.55	127
4828	7.58	4.43	3.52	111
4829	7.72	5.17	3.27	144
4830	7.96	4.14	3.08	133
4831	6.34	4.15	3.87	103
4832	6.60	4.06	3.15	129
4833	7.06	3.90	3.60	133
4834	8.10	4.32	3.64	128
4835	6.91	4.50	3.22	111
4836	7.50	3.99	3.09	116
4837	6.40	4.06	3.16	113
4838	8.52	5.12	3.34	162
4839	7.39	4.37	3.12	117
4840	6.79	3.93	3.25	114
4841	6.52	3.98	3.83	97
4842	6.50	4.49	2.93	117

## ■21-15グリッド

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
10534	3.16	2.34	0.95	7
10539	7.22	4.61	3.50	302
10540	6.40	4.79	3.44	304
10541	6.40	3.47	3.05	49
10542	8.09	4.56	2.51	144
10543	7.91	6.26	3.31	368
10544	5.67	3.96	2.94	90
10545	5.43	4.28	3.60	397
10546	—	—	—	— 120
10547	5.02	2.81	1.98	30
10548	5.83	3.89	2.96	48
10549	7.15	3.47	3.19	101
10550	10.38	6.85	4.31	609
10601	8.38	5.00	3.16	316
10602	5.95	4.37	3.75	189
10603	5.02	3.63	1.87	50
10604	5.74	4.63	1.95	41
10605	7.80	4.37	2.41	104
10606	7.41	5.10	2.47	93
10607	7.44	3.58	3.89	330
10608	—	—	—	— 94
10609	4.83	2.70	2.72	53
10610	4.80	2.58	2.14	35
10611	8.26	5.41	2.62	152
10612	5.40	3.24	3.14	76
10613	4.98	2.68	2.50	63
10614	6.23	3.79	2.56	63
10615	—	—	—	— 107
10616	6.72	3.29	2.49	77
10617	5.90	3.38	3.01	80
10618	6.33	4.57	2.61	105
10619	7.19	3.94	2.14	80
10620	5.94	4.40	4.17	313

## ■20-15グリッド

No.	長(m)	幅(m)	厚(m)	重(g)
12305	6.20	4.17	3.73	82
12306	4.04	3.62	1.84	21
12307	—	—	—	— 45
12308	5.99	3.84	4.89	93
12309	6.00	2.69	2.56	41
12310	4.94	3.90	2.40	33
12311	5.90	5.16	4.40	120
12312	3.26	3.02	1.00	8
12313	4.38	3.13	2.19	19
12314	4.55	3.34	3.04	42
12315	3.86	2.46	1.81	17
12317	5.26	4.29	3.11	97
12318	6.35	3.20	2.53	48
12319	6.33	5.82	2.76	66
12320	4.43	4.00	3.22	51
12321	3.46	2.69	1.23	9
12322	6.53	3.28	3.00	73
12323	6.49	3.47	3.24	99
12324	4.46	2.92	1.70	22
12325	4.54	3.81	2.06	30
12326	6.45	4.01	3.54	86
12327	5.14	2.88	3.50	54
12328	2.57	2.57	1.02	8
12329	6.71	4.25	3.54	92
12330	—	—	—	— 9
12331	—	—	—	— 88
12332	6.33	4.77	2.96	86
12333	—	—	—	— 63
12334	5.31	4.09	1.64	45
12335	—	—	—	— 44
12336	6.09	3.32	2.74	68
12337	4.55	3.32	2.50	30
12338	5.29	3.10	3.02	29
12339	3.38	2.58	1.86	12
12340	5.98	2.96	1.65	20
12341	3.85	2.70	1.86	16
12342	4.46	3.91	1.47	24
12343	—	—	—	— 23
12344	3.88	2.87	0.72	12
12345	6.74	3.41	3.46	61
12346	2.89	2.26	2.05	9
12347	4.81	3.90	3.45	48
12348	6.48	4.71	1.79	50
12349	—	—	—	— 71
12350	8.26	3.70	1.35	18
12351	3.63	2.70	1.34	11
12352	—	—	—	— 8
12353	6.20	4.47	4.02	100
12354	5.75	3.19	2.95	58
12355	4.115	2.74	0.93	16
12356	3.24	2.44	1.70	30
12357	3.70	2.64	2.08	15
12358	6.47	3.99	2.61	58
12359	—	—	—	— 15
12360	4.37	1.95	0.67	6
12361	7.30	3.31	3.43	70
12362	—	—	—	— 60
12363	7.31	3.67	3.87	72
12364	7.40	4.83	2.58	74
12365	5.36	4.97	3.56	97
12366	7.32	3.28	2.73	61
12367	6.18	2.96	1.48	19
12368	6.94	4.10	3.62	88
12369	3.36	1.79	1.88	8

[本文編]

## サクシュコトニ川遺跡

北海道大学構内で発掘された西暦9世紀代の原初的農耕集落

1986

1

北海道大学